北埋調報011

虎杖浜3遺跡

——北海道縦貫自動車道白老地区埋蔵文化財発掘調査報告書——

昭和57年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

虎杖浜3遺跡

——北海道縦貫自動車道白老地区埋蔵文化財発掘調査報告書——

昭和57年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ　調査の概要……13
1　調査要項……14
2　調査体制……14
3　調査の経緯……15
4　調査結果の概要……15
Ⅱ　遺跡周辺の地理的・歴史的環境……17
1　地形と地質……19
2　周辺の遺跡……20
3　発掘区の設定……24
Ⅲ　A地点の遺構と遺物……27
1　遺構の分布……28
2　遺　　構……29
3　遺　　物……60
Ⅳ　B地点の遺構と遺物……161
1　遺構の分布……162
2　遺　　構……163
3　遺　　物……177
Ⅴ　C地点の遺構と遺物……193
1　遺構の分布……194
2　遺　　構……195
3　遺　　物……195
Ⅵ　D地点の遺構？と遺物……211
1　遺構？の分布……212
2　遺　　構？……213
遺　　物……214
Ⅶ　ま　と　め……223

例　　言

1　本書は、北海道縦貫自動車道建設に伴う、白老町虎杖浜３遺跡の発掘調査の記録である。

2　遺構は次の略号をもって示す。

H＝住居跡　　P＝土壙（墓、Tピットを含む）　　F＝焼土

3　遺構図および遺物図等の縮尺は、原則として次のとおり。

遺構図および土層柱状図：40分の１

土器実測図および拓影図：４分の１

剝片石器実測図：２分の１

礫石器実測図：４分の１、ただし石皿は６分の１

4　遺構図等に示した方位は磁北である。

5　石器の石質の略号は、表10のあとに記載してある。

6　土器・石器の分類については、Ⅶ章で解説する。

7　本書作成の分担はつぎのとおり。

地形図および遺構図：立川トマス

土器の図：森重典子

石器の図：野村留美

昭和55年度現地写真：佐藤和雄

その他の写真：伊野正之

Ⅰ章執筆：森田知忠

上記以外のもの：佐藤訓敏

図 1

C地点―遺物番号 1

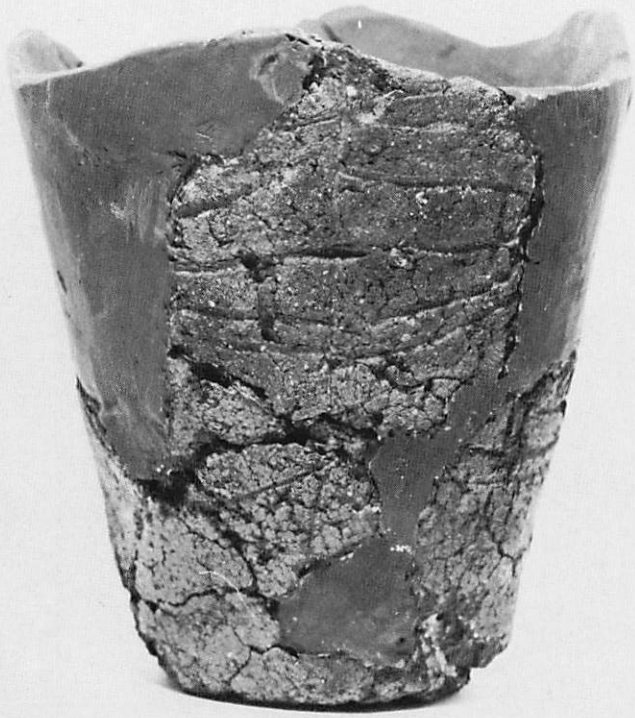
図２

Ｃ地点―遺物番号２

図3

A地点―遺物番号9

図４



Ａ地点―遺物番号３

Ａ地点―遺物番号108

図5

A地点―遺物番号102

図6

A地点―遺物番号103

図7

A地点―遺物番号104

図8

A地点―遺物番号182

図9

A地点—遺物番号175

図10

B地点—P３出土

Ⅰ　調査の概要

○印　遺跡の位置

I　調査の概要

1　調査要項

事　業　名	北海道縦貫自動車道白老地区埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	日本道路公団札幌建設局
事業受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺　跡　名	虎杖浜3遺跡　（道教委登載番号　J—10—12）
遺跡の所在地	北海道白老郡白老町字虎杖浜439番地の21ほか
調査面積	(1)2,210m²　(2)2,680m²　計4,890m²
調査期間	(1)昭和55年4月1日～昭和56年3月31日
	(2)昭和57年4月1日～昭和58年3月31日

2　調査体制

（財）北海道埋蔵文化財センター	理事長	浅井理一郎
	業務部長	馬場　治夫（昭和55年度）
	〃	皆川　富三（昭和57年度）
	調査部長	髙橋　稀一（昭和55年度）
	〃	藤本　英夫（昭和57年度）
	調査第一班長	中村　福彦（昭和55年度）
	〃	森田　知忠（昭和57年度発掘担当者）
	文化財保護主事	種市　幸生（昭和55年度発掘担当者）
	〃	青柳　文吉（昭和55年度）
	〃	矢吹　俊男（昭和57年度）
	〃	田口　　尚（　〃　）
	（調査補助員）	中村　英重（昭和55年度）
	〃	佐藤　和雄（　〃　）
	〃	西条美智枝（　〃　）
	〃	立川トマス（昭和57年度）
	〃	佐藤　訓敏（　〃　）
	〃	伊野　正之（　〃　）

なお、調査の遂行にあたって、下記の機関および人びとのご指導ならびにご協力をいただいた。記して感謝申しあげる。

北海道教育委員会、白老町教育委員会、北海道開拓記念館、苫小牧市青少年センター、苫小牧市埋蔵文化財センター、北海道教育大学教授　春日井昭、北海道文化財調査員　佐藤一夫（順不同、敬称略）

3　調査の経緯

日本道路公団が建設を進めている、北海道縦貫自動車道（函館～稚内）のうち、室蘭～苫小牧の分布調査は、昭和51年度に北海道教育委員会によって行われ、虎杖浜３遺跡が本線建設予定地にかかることが判明した。

その結果をうけて、昭和54年に、事前発掘調査（試掘）を行い、昭和55・57年度に発掘調査を行った。虎杖浜３遺跡は、小川によっていくつかの地点に区分されるが、昭和55年度には、そのなかほどの部分（Ａ地点）を、(注) 本年度は残りの部分全部（Ｂ～Ｄ地点）を発掘調査した。なお、本年度の調査面積は、当初2,080㎡の予定であったが、調査期間中に町道切替のために600㎡（Ｄ地点の一部）が追加され、これについても併せて調査を行った（図17）。

（注）当センター刊「川上Ｂ遺跡・虎杖浜３遺跡――北海道縦貫自動車道登別地区埋蔵文化財調査概報」昭和56年３月

4　調査結果の概要

昭和55・57年の両年度にわたる調査によって、虎杖浜３遺跡からは81個の遺構等（表１）が検出され、56,922点の遺物（表２）が出土した。調査が工事用地内だけにとどまっているので遺跡の全貌は不明であるが、調査地区は短期的な居住地または集落の縁辺にあたっているものと思われ、遺物量に比較して遺構は貧弱であった。

これらのほとんどは縄文時代の資料で、Ｂ地点でややまとまりをもって検出された後期のものを除けば、早期に所属するものが圧倒的に多い。なかでも、貝殻文土器群（Ⅰ群ａ類）は、質・量ともに豊富で、この地域における編年研究上重要と思われる。

当遺跡から最も多量に得られたのは、縄文時代早期末葉の縄圧痕文、撚糸文、縄文等の施された土器群（Ⅰ群ｂ類）で、このなかでは東釧路Ⅲ式に相当するもの（ｂ－１類）が多い。また、石刃鏃文化の所産と思われるブレイド２点（接合）がＢ地点から出土し、この土器群の初期もしくは貝殻文土器群末期と関連をもつものと思われる。

Ｂ地点から検出された住居跡は、縄文時代後期初頭の余市式土器（Ⅳ群ａ類）の時期のものである。また、白老町内ではこれまで検出されていなかったＴピットが２個発見された。ひとつは溝形のタイプで、もうひとつは小判形プランで底面に杭穴をもつタイプである。

表１　遺構等一覧

	Ａ地点	Ｂ地点	Ｃ地点	Ｄ地点	計
住居跡		1			1
住居的施設	3	2			5
墓	9	1			10
Ｔピット		1	1		2
土壙	28	3		(2)	33
(焼土)	27	2		1	30
計	67	10	1	3	81

表2　遺物一覧

	A　地　点			B　地　点			C地点	D地点	合　計
	遺　構	包含層	計	遺　構	包含層	計	包含層	包含層	
土器　Ⅰa—1							81		81
〃　Ⅰa—2	33	2,536	2,569		891	891	551	28	4,039
〃　Ⅰa—3	4	308	312				11		323
〃　Ⅰb—1	214	15,309	15,523		1,026	1,026	37	815	17,401
〃　Ⅰb—2	40	3,083	3,123						3,123
〃　Ⅰb—3		839	839						839
〃　Ⅰb—4		4,443	4,443				585		5,028
〃　Ⅱa					24	24			24
〃　Ⅲa							60	139	199
〃　Ⅲb—3				1	41	42			42
〃　Ⅳa				45	2,707	2,752			2,752
〃　Ⅳb				11		11			11
〃　Ⅳc								10	10
〃　Ⅵ								4	4
〃（分類不明）	291	937	1,228					982	2,210
土　器　計	582	27,455	28,037	57	4,689	4,746	1,325	1,978	36,086
石　鏃　ⅠA	12	250	262	9	98	107	9	9	384
石　槍　ⅠB	3	48	51	3	15	18	4	1	74
石　錐　ⅡA		31	31		3	3			34
つまみ付きナイフ　ⅢA	10	249	259		10	10	13	8	290
スクレイパー　ⅢB	5	346	351	4	19	23	10	3	387
石　斧　ⅣA		66	66	1	17	18	7	3	94
たたき石　ⅤA	3	26	29	1	1	2	5		36
すり石　ⅥA	9	194	203	1	12	13	12	3	231
石　皿　ⅥB	2	44	46		5	5	3		54
砥　石　ⅦB	1	26	27		10	10	3	1	41
石　錘　ⅧA	10	88	98		15	15	26		139
石　核　ⅨA		30	30	1	11	12	4	2	48
剥片・礫片　ⅨB	162	15,229	15,391	452	1,260	1,712	553	252	17,908
加・使剥片　ⅩA	4	423	427	4	141	145	45	10	627
礫	21	195	216	1	1	2	1	265	484
貝　殻	2		2						2
石器等計	244	17,245	17,489	477	1,618	2,095	695	557	20,836
合　計	826	44,700	45,526	534	6,307	6,841	2,020	2,535	56,922

II　遺跡周辺の地理的・歴史的環境

アヨロ川上流から遺跡を望む

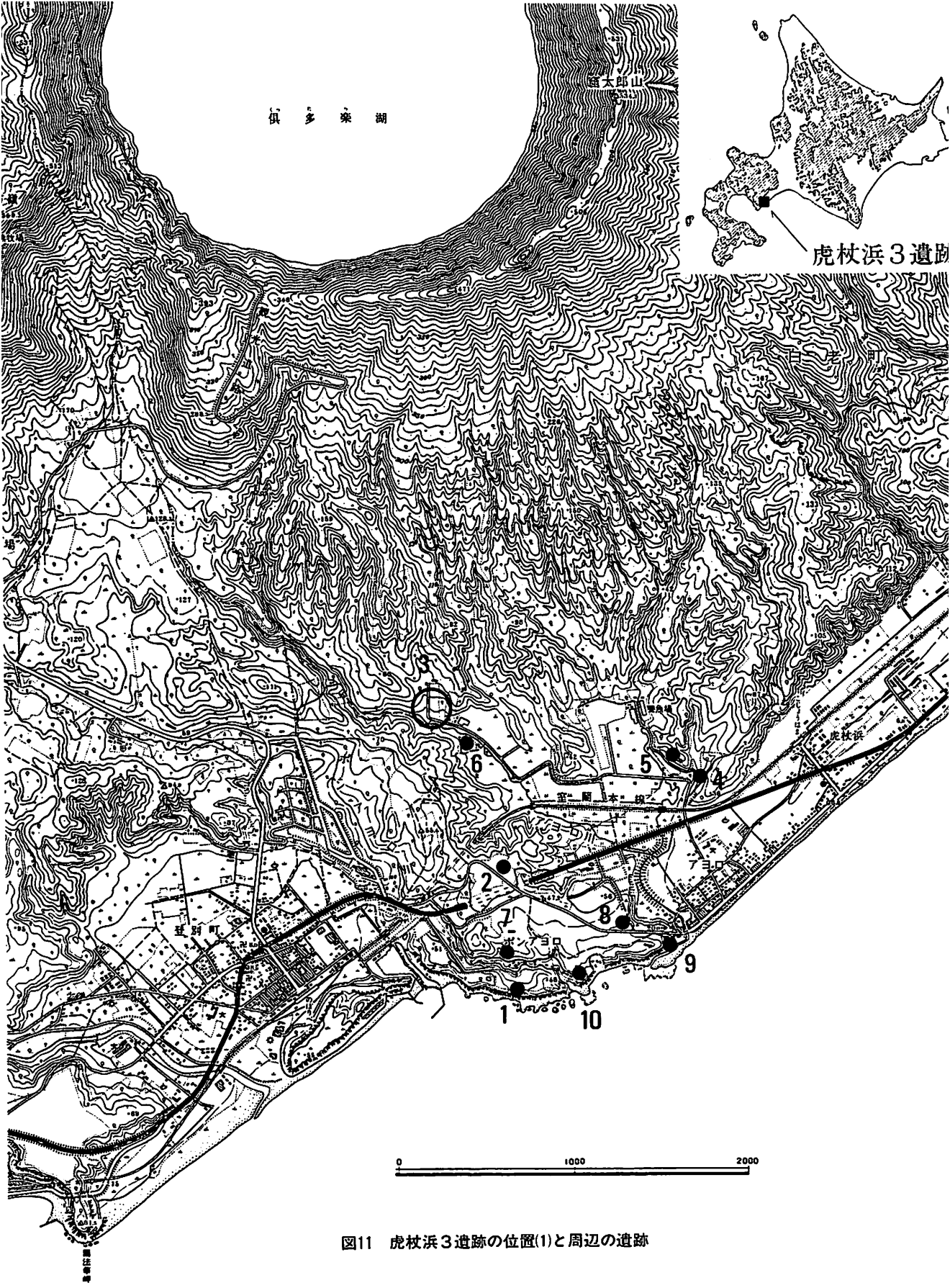


図11　虎杖浜３遺跡の位置(1)と周辺の遺跡

1　地形と地質

立地　遺跡の後背地には標高530mほどの倶多楽カルデラがあり、直接火山性山地が急斜面をなして海岸と接している。遺跡は、山地から南東に流下するアヨロ川と、その支流によって形づくられた僅かな平坦面を利用して形成されている（図11）。

層序　遺跡の土層は図12に示したとおり9層にわけられる。

Ⅰ層　厚さ20cm程度の表土。

Ⅱ層　径20～25cmの灰白色軽石層。ほぼ均一に調査区全域に分布する。1663年降下の有珠火山噴出物（Ｕｓ－ｂ）である。

Ⅲ層　厚さ10cmの黒色土。粒子が細かく粘性がある。

Ⅳ層　厚さ5cmの赤味を帯びた褐色の火山灰層。駒ヶ岳火山系統の火山灰かといわれている。

Ⅴ層　厚さ15cmの黒色土。上部からは縄文時代後期～中期の遺物が出土し、下部からⅥ層上面にかけて縄文時代早期Ⅰ群ｂ－２類が出土する。

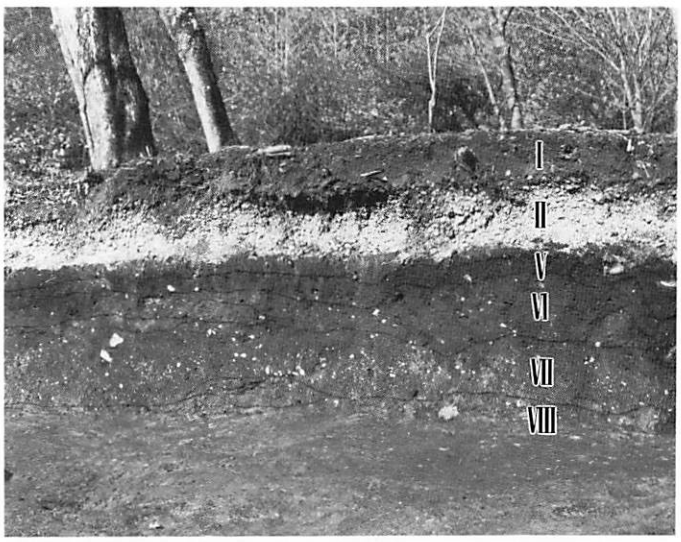
Ⅵ層　厚さ10cmの赤褐色の火山灰層。噴出源不明。

Ⅶ層　厚さ12cmの黒褐色土。縄文時代早期Ⅰ群ａ類、Ⅰ群ｂ－１類を包含する。

Ⅷ層　厚さ10cmの茶褐色の漸移層。Ⅰ群ａ類が出土するが、その量は多くない。

Ⅸ層　黄褐色ローム層。

昭和55年度の調査（Ａ地点）時の層序は、Ⅲ～Ⅴ層が細分されておらず、したがって遺物の記載は当時のままとなっているが、つぎのように対応する。旧Ⅲ層：新Ⅲ～Ⅴ層，旧Ⅳ層：新Ⅵ層，旧Ⅴ層：新Ⅶ層，旧Ⅵ層：新Ⅷ層，旧Ⅶ層：新Ⅸ層である。



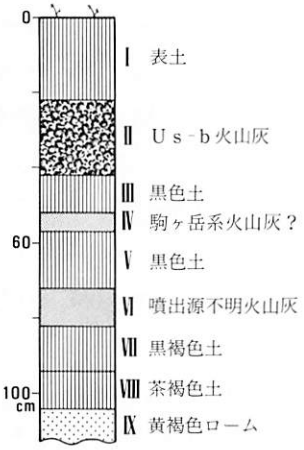


図12　虎杖浜３遺跡の土層

2　周辺の遺跡

虎杖浜地区をとりまく標高50m前後の倶多楽台地縁辺部では、縄文時代～近世にかけての遺跡が発掘調査され、考古学上重要な情報を提供している。以下、周辺遺跡の資料を援用して、これまでの成果を概観する。

最も古い遺跡として縄文時代早期の虎杖浜1遺跡がある（図11―1）。ポンアヨロ川右岸の海岸段丘上に立地する。直径およそ5mの円形プランの竪穴住居跡が1個発掘された（大場ほか、1962）。住居内部中央に炉跡があるほか、柱などの施設はみつかっていない。住居内からは、図13―1～3の土器が出土した。1・2は貝殻で引っかいた文様が施された平底の深鉢、3は幅広のヘラ状工具で調整された砲弾形の尖底深鉢で、「虎杖浜式土器」と命名された。この土器には^{14}C年代で7700年B. P.の値が与えられている。

虎杖浜5遺跡からは大陸を原郷土とする石刃鏃文化期の遺物が確認されている（佐藤・工藤、1980）・（図11―5）。報告によれば石刃鏃・石刃があり、縄文時代早期のいわゆるアルトリ式土器との関連性を考えているようである。石刃鏃文化の動態を知るうえできわめて貴重な資料である。

縄文時代前期の遺跡としては虎杖浜2遺跡・虎杖浜4遺跡が知られている。

虎杖浜2遺跡は1961年・77年の2回試掘調査が実施されている（大場ほか、1962・岡田編、1978）・（図11―2）。ヤマトシジミ、コタマガイを主体とした貝塚が2か所あり、現在この付近では生息しないハマグリがみつかっており、また、マダイ等の暖流系の魚類が多く検出されていることから、貝塚が形成されたころは、現在よりも暖流の影響が強かっ

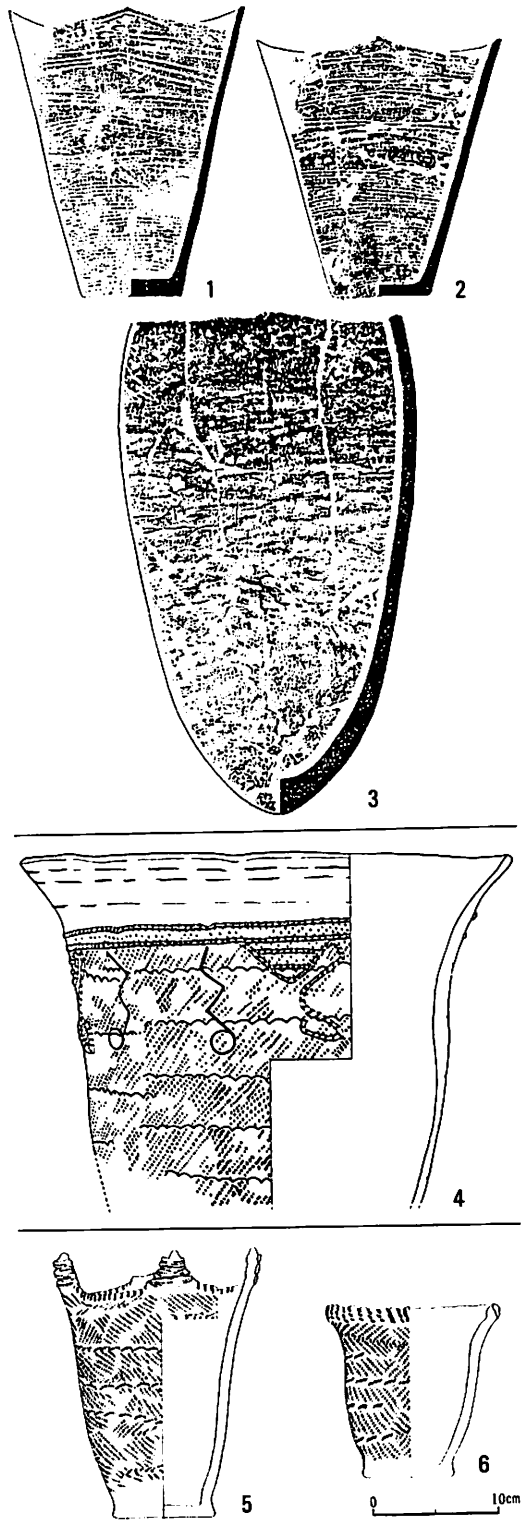


図13　虎杖浜出土の縄文時代早～中期の土器

たようである。土器は縄文時代前期の中野式・円筒土器下層ａ式である。また、大木３式土器（図13―４）が出土したことは、東北地方との交流および編年を決めるうえで重要である。

虎杖浜４遺跡からは、東北地方や北海道の渡島半島に多く分布する円筒土器下層ｄ式土器を伴う住居跡が検出されている（㈶北海道埋蔵文化財センター編、1981）（図11―４）。住居跡は長辺が12ｍの長円形プランで、その中から、たくさんの鹿の骨がみつかっている。

縄文時代中期から後期にかけての遺跡には、虎杖浜４遺跡がある。縄文時代中期の円筒土器上層式（図13―５―６）・天神山式・ノダップⅡ式・トコロ６類土器、後期の余市式・入江式土器が出土している。

縄文時代晩期の遺跡は、苫小牧市寄りの社台にある、社台１遺跡が知られており、72個の墓と６か所の焼土が検出されている（㈶北海道埋蔵文化センター編、1981）。この遺跡の土器は東北地方を中心に栄えたいわゆる亀ヶ岡文化の影響を受けた大洞Ｃ$_1$式～大洞Ｃ$_2$式土器である。図14―７はＰ―19墓とそこから出土した土器群で、小型台付鉢、注口土器、浅鉢がありいずれも精製された土器である。８の壺は、全面に朱ウルシを塗布したみごとな土器である。

続縄文時代の遺跡にはアヨロ遺跡がある（図11―９）。1953年に名取武光・峰山巌（1962）によって調査され、恵山式・北大式・擦文土器が出土し続縄文時代～擦文時代にかけての遺跡であることが確認されている。さらに1978・79年には、ほぼ遺跡全域が発掘された（髙橋編、1980）。土器、石器、玉などの豊富な副葬品を伴う墓が64個みつかって

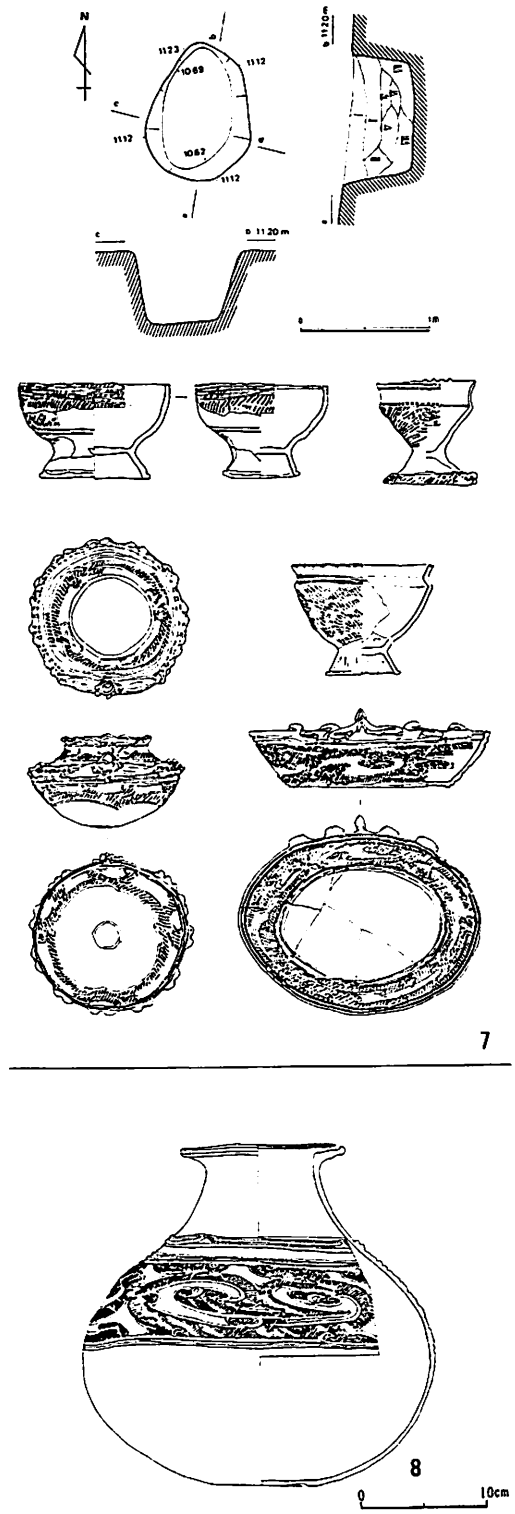


図14　社台１遺跡出土の縄文時代晩期の土器

いる。図15は墓307とそこから出土した土器・石器で、土器は渡島半島に多い恵山式土器。墓の中には厚くベンガラが撒かれ深鉢、鉢、台付鉢、壺が埋設されていた。これだけ多くの墓が調査された例はなく、恵山文化の墓制を知るうえで貴重な遺跡である。アヨロ遺跡からは恵山式土器に続く時期の北大式土器、および古いタイプの擦文土器も出土している。

中～近世の特徴的な遺跡としてチャシがある。カムイエカシチャシは神祖の砦の意。カムイエカシは、ポンアヨロにあった部落の人々の先祖のえらい翁で、この人については、いろいろな伝説が伝えられている。このチャシの発掘調査が1976年に実施された(岡田編、1977)。それによると、1条の壕をめぐらした丘頂式の、いわゆるお供え型チャシである（図16-10）。壕の断面は明瞭なV字形であり、壕から掘り上げられた土は外側に積みあげられていた。構築年代は、丘頂部および壕の断面に有珠山の噴火（1663年）による軽石層が15cm内外の厚さに堆積していたことから、1663年より新しくないことは確実である。また壕の中にまだ黒土層が堆積しないうちにUs－b軽石が堆積しているので、このチャシが使用されたのは1663年よりあまり古くはないという。鉄製の槍先および刀子が検出され、また同じ層位から数か所の焼土も確認されている。機能は、和人と戦争をするときの見張所とされるが、出土品および焼土は、祭場として用いられた可能性も示唆するようである。

近世に入ると、白老に仙台藩による陣屋の設営があり、これが町の開基となる。安政2（1855）年、仙台藩は幕府から東蝦夷地「シ

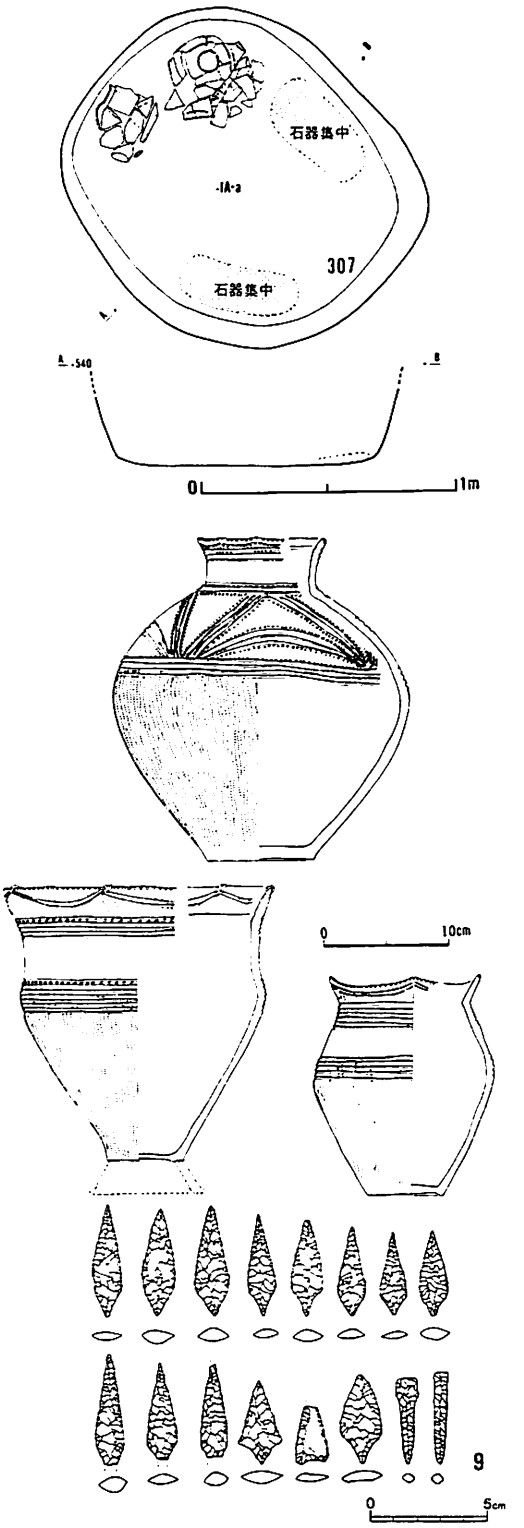


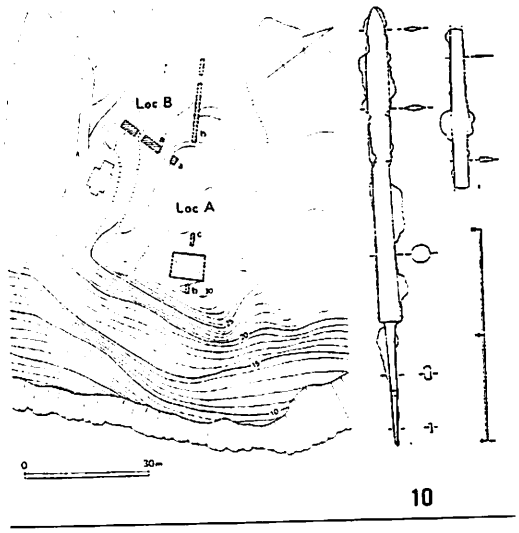
図15　アヨロ遺跡出土の続縄文時代の遺物

ラオイ」（白老）から「シレトコ」（知床）にいたる一帯の警備を命ぜられ、翌３年に元陣屋を「シラオイ」に築造した。そして陣屋は、慶応４（1868）年の戊辰戦争で藩士が撤収するまでの13年間にわたって経営された。その後、一時南部藩兵が滞陣したが、明治２（1869）年に白老郡の支配を命ぜられた一ノ関藩に引き継がれ、明治４年まで白老郡の支配となった。しかし翌３年には陣屋は壊され、その廃材で役所１棟、民家10余棟が建てられたという。

この白老仙台藩陣屋跡は、昭和41年に主体部が国の史跡に指定され、昭和51年には塩釜・愛宕の二社を含む区域が追加指定されている。それに伴い、昭和44年以降、白老町によって陣屋の復元および環境整備が進められた（図16—11）。昭和55年度の調査（長沼、1982）では、２棟の長屋について、位置・規模などを確認している。出土品には陶磁器・鉄製品・銅製品・古銭（天保通宝・箱館通宝・仙台通宝）・土製品・ガラス玉・石製品などがある。

図版出典

虎杖浜１遺跡（第４図、第５図、第11図）虎杖浜２遺跡（第７図）虎杖浜４遺跡（図４—14）社台１遺跡（図３—13、図３—97）アヨロ遺跡（図13）カムイエカシチャシ（第３図・第５図）白老仙台藩陣屋跡（史料１、図７、図24—13・17、図26—46・56、図35—１・２）



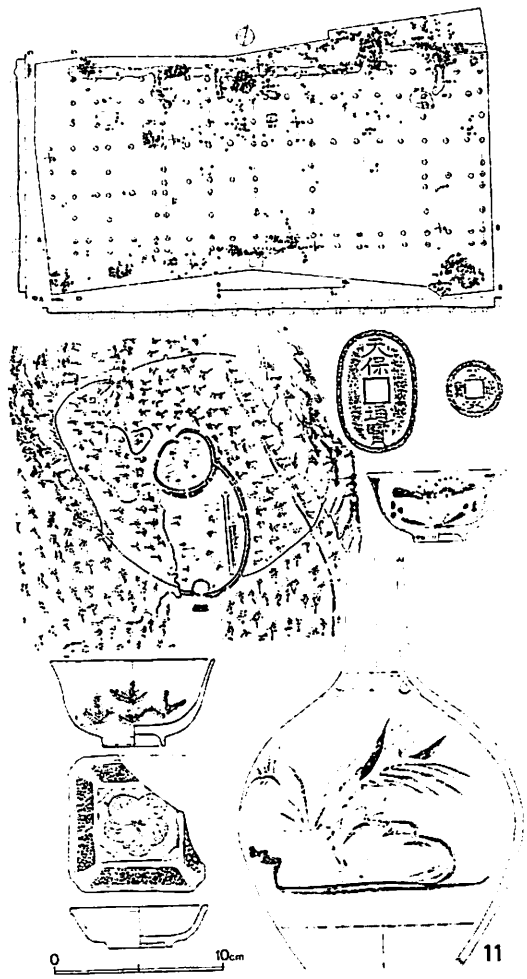


図16　カムイエカシチャシと白老仙台藩陣屋

3　発掘区の設定

調査地区の全体について、縦貫道のセンターラインに合わせて、10mのメッシュをかけて発掘区を設定した。すなわち、センターラインをMとし、10mごとに、北にL、K……、南にN、O、P……とし、これに直交する10mごとの線を、西から0、1、2……36とし、北西隅の交点の記号をその区の名称とした。ただし、縦貫道は北向きに緩く弧を描いており（南に凸）、Mラインには昭和55年度にA地点で設定されたために、両端部ではこのラインと道路のセンターは一致しない。

現地調査では、作業の都合上、このようにして定めた発掘区をさらに4等分して用いた。北西の四半分をaとし、逆計画まわりにそれぞれb、c、dとした。したがって、作業単位となる発掘区は「M24a」のように表わされている（図17）。

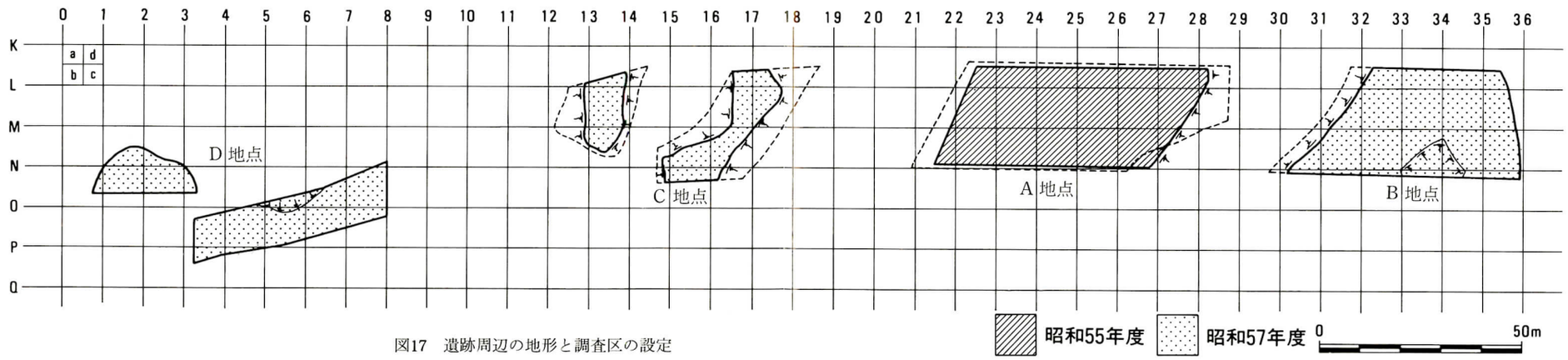


図17　遺跡周辺の地形と調査区の設定

昭和55年度　昭和57年度　0　50m

III　A地点の遺構と遺物

A地点の調査状況

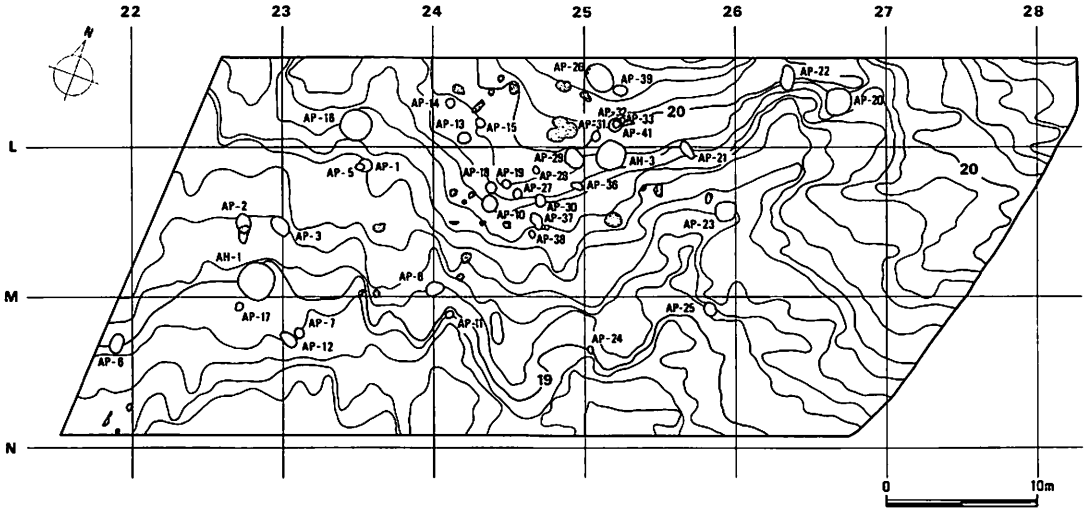
Ⅲ　A地点の遺構と遺物

1　遺構の分布

A地点において確認された遺構およびそれに類似するものは総数66（図18）、その内訳は、住居的施設（H）2、墓を含む土壙（P）37、焼土27である。

遺構の分布を概観すると、住居的施設、および土壙のなかでも比較的大型で住居的施設にちかいP—16等は、何らまとまりをもたず、それぞれ10m以上の距離をもって分散している。土壙は、舌状の高まりの上のL24区に集中的に分布する。これらは遺物を伴わない時期・用途不明の土壙である。墓とした土壙は集中せず、発掘区全域に分散している。焼土は発掘区の22～26ラインの間に分布し、とくに土壙の集中する周辺に多く分布している。

全体的な遺構の分布傾向は、微高地上に多く、K・L—24・25　約200m²の範囲内に64%が集中する。



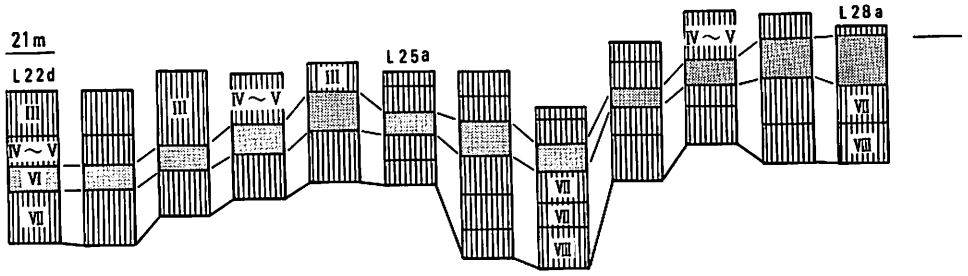


図18　A地点の遺構分布と土層柱状図

2　遺　　構

H－1（図19～21）

L22c区にある。覆土は2層に分けられる。Ⅰ層は黒褐色土で確認面から床面まで堆積する。Ⅱ層は壁際に三角状堆積した黄褐色土。平面形は長径2.48m、短径2.28mのほぼ円形。壁は緩く立ち上がり、床はほぼ平坦で堅い。覆土・床面ともに多量の礫が混在し、また覆土中からはかなりの量の木炭粒が検出された。炉跡・柱穴は確認されていない。

遺物　1はやや外反する口縁部破片。口唇は丸頭にちかいが、内側に傾斜している。口縁に平行して貼付帯が1条付けられ、貼付帯上には縄が押圧されている。縄押圧文は口唇にも施されている。貼付帯下位には短縄文が縦位に施文されている。器壁の厚さは8㎜である。床面出土。2は小突起を有する口縁部破片。口唇は丸頭状で横位と斜位に貼付帯があり、貼付帯上には刻目が施されている。刻目は口唇にもみられる。地文には絡条体圧痕文が斜位に施文されている。器厚は5㎜。3は短縄文と組紐圧痕文が組み合わされた胴部破片。器厚は8㎜。2・3は覆土出土。4は口径26.7cm、器高30.3cmの深鉢。口唇は平坦であるが、若干外側に傾斜する。LR・RLによる結束第1種の羽状縄文が口縁部から胴下半部まで施文されている。口唇にも縄文が認められる。炭化物がa1[注1]、b1に付着している。底部形態はX3a[注2]にちかい。5は口径25.6cm、器高28.6cmの深鉢。口唇は平坦であるが、若干内側に傾斜している。LR・RLによる結束第1種の羽状縄文が口縁部から底部付近にかけて施文されている。底部くびれ部分には縦位の縄による押圧文が施されている。炭化物が器内面全体に付着している。底部形態はX4aにちかい。4、5は床面出土。6は頁岩製のつまみ付きナイフ。表面右側縁に刃部がある。7は両側縁に二次加工を施した黒曜石製のスクレイパー。8～10は断面三角形のすり石。安山岩製。いずれも長方形のすり面を1か所もつ。11は安山岩の円礫を素材とするたたき石。敲打痕は平坦な面と両側縁にある。敲打痕のある面には擦った痕跡も認められ、すり石にも使用されている。12～14は安山岩製の石皿。12・13は図示した面および反対側の面が、平坦で使用面と考えられる。14は片側の平坦な面に使用面をもつ。石器の重量は、(5.3g)、7：(3.7g)、8：(945g)、9：840g，10：(245g)、11：525g、12：(845g)、13：(520g)、14：790gである。7は覆土、6・8～14は床面出土。

小括　住居とするには一辺が3m弱と小さく、炉や柱穴もないことから、短期間使用の仮小屋的な施設としておく。出土土器は1・2がⅠb－2[注3]、3～5はⅠb－1に相当する。H－1はⅠb－1を主体に、Ⅰb－2を若干含む縄文時代早期の遺構である。伴出石器にはつまみ付きナイフ・すり石・石皿がある。

注1　炭化物の付着については、Ⅶまとめのなかで分類記号化した。

注2　底部形態についてもⅦまとめのなかで分類記号化した。

注3　土器分類記号。詳細についてはⅦまとめのなかで述べる。

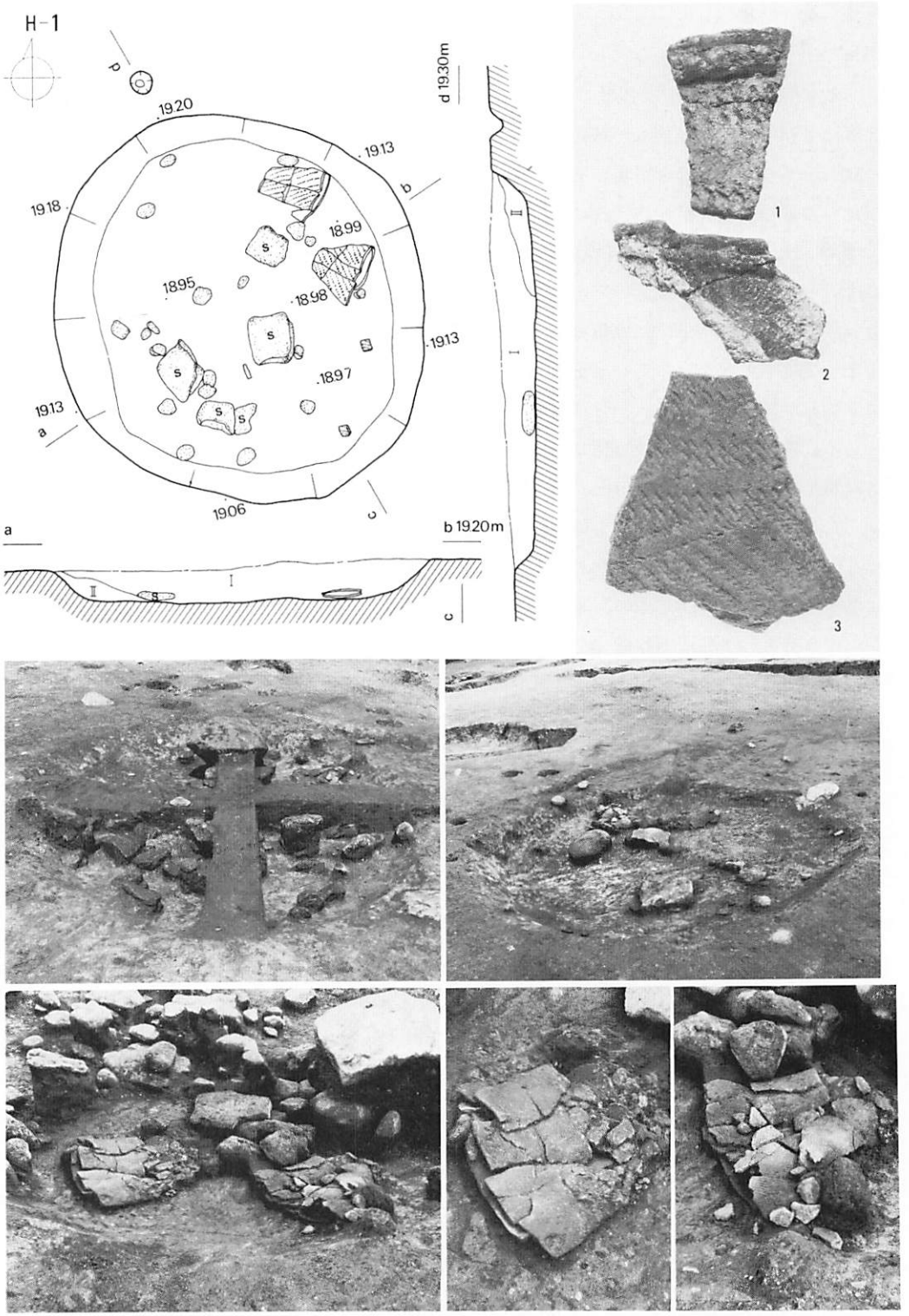

H-1
d 19.30m
b 19.20m
1920
1913
1918
1899
1895
1898
1897
1906
a
b
c
d
s
1
2
3

図19　H－1と出土遺物

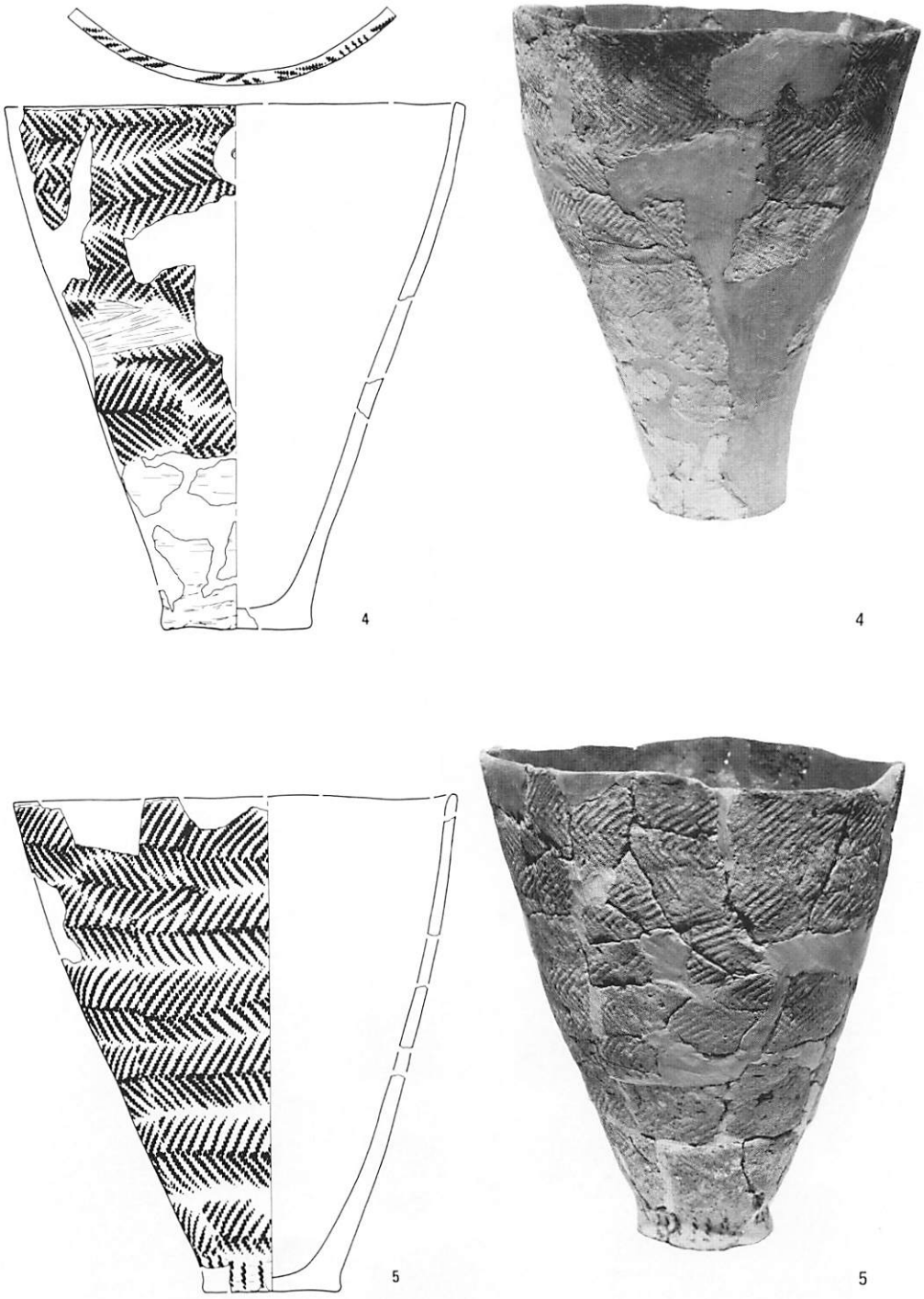


図20　H－1出土の土器

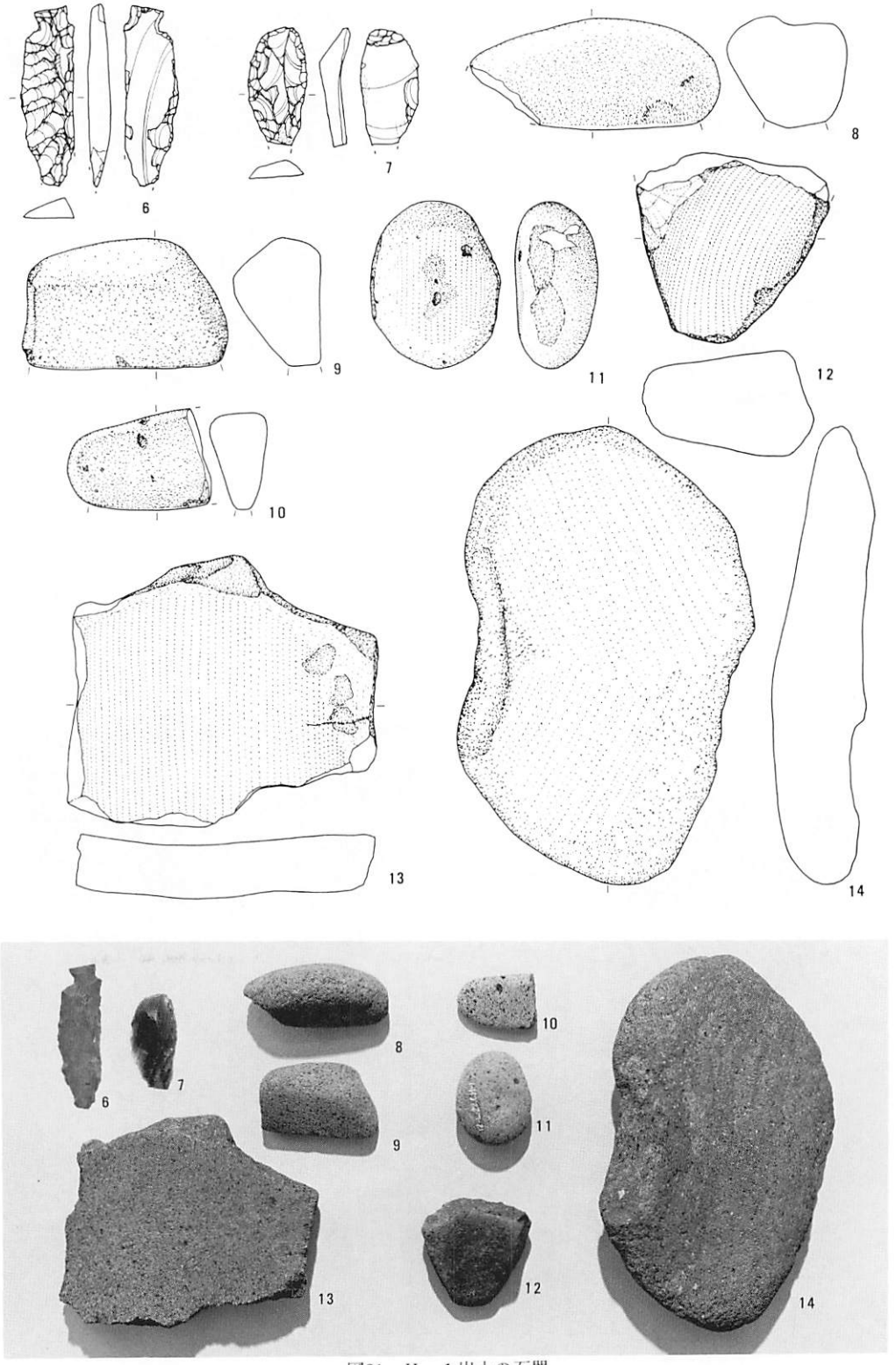


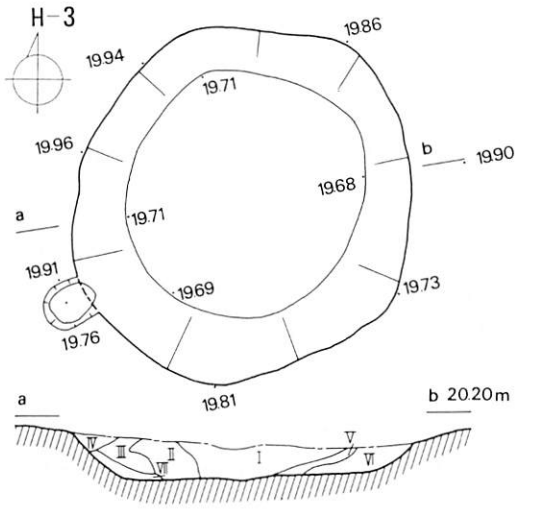
図21　H－1出土の石器

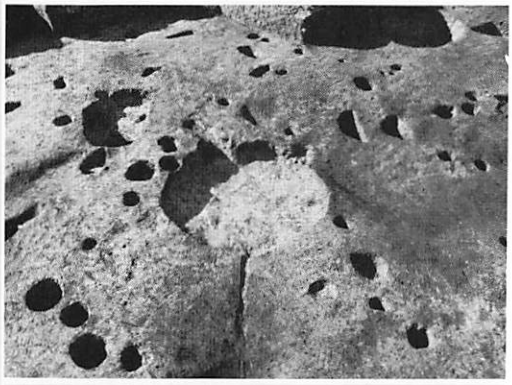
H－3

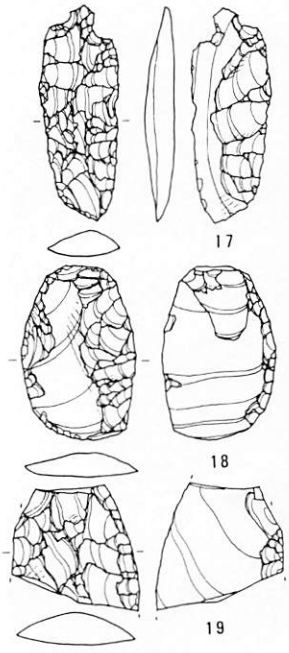
L25a区にある。覆土は7層に分けられる。Ⅰ層は黒褐色土。Ⅱ層は粘性をもつ暗黒褐色土。Ⅲ層は茶褐色土。Ⅳ層は黒色土。Ⅴ層は黄褐色土。Ⅵ層は黒褐色土。Ⅶ層は茶褐色土。平面形は長径1.96m、短径1.8mの円形。

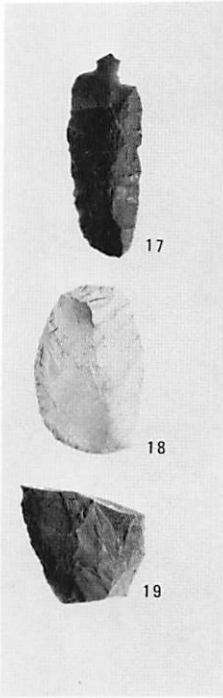
遺物　15はⅠa－2の胴部破片。貝殻条痕文が横位に施される。器厚5㎜。16はⅠb－1の胴部破片。LR・RLによる結束第1種の羽状縄文が施されている。器厚10㎜。17は表面右側縁に刃部をもった、つまみ付きナイフ。18・19はスクレイパー。17～19はいずれも頁岩製。石器の重量は、17：8.6g、18：9.2g、19：(11.1g）である。15・18・19は覆土、16・17は床面出土。

小括　本遺構もH－1と同様の構造をもつ仮小屋的施設と思われる。Ⅰb－1を伴う縄文時代早期の遺構である。









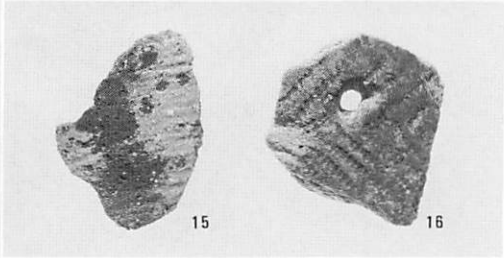
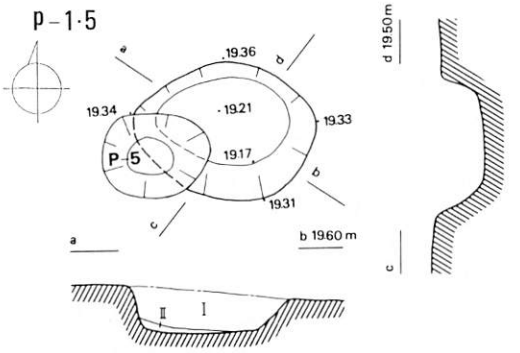


図22　H－3と出土遺物

P－1・5（図23・24）

L23a区にある。P－1の覆土は2層に分けられる。Ⅰ層はソフトな黒褐色土。Ⅱ層は灰黄褐色土。P－1の平面形は長径0.96m、短径0.72mのたまご形。P－5の平面形は長径が0.58m、短径0.44mのほぼ円形。新旧関係は古P－5→新P－1である。

遺物　P－1の覆土中から石錘が9個まとまって出土した。31だけが4軸打ち欠きで、ほかはすべて両端打ちで欠きである。重量は、28：160g、29：91g、30：160g、31：230g、32：198g、33：170g、34：240g、35：152g、36：240gである。また、その上面からは図60—102・108のⅠa—3が出土している。20～27はP－1の覆土出土。20・22は



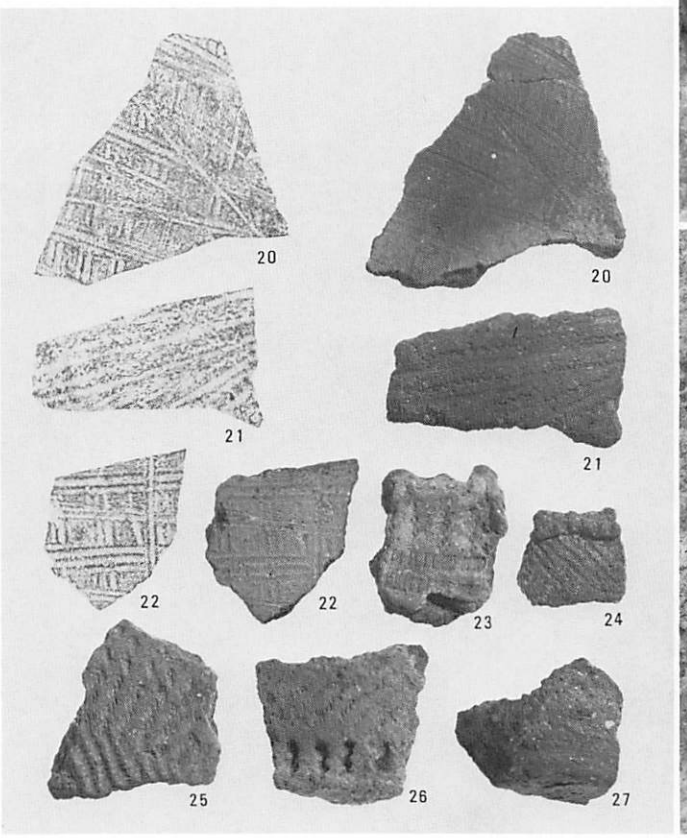
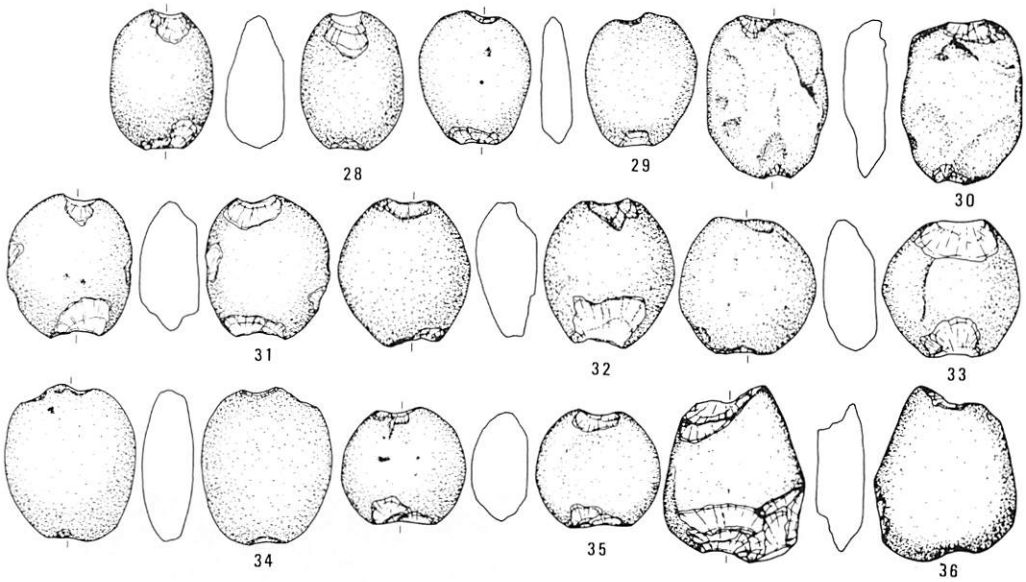


図23　P－1・5と出土遺物



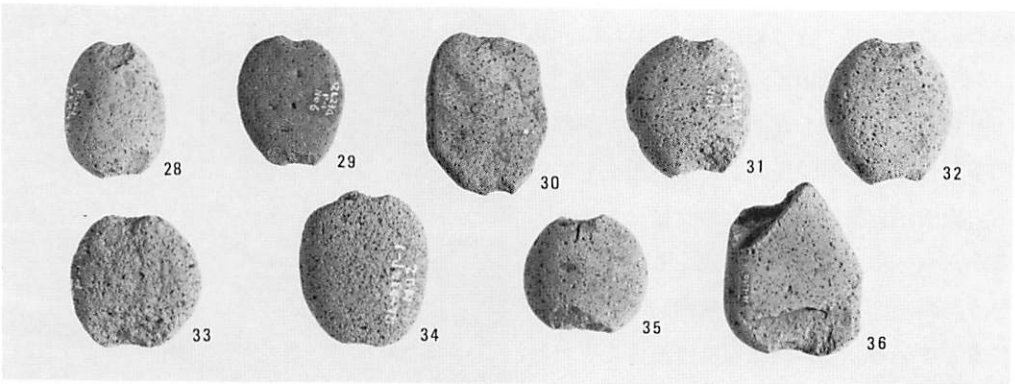


図24　P－1出土の石錘

Ⅰa－3で、縦位・横位に条痕文が施された胴部破片。胎土に石英・軽石粒を含む。器厚は20が7㎜、22が6㎜。21は貝殻腹縁文、沈線文のあるⅠa－2の胴部破片。器厚は6㎜。胎土に多量の石英を含む。23・25・26はⅠb－1。23は小突起を有する口縁部破片。口唇は棒状工具で押圧され小波状となっている。口唇断面は丸頭状。縦位の短縄文と横位の絡条体圧痕文が施文されている。器厚は6㎜。器内面には多量の炭化物が付着している。25はRL斜縄文と短縄文のある胴部破片。器厚は7㎜。26はLR斜縄文と短縄文のある底部破片、形態はX4a。24はⅠb－2の口縁部破片。口縁に平行して細めの貼付帯があり、貼付帯上には縄押圧文がみられる。地文にはRL・LRの羽状縄文が施されている。器厚は4㎜。27はP－5の覆土から出土したⅠa－2の底部破片。胎土に石英を含む。無文。底部形態はX3a。

小括　P－1の覆土からは9個の石錘とⅠa－2・3、Ⅰb－1・2の土器が出土した。しかし、底面からの遺物はなく、時期は不明である。P－5も時期は不明である。

P－2（図25．26）

L22c・d区にある。覆土は5層に分けられる。Ⅰ層は黒色土で基本層序のⅢ層。Ⅱ層は黒褐色土で基本層序のⅣ層。Ⅲ層は灰黄褐色土。Ⅳ層は暗黄褐色土で基本層序のⅤ層。Ⅴ層は灰褐色土で小粒のパミスを含む。なお、対比層序は旧層序である。平面形は長径が1.32m、短径が0.86mのたまご形。深さ0.50m。覆土は非常に堅くしまっていた。

遺物　37は頁岩製の石鏃。裏面に主剝離面を残す。38は黒曜石製の大型石槍片。39は黒曜石製の石槍片。ともに入念な加工が施されている。40はカキ貝殻。41・42は断面三角形のすり石。一面に長方形のすり面をもつ。石器等の重量は37：(1.7g)、39：(3.1g)、40：(4.5g)、41：990g、42：1,930gである。これらは、いずれも底面出土である。土器は図示していないが、底面から1点出土している。表面が剝脱しているため文様は不明であるが、おそらくⅠb－1に比定しうるものと思う。胎土に石英を含む。器内面に炭化物が付着している。なお、底面には遺体と思われる糊状の痕跡がみられた。

小括　本遺構は墓の可能性が強い。底面から石鏃・石槍・すり石・貝と土器が出土した。これらはP－2の副葬品と考えられる。土器が1点しか検出されていないが、Ⅰb－1の縄文時代早期に属すると考えて大過なかろう。

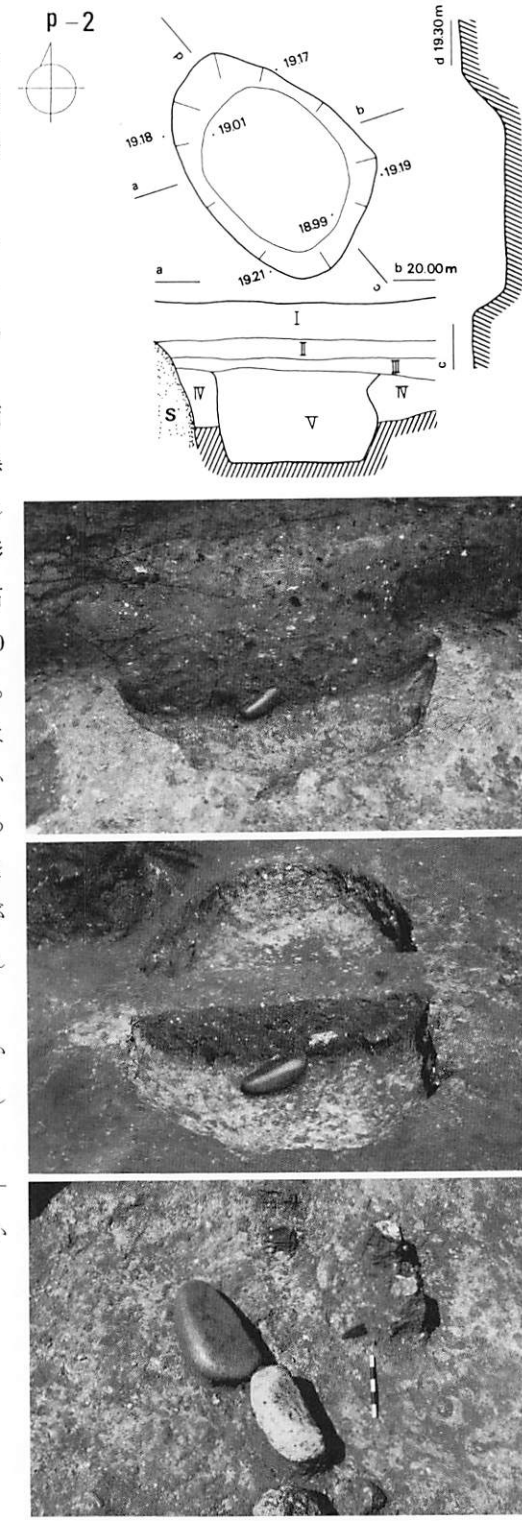


図25　P－2

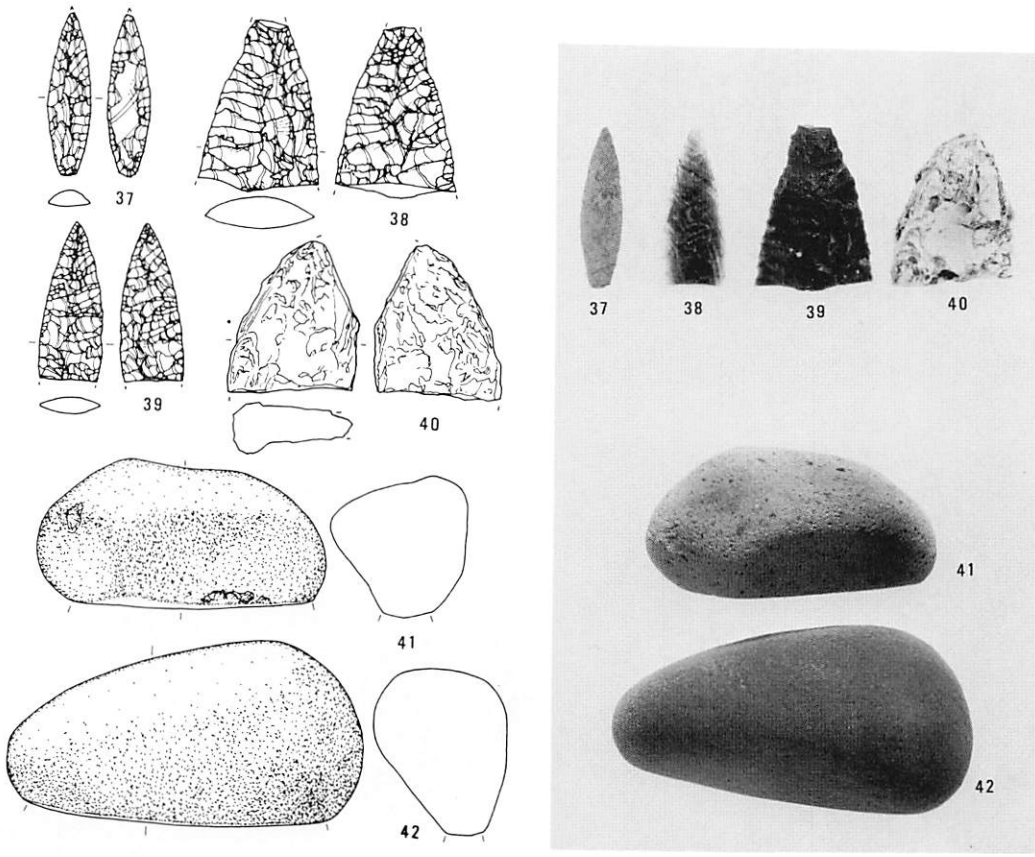


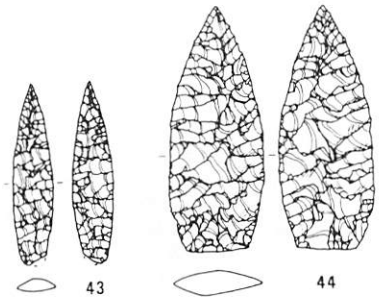
図26　P－2出土の遺物

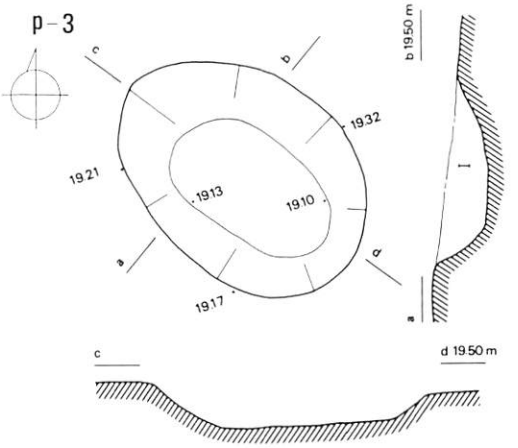
P－3（図27）

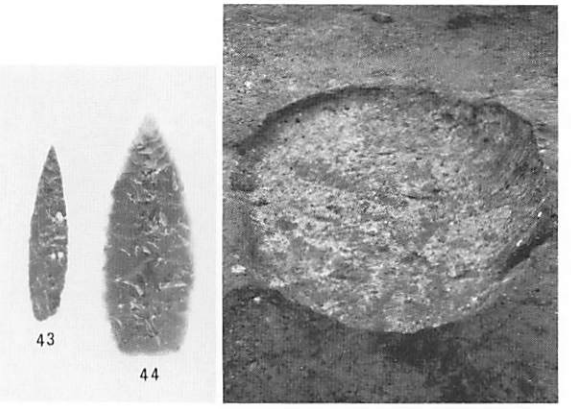
L22c・d、L23a・b区にある。覆土は1層で灰褐色土である。平面形は長径1.48m、短径1.06mの長円形。立ち上がりは明瞭である。形態・規模ともにP－2にちかい。

遺物　43は黒曜石製の石鏃。入念な加工が施され、薄身に作られている。44は長さ6.5cmの石槍の完形品。両面とも入念な加工が施され、比較的薄身に作られている。2点とも覆土中の底面ちかくから出土している。図示していないが、覆土からⅠa－2の底部とⅠb－1の太めの縄線文土器が出土している。

小括　本遺構は時期を決定づける土器がないので確定的なことは言えないが、形態・規模、掘り込み面、および出土した石鏃・石槍の形態も同じであることから、P－2と同じくの縄文時代早期に属する墓と考えられる。







P－4

L 22 a 区にある。本遺構は昭和54年度の詳細分布調査時において確認されたものである。平面形は長径0.48 m、短径0.38 mの隅丸長方形。遺物は出土していない。

小括　本遺構は規模としては小型の土壙に属し、用途・時期とも不明である。

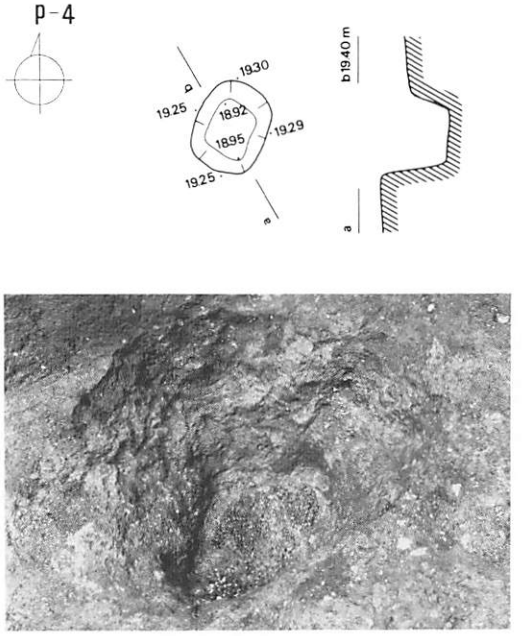


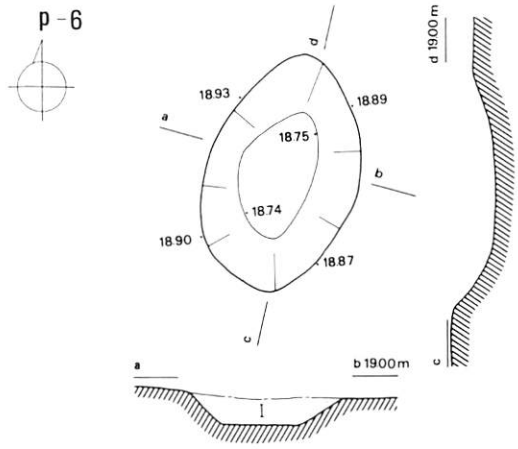
図27　P－3・4と出土遺物

P－6

M21ｄ区にある。覆土は１層で、小粒のパミスを含む灰褐色土。平面形は長径が1.26ｍ、短径が0.80ｍのややいびつな長円形。底面は若干凸凹しているが、ほぼ平坦で堅くしまっている。

遺物　覆土中から土器１点、礫２点、貝殻片１点が出土した。土器は貝殻条痕文が縦位に施されたＩａ－２の底部破片。

小括　Ｉａ－２は本遺構周辺から多数出土しており、覆土に混入したものと考えられる。規模・形態および貝殻が出土していることから、Ｐ－１・３と同じ時期の墓の可能性がある。

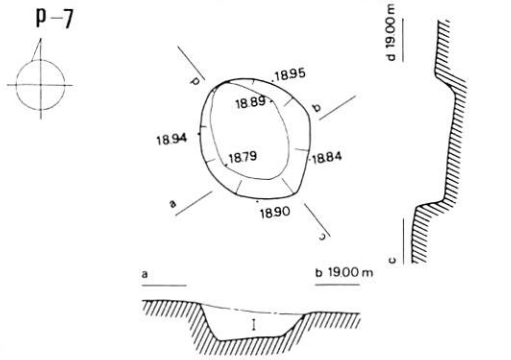


P－7

M23ａ区にある。覆土は１層で小粒のパミスを含む灰褐色土である。平面形は長径0.70ｍ、短径0.60ｍのややいびつな長円形。底面はやや軟弱。

遺物　覆土上部からＩｂ－１が10点、フレイク１点出土した。45は短縄文とＬＲ斜縄文の組み合わされた口縁部破片。口唇断面は丸頭状。器厚は６㎜。46はＬＲ斜縄文のある口縁部破片。口唇断面は丸頭状。器厚は６㎜。

小括　縄文時代早期のＩｂ－１の時期のものである可能性がある。用途は不明。



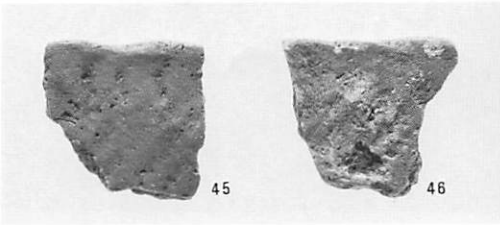


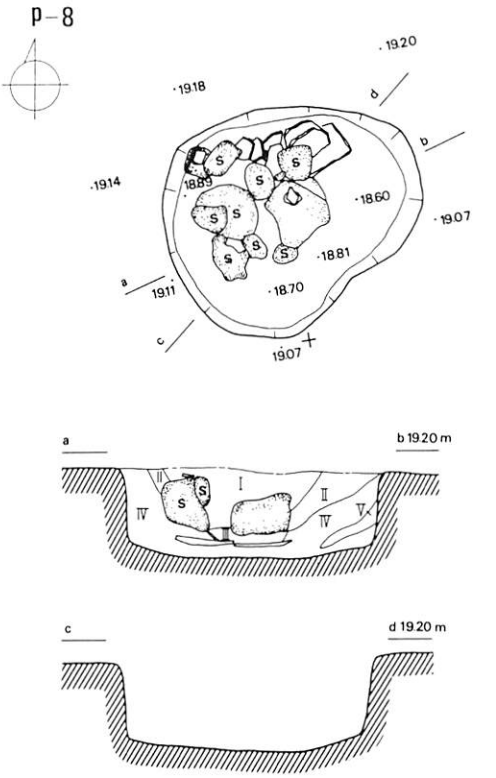
図28　Ｐ－６・７と出土遺物

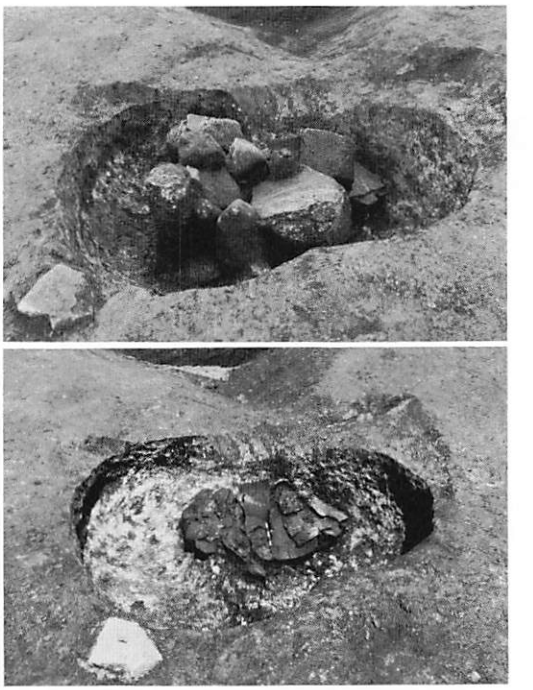
P－8（図29・30）

L23c・L24b区にある。覆土は5層に分けられる。Ⅰ層は黒褐色土。Ⅱ層は黒色土。Ⅲ層は焼土に多量の炭化物を含む赤褐色土。Ⅳ層は灰褐色土、Ⅴ層は黄褐色ローム。平面形は長径1.40m、短径0.96m、の北西部がいびつな長円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で堅くしまっている。

遺物　覆土中には長大な礫が詰まっており、この礫の下の底面から2個体の土器が押し潰された状態で出土した。48は口径25.8cm、器高27.9cmの深鉢。RL・LRによる羽状縄文が器全面に施文されている。縄文は口唇にも施されている。口唇断面に縄文施文により内側に傾斜している。49は口径が28.2cm、器高は推定で28.4cmの深鉢。LR・RL斜縄文が器全面に施文され、底部内側にもみられる。また、短縄文が底部のくびれたところに施文されている。39・40とも器内全面に炭化物が付着している。覆土からつまみ付きナイフ（47）とフレイク11点が出土した。

小括　Ⅰb－1の土器が伴うことから縄文時代早期の墓の可能性が強い。





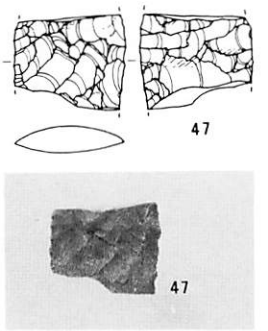


図29　P－8と出土遺物

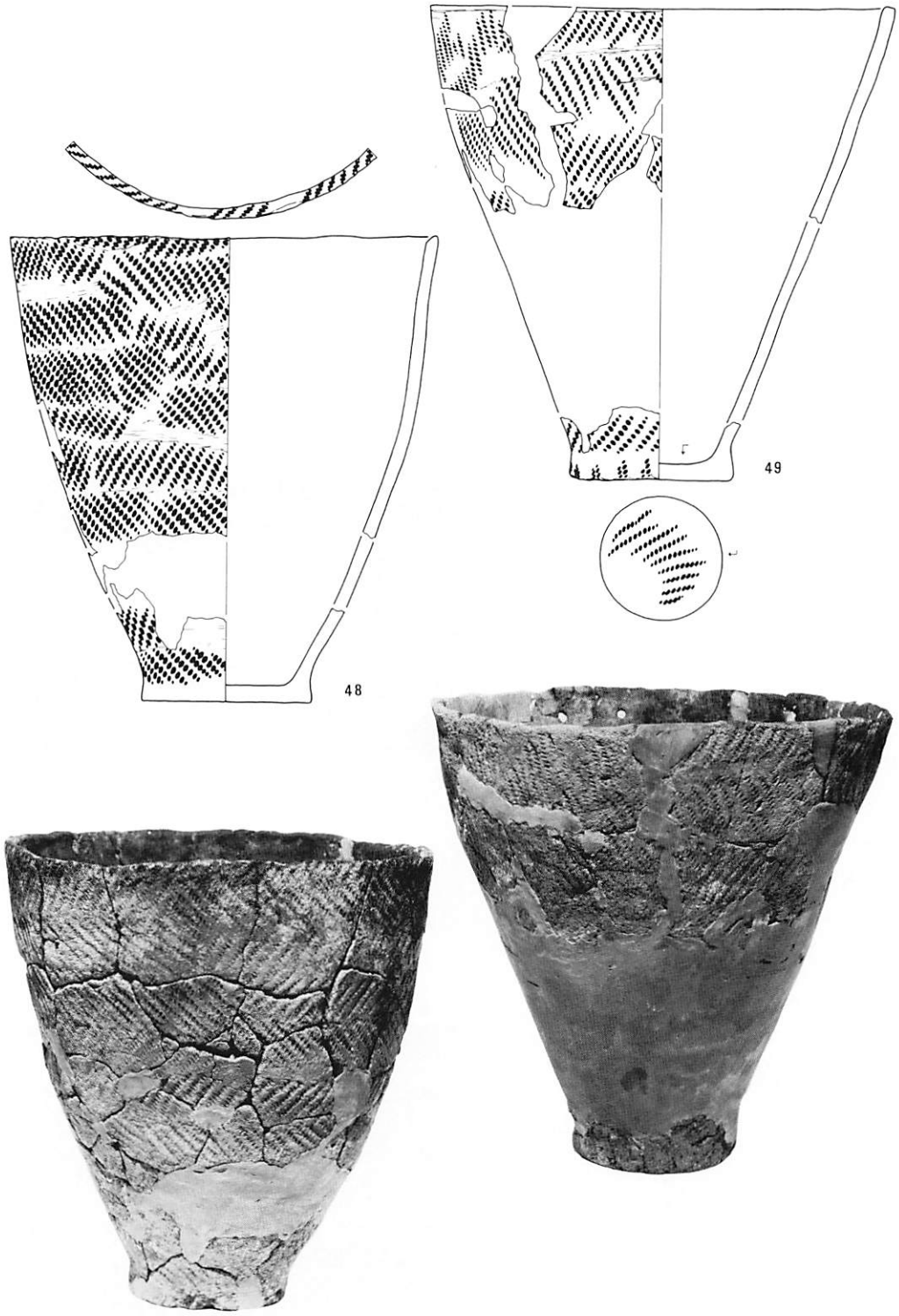


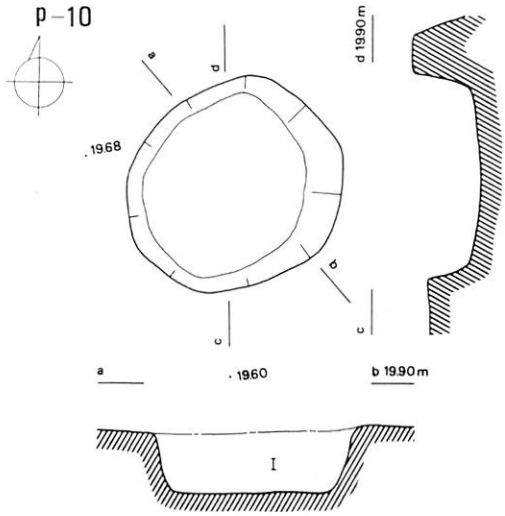
図30　P－8出土の土器

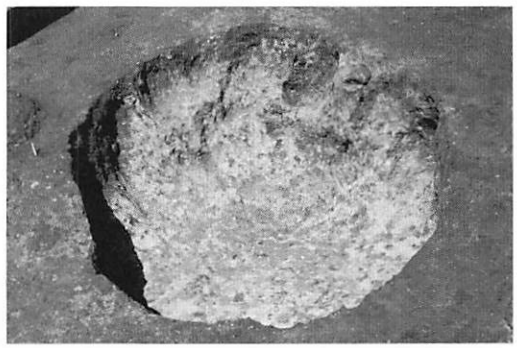
P－10

L24a区にある。覆土は1層で、パミスを含む灰褐色土。平面形は長径1.10m、短径1.08mのほぼ円形。壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦で堅い。

遺物　覆土中から礫が1個出土したのみである。

小括　時期・用途ともに不明である。



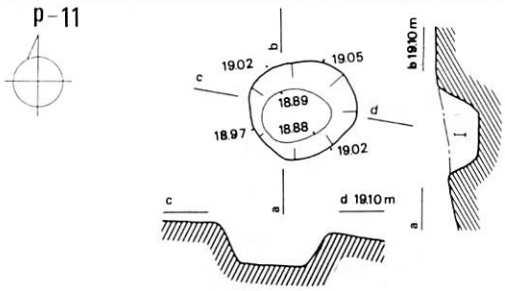


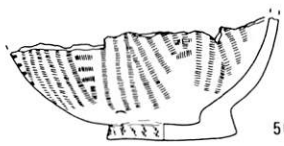
P－11

M24a区にある。覆土は1層で、ソフトな黒褐色土。平面形は長径0.56cm、短形0.52cmのほぼ円形。底面は平坦。

遺物　覆土上部からⅠb－2の底部破片が出土した。底角が「く」の字状にくびれている（X4a）。絡条体圧痕文が縦位・斜位に施文され、さらにその間に横位の短い絡条体圧痕文が施されている。底部のくびれで部分には縦位の短縄文が押圧されている。

小括　Ⅰb－2は本遺構に伴うものがどうかはわからない。用途は不明。





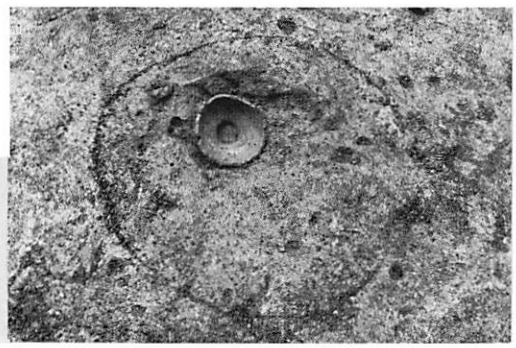


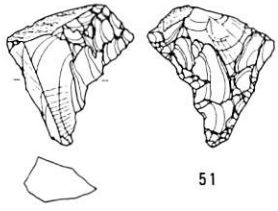
図31　P－10・11と出土遺物

P—12

M23a区にある。覆土は2層に分けられる。Ⅰ層はパミスを含む黒色土で、やや粘性をもつ。Ⅱ層は暗黄褐色土。平面形は長径1.20m、短径0.82mの長円形。底面は凹凸が著しく、南壁よりの底はさらに一段落ち込んでいる。

遺物　図示していないが覆土中から土器が16点出土している。そのほとんどが表面剝脱しているため、文様は不鮮明であるが、絡条体圧痕文、斜縄文、羽状縄文が施されており、Ⅰb—1に属しよう。覆土中から黒曜石の加工のあるフレイク(51)と、フレイク10点が出土している。

小括　時期はⅠb—1が多く出土していることから、縄文時代早期の可能性がある。用途は不明。



P—13

K24b区にある。覆土は3層に分けられる。Ⅰ層は粘性をもった黒色土。Ⅱ層は暗黄褐色土。Ⅲ層は火山灰を含む赤褐色土。平面形は長径0.92m、短径0.64mのいびつな長円形。底面は軟弱である。

遺物　覆土中から礫が1点出土している。

小括　時期・用途ともに不明である。

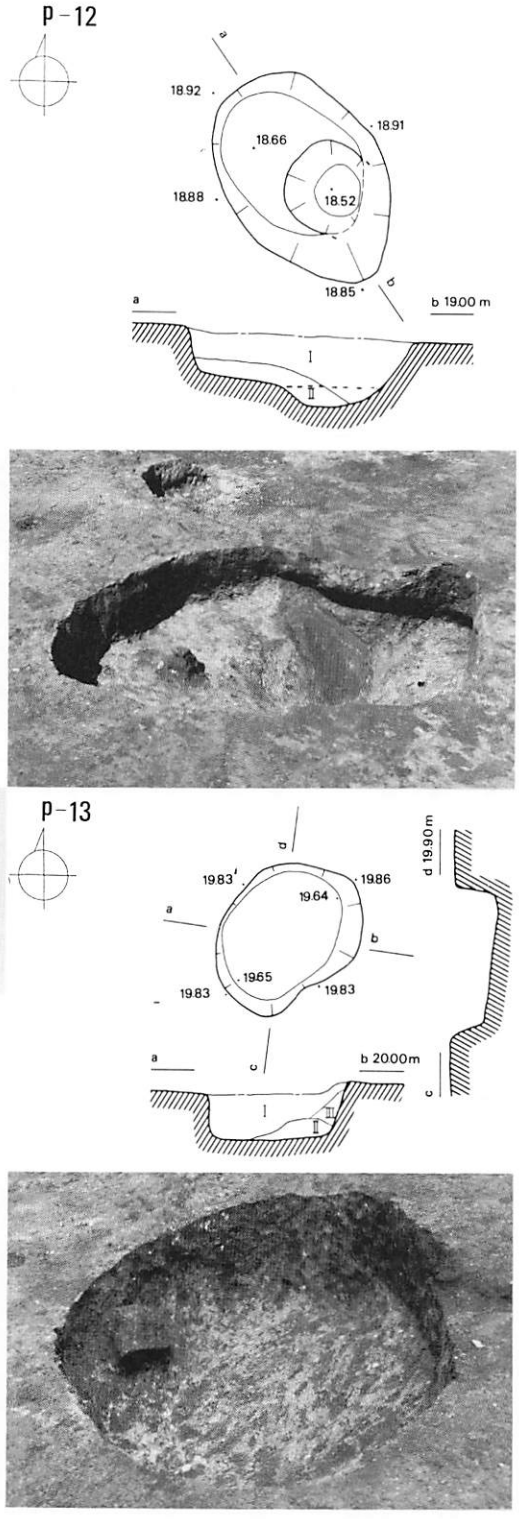
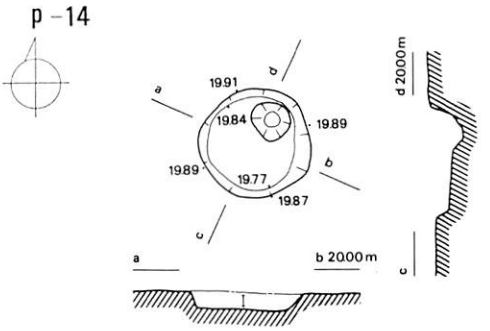


図32　P—12・13と出土遺物

P—14

K24b区にある。覆土は1層で、小粒のパミスを含む灰褐色土。平面形は径0.60mの円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であるが、やや軟弱。北壁よりの底面に径0.20mの小ピットがある。遺物は出土していない。

小括　時期・用途ともに不明である。



P—15

K24b区にある。覆土は4層に分けられる。Ⅰ層は微量のパミス・ローム粒を含む黒色土で粘性をもつ。Ⅱ層は茶褐色土。Ⅲ層は黄褐色ローム。Ⅳ層は黒褐色土。平面形は長径0.60m、短形0.53mのほぼ円形。床面は軟弱である。

遺物　図示していないが覆土から磨製石斧の破片と礫1点が出土している。

小括　磨製石斧が、本遺構に伴う可能性は薄い。時期・用途ともに不明。

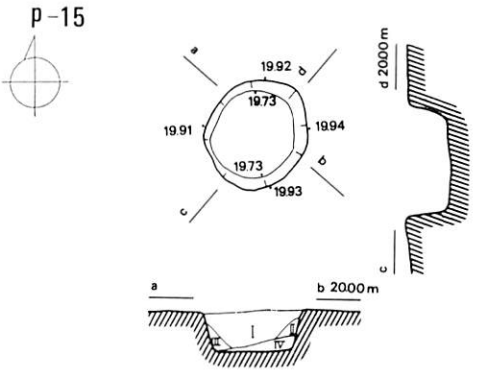


図33　P—14・15

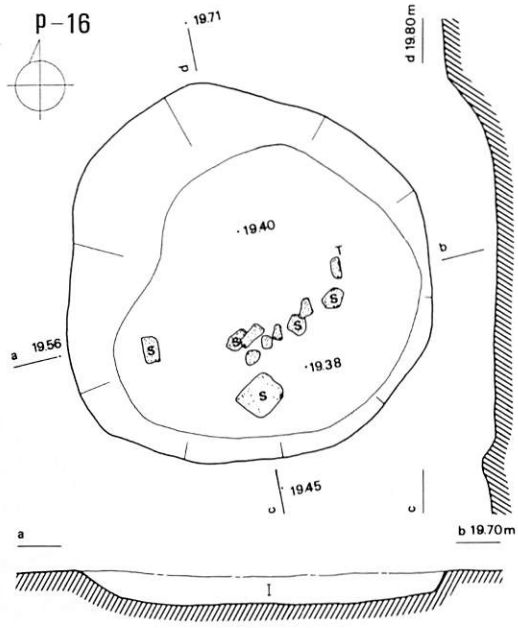
P—16（図34・35）

K23b・c区にある。覆土は1層で、パミスを含む灰褐色土。粘性をもつ。平面形は長径2.02m、短径2.00mのいびつな円形。壁の立ち上がりはゆるやかで、底面は皿状を呈している。

遺物　53はⅠa—2の口縁部破片。口唇は平坦に整形され、やや内側にめくれている（g）[注]。胎土には石英粒を多量に含む。さほど顕著でないが器外面横位に幅広い条痕が施されている。内面は、それとは反対に幅広い条痕が顕著に力強く施されている。器厚は6㎜。覆土出土。54はⅠa—2の胴部破片。器外面に貝殻条痕が施文されている。器厚は7㎜。底面出土。52は石皿の破片。図示した面およびその反対の面が、平坦で使用面と考えられる。安山岩製。重量は(4,000g）である。そのほか、覆土中から10数個の礫が出土した。

小括　規模・形態からすれば、H—1・3と同じ機能をもった遺構の可能性がある。底面から石皿が出土していることも、その可能性を示唆している。時期は、Ⅰa—2が底面から出土しているので、おそらくその時期のものであろう。また、さきのH—1・3がⅠb—1の時期であり、その可能性もある。

注　口唇断面形状はⅦまとめのなかで分類記号化している。



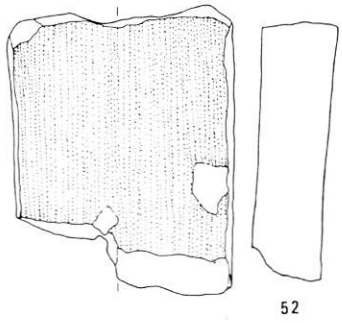


図34　P—16と出土遺物

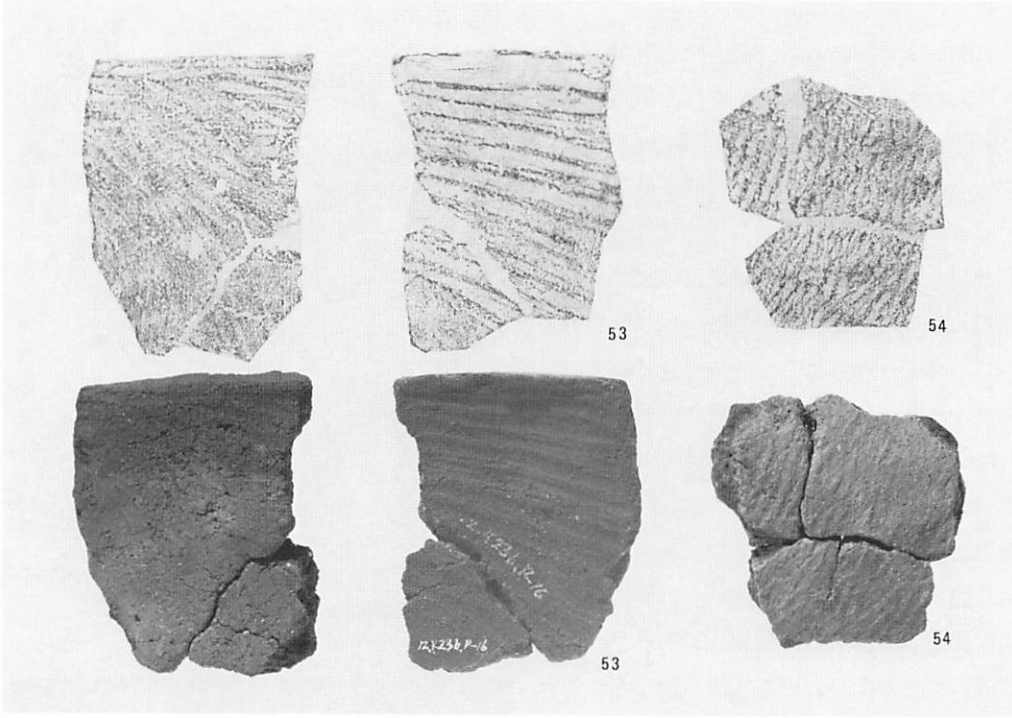


図35　P—16出土の土器

P—17（図36）

M22ｄ区ある。平面形は長径0.60ｍ、短径0.46ｍの長円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹である。

遺物　覆土中から安山岩製のくぼみ石が１点出土しているのみである。重量は300ｇ。

小括　時期・用途とも不明である。ただ、H—１の南西にあり近接しているるため、H—１と何らかの関連があるかもしれない。

P—18（図36）

L24ａにある。覆土は３層に分けられる。Ⅰ層は少量のパミスを含む灰褐色土。Ⅱ層は粘性をもつ灰褐色土。Ⅲ層はパミス混りの黄褐色土。覆土は人為的な埋土の可能性が強い。平面形は長径0.72′ｍ、短径0.06ｍのほぼ円形。北壁壙口部がややオバーハングしフラスコ状にちかい断面形をもつ。その他の壁は立ち上がりが急である。底面はやや凸凹している。

小括　時期・用途ともに不明。

P－19

L24a区にある。覆土は1層で、小粒のパミスを含む黒褐色土。平面形は長径0.52m、短径0.48mの円形。小型の土壙で断面はボウル状。

遺物　56はⅠb－2の口縁部破片。口唇断面は尖頭状。口縁には2段の貼付帯があり、貼付帯上には縄文とRLの斜縄文が施されている。器内面には炭化物が付着している。器厚は6㎜。覆土から出土。57は底面出土の石錘。安山岩製。両端に打ち欠きがみられる。重量は40.3gである。

小括　時期の決め手に欠けるが、縄文時代早期に属しよう。用途は不明である。

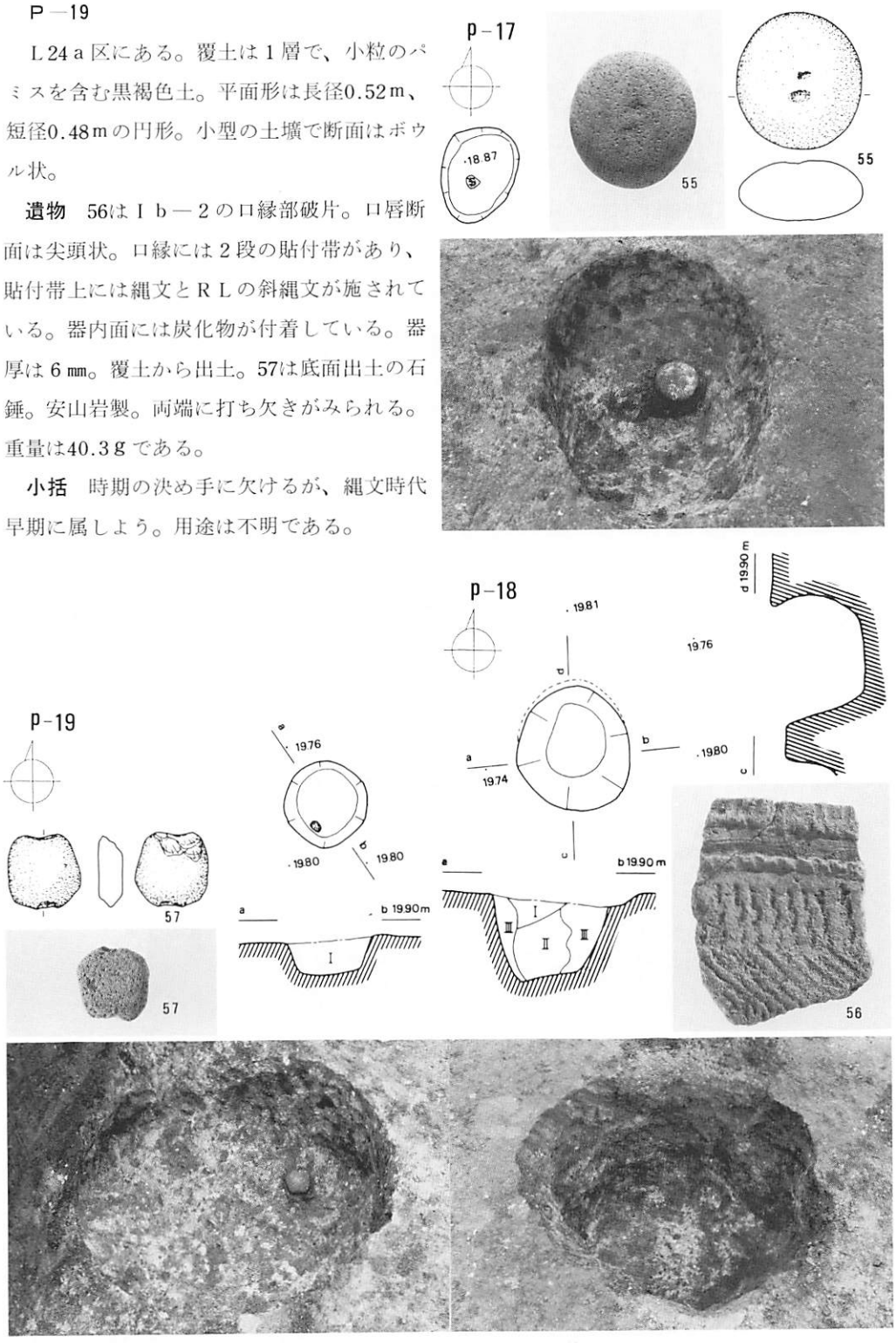
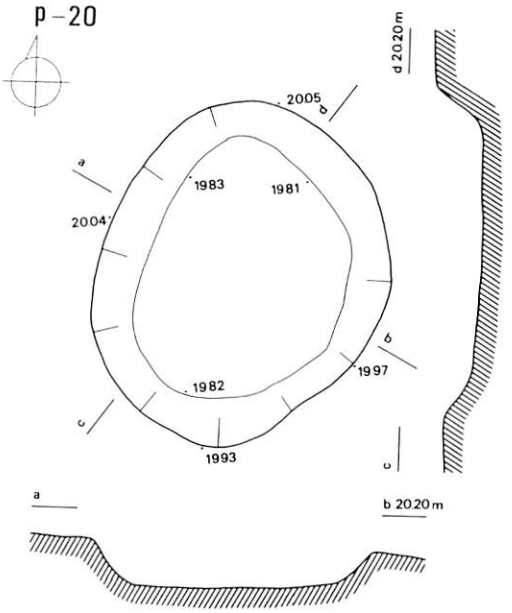


図36　P－17・18・19と出土遺物

P－20（図37・38）

K26c区にある。平面形は長径1.81m、短径1.49mのややいびつな長円形。壁の立ち上がりは垂直にちかい。底面は皿状。

遺物　土器は17点出土している。58はⅠa－2の胴部破片。器内外に横位の貝殻条痕文が施されている。器厚は5㎜。覆土出土。59～61はⅠb－1。59は斜縄文と短縄文の組み合わされた胴部破片。器厚は10㎜。60は結束第1種の羽状縄文を施した胴部破片。器厚は10㎜。胎土、施文などが59に近く同一個体の可能性が強い。61はRL・LRの斜縄文のある底部破片、底角は若干張り出す（X3a）。器厚は10㎜。59は底面出土。58・60・61は覆土出土。62・66・67は両面に入念な加工の施された黒曜石製の石鏃。68は黒曜石製の石槍。両面に入念な加工が施され、全体が薄身に作られている。63・70はつまみ付きナイフ。いずれも表面右側縁に刃部を作り出している。63は黒曜石製、70は頁岩製。64・65は加工痕



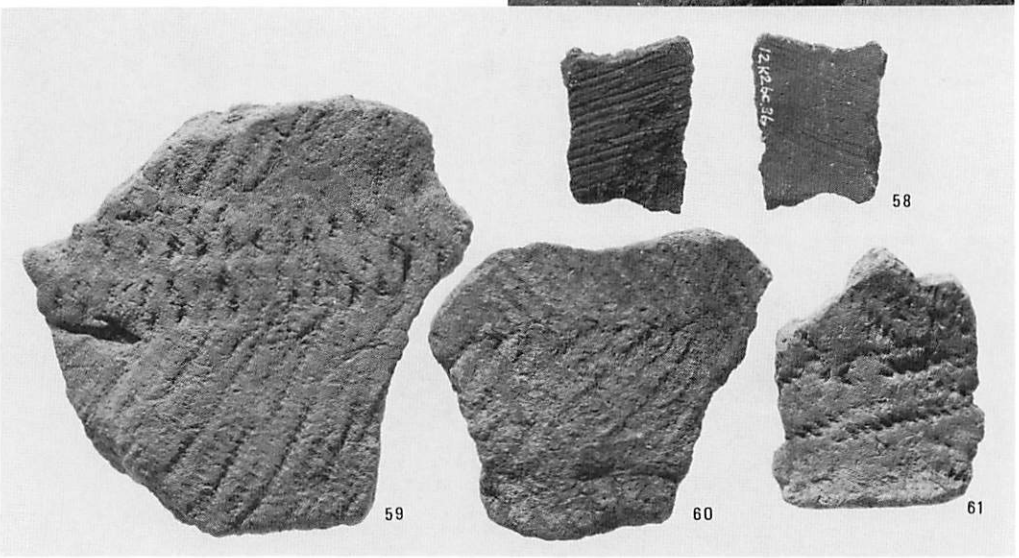


図37　P－20と出土遺物

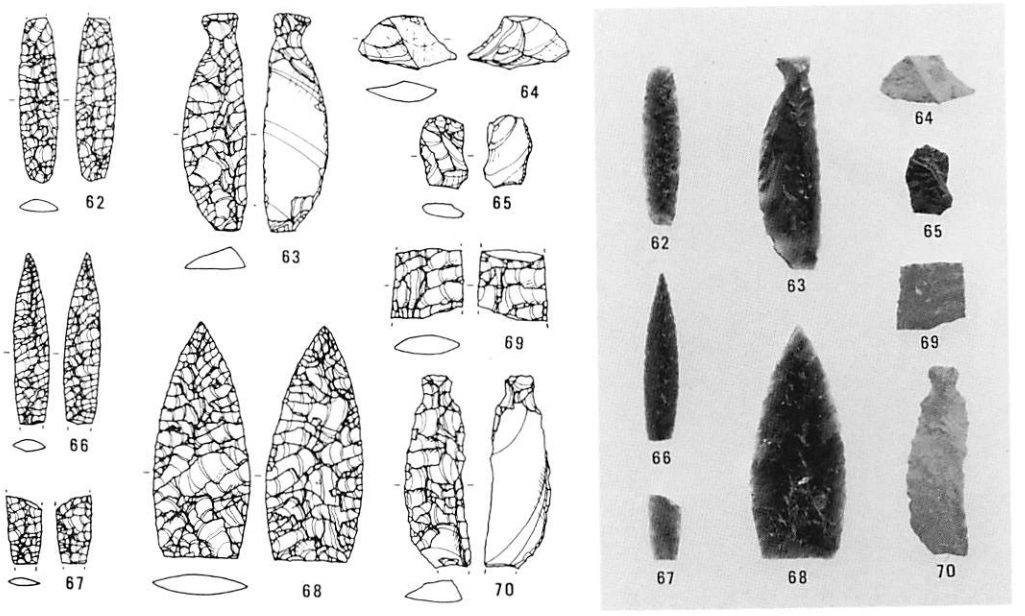


図38　P—20出土の石器

のあるフレイク。64は頁岩、65は黒曜石である。69は頁岩製の石槍片と思われる。両面とも入念な加工が施されている。石器の重量は62：(1.6) g、63：5.0g、64：(0.8) g、65：(0.8 g)、66：(1.1) g、67：(0.4)、68：8.9g、69：(2.6) g、70：(4.3) gである。62～65は底面出土、66～70は覆土出土である。

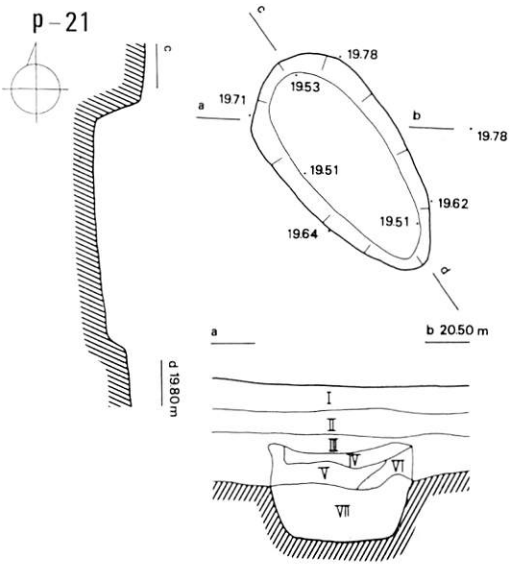
小括　時期はⅠb—1を伴うことから縄文時代早期に属する。伴出石器は石鏃・つまみ付きナイフ・加工痕のあるフレイフである。覆土出土の石槍なども本遺構に伴う可能性が強い。石槍は、P—2・3のものと形態的に極めて類似しており、さらには遺構の規模・形態からみてもP—2・3同様、墓の可能性が高い。

P—21（図39）

K25c・L25d区ある。覆土は7層に分けられる。Ⅰ層は黒色土で基本層序のⅢ層に対比。Ⅱ層は赤褐色土で基本層序のⅣ層。Ⅲ層はパミスを含む黒褐色土。Ⅳ層はローム粒を含む褐色土。Ⅴ層はパミスを含む黄褐色土。Ⅵ層は暗黄褐色土。Ⅶ層は粒性のある黒褐色土である。なお、対比層序は旧層序である。平面形は長径1.32m、短径0.64mの長円形。掘り込み面はP—2・3と同じ層位であることが確認された。覆土は人為的な埋土の可能性が強い。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。

遺物　覆土から土器18点、フレイク11点が出土した。71はⅠb—1の胴部破片。縦位に短縄文が施されている。器厚は8㎜。72はⅠa—2の底部破片。底角はX1。横位の貝殻条痕文が施されている。

小括　覆土から出土した土器はⅠb－1に相当する。したがって、時期は縄文時代早期のⅠb－1の時期の可能性がある。本遺構の規模・形態などからP－2に類似しており、墓の可能性もある。

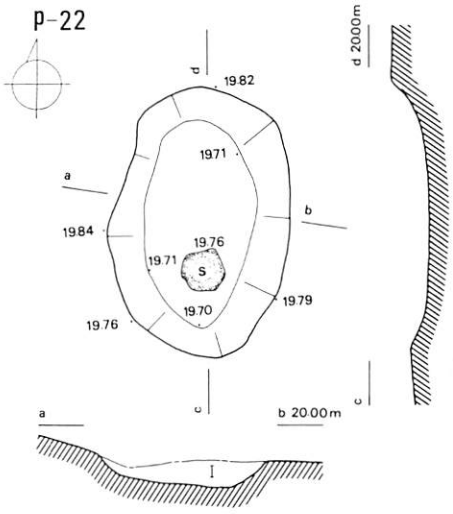


P－22

K26a・b区にある。覆土は1層で、細粒のロームを含む茶褐色土。平面形は長径1.40m、短径0.93mのややひびつな長円形。底面は皿状であるが中央部は平坦である。

遺物　底面から径20cm程の扁平な礫が1点出土したのみである。

小括　時期・用途ともに不明である。本遺構の規模・形態はP－2・3と類似している。



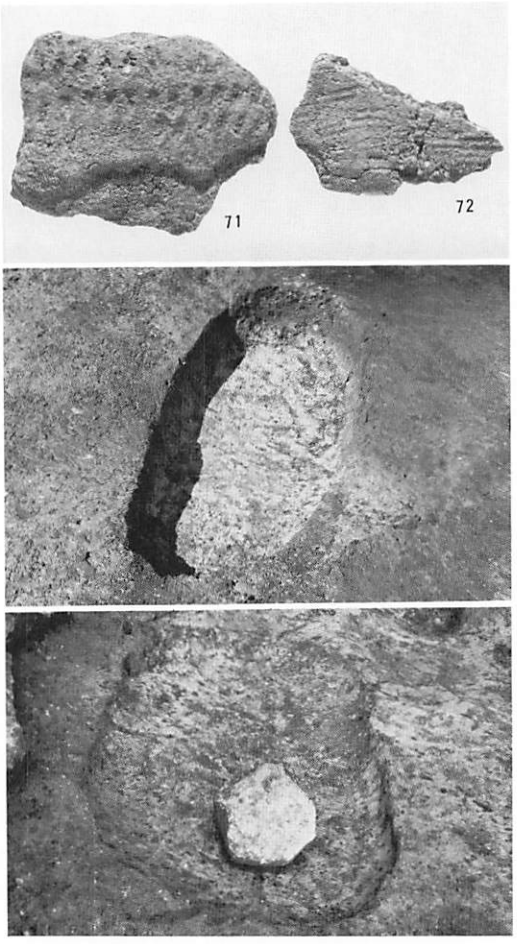
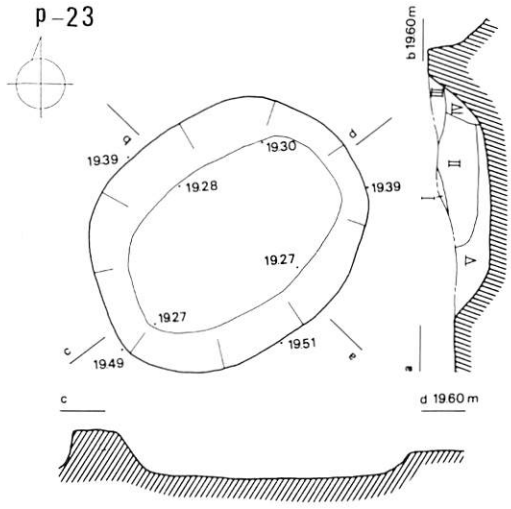


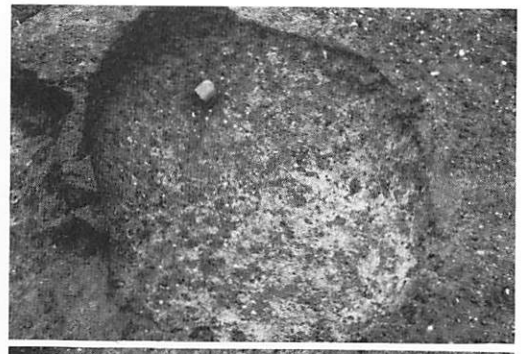
図39　P－21・22と出土遺物

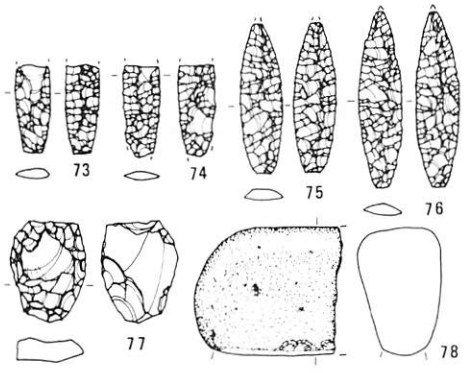
P－23（図40・41）

L 25 d 区にある。覆土は５層に分けられる。Ⅰ層は黄褐色の火山灰。Ⅱ層は多量のパミスを含む茶褐色土。Ⅲ層は細かい粒子状の黒色土。Ⅳ層は少量のパミスを含む黒色土。Ⅴ層はパミスを含む黒褐色土である。平面形は長径1.58m、短径1.26mの長円形。壁はゆるやかに立ち上がる。底面は堅くしまっている。

遺物　73～78は底面出土の石器。73～76は黒曜石製の石鏃。両面に入念な加工を施し全体が薄身に作り出されている。77は頁岩製のラウンドスクレイパー。78は安山岩製のすり石。長方形のすり面をもっている。重量は73：（0.6）g、74：（0.6）g、75：（1.25）g、76：（1.3）g，77：（4.3）g、78：（415）gである。土器は18点出土している。79は土壙上層（壙口部）から出土したⅠb－2の口縁部破片である。口径は29.3cm。口縁は大きな波状を呈し、２本の貼付帯が施されている。貼付帯上には縄が押圧されている。文様の構成は口縁部と胴中央部を囲繞する貼付帯によって区画され、その間に２～４本の縦位の貼付帯が施されている。縦位の貼付帯は展開図に示すとおり、波頂部の貼付帯は胴中央部の







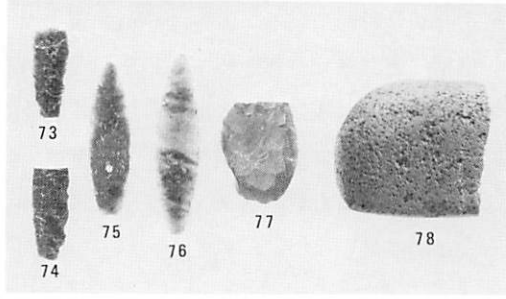


図40　P－23と出土遺物

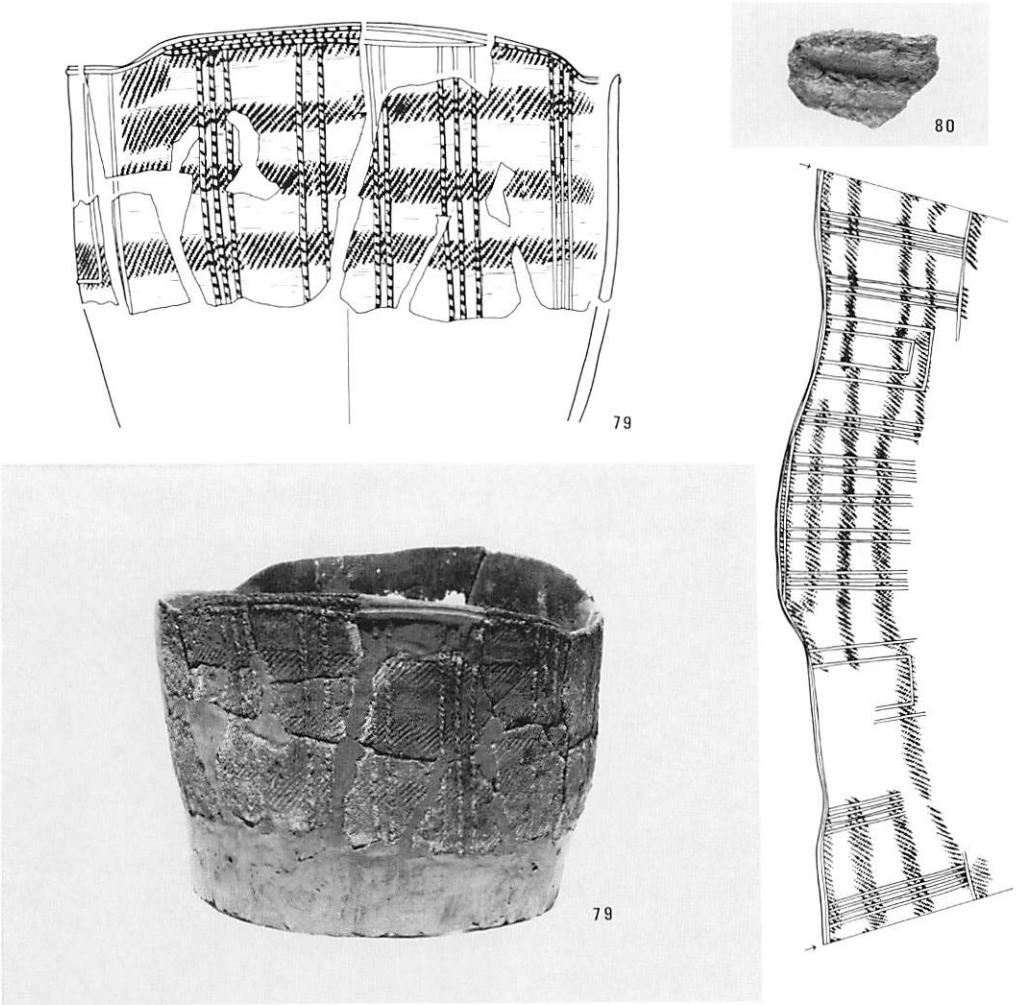


図41　P—23出土の土器

貼付帯と接続するが、他に「コ」の字状に完結するものもある。地文には幅1.5～3㎝のＬＲ斜縄文が５段横位に施文されている。80は組紐圧痕文のみられるＩｂ—１の胴部破片。内面に炭化物が付着している。器厚は５㎜。覆土出土。

小括　土器は壙口部からＩｂ—２、覆土からはＩａ—３、Ｉｂ—１が出土しており、昭和55年度の調査者は壙口部から出土したＩｂ—２の時期の墓の可能性を考えているが、本遺跡においてはほかに壙口部に土器を副葬する事例がないことから時期決定は困難かと考える。本遺構に伴う石器には石鏃、スクレイパー、すり石があり、石器組成から縄文時代早期のＩｂ期であることには違いない。

P—24

M25 a 区にある。覆土は1層で、少量のパミスを含む黒色土。平面形は長径0.45m、短径0.35mの長円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

遺物　81は黒曜石製の石槍？片。重量は（3.6）gである。底面出土。

小括　本遺構に伴うのは石槍？片のみであり、時期を決定づけるのは困難である。用途も不明。

P—25

M25 d 区にある。覆土は2層に分けられる。Ⅰ層はパミスを含む黒色土。Ⅱ層は黄褐色ローム粒を含む茶褐色土。平面形は長径0.84m、短径0.80mの円形。土壙断面はボウル状で、底面は小さく若干凸凹している。遺物は出土していない。

小括　時期・用途ともに不明である。

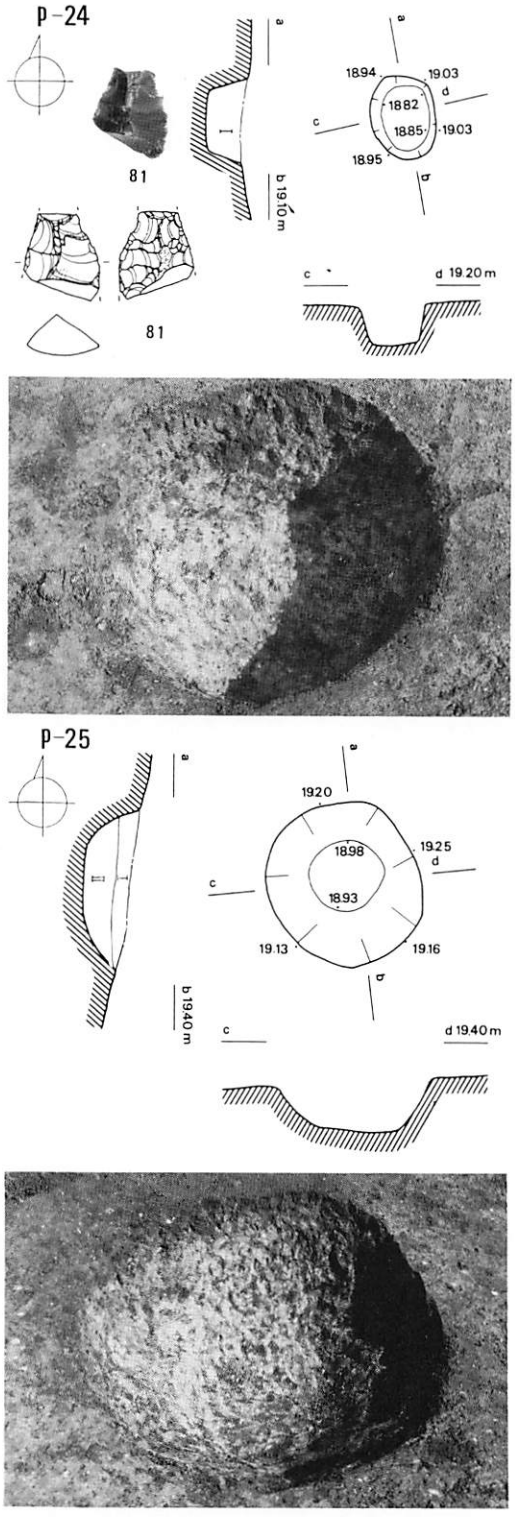


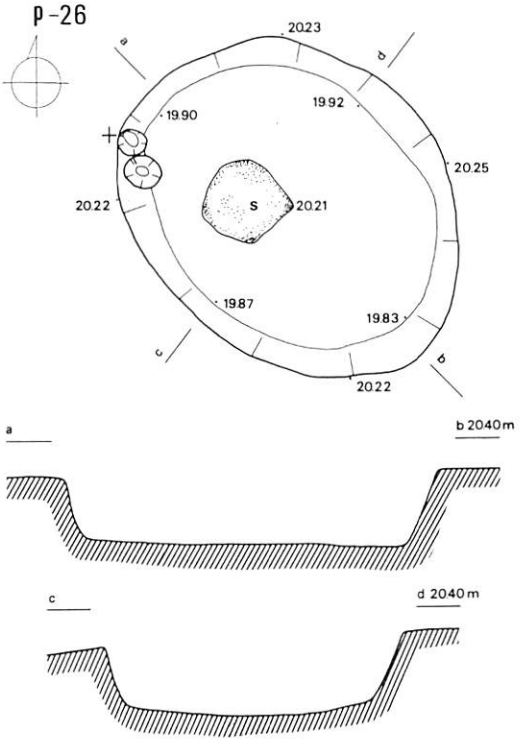
図42　P—24・25と出土遺物

P—26

K25a・b区にある。平面形は長径2.00m、短径1.60mの長円形。底面は平坦である。

遺物　覆土中から径0.40mの礫が1個出土しているのみである。

小括　時期・用途ともに不明である。

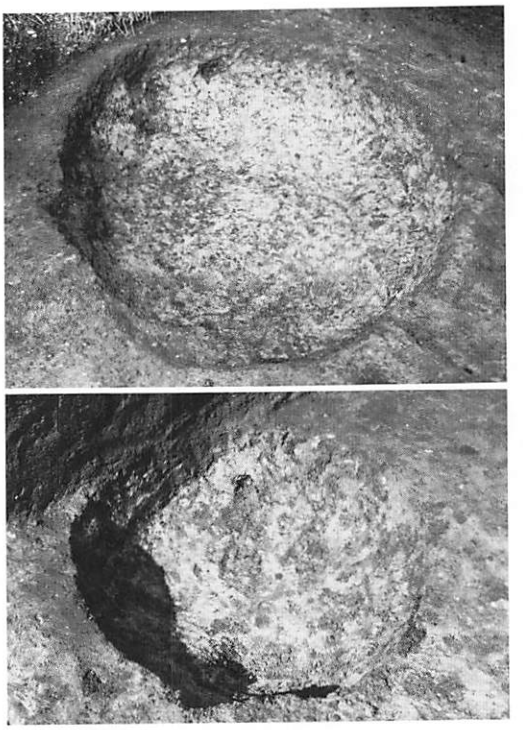


P—27

L24d区にある。覆土は2層に分けられる。Ⅰ層は微量のローム粒を含む黒褐色土。Ⅱ層はブロック状のローム粒を含む黒褐色土。平面形は長径0.65m、短径0.55mのややいびつな長円形。壁はゆるやかに立ち上がる。床面は平坦である。

遺物　覆土上層部から礫1個出土。

小括　時期・用途ともに不明である。



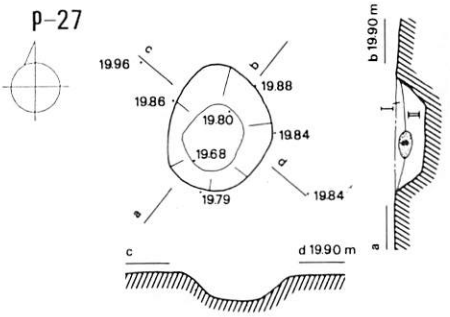


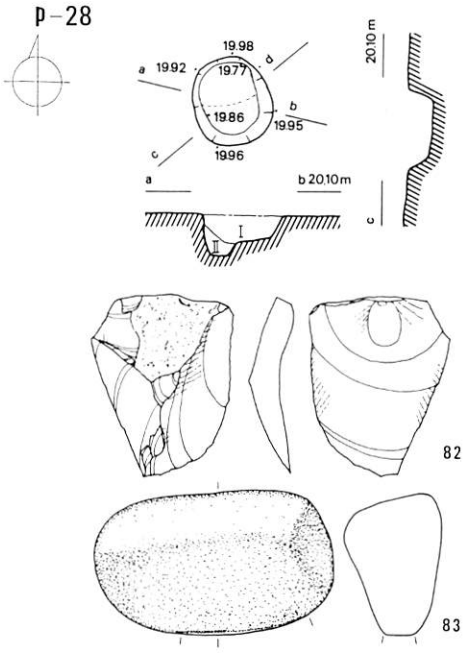
図43　P—26・27と出土遺物

P—28

L 24 d 区にある。覆土は２層に分けられる。Ⅰ層はパミスを含む褐色土。Ⅱ層は黄褐色土。本遺構は２つの土壙が切り合い、破線がその切り合い部分にあたる。北側の土壙（P—28 A）が南側の土壙（P—28 B）を切っている。Aの平面形は長径0.40m、短径0.24mの長円形。Bの平面形は長径0.40m、短径0.22mの長円形。

遺物　82は黒曜石製の加工痕のあるフレイク。83は安山岩のすり石。重量は82：13.2g、83：650gである。P—28Aの覆土出土。

小括　A・Bとも時期・用途は不明。



P—29

L 24 d 区にある。平面形は長径1.50m、短径1.00mの長円形。南側に一段深い小土壙が確認されたが、本遺構に付随するものかどうか不明。

遺物　84は頁岩の加工痕のあるフレイク。重量は7.7g。覆土出土。

小括　時期・用途ともに不明である。

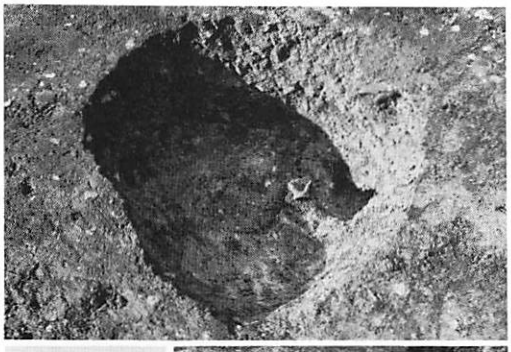


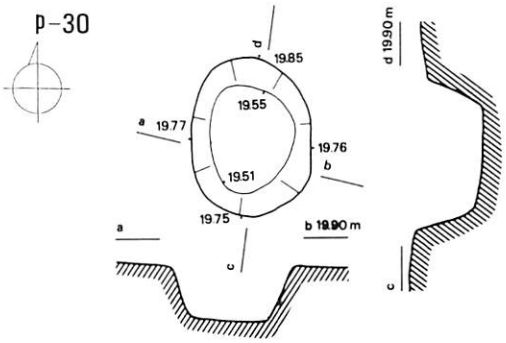
図44　P—28・29と出土遺物

P—30

L 24 d 区にある。平面形は長径0.84 m、短径0.64 m の長円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹している。

遺物　覆土からフレイクが1点出土。

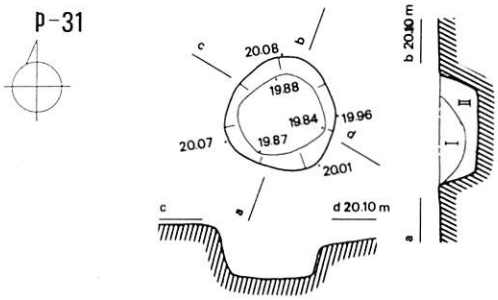
小括　時期・用途ともに不明である。



P—31

L 25 b 区にある。覆土は2層に分けられる。Ⅰ層はパミスを含む黒褐色土。Ⅱ層は黒褐色土。平面形は長径0.60 m、短径0.56 m のいびつな円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で堅い。遺物は出土していない。

小括　時期・用途ともに不明である。



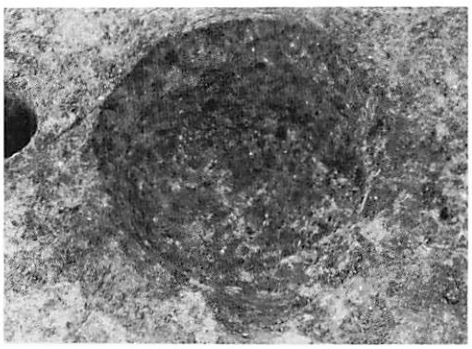


図45　P—30・31

P—32

K25b区にある。3つの土壙が切り合っている。P—32・41の覆土は4層に分けられる。Ⅰ層は少量のパミスを含む黒褐色土。Ⅱ層は少量のローム粒を含む黒褐色土。Ⅲ層はⅠ層を混じた黄褐色土、Ⅳ層は少量のローム粒を含む黒色土。平面形は長径0.94m、短径0.78mの長円形。覆土は堅くしまり、人為的な埋土である。底面は平坦で堅い。

遺物　底面から単節の羽状縄文の施されたⅠb—1、礫1個、砂岩の砥石（85）が出土している。砥石の重量は210gである。

小括　時期はⅠb—1が底面から出土しており、縄文時代早期に属する。用途は不詳であるが墓の可能性もある。なお、P—32・33・41の新旧関係は古33・41→新32である。

P—33

覆土は3層に分けられる。Ⅰ層は多量のパミスを含む茶褐色土。Ⅱ層は少量のパミスを含む黒褐色土。Ⅲ層は黄褐色ローム土。平面形は長径（0.55）m、短径（0.50）mの円形であると思われる。底面はほぼ平坦で堅い。遺物は出土していない。

小括　時期はⅠb—1以前か同時期である。用途は不明。

P—41

覆土の土層はP—32参照。平面形は長径0.58m、短径0.52m円形。底面はほぼ平坦で堅い。遺物は出土していない。

小括　時期はⅠb—1以前か同時期である。用途は不明。

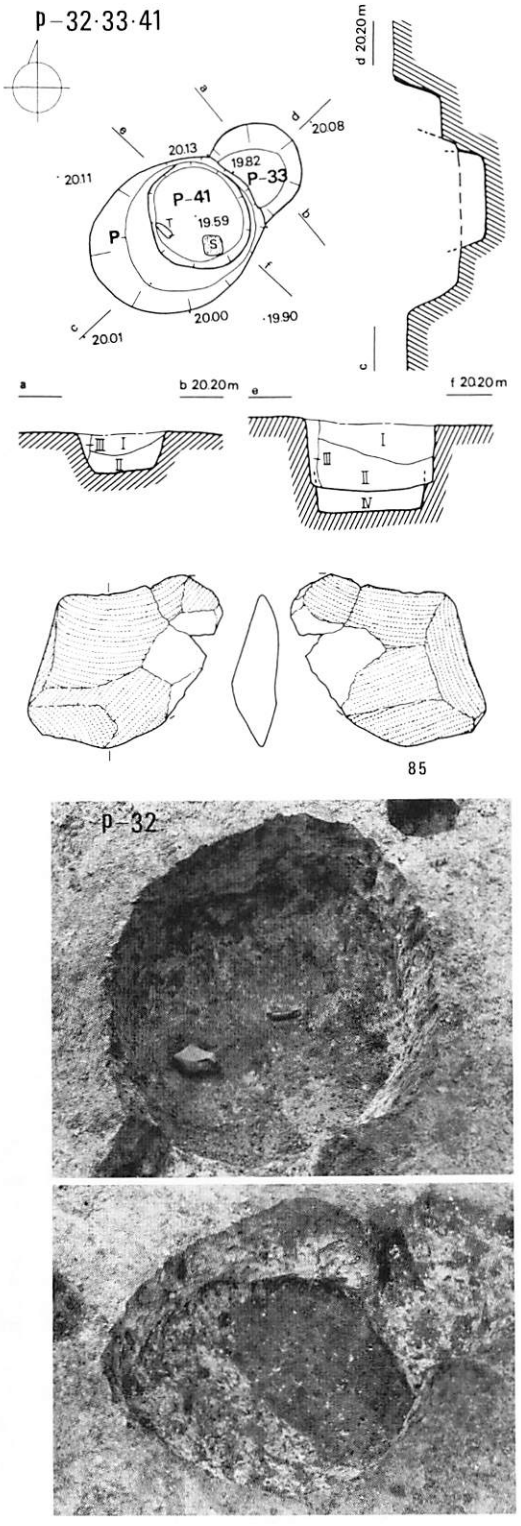


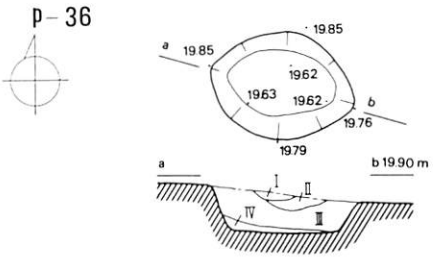
図46　P—32・33・41と出土遺物

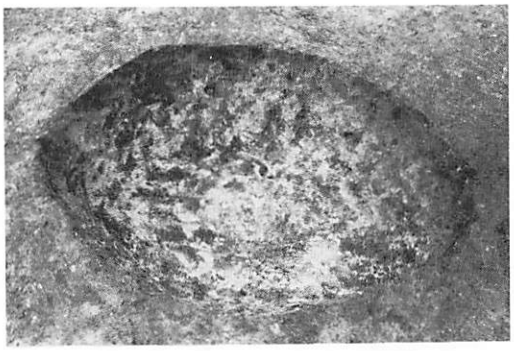
P—36

L 24 d 区にある。覆土は 4 層に分けられる。Ⅰ層は赤褐色の焼土。Ⅱ層も淡褐色の焼土。Ⅲ層はローム粒に焼土が少量混入する黄褐色土。Ⅳ層は黄褐色土。平面形は長径0.78m、短径0.58mの長円形。壁はややゆるやかに立ち上がる。底面はほぼ平坦で堅い。土壙中央の壙口部において焼土を確認したが、炭化物はみあたらなかった。

遺物　覆土中から器外面の磨耗したⅠb—1の胴部破片が3点出土している。

小括　時期はⅠb—1が出土しているので、縄文時代早期の可能性も考えられる。この土壙は焼土が検出されているものの、炉跡ではない。用途は不明である。





P—37

L 24 d 区にある。平面形は長径0.90m、短径0.65mのややいびつな長円形。壁はゆるやかに立ち上がる。底面はやや軟弱で凹凸がある。

遺物　覆土中からⅠaの底部破片2点とⅠb—1の口縁部破片2点が出土している。86は短縄文とLR斜縄文の組み合わされたⅠb—1の口縁部破片。口唇断面は丸頭状、器内面に炭化物が付着している。器厚は5㎜。

小括　時期はⅠb—1の可能性もあるが確言できない。用途は不明である。

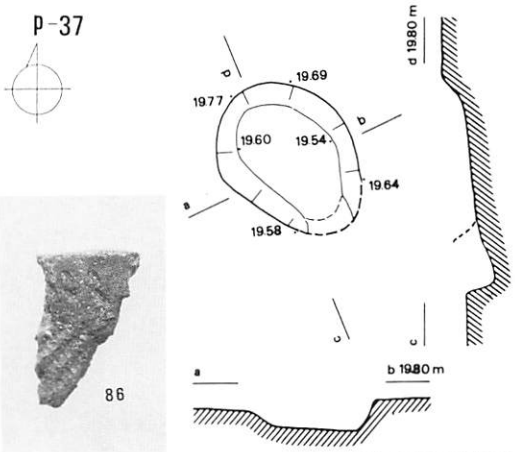
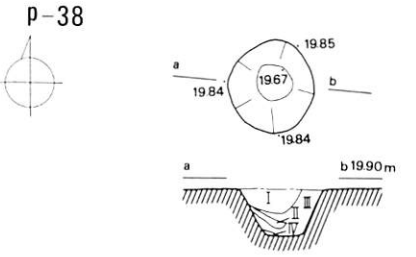


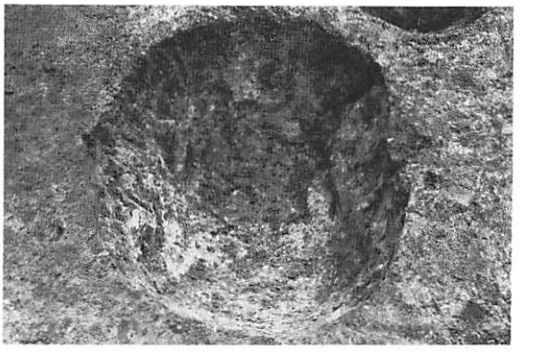
図47　P—36・37と出土遺物

P—38

L24c区にある。覆土は4層に分けられる。Ⅰ層はパミスを含む黒褐色土。Ⅱ層は茶褐色ローム土。Ⅲ層は黒褐色土。Ⅳ層はローム粒を含む黒褐色土。平面形は長径0.50m、短径0.46mの円形。土壙の断面はボウル状。遺物は出土していない。

小括　時期・用途ともに不明である。

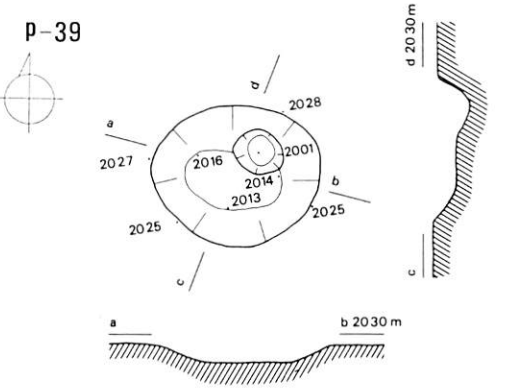




P—39

K25b区にある。平面形は長径0.90m、短径0.76mの長円形。壁はゆるやかに立ち上がる。底面は軟弱で凸凹している。遺物は出土していない。

小括　時期・用途ともに不明である。



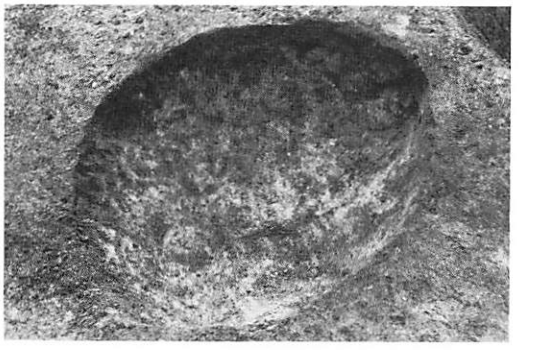


図48　P—38・39

3　遺物

(1)　土器群

Ⅰ群a－2類(注1)（図3・4、図49—59、図64・65—139～157、164～165）

Ⅰ群a－2類は、縄文時代早期の土器群のうち、貝殻条痕文・貝殻腹縁文・沈線文・刺突文・貝殻押し引き文等の文様をもった土器群である。器形は平底深鉢を主体とするが、尖底深鉢もある。当該期の土器群は文様の組み合わせから12の類型に分類が可能である。以下、各類型について記述するが、個々の詳細な特徴については表3を参照されたい。

Ⅰ群a－2類1（図51・52—12～20）貝殻腹縁文を主体としたもの。12・13が波状口縁、そのほかは平縁である。口唇断面はすべて外側に傾斜（d）する。貝殻腹縁文には3種類の施文具が確認された（腹縁文—a・b・c）。12～15は腹縁文aであり、腹縁文aは口唇にも施文されている。口縁に施文されている腹縁文は、器全面を被覆するもの（12）、まばらなもの（13）、横位・斜位のもの（14・15）がある。なお、15の器内面には横位の条痕文が施文されている。16・17は腹縁文aと腹縁文bの組み合わされた例である。腹縁文aは原体を縦位に押し引きしたものである。腹縁文bは口縁上部に2本単位に施文されている。18～20は腹縁文cを口唇・口縁部に施文している例である。18・19は櫛目状の押捺文がまばらに施される例。20は密な原体（一見、絡条体圧痕文風）によって横位、斜位に施された例である。

Ⅰ群a－2類2（図51・52—21～28）貝殻腹縁文＋沈線文を主体としたもの。25・26は波状口縁である。21は沈線文による山形モチーフを描いたもの。口唇・口縁上部に腹縁文aが施文されている。22～24は太めの沈線と沈線間を腹縁文aで充填した例。いずれも口縁部には縦位の腹縁文aが施文されている。22・24の口唇には腹縁文aが施されている。沈線内に刺突のあるもの（2b）(注2)が22～24で認められる。25・26は腹縁文cと2bの組み合わされた例である。2～4本単位の2bとその空間を腹縁文cで充填したもの。腹縁文cは口唇にもみられる。27は2cと腹縁文cが組み合わされており、2cの刺突は沈線文の交点に施される。腹縁文cは口唇にもみられる。28は沈線文＋腹縁文cの組み合わされた例である。腹縁文cは口唇にもみられる。

Ⅰ群a－2類3（図49・50－1，図51・52—29～32）貝殻腹縁文＋沈線文＋刺突文を主体としたもの。1は全体の文様構成が判別できる例である。口径は21.3cm。胴上部にある沈線を区画文として、口縁と沈線との間を腹縁文aによる菱形が構成されている。その交点には刺突列（5b）が垂下する。胴下半部には横位の条痕文が施文され、条痕文は器内面にも顕著に認められる。腹縁文aは口唇にも施されている。29は沈線文とその交点に刺突列が垂下する例である。沈線文間は腹縁文aで充填されている。腹縁文aは口唇・口縁部内面にも施されている。30は沈線文が横位に施され、その間を刺突文（5a）と腹縁文aが充填している。胴下半は押し引き状の腹縁文aが縦位に記されている。31は口縁に近い胴部破片。多数の沈線文が施され、その交点に刺突列が垂下する。口縁部と胴部とを区画する2段の刺突列（5a）が横位にめぐる。刺突列下位は条痕文が施されている。口縁付近には腹縁文bが横位に施文されている。32

は沈線文＋その交点に刺突文が施された例。口縁部・口唇に腹縁文ｃが施文されている。

Ⅰ群ａ－２類４（図53・54―33～38）貝殻腹縁文＋刺突文を主体とするもの。33～35は腹縁文ａ・ｃ＋刺突文（５ａ）の組み合わされた例である。腹縁文ａは器外面全体に施されるのに対して腹縁文ｃは口縁部あるいは口唇に限られている。口縁内面にも腹縁文ｃが斜位に施されている。刺突文は横位に２段施文されている。36は33～35の組み合わせに垂下する刺突列（５ａ）の加わったもの。37は腹縁文ａ＋刺突文の組み合わせ。腹縁文ａは器内面にも施されている。地文に若干の条痕文が認められる。38は地文の条痕があり、口唇・口縁部に腹縁文ａが施された例。垂下する刺突列（５ｂ）がある。条痕文は器内面にも施されている。

Ⅰ群ａ－２類５（図53・54―39）貝殻腹縁文＋貝殻押し引き文を主体とするもの。４条の貝殻押し引き文が２段施文され、その空間に腹縁文ａを充填。腹縁文ａは口唇にもみられる。

Ⅰ群ａ－２類６（図49・50―２・４、図53・54―40～52）貝殻腹縁文＋貝殻条痕文を主体とするもの。２は波状口縁・口径19.5cm。口縁および口唇に腹縁文ａが施文されている。地文には貝殻条痕文が器内外に認められる。40・45は地文に貝殻条痕文を施し、さらに腹縁文ａをまばらではあるが全面に施文している。４、41～44・46～46は口縁上部に腹縁文ａを１～２条施文した例。地文には横位の貝殻条痕文が施されている。４は口径14cm。口唇に腹縁文ａが施される。49～52は腹縁文ｃ（一見、絡条体圧痕文風）が縦位、横位に施文された例。腹縁文ｃは口唇にも縦位されている。

Ⅰ群ａ－２類７（図49・50―３・５、図55・56）沈線文を主体とするもの。３は口径8.6cm、器高９cm。口縁は四つの波状をもつ。底部中央には焼成前の円孔が穿たれている。波頂部より垂下する沈線文を基線として菱形のモチーフが構成されている。５は細い沈線文が器外面全体に施されている例。53は横位の沈線文を基線として沈線による矢羽根状のモチーフを構成している。54も同様の構成。55もややいびつな構成であるが、53と同じモチーフ。53・55には地文に貝殻条痕文がある。56は沈線文と２ｂの沈線文が組み合わされた例。口唇および口縁内面に腹縁文ａが施される。

Ⅰ群ａ－２類８（図55・56―57～64）沈線文＋刺突文を主体とするもの。57・58は沈線文の交点に刺突（５ｂ）のある例。腹縁文ａが口唇・口縁内面のある例。59の沈線文は浅い。60・61は刺突列を基線として太めの沈線文が「く」の字状に施されている。62は地文に貝殻押し引き文のある例。63は２段の爪形刺突文（５ｃ）のある例。64は腹縁文ａが口唇・口縁内面に施されている。

Ⅰ群ａ－２類９（図49・50―７，図55・56―65・66）刺突文を主体とするもの。７は口径20cm。器形は尖底の可能性もあるが断言できない。器内外全面に貝殻条痕文が施される。円形刺突文が口縁上部に囲繞している。65の穿孔は焼成前である。66の腹縁文ｃは絡条体圧痕文のように見える。

Ⅰ群ａ－２類10（図55・56―67）貝殻押し引き文を主体とするもの。地文に貝殻条痕文が施されている。

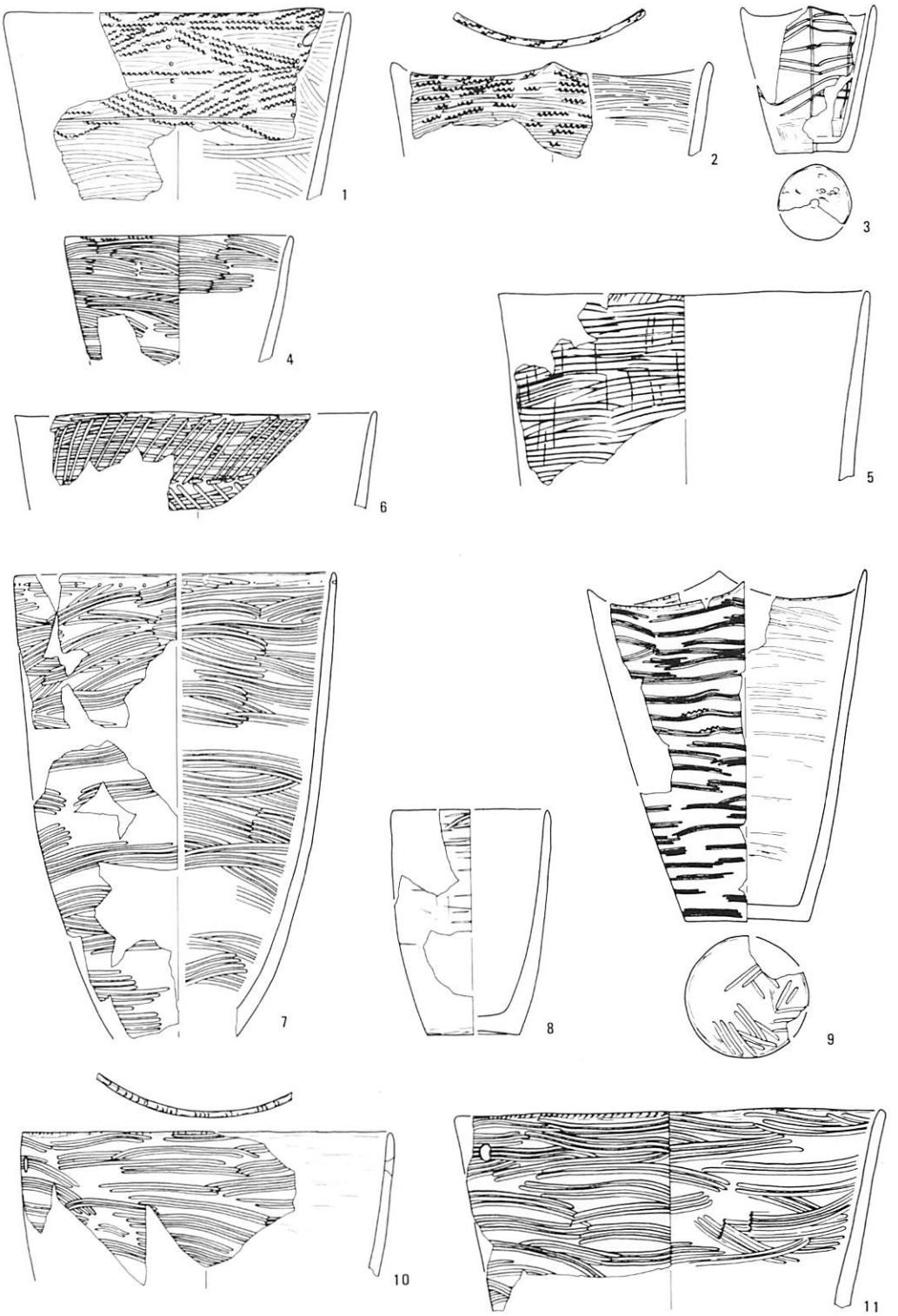


図49　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－2類）

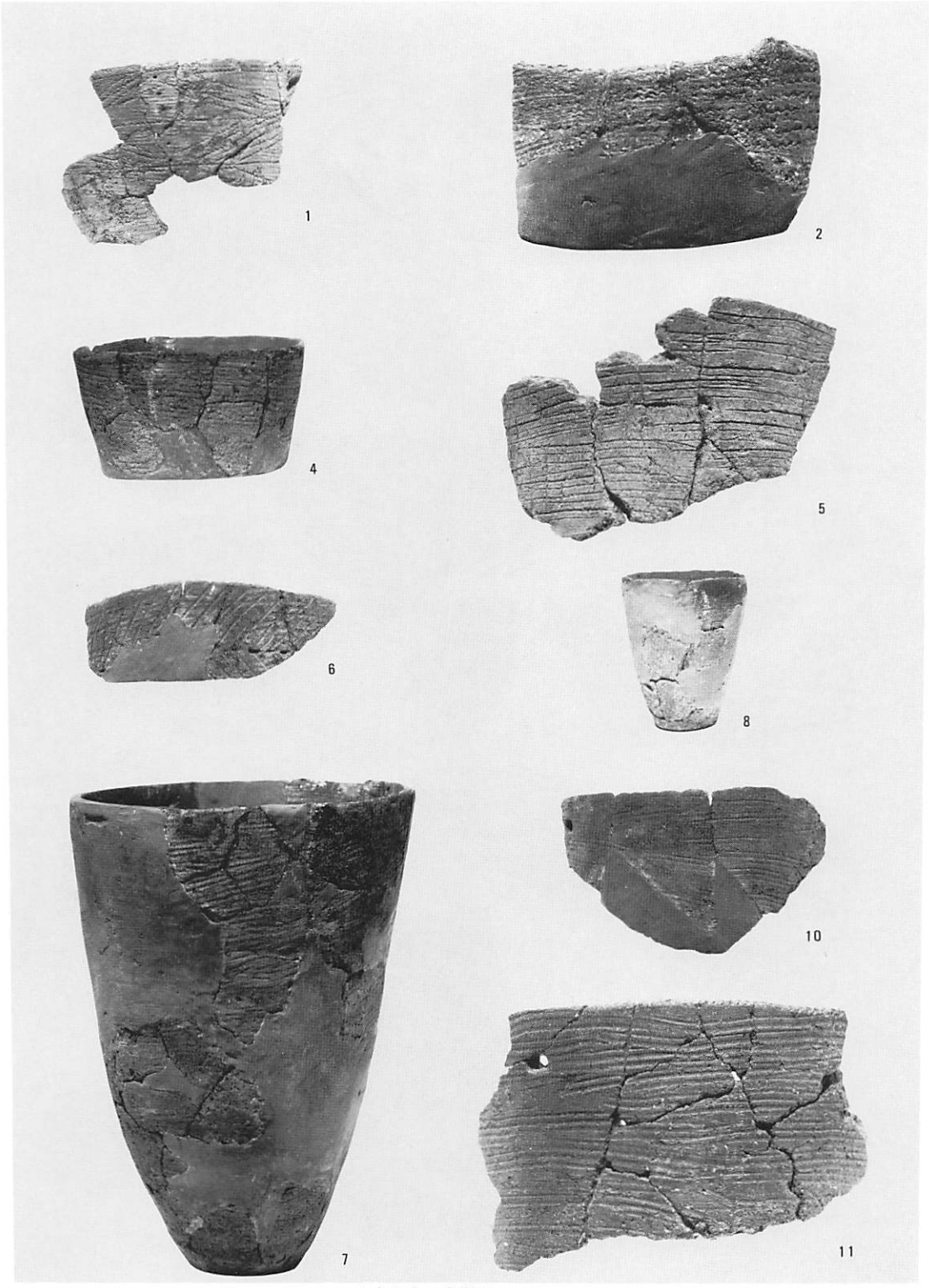


図50　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－2類）

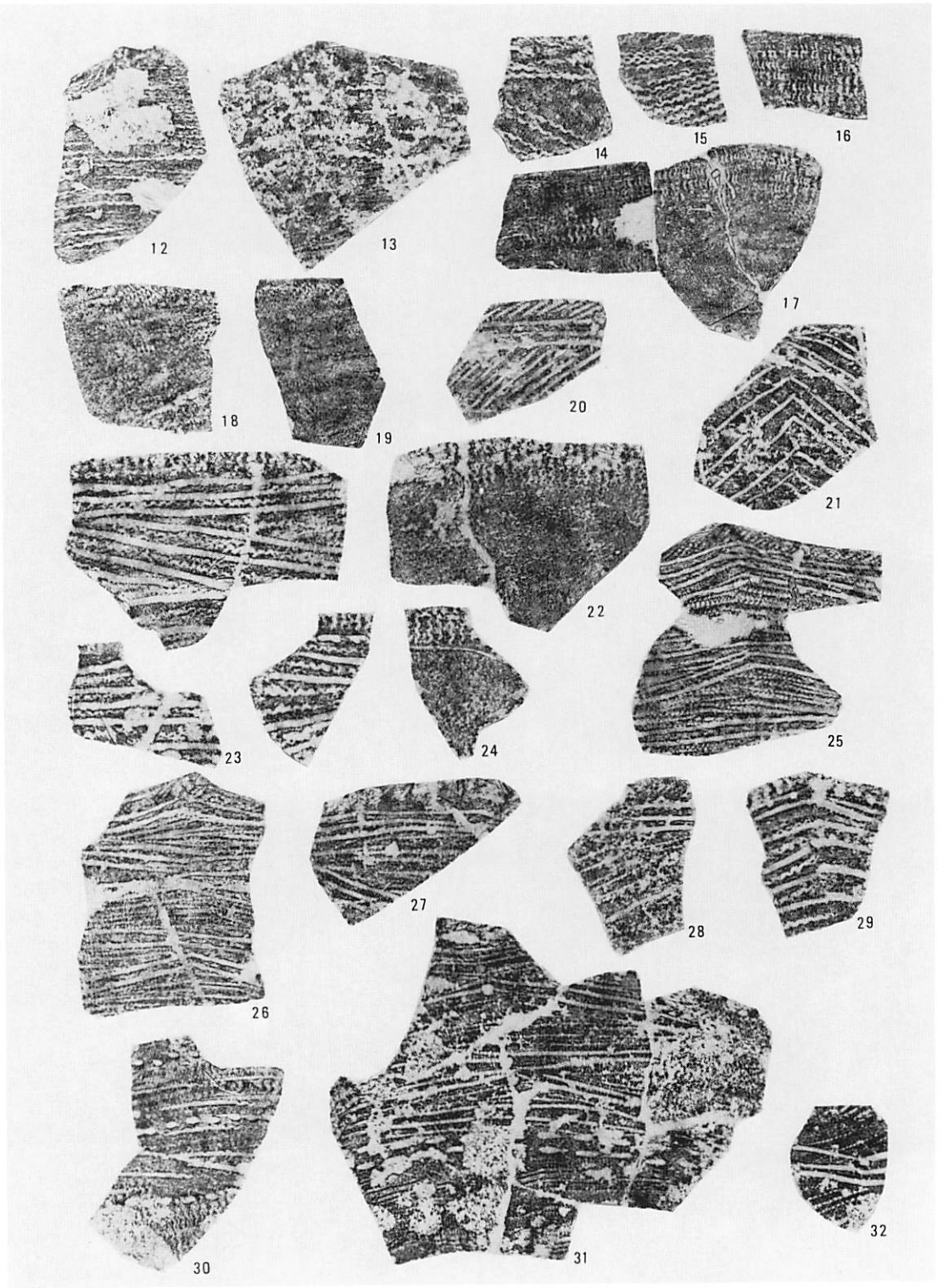


図51　A地点出土の土器群（Ⅰ群a—2類）

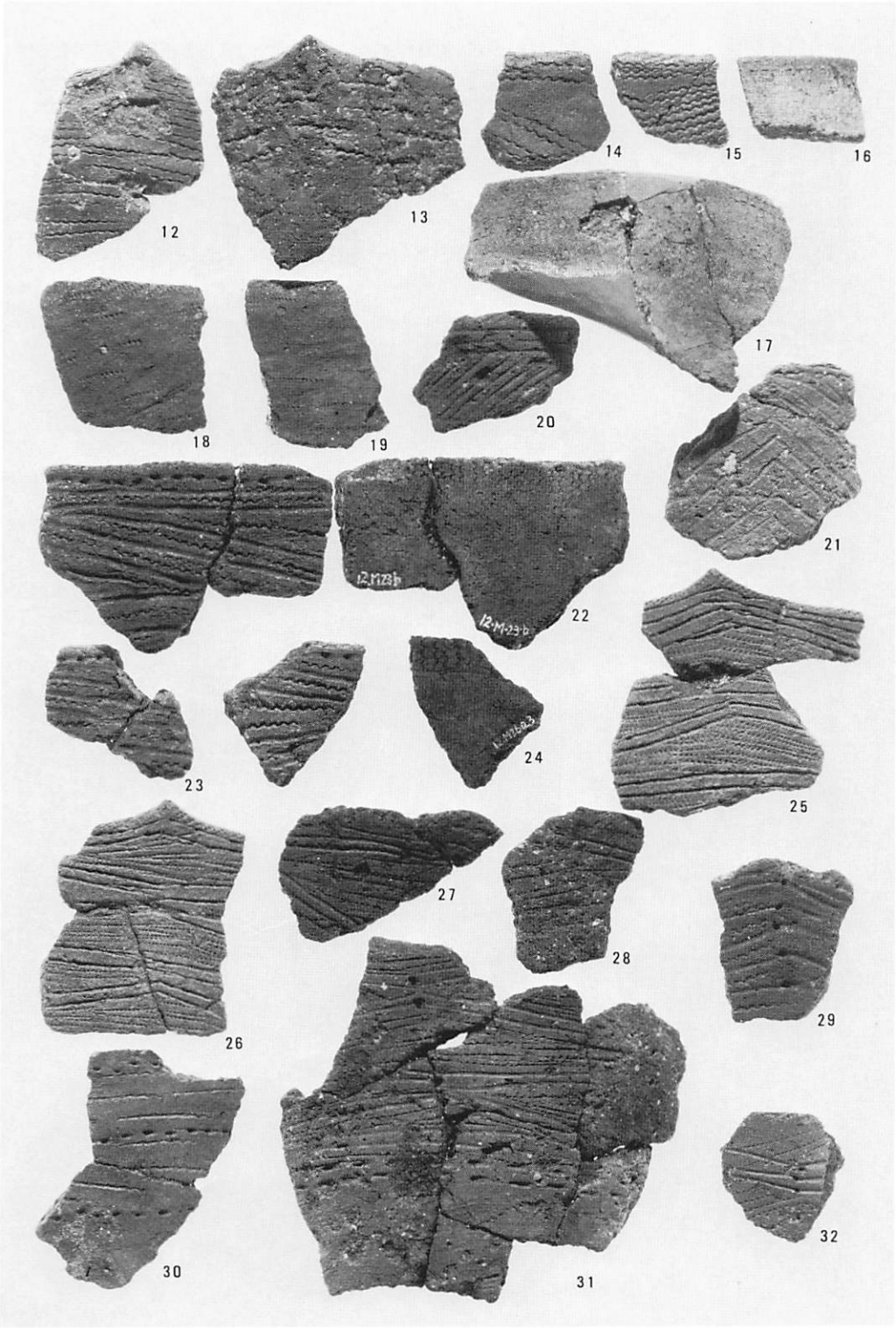


図52　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－2類）

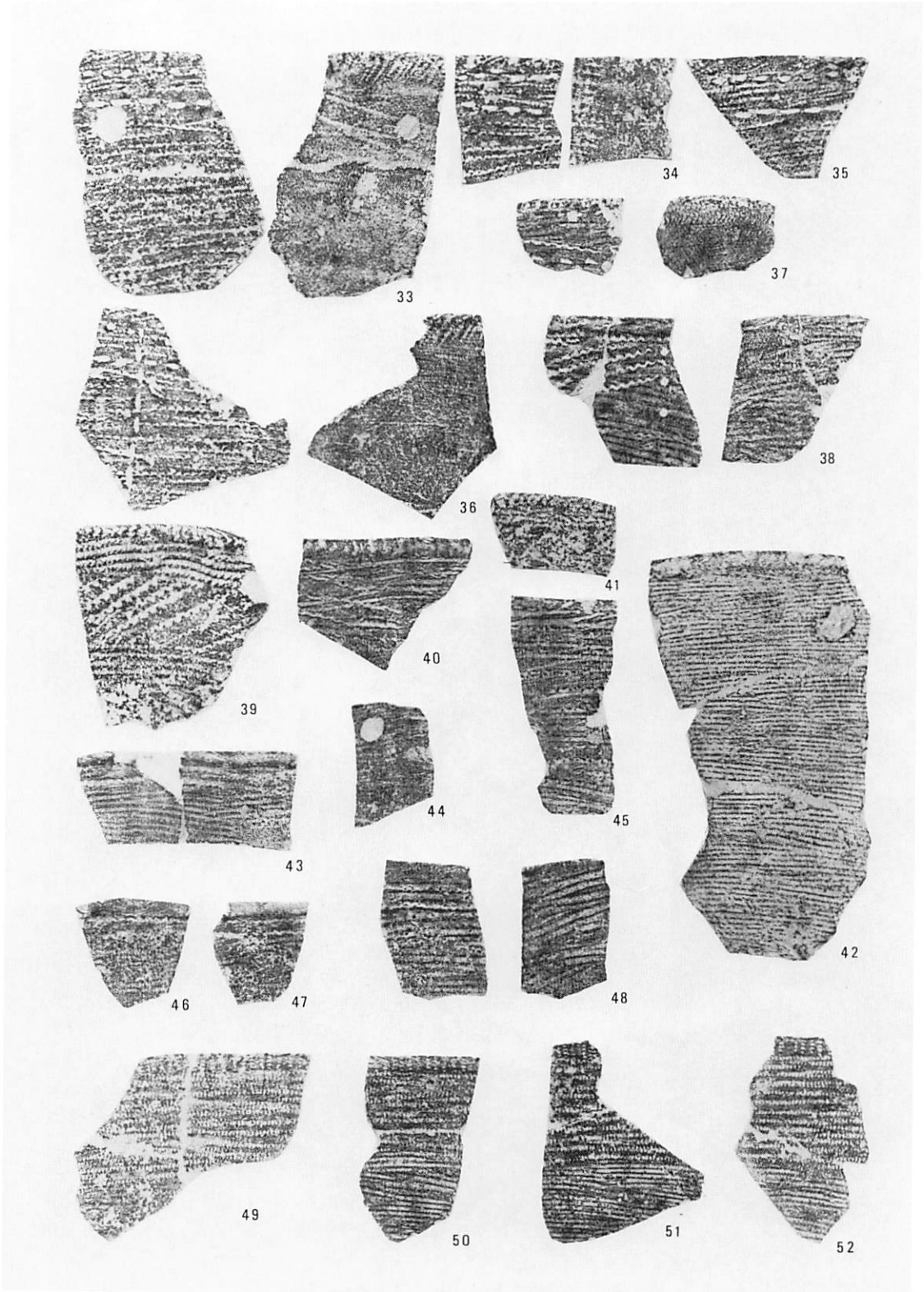


図53　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－2類）

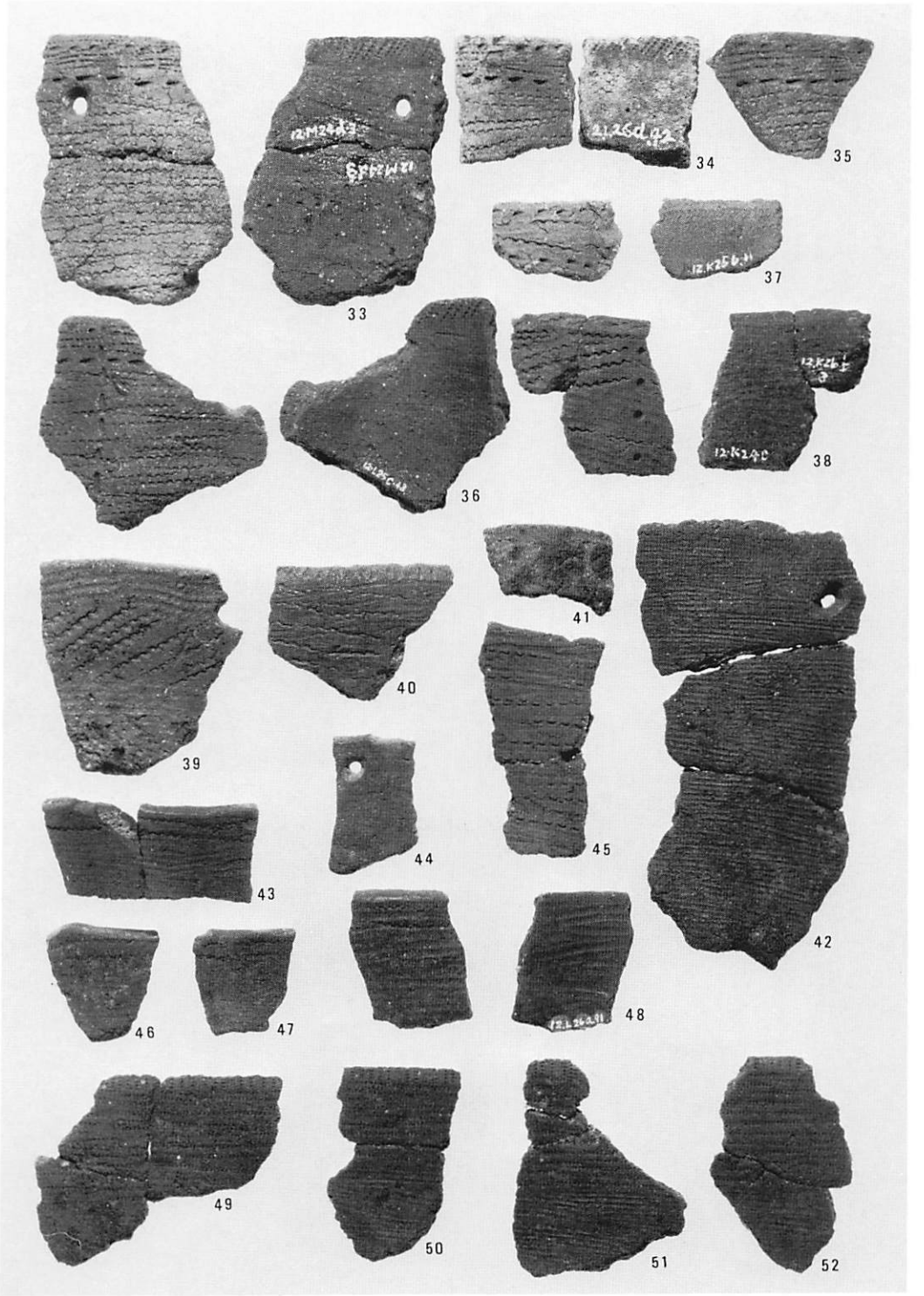


図54　A地点出土の土器群（Ⅰ群a—2類）

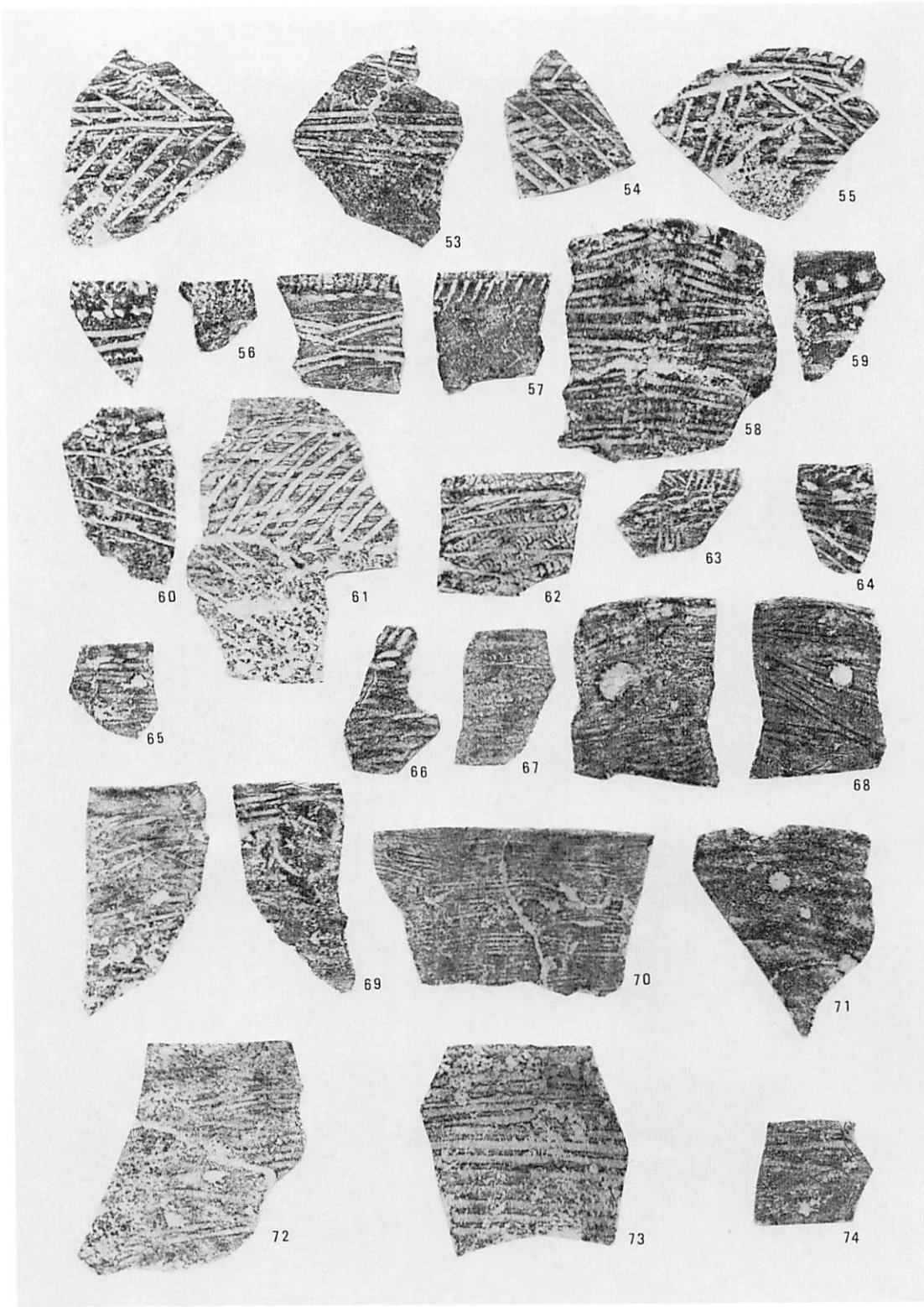


図55　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－2類）

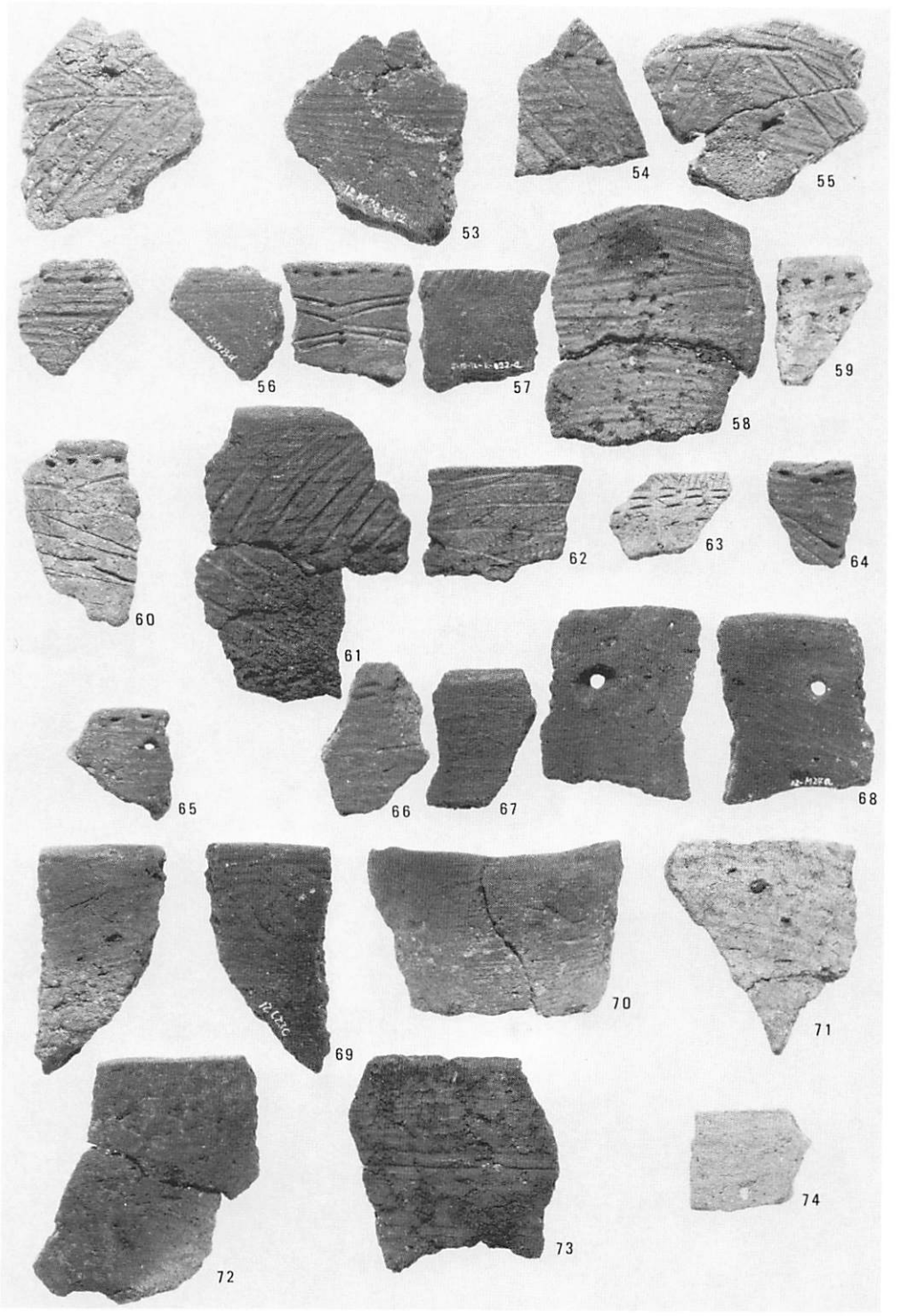


図56　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－2類）

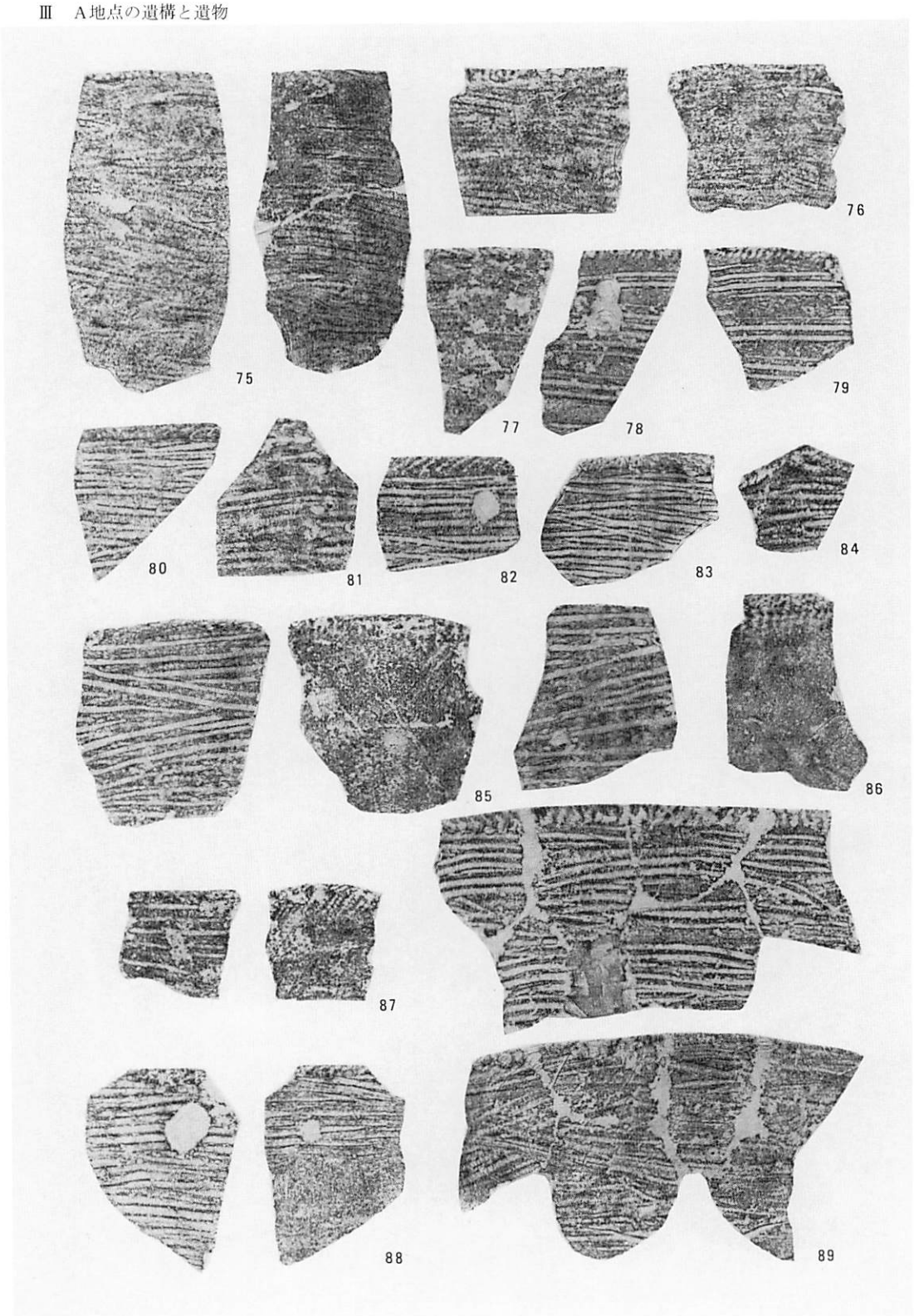


図57　A地点出土の土器群（Ⅰ群a—2類）

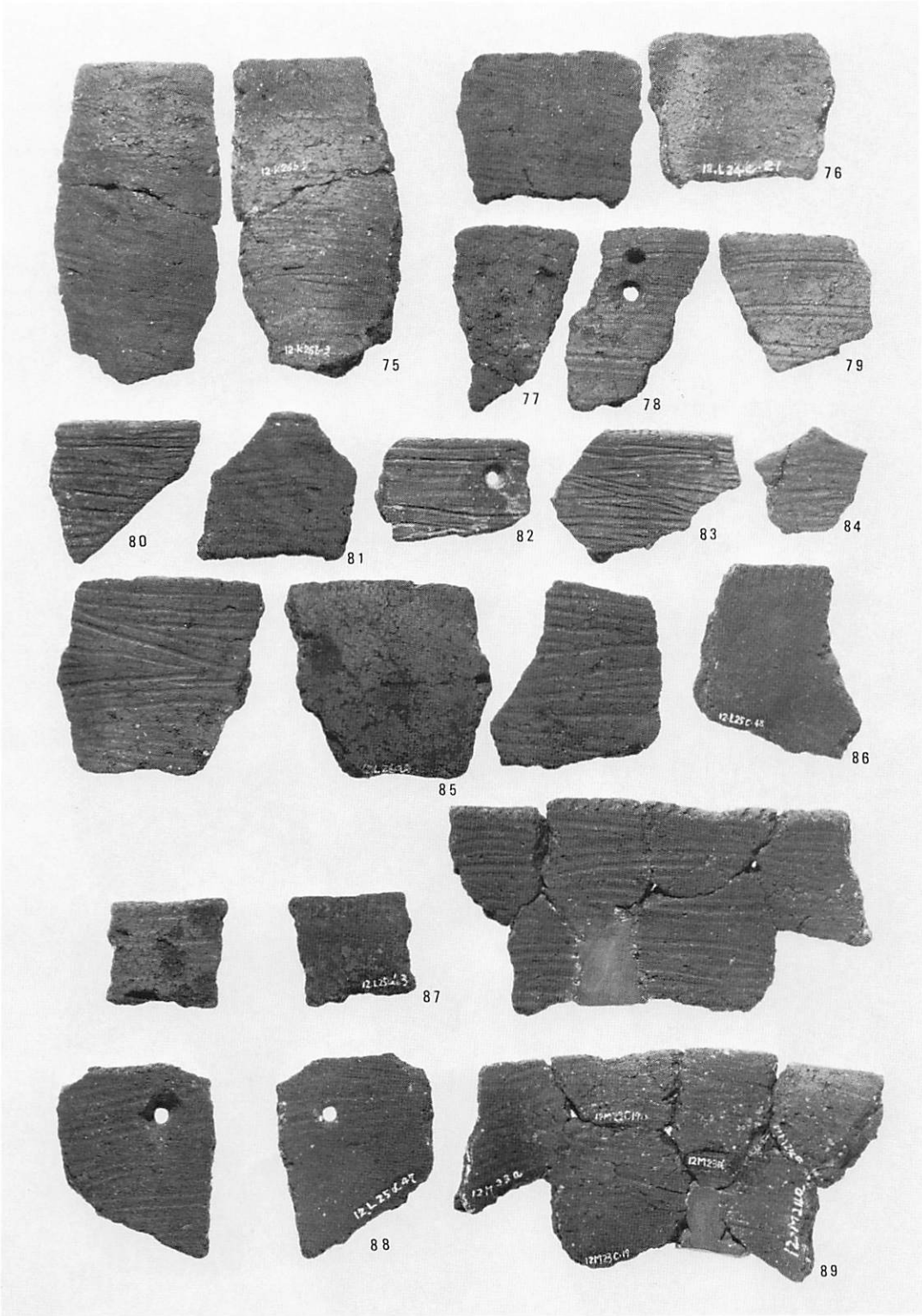
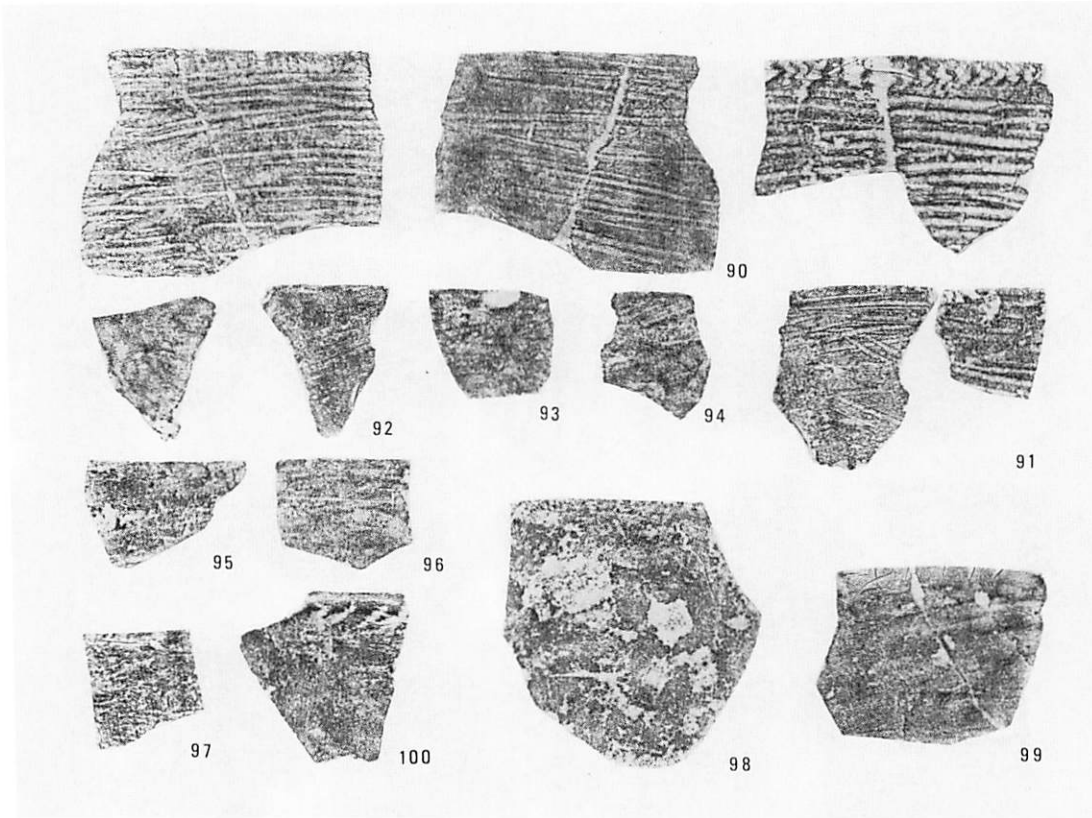


図58　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－2類）



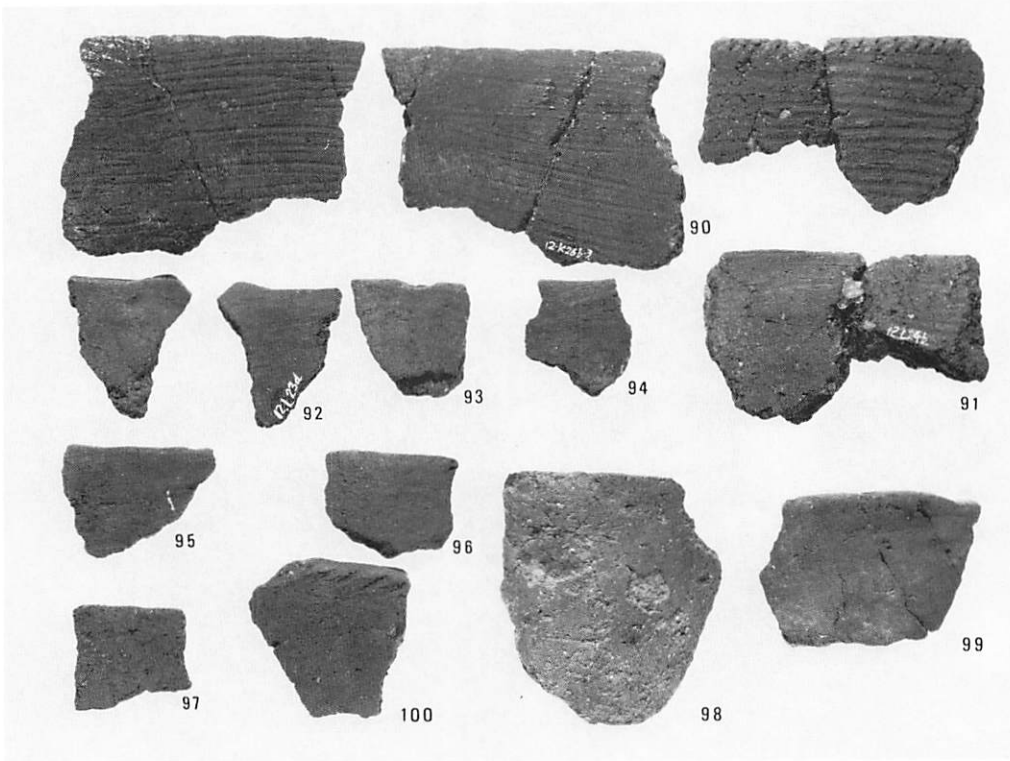


図59　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－2類）

Ⅰ群a－2類11（図49・50－8～11、図55～59－68～91）貝殻条痕文を主体とするもの。75～77の口唇には条痕文が施されている。9～11、78～84・88～91は口唇に腹縁文aを施した例。85～87は腹縁文aを口唇・口縁内面に施した例。

Ⅰ群a－2類12（図59－92～100）無文を主体としたもの。100には口縁上部に腹縁文cを施されている。

Ⅰ群a－3類（図4～7、図60～63、図64・65－158～162）

Ⅰ群a－3類は縄文時代早期の土器群のうち、隆帯（貼付帯）・縦位の条痕文・沈線文などの文様をもった土器群である。器形は平底深鉢を主体とする。この土器群は、さきのⅠ群a－2類ほど文様の変化に富まないが、8の類型に分類が可能である。以下、各類型について記述するが、個々の詳細な特徴については表3を参照されたい。

Ⅰ群a－3類1（図60・61－101、図62・63－109－110）隆帯文＋沈線文＋縦位条痕文を主体とするもの。101は口縁と平行する隆帯文が1本囲繞する。沈線文は隆帯に平行して上位に1条、下位に2条施されている。隆帯上および口縁上部に短沈線（刻目）文が施されている。沈線文の下位は縦位の条痕文が施され、さらにその下位には横位の粗な条痕文がみられる。109は隆帯下位の沈線文間に刻目のある例。110の沈線は隆帯貼付後の一種の整形痕と思われ、明瞭な沈線文ではない。地文は細い縦位の調整痕（擦痕）が認められる。

Ⅰ群a－3類2（図5・6－102・103、図62・63－111～124）隆帯文＋縦位条痕文を主体とするもの。102は口径26.8cm、器高32.5cm。胎土には多量の白色不透明の混和物（軽石？）が混入する。口縁に平行して隆帯が囲繞する。隆帯上には半截竹管と思われる工具による連続刺突文（5d）が施されている。隆帯下位の地文として縦位条痕文が施され、その下位に粗い横位の条痕文があり、以下無文となる。103は口径19.1cm、器高26.9cm。隆帯上には絡条体？圧痕文が施され、縦位条痕文の原体も絡条体である可能性が強い。111～114は山形の波状口縁。いずれも隆帯上には竹管状の刺突文が施されている。120～123の隆帯上は短沈線（刻目）文が施されている。

Ⅰ群a－3類3（図62・63－125・126）隆帯文＋沈線文を主体とするもの。沈線文は植物質のものを工具としている。隆帯上の刻目も扁平な植物質のものによって施文されている。地文は斜位の調整痕（擦痕）が認められる。

Ⅰ群a－3類4（図62・63－127～132）沈線文を主体とするもの。127～131を波状口縁で波頂部から垂下する沈線を基線として斜位の沈線文が描かれる。130は5本単位の細沈線文。

Ⅰ群a－3類5（図62・63－133）刺突文＋絡条体圧痕文を主体とするもの。横位の刺突列（5a）が4段あり，さらに絡条体圧痕文が粗雑に施されている。

Ⅰ群a－3類6（図62・63－134）円形刺突文＋縦位条痕文を主体とするもの。焼成前の外→内の刺突が口縁上部に穿たれている。

Ⅰ群a－3類7（図7、図60、61－104・105、図62・63－135・136）縦位の条痕文を主体とするもの。104は口径10.4cm、器高16.5cm。縦・横位の細かい沈線状の条痕文が施されている。

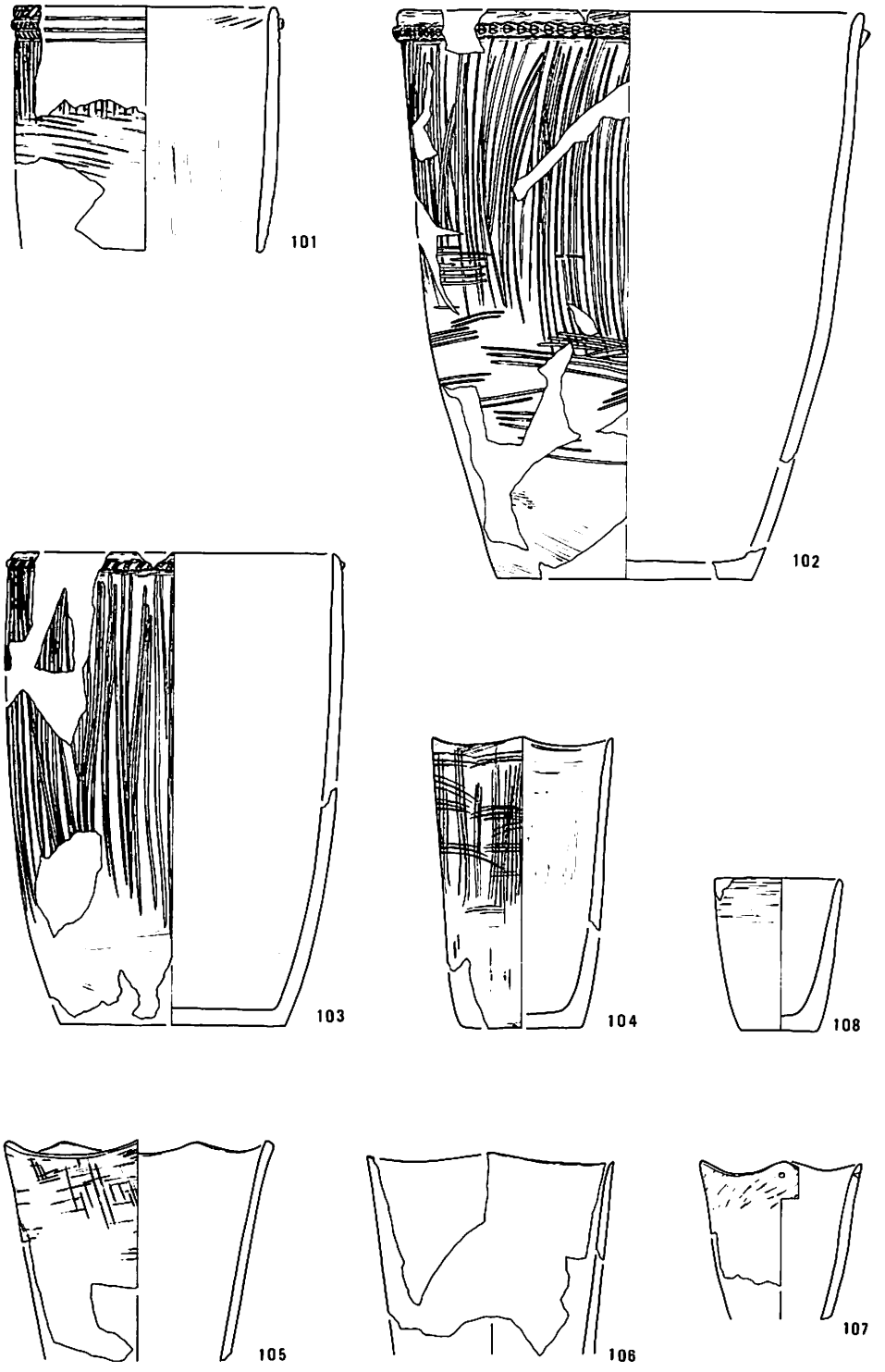
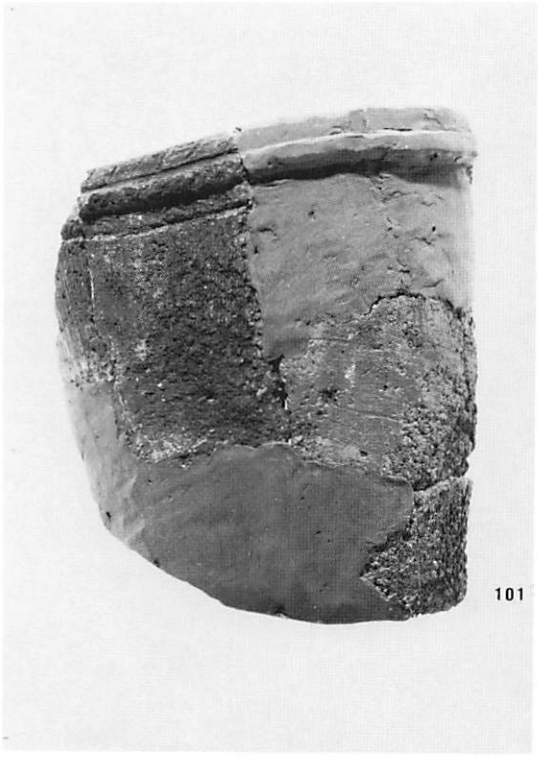


図60　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－3類）



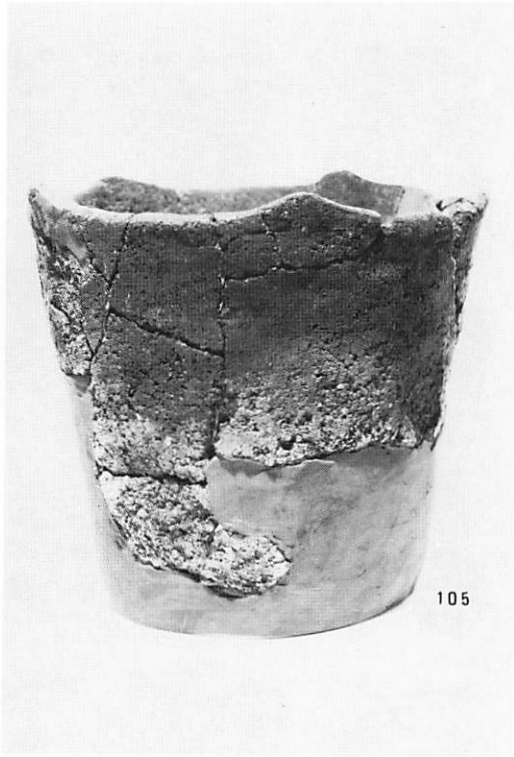


図61　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－3類）

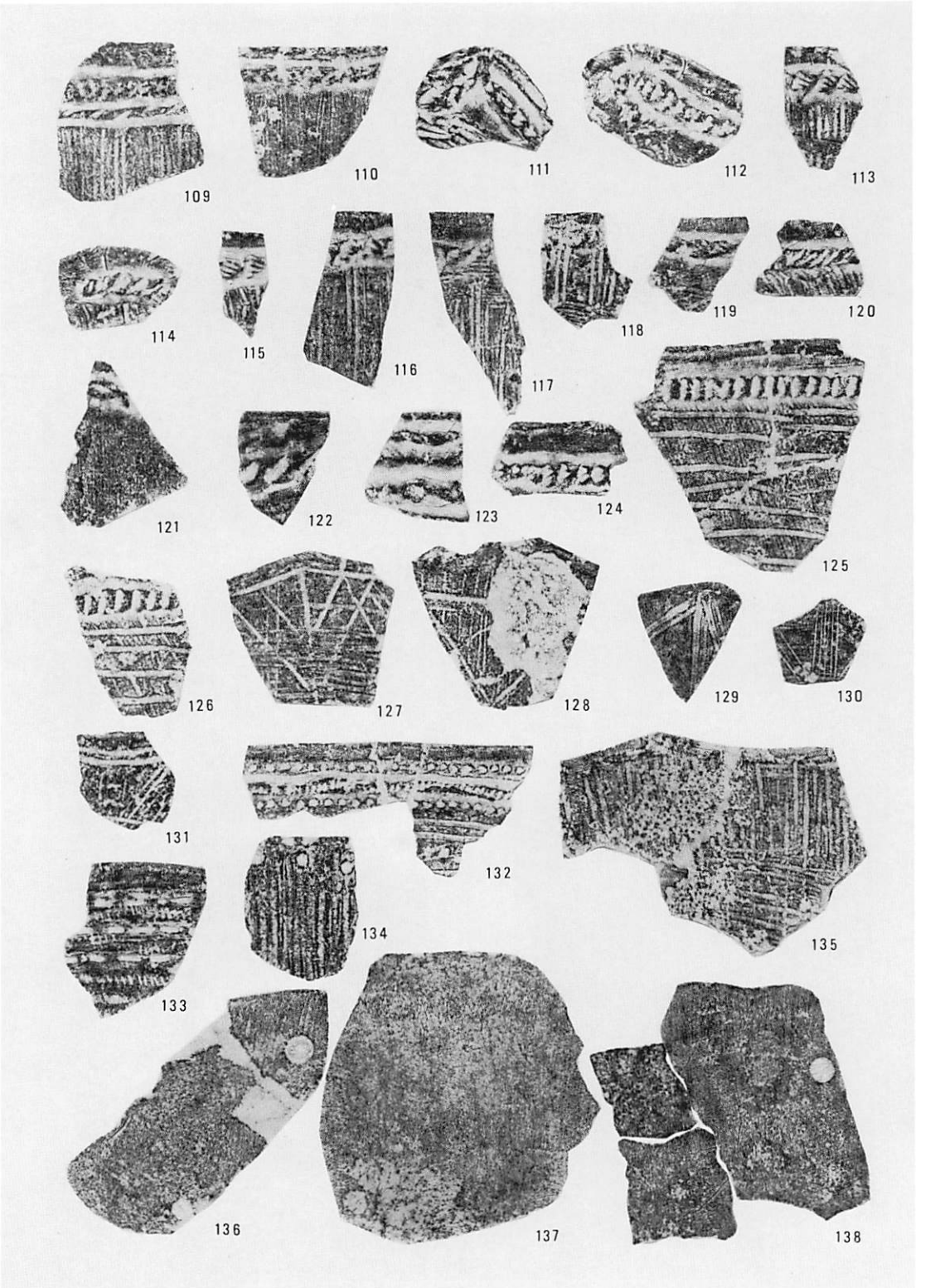


図62　A地点出土の土器群（Ⅰ群a－3類）

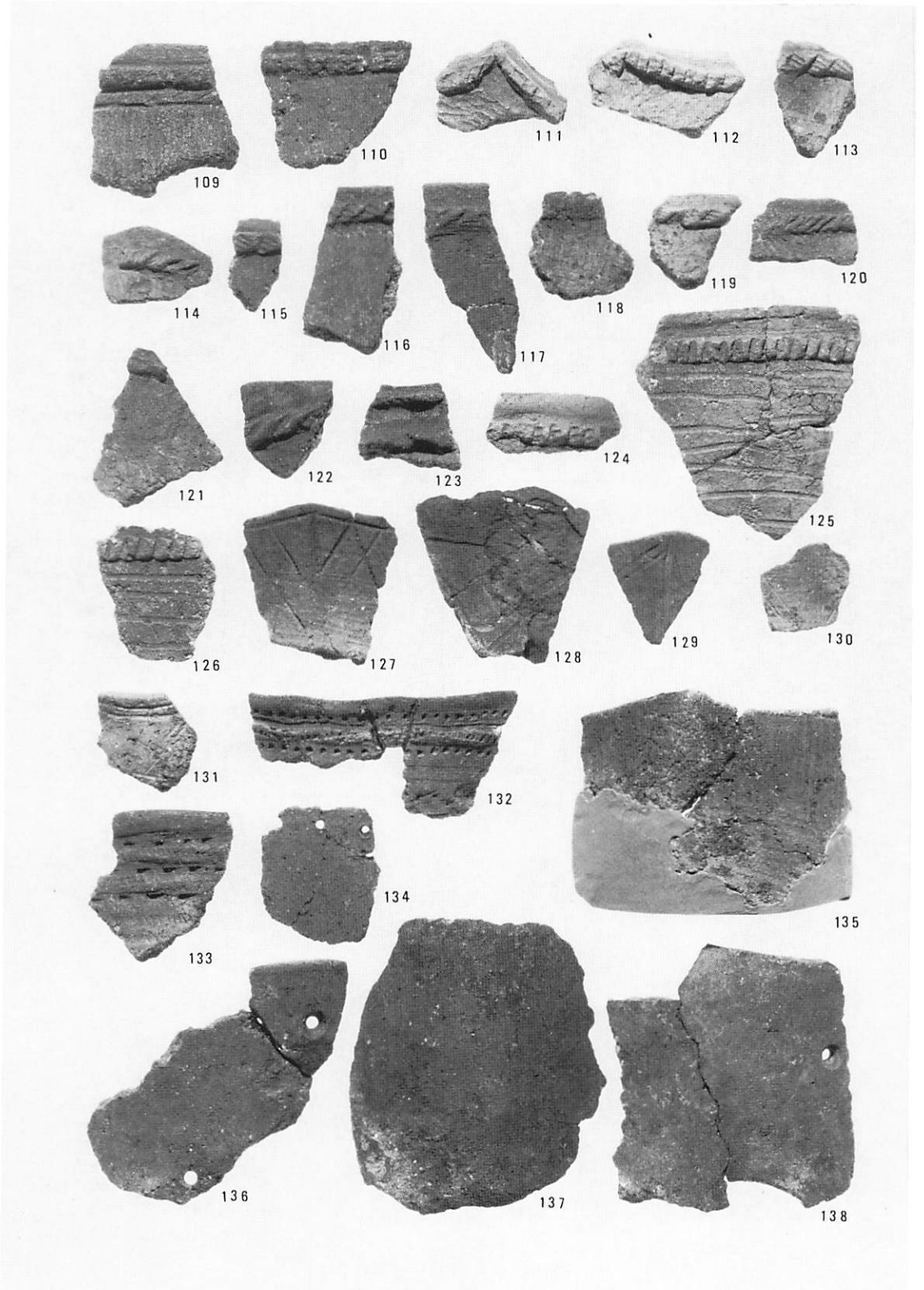


図63　A地点出土の土器群（Ⅰ群a—3類）

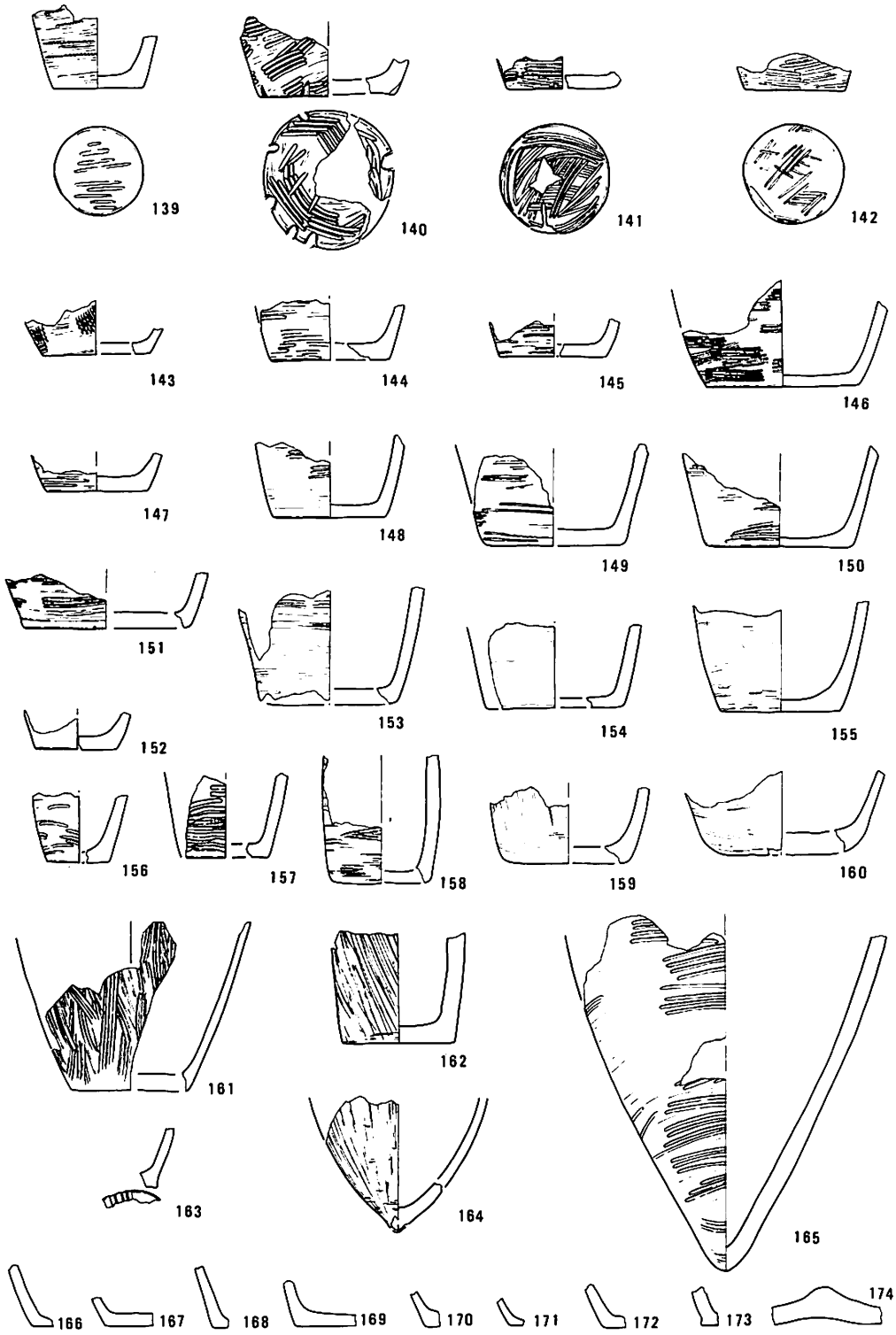


図64　A地点出土の土器群

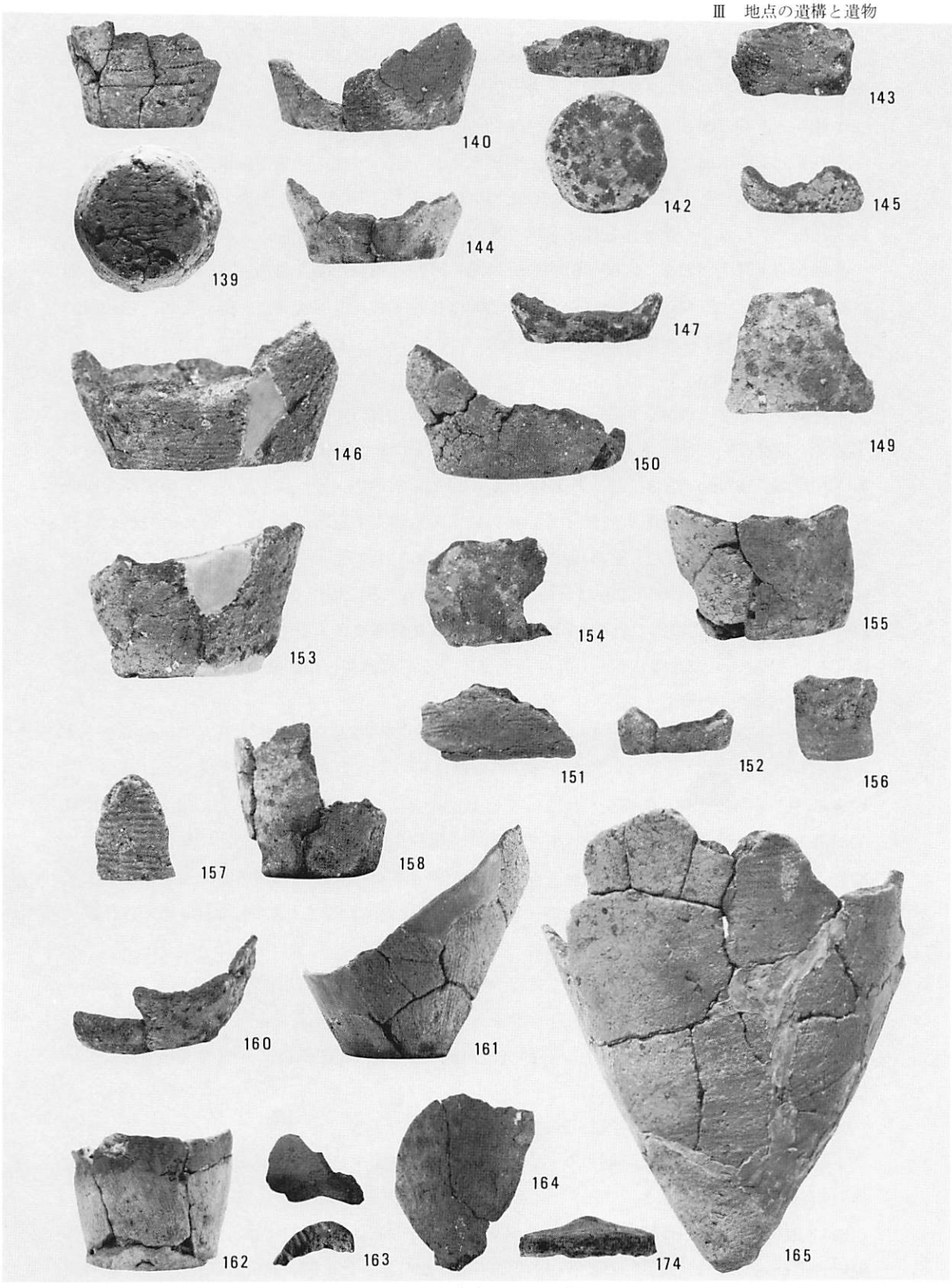


図65　A地点出土の土器群

Ⅰ群a－3類8（図4、図60・61—106～108、図62・63—137・138）無文のもの。109の波頂部に焼成前の外→内の円形刺突文が穿たれている。

Ⅰ群b－1類（図8・9、図66～69，図72～75）

Ⅰ群b－1類は縄文時代早期のうち、「縄原体」を用いて縄文・組紐圧痕文・絡条体圧痕文などの文様をもった土器群である。この土器群は文様モチーフの変化が著しいが、文様要素の組み合わせから5つの類型に分類が可能である。

Ⅰ群b－1類1（図9、図66・67—175～178、図72—191～200、図75—238～242）縄文＋羽状縄文を主体とするもの。175～177、197～200はＲＬ＋ＬＲの羽状縄文を施した例。194・195はＲＬ斜縄文、191～193はＬＲ斜縄文を施した例。178はＬの斜縄文を施した例。175は口径26.7cm、器高30.4cm。

Ⅰ群b－1類2（図8、図66・67—179、図68・69—182・183、図72～74—201～223）組紐圧痕文＋短縄文を主体とするもの。179は口径14.2cmのボウル状の器形で、短縄文・縄線文の施された例。182は口径33.1cm、器高42.3cm。この類では唯一完形品であり、全体的な文様構成が理解できる。口縁部から底部までＬＲ斜縄文・短縄文・組紐圧痕文が交互に7段構成されている。183はＬＲ斜縄文・組紐圧痕文・短縄文の施された例。201～208、210～217は組紐圧痕文・短縄文が施された例。209は組紐圧痕文の施された例。218・220は短縄文が施された例。219は短縄文・縄線文の施された例。221はＲＬ・ＬＲ斜縄文による羽状縄文・組紐圧痕文・短縄文の施された例。222はＲＬ・ＬＲを斜縄文による羽状縄文・短縄文の施された例。223はＬＲ斜縄文・短縄文の施した例。

Ⅰ群b－1類3（図66・67—180・181、図74・75—224～234）絡条体圧痕文＋短縄文を主体とするもの。180は口唇から口縁部にかけての貼付帯のあるもの。絡条体圧痕文が口縁部に7段施され、下位にはＬＲ斜縄文が施されている。縄文は口唇部にもみられる。18は絡条体圧痕文が縦・横位に施され，胴下半部はＬＲ斜縄文と横位の絡条体圧痕文が交互に施されている。224・233はＬＲ斜縄文・短縄文・絡条体圧痕文の施された例。225・228・230～232は短縄文・絡条体圧痕文の施された例。226・227・229は絡条体圧痕文の施された例。234は絡条体圧痕文・刺突文（５ａ）の施された例である。

そのほか、縄線文の施された例（235）、半截竹管状工具による沈線文の施された例（236・237がある。底部(図75—238～242)はいずれも底角は張り出す(Ｘ３ａ)。238はＲＬ斜縄文、239は絡条体圧痕文、240・242はＬＲ斜縄文・短縄文、241は組紐圧痕文・短縄文が施されている。

Ⅰ群b－2類（図76・77—243～261）

Ⅰ群b－2類は縄文時代早期のうち、縄文・組紐圧痕文・絡条体圧痕文・貼付帯を主要な文様要素とした土器群である。

244・246・247・249は組紐圧痕文・短縄文・貼付帯の施された例。246・249の貼付帯上には縄の押圧がみられる。243は短縄文・縄線文・貼付帯の施された例。248は組紐圧痕文・貼付帯

の施された例。250～255はＬＲ・ＲＬ斜縄文による羽状縄文・貼付帯が施された例。250・253の貼付帯上には縄が押圧されている。251～252の貼付帯上には刻目が施されている。254の貼付帯上には指頭状の押圧文が施されている。256～258は絡条体圧痕文・貼付帯の施された例で、貼付帯上には縄の押圧文が施されている。259～261はこの時期の仲間と思われる。259～261には結束第１種の羽状縄文、260にはＲＬ斜縄文が施されている。

Ⅰ群ｂ－３類（図69・70―185、図77・78―262～275）

Ⅰ群ｂ－３類は縄文時代早期の土器群のうち、隆起線文・絡条体圧痕文・撚糸文等の文様をもった土器群である。

262～266・268～271は隆起線・縦位の撚糸文の施された例。隆起線は平行線を主体として、弧状または縦位の短かい隆起線が組み合わされる例もある。267は無文地に縦・横位に隆起線文を施した例。185・272・273はＲＬ斜縄文・隆起線文の施された例。273には結束第２種がみられる。274は絡条体圧痕文・撚糸文・隆起線文の施された例、275は絡条体圧痕文・隆起線文の施された例である。

Ⅰ群ｂ－４類（図68・69―184、図70・71―186～189，図78・79―276～292）

Ⅰ群ｂ－４類は縄文時代早期のうち、縄文・撚糸文などの文様をもった土器群である。とくに撚糸文が特徴的である。

276～279は斜位の撚糸文を施した例。280・281は２本組みの撚糸文が羽状に施されている。186・187・285は口縁に平行して数本の撚紐を押圧し、下位に羽状の撚糸文を施したもので、187は２本組みである。282・188は口縁に数段短縄文が施され，下位に羽状撚糸文のある例。189は188と同一個体である。283・284・291・292は撚糸文の施された例。291・292は底部近くの破片である。286・287・289・290は結束第２種のある例。286・287には撚糸文、289にはＲＬ斜縄文、290には短縄文とＲＬ斜縄文が施されている。288は２本組みの撚糸文の施された例。

Ⅱ群ａ－２類（図70・71―190）

縄文時代前期の土器である。胎土に多量の植物繊維を含有している。口径は約31.7cm。Ｌの斜縄文が粗雑に施されている。

Ⅳ群ｂ類（図79―293・294）

縄文時代後期の土器である。口縁上部に若干の無文帯をもち、下位はＬＲ斜縄文が施される。

注１　Ⅶまとめで述べるが、Ⅰ群ａ類は当センターの従来の土器分類であるが、これは当遺跡で細分したものである。

注２　文様要素の分類記号であり、Ⅶまとめを参照されたい。

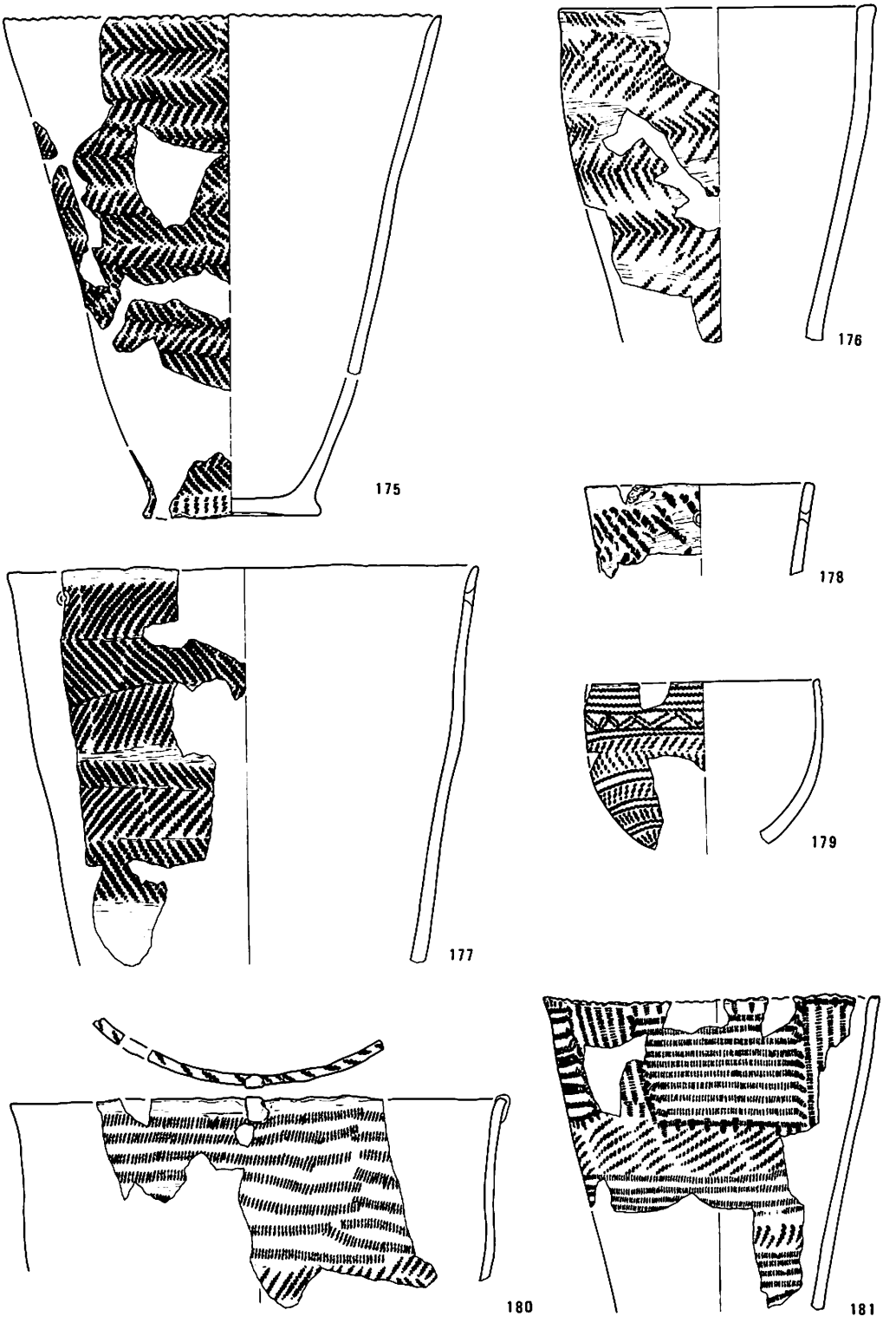


図66　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－1類）

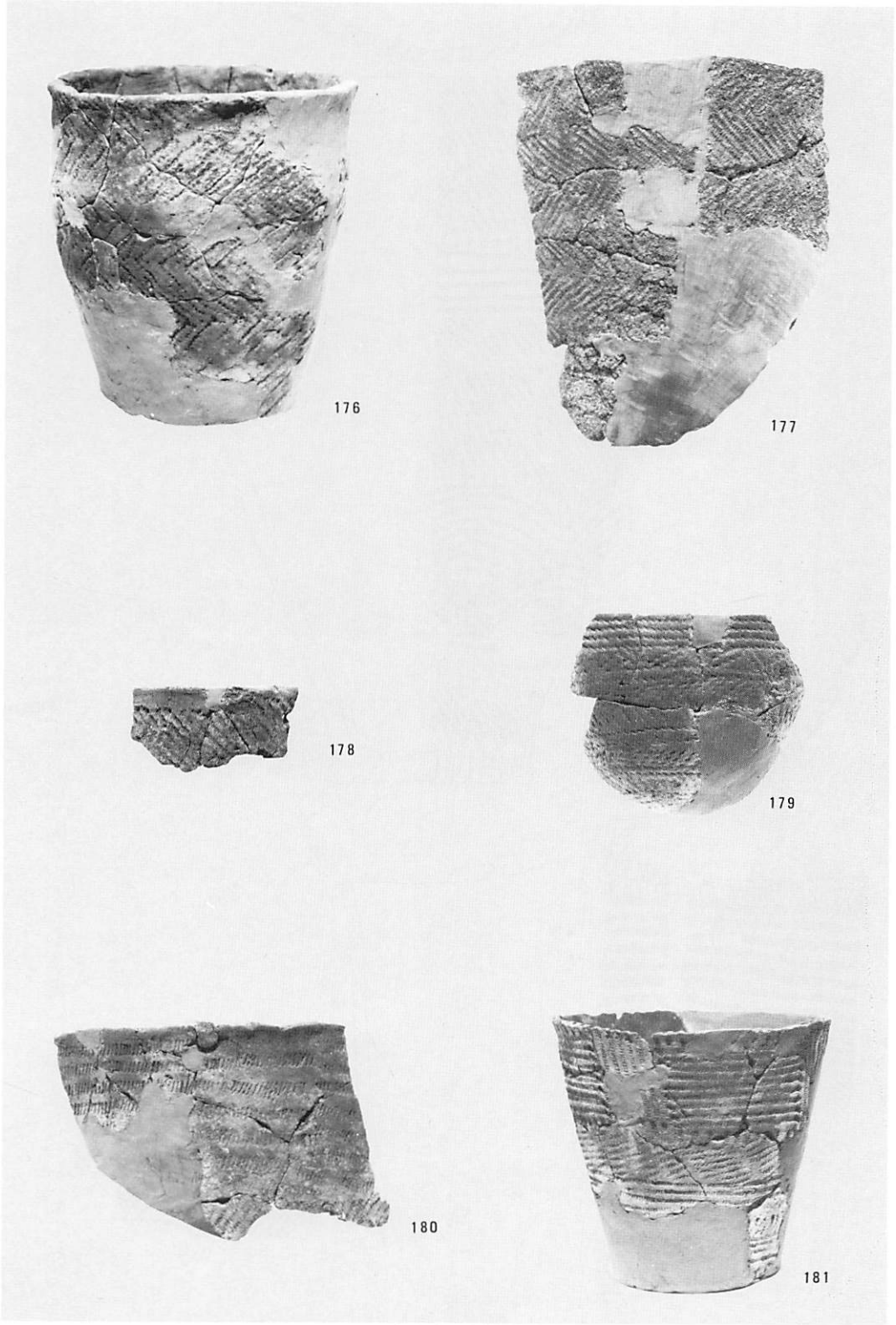


図67　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－1類）

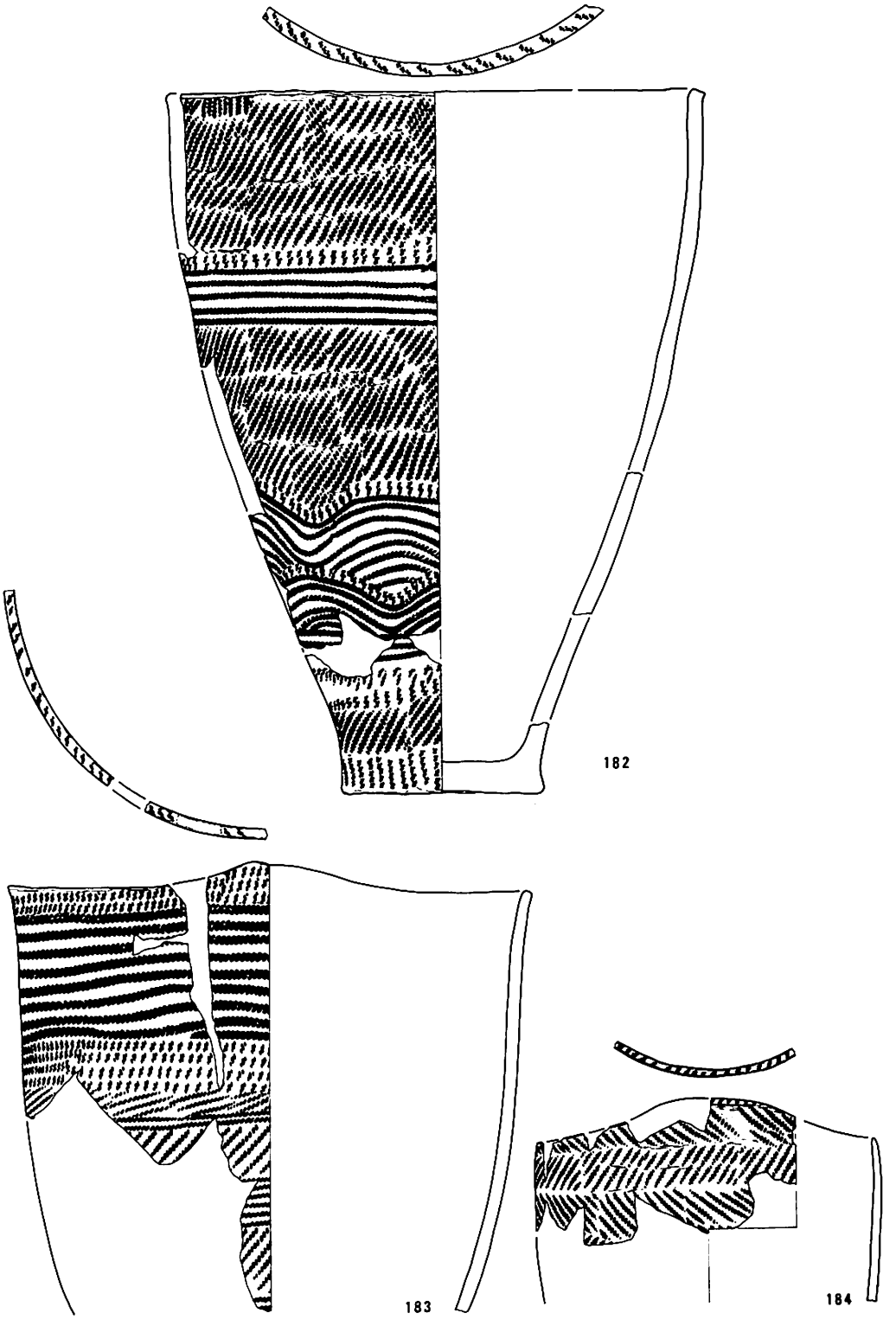


図68　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－1～3類）

図69　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－1～3類）

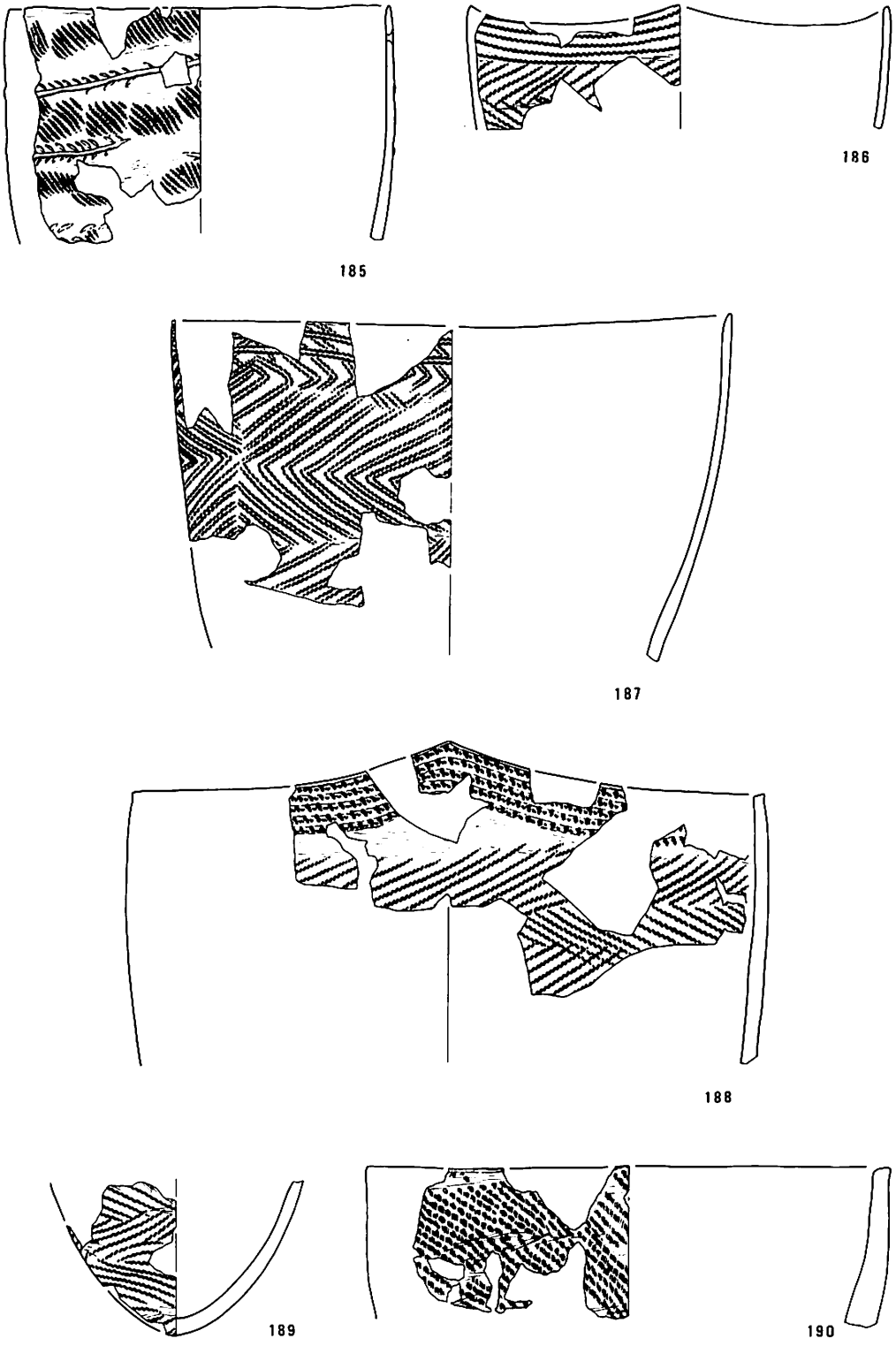


図70　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－4類・Ⅱ群a類）

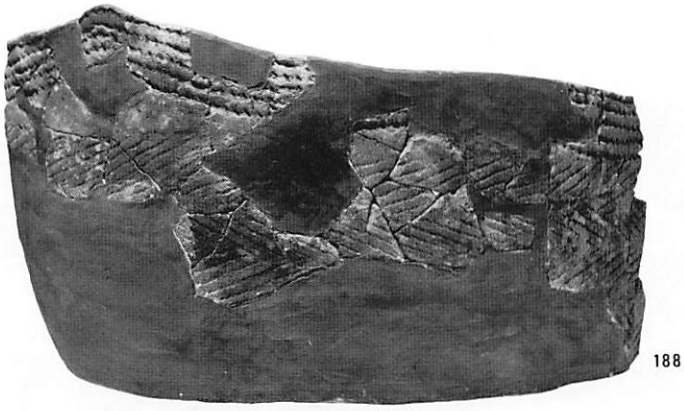


図71　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－4類・Ⅱ群a類）

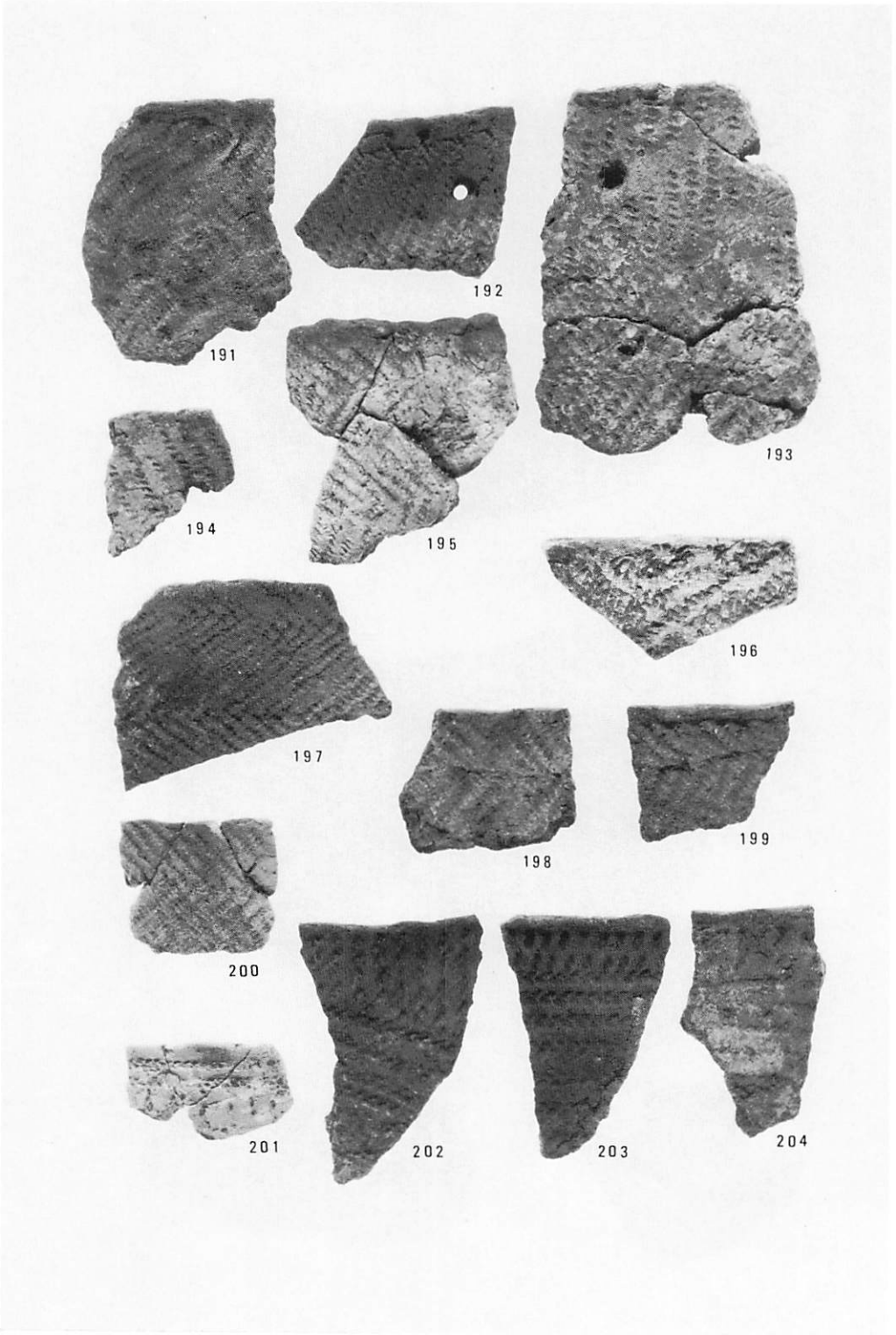


図72　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－1類）

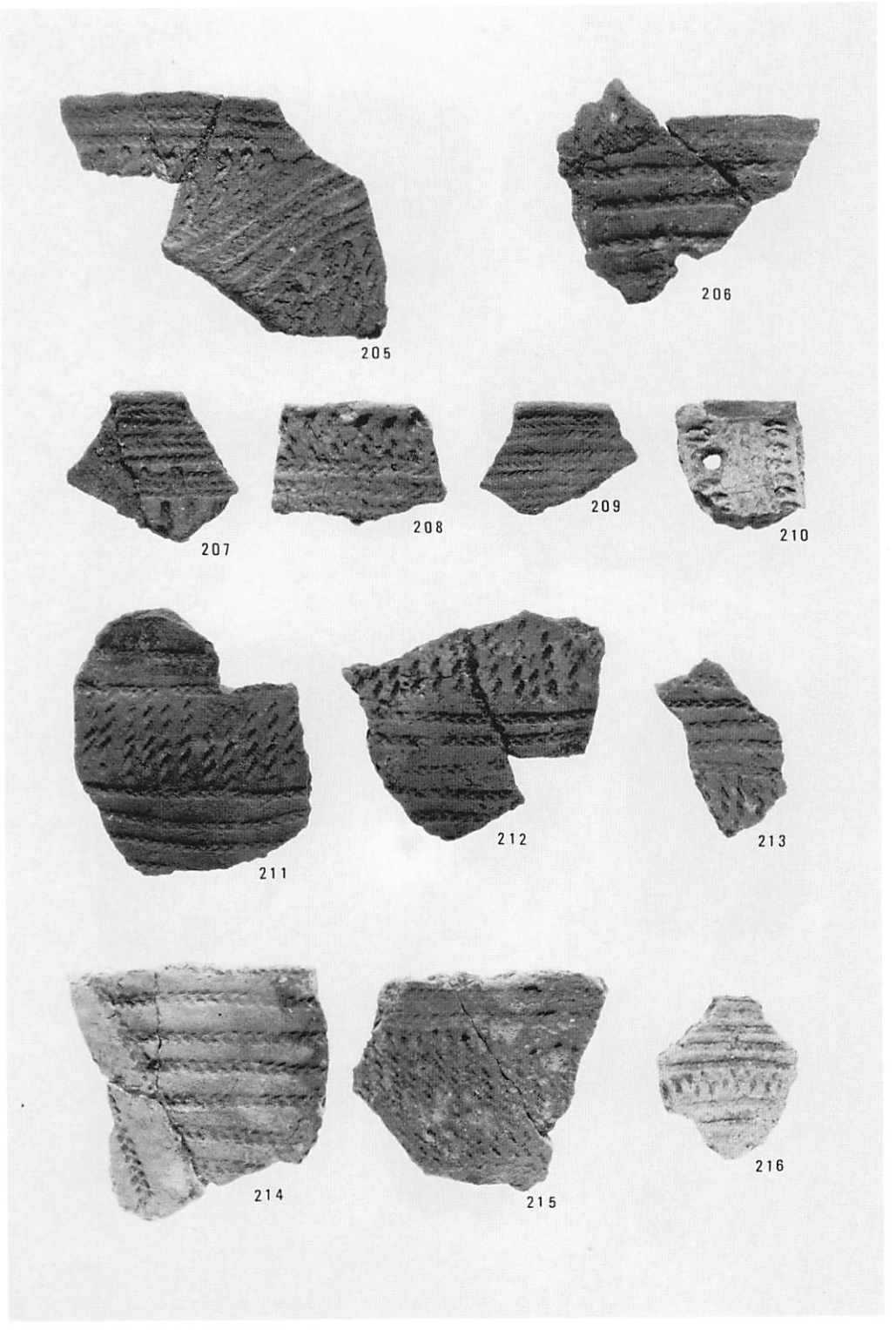


図73　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－1類）

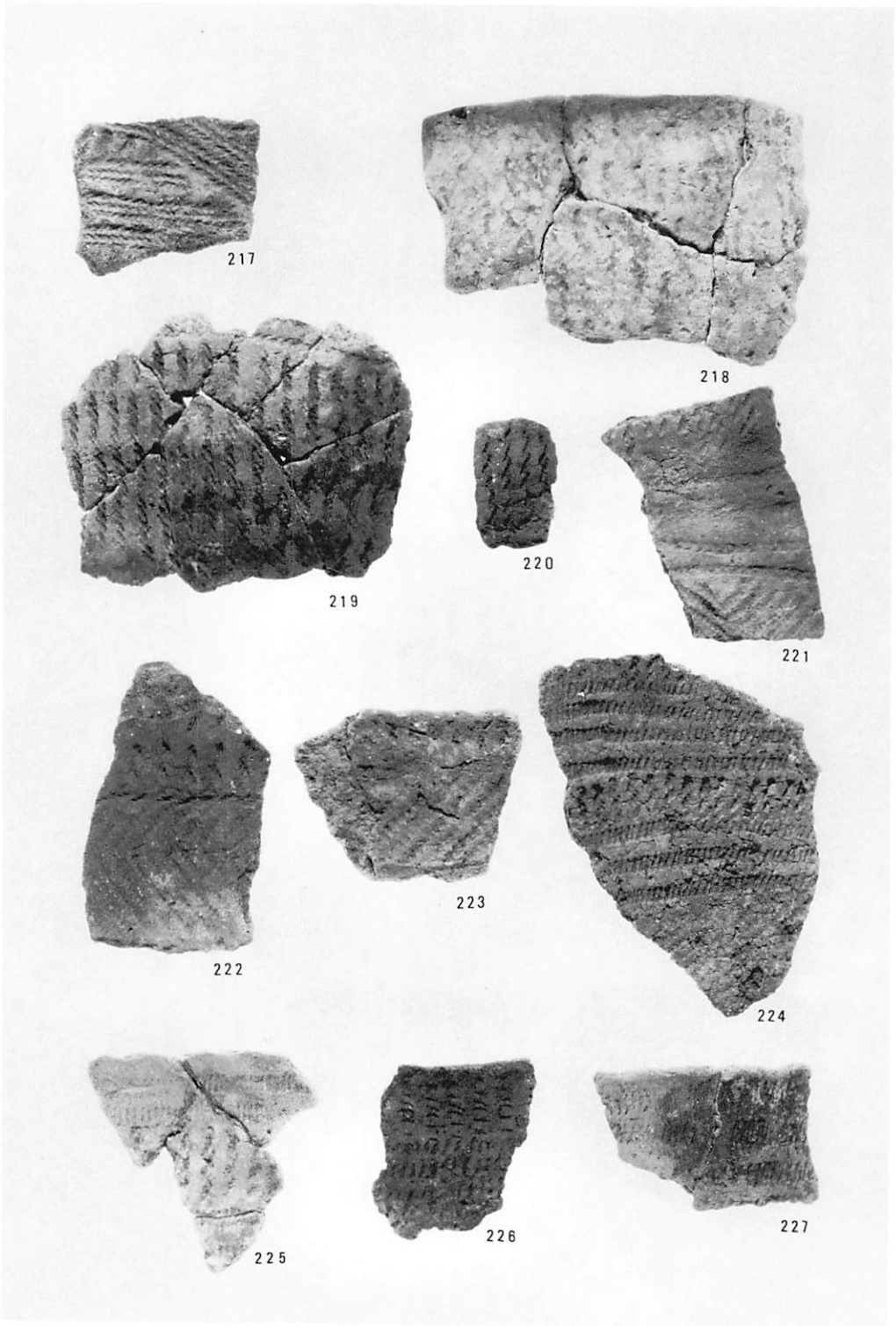


図74　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－1類）

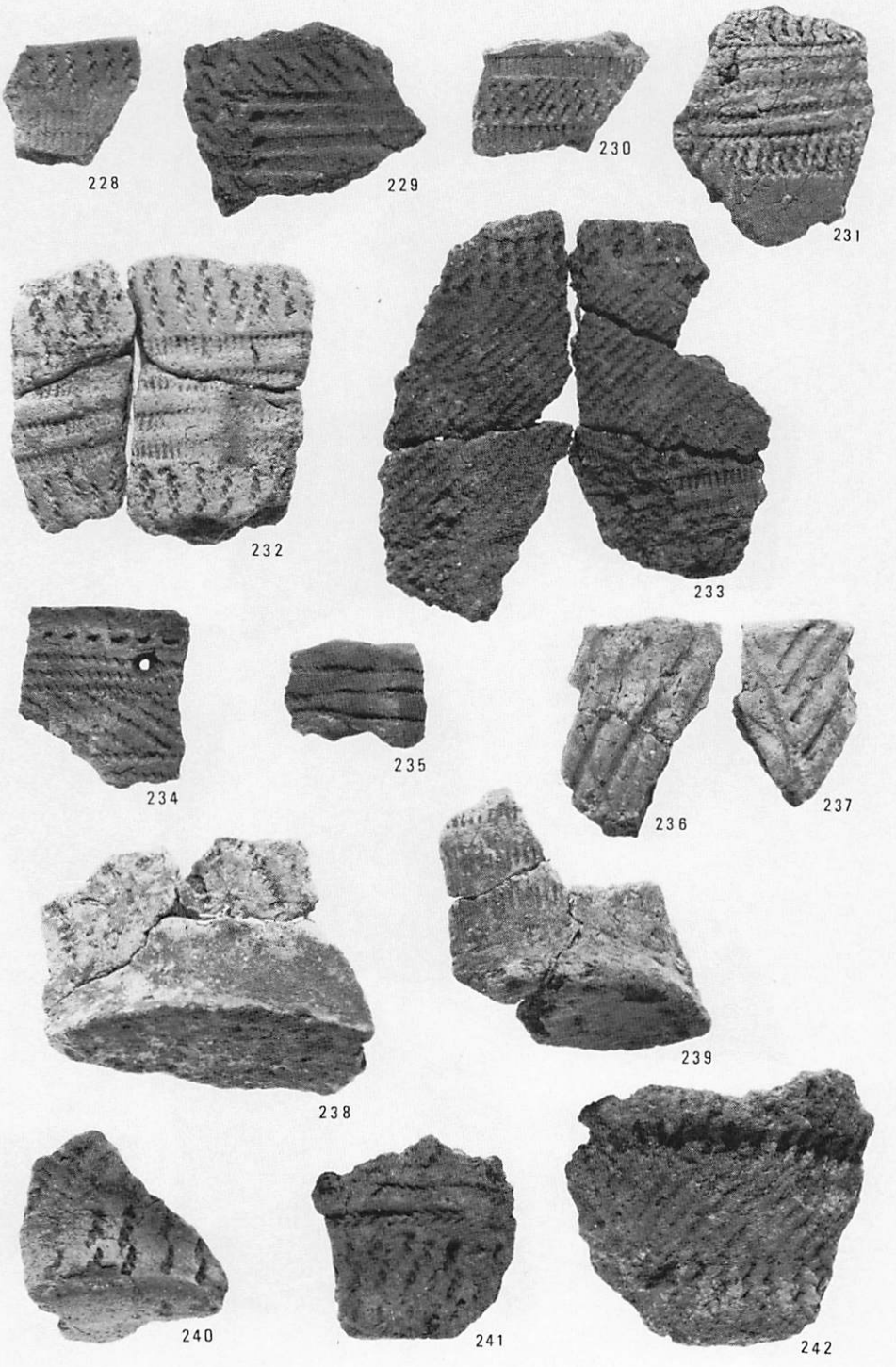


図75　A地点出土の土器群（Ⅰ群b—1・2類）

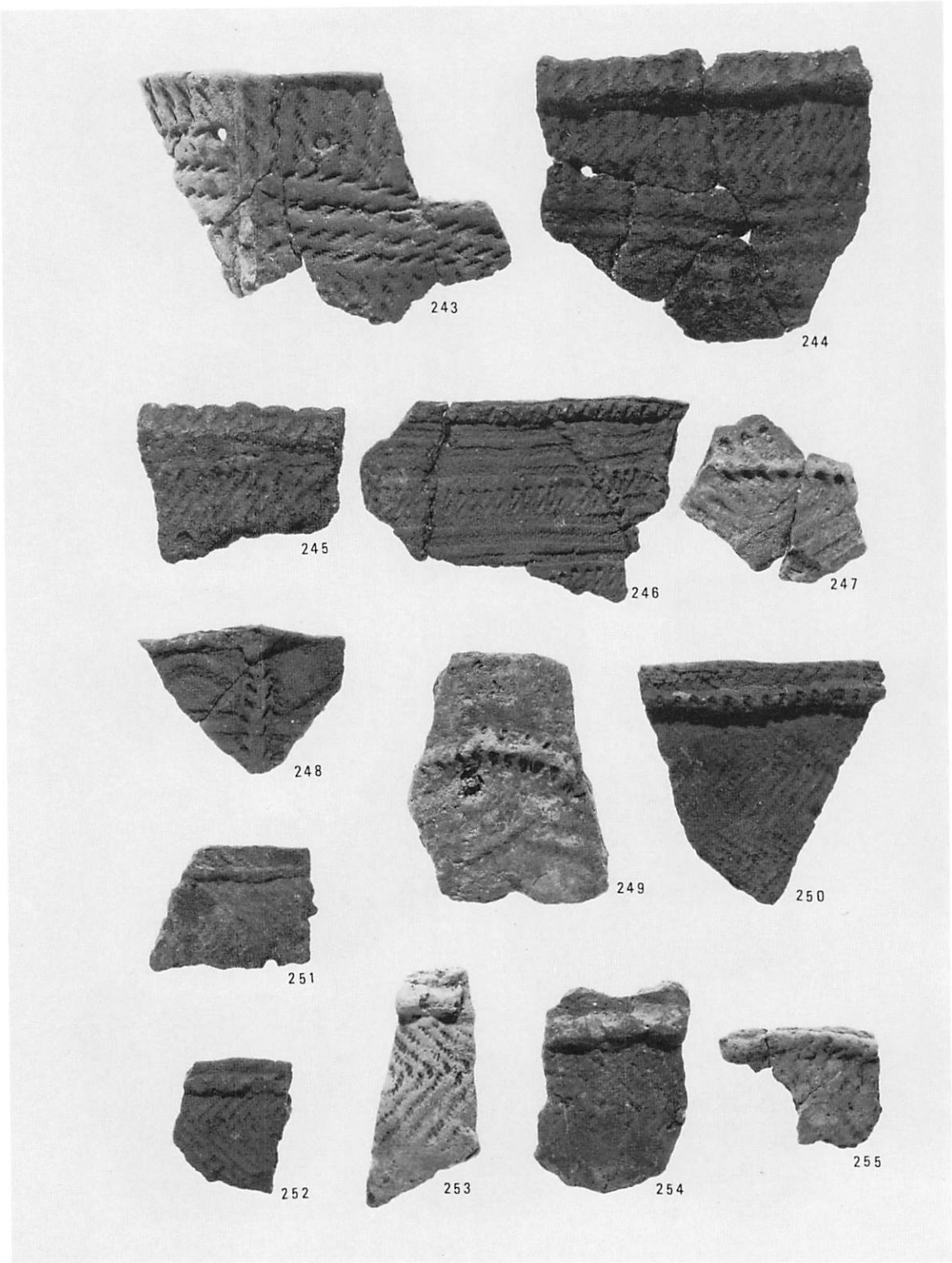


図76　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－2類）

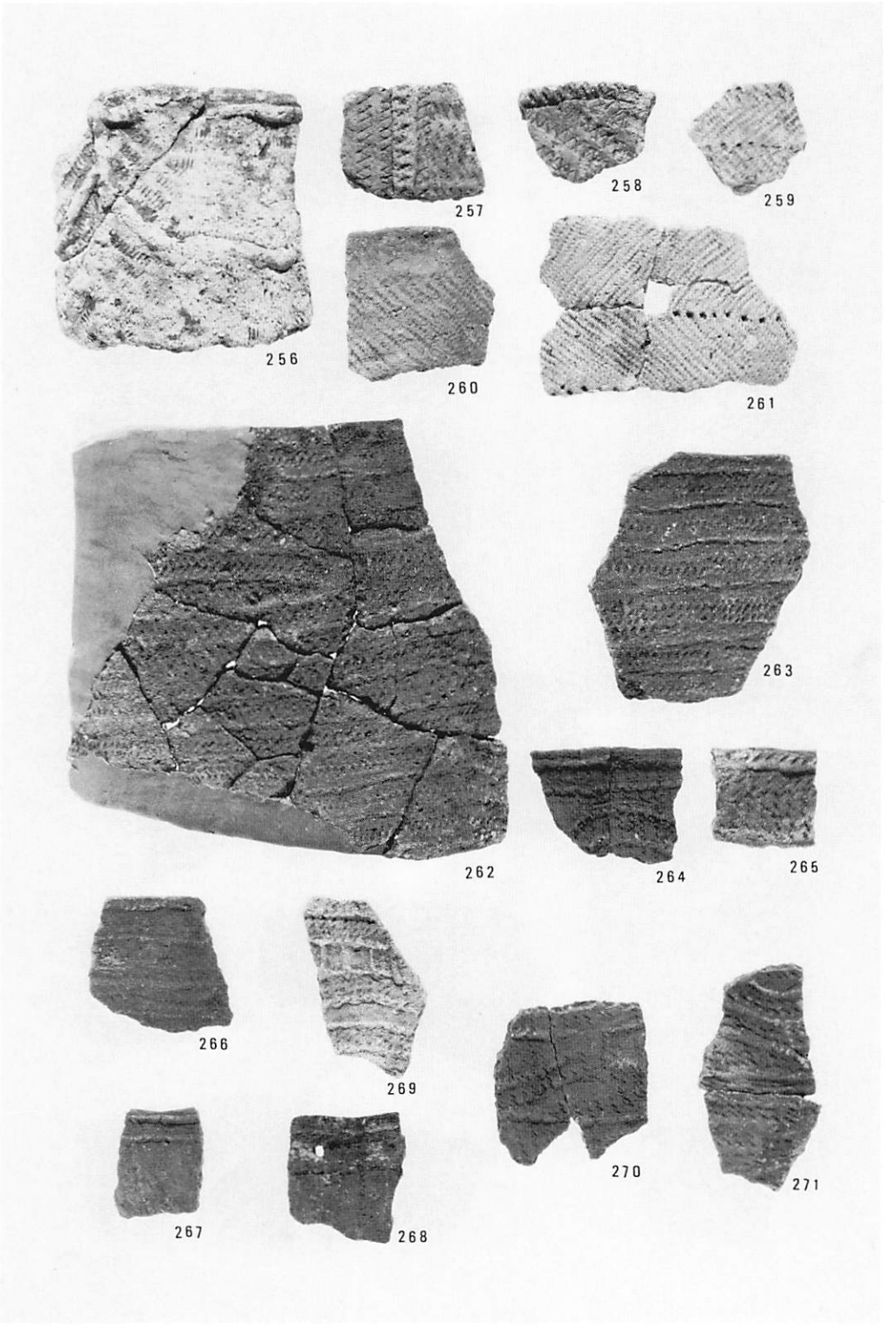


図77　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－2・3類）

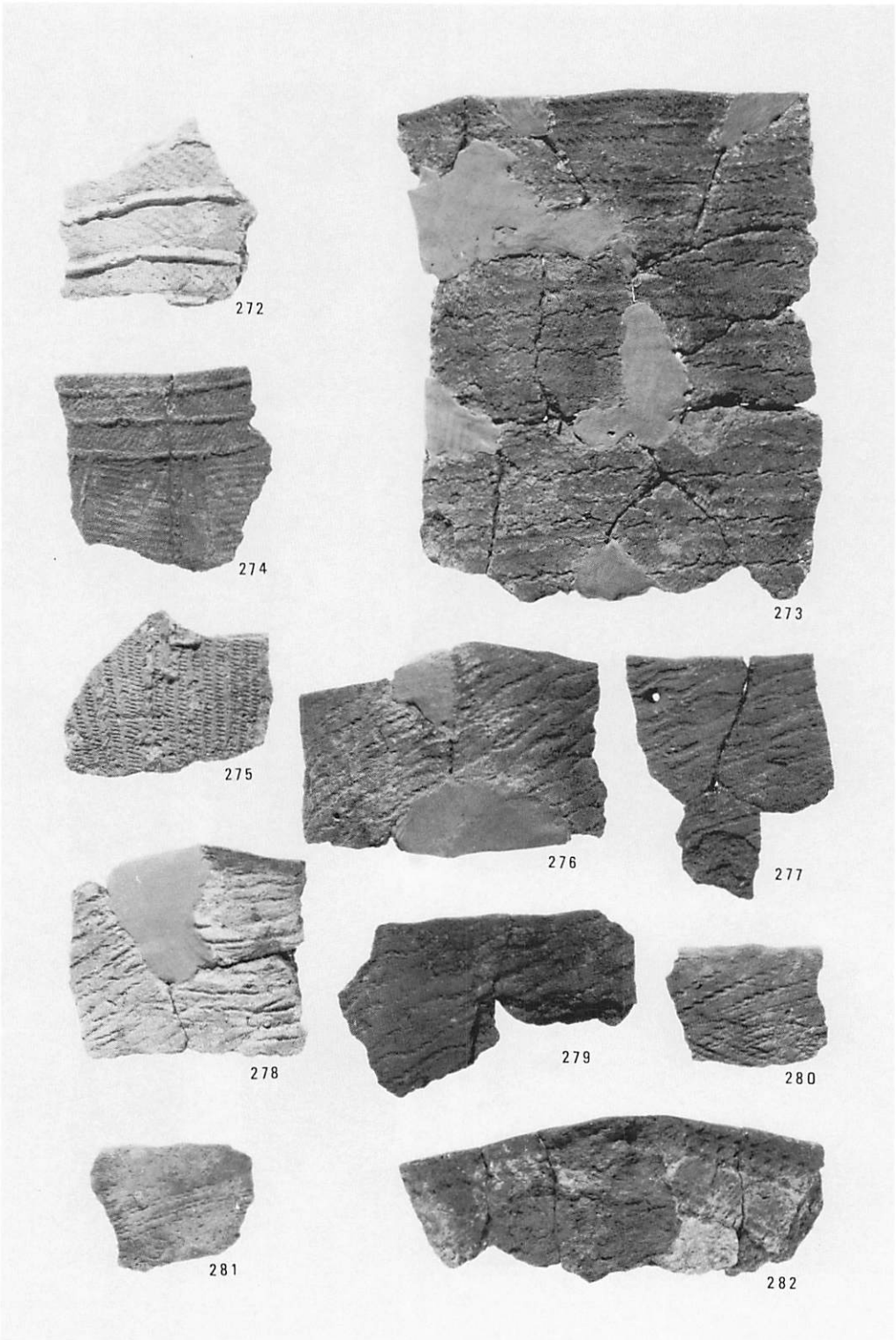


図78　A地点出土の土器群（Ⅰ群b—3・4類）

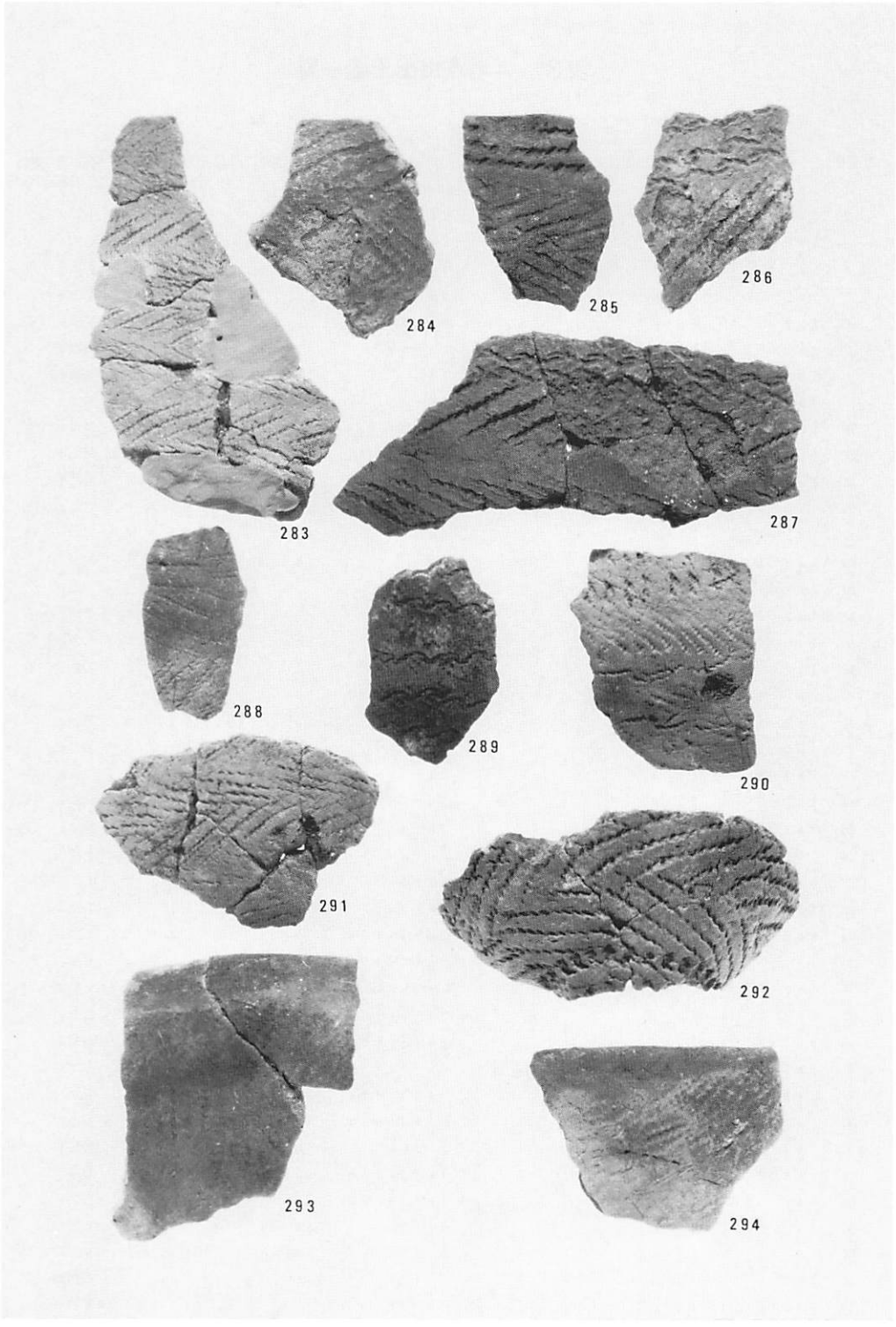


図79　A地点出土の土器群（Ⅰ群b－4類・Ⅳ群b類）

表3　A地点出土土器一覧

図番号	分類	部位	口縁・脣・底部形状	外面文様	口縁部文様	口唇部文様	内面文様	底部文様	炭化物	器厚(mm)	発掘区	層位
1	Ⅰa2－3	口	Ⅰ1・d		1a＋2a＋3a＋5b	3a・1a				7	L23b K24c	Ⅴ
2	Ⅰa2－6	口	Ⅲ3・d		1a＋3a	3a・1a				6	L25d	Ⅴ
3	Ⅰa2－7	個体	Ⅱ2・a・X1c		2a			5f	b1・2	4	L25c	Ⅴ
4	Ⅰa2－6	口	Ⅰ1・d		1a＋3a	3a・1a			b1・2	5	L26c L26d	Ⅴ
5	Ⅰa2－7	口	Ⅰ1・a		2a	2d			b1	8	L25d	
6	Ⅰa2－8	口	Ⅱ1・a		2a＋5a				b1	7	K23b	
7	Ⅰa2－9	口	Ⅰ2・d		1a＋5b		・1a		a1＋b1	5	M22a	Ⅳ
8	Ⅰa2－11	個体	Ⅰ2・d・X2c		1a				b1	8	K22c	
9	Ⅰa2－11	個体	Ⅱ1・c・X1c		1a			1a	a1＋b1	6	M21d	Ⅴ
10	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a				6	M24c	Ⅴ
11	Ⅰa2－11	口	Ⅰ1・d		1a	3a・1a				9	M23d	
12	Ⅰa2－1	口	Ⅲ2・d		3a	3a				7	L26c M26a	
13	Ⅰa2－1	口	Ⅲ2・d		3a	3a			b1	7	L25d	Ⅴ
14	Ⅰa2－1	口	Ⅰ1・d		3a	3a			b1	6	M24b	Ⅴ
15	Ⅰa2－1	口	Ⅰ2・d		3a	3a・1a				6	M23d	Ⅴ
16	Ⅰa2－1	口	Ⅰ2・b		3b＋4b				b1	5	L25c	
17	Ⅰa2－1	口	Ⅰ2・b		3b＋4b					5	K24b L24c	Ⅳ
18	Ⅰa2－1	口	Ⅰ2・d		3c	3c				7	L24b	
19	Ⅰa2－1	口	Ⅰ2・d		3c	3c			a1	7	K22c	Ⅳ
20	Ⅰa2－1	口	Ⅰ2・d		3c	3c			b1	5	L24c	Ⅴ
21	Ⅰa2－2	口	Ⅰ2・d		2a	3a			b1	5	M23c	
22	Ⅰa2－2	口	Ⅰ2・a		2a＋2b＋3a	3a			b1	7	M23b	
23	Ⅰa2－2	口	Ⅰ1・d		2a＋2b＋3a	?				6	L26b	Ⅳ
24	Ⅰa2－2	口	Ⅰ2・d		2a＋2b＋3a	3a・3a				7	M26a	Ⅴ
25	Ⅰa2－2	口	Ⅲ2・d		2b＋3c	3c			b1	5	M25c	Ⅴ
26	Ⅰa2－2	口	Ⅲ2・d		2b＋3c	3c			b1	5	L26b L25d	Ⅳ
27	Ⅰa2－2	口	Ⅱ2・d		2a＋3c	2d			b1	7	L25b	
28	Ⅰa2－2	口	Ⅰ2・d		2a＋3c	3c			a1	7	L25a	
29	Ⅰa2－3	口	Ⅱ3・d		2a＋3a＋5b	3a・3a				7	L25c	Ⅳ
30	Ⅰa2－3	口	Ⅰ3・b		3a＋4b＋5a					4	L26c	
31	Ⅰa2－3	胴		1a	2a＋3b＋5a＋5b					5	L25a	Ⅴ
32	Ⅰa2－3	口	Ⅰ2・d		2a＋3c＋5b	3c			b1	6	L24b	
33	Ⅰa2－4	口	Ⅰ2・d		3a＋3c＋5a	3c・3c				8	M24d	
34	Ⅰa2－4	口	Ⅰ2・a		3a＋3c＋5a	3c・3c				7	L26a	
35	Ⅰa2－4	口	Ⅰ2・d		3a＋3c＋5a	3c・3c			b1	8	K26b	Ⅴ
36	Ⅰa2－4	口	Ⅰ2・d		3a＋3c＋5a	3c・3c				8	L25c	
37	Ⅰa2－4	口	Ⅱ2・d		3a＋5a	3a・4b				4	K25b	Ⅴ
38	Ⅰa2－4	口	Ⅰ2・c		1a＋3a＋5b	3a・1a			b1	6	K24c K26b	Ⅴ
39	Ⅰa2－5	口	Ⅰ2・d		1a＋3a＋4a	3a				6	?	
40	Ⅰa2－6	口	Ⅰ2・d		1a＋3a	3a・1a			a1	5	L24b	
41	Ⅰa2－6	口	Ⅰ2・d		1a＋3a	3a			a1＋b1	3	K27b	Ⅴ
42	Ⅰa2－6	口	Ⅰ2・d		1a＋3a	3a			a1	5	L26b	Ⅴ
43	Ⅰa2－6	口	Ⅰ2・d		1a＋3a				b1	5	K23b	
44	Ⅰa2－6	口	?3・d		1a＋3a				a1＋b1	5	K23b	
45	Ⅰa2－6	口	Ⅰ3・d		1a＋3a					6	M25c	Ⅴ

図番号	分　類	部位	口縁・脚・底部形状	外面文様	口縁部文様	口縁部文様	内面文様	底部文様	炭化物	器厚(mm)	発掘区	層位
46	Ⅰa2－6	口	Ⅲ3・d		1a＋3a				a1+b1	6	K23b	
47	Ⅰa2－6	口	Ⅰ3・d		1a＋3a				a1+b1	5	K23b	
48	Ⅰa2－6	口	Ⅰ1・d		1a＋3a		・1a		a1	7	L26a	Ⅴ
49	Ⅰa2－6	口	Ⅰ2・d	1a	3c	3c			a1	5	L25c	Ⅴ
50	Ⅰa2－6	口	Ⅰ2・d	1a	3c	3c			a1	5	L24c	Ⅴ
51	Ⅰa2－6	口	Ⅰ2・d	1a	3c	3c			a12+b2	5	M26b	Ⅲ
52	Ⅰa2－6	口	Ⅰ2・d	1a	3c	3c			a1+b1	5	M25b	Ⅴ
53	Ⅰa2－7	脚			1a＋2a		・1a			8	M24d	
54	Ⅰa2－7	脚			1a＋2a＋2b					7	L22a	
55	Ⅰa2－7	脚			1a＋2a					10	M23a	Ⅴ
56	Ⅰa2－7	口	Ⅰ2・a		1a＋2a＋2b	3a・1a				6	M23d	
57	Ⅰa2－8	口	Ⅰ2・d		2a＋5a＋5b	3a・3a			b1	5	L22a	
58	Ⅰa2－8	口	Ⅱ2・d	2a	2a＋5b	3a・3a			b1	7	L26a	Ⅴ
59	Ⅰa2－8	口	Ⅰ2・a		2a＋5b					6	K23c	
60	Ⅰa2－8	口	Ⅰ3・a		2a＋5b					4	K23c	
61	Ⅰa2－8	口	Ⅰ3・d		2a＋5a					6	K23b	
62	Ⅰa2－8	口	Ⅰ1・b		2a＋4a	4a				5	M25d	Ⅴ
63	Ⅰa2－8	口	Ⅰ2・c		2d＋5c					4	L22d	Ⅲ
64	Ⅰa2－8	口	?2・d		1a＋2a＋5a	3a・3a			a1+b1	5	K26b	Ⅳ
65	Ⅰa2－9	口	Ⅰ2・c		1a＋5a＋5f					5	K25c	
66	Ⅰa2－9	口	?2・d		1a＋3c＋5c					5	L23b	
67	Ⅰa2－10	口	Ⅰ3・d		1a＋4a				a1+b1	6	M25d	Ⅴ
68	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・e		1a		・1a		a1+b1	5	M24a	
69	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a		・1a			10	L23c	
70	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・a		1a				b1	8	K22c	
71	Ⅰa2－11	口	Ⅰ3・a		1a					5	M23a	
72	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a				a1+b1	5	L23b	Ⅳ
73	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a					8	M23b	
74	Ⅰa2－11	口	Ⅰ?・b		1a		?			5	M23d	
75	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	1a・1a				5	K26b	Ⅴ
76	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・c		1a	1a・1a				5	L24c	
77	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	1a			b1	5	M25c	Ⅴ
78	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・a		1a	3a			b1	6	M24a	
79	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a			b1	6	M25b	Ⅳ
80	Ⅰa2－11	口	Ⅰ3・d		1a	3a			a1+b1	5	L24b	
81	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a			b1	4	L26b	
82	Ⅰa2－11	口	Ⅰ3・d		1a	3a				5	L22b	Ⅴ
83	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a				6	L24a	
84	Ⅰa2－11	口	Ⅲ2・d		1a	3a				5	M23a	Ⅲ
85	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a・3a			b1	6	L26a	
86	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a・3a			a1+b1	6	L25c	
87	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a・3a			b1	5	L25d	Ⅴ
88	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a・1a				7	L25d	
89	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a・1a				8	M23c	Ⅳ
90	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・c		1a	3a・1a				5	K26b	Ⅴ
91	Ⅰa2－11	口	Ⅰ2・d		1a	3a				8	L24b	
92	Ⅰa2－12	口	Ⅲ2・d		0		・1a			6	L23d	
93	Ⅰa2－12	口	Ⅰ2・d		0	5e?				6	K22c	Ⅳ
94	Ⅰa2－12	口	Ⅰ2・a		0					7	L23a	Ⅴ
95	Ⅰa2－12	口	Ⅰ2・a		0					6	L24b	

図番号	分類	部位	口縁・脚・底部形状	外面文様	口縁部文様	口縁部文様	内面文様	底部文様	炭化物	器厚(mm)	発掘区	層位
96	Ⅰa2−12	口	Ⅰ2・a		0					5	M22a	
97	Ⅰa2−12	口	Ⅰ2・e		0					6	K23c	
98	Ⅰa2−12	口	Ⅰ2・a		0					6	M25d	Ⅴ
99	Ⅰa2−12	口	Ⅰ3・a		0					6	L25c	
100	Ⅰa2−12	口	Ⅰ2・d		0	3c				7	M23d	
101	Ⅰa3−1	口	Ⅰ2・d		1b+2a+2d+6a·5d					7	M22c	
102	Ⅰa2−2	個体	Ⅰ1・d・X1a	1b−0	1b+6a+5d				a1·2+b1	8	L23a	Ⅴ
103	Ⅰa2−2	個体	Ⅰ1・d・X1a	1b−0	1b+6a・8a?				a1·2+b1	8	M23c M24b	
104	Ⅰa3−7	個体	Ⅱ1・a・X1a	0	2c				a1·2+b1·2·3	6	L25b	
105	Ⅰa3−10	口	Ⅱ3・d		1b−1c				b1	7	M24b	
106	Ⅰa3−10	口	Ⅱ1・d	0	0				b1・2	5	L25c L25d	Ⅴ
107	Ⅰa3−9	口	Ⅱ3・d	0	0+5f				a1	4	L23a	Ⅴ
108	Ⅰa3−	個体	Ⅰ3・d		0					7	L23a	Ⅴ
109	Ⅰa3−1	口	Ⅰ1・a	1b′	1b+2a+6a・5d					7	M23c	
110	Ⅰa3−1	口	Ⅰ1・a	1c	1c+2a+6a・?					7	L25b	Ⅴ
111	Ⅰa3−2	口	Ⅱ1・d		1b+6a・5d					7	L21c	Ⅳ
112	Ⅰa3−2	口	Ⅱ1・d		6a・5d					7	L22d	Ⅴ
113	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d		1b+6a・5d					6	M23d	
114	Ⅰa3−2	口	Ⅱ1・d		1b+6a・2d					6	M23c	
115	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d		1b+6a・5d					5	M23	
116	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d	1b	1b+6a・5d					7	K27c	Ⅳ
117	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d	1b	1b+6a・5d					6	M22c	
118	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d	1b	1b+6a・?					6	M26b	Ⅴ
119	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d		6a・5d					5	M23c	
120	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d	1b	1b+6a・2d					5	L26b	Ⅴ
121	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d		6a・?					7	K26c	Ⅴ
122	Ⅰa3−2	口	Ⅱ?1・a		6a・2d					6	L23d	
123	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・a		6a・5e					5	L26b	Ⅳ
124	Ⅰa3−2	口	Ⅰ1・d		6a・5d					6	L26a	Ⅲ
125	Ⅰa3−3	口	Ⅰ2・e	2a	2a+6a・g					5	L24a	
126	Ⅰa3−3	脚		2a	2a+6a・g					5	L23c	
127	Ⅰa3−3	口	Ⅱ3・d		1b+2a				b1	6	K23c	
128	Ⅰa3−4	口	Ⅱ3・d		1c+2a				b1	6	L26b	
129	Ⅰa3−4	口	Ⅱ1・d		2a				b1	5	L26a	Ⅴ
130	Ⅰa3−4	口	Ⅰ?2・d		2c					4	K24c	
131	Ⅰa3−4	口	Ⅱ3・d		2a				b1	4	M23b	
132	Ⅰa3−5	口	Ⅰ1・e		2a+5b+6b・8a?					4	L24d	Ⅴ
133	Ⅰa3−6	口	Ⅰ3・e		5a+6b・8a					6	K23c	
134	Ⅰa3−7	口	Ⅱ2・d	1b	1b				a1	5	M25c	
135	Ⅰa3−8	口	Ⅰ1・d	1b	1b+5f					4	M22b	Ⅴ
136	Ⅰa3−10	口	Ⅰ3・d	1c	1c				b1	6	L22a	Ⅳ
137	Ⅰa3−10	口	Ⅰ3・d	0	0				a1+b1·2	4	L25d	
138	Ⅰa3−10	口	Ⅰ3・d	1c	1c				b1・2	6	L23a K23b	Ⅳ
139	Ⅰa2	底	X1a	1a				1a		7	L23d	
140	Ⅰa2	底	X1a	1a				1d+1a		7	L24d	
141	Ⅰa2	底	X1a	1a				1a		6	L25a・d	Ⅴ
142	Ⅰa2	底	X1a	3a				1a		6	L24c	Ⅴ
143	Ⅰa2	底	X1a	1a						5	K24b	
144	Ⅰa2	底	X1a	1a						5	M24a	
145	Ⅰa2	底	X1a	1a						6	L24c	Ⅴ

図番号	分類	部位	口縁・脣・底部形状	外面文様	口縁部文様	口縁部文様	内面文様	底部文様	炭化物	器厚(cm)	発掘区	層位
146	Ⅰa2	底	X1a	1a						6	L25c	Ⅴ
147	Ⅰa2	底	X1a	1a						6	K25d	Ⅴ
148	Ⅰa2	底	X1a	1a						7	L26b	Ⅴ
149	Ⅰa2	底	X1a	1a						7	L25c	Ⅴ
150	Ⅰa2	底	X1a	1a						7	K25c	Ⅴ
151	Ⅰa2	底	X1a	1a						7	L25d	Ⅴ
152	Ⅰa2	底	X1a	1a						7	M25d	Ⅴ
153	Ⅰa2	底	X1a	1a						7	L25c	Ⅴ
154	Ⅰa2	底	X1a	0						7	K26b	Ⅴ
155	Ⅰa2	底	X1a	0						7	L25c	Ⅴ
156	Ⅰa2	底	X1a	0						8	M24b	
157	Ⅰa2	底	X1a	1a						7	K25b	Ⅴ
158	Ⅰa3	底	X1a	1b						8	M25b	Ⅳ
159	Ⅰa3	底	X2a	0						7	L26b	Ⅴ
160	Ⅰa3	底	X2a	0						7	L25d	Ⅴ
161	Ⅰa3	底	X1a	1b						6	M22a	Ⅳ
162	Ⅰa3	底	X1a	1b						9	K25c	
163	Ⅰa1	底	X3c	0				2a		6	M23a	Ⅴ
164	Ⅰa2	底	X5	1c						6	M25c	Ⅴ
165	Ⅰa2	底	X5	1a						9	M24a	
166	Ⅰa	底	X1a							7	L23a	Ⅴ
167	Ⅰa	底	X1a							6	M24d	Ⅳ
168	Ⅰa	底	X1a							7	K26d	Ⅴ
169	Ⅰa	底	X1a							7	M24d	Ⅴ
170	Ⅰa	底	X1a							6	L25a	Ⅳ
171	Ⅰa	底	X1a							5	K23b	
172	Ⅰa	底	X1a							7	L25d	Ⅴ
173	Ⅰa	底	X4a							7	K22b	Ⅴ
174	Ⅰa	底	X3a?								M22b	Ⅳ
175	Ⅰb2−1	個体	Ⅰ1・f	7f・7h＋8c		8e			b1・2	6	L26b	Ⅳ
176	Ⅰb2−1	口	Ⅰ2・f	7f						8	L25b	Ⅴ
177	Ⅰb2−1	口	Ⅰ3・e	7f						8	L26b	Ⅴ
178	Ⅰb2−1	口	Ⅰ2・a		7a					7	L25c	Ⅴ
179	Ⅰb2−2	口	Ⅰ2・a		8d＋8e					6	L24d	Ⅴ
180	Ⅰb2−3	口	Ⅴ3・f		7c＋8a	8e			a1+b1・2	7	L26c	Ⅴ
181	Ⅰb2−3	口	Ⅲ1・f		7c＋8a	8a			b1・2	6	L25b	Ⅳ
182	Ⅰb2−2	個体	Ⅰ2・f	7c＋8c＋8e		8e			b1	7	L25a	Ⅴ
183	Ⅰb2−2	口	Ⅰ3・f	7e	7e＋8c＋8e	8e			a1	7	L26a	Ⅴ
184	Ⅰb4?	口	Ⅱ2・a	7f		8e				7		
185	Ⅰb3	口	Ⅰ2・a		6b・2d＋7d					5	L24d	
186	Ⅰb4	口	Ⅱ2・a	7j	8d					6	L25b	
187	Ⅰb4	口	Ⅰ2・a	7j	8d					6	L25b	
188	Ⅰb4	口	Ⅱ2・f	7j	8e					8	L25b	
189	Ⅰb2	底	X5	7j						7	L25b	
190	Ⅰa1	口	Ⅰ2・b		7d				a1	12	K23c	
191	Ⅰb1−1	口	Ⅰ2・f		7c	8e			b1	5	L22c	Ⅴ
192	Ⅰb1−1	口	Ⅰ3・b		7c	8e				6	L23a	Ⅳ
193	Ⅰb1−1	口	Ⅰ3・f		7c	8e				6	L22a	
194	Ⅰb1−1	口	Ⅰ3・f		7d	5e			b1	5	L25d	
195	Ⅰb1−1	口	Ⅰ2・f		7d	8e			b1	6	L25c	Ⅳ

図番号	分類	部位	口縁・唇・底部形状	外面文様	口縁部文様	口縁部文様	内面底部文様	炭化物	器厚(mm)	発掘区	層位
196	Ⅰb1－1	口	Ⅰ3・f		7e				8	L25d	
197	Ⅰb1－1	口	Ⅰ2・a		7f	8e		a1+b1	6	M25d	
198	Ⅰb1－1	口	Ⅰ2・f		7f			b1	6	M24b	
199	Ⅰb1－1	口	Ⅰ1・f		7f			b1	6	M23d	
200	Ⅰb1－1	口	Ⅰ3・a－e		7f				6	M25a	Ⅳ
201	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・a		8c＋8e				4	M22a	Ⅳ
202	Ⅰb1－2	口	Ⅰ1・a		8c＋8e			a1+b1	5	L22d	Ⅴ
203	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・f		8c＋8e	8e			6	L26a	Ⅴ
204	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・f		8c＋8e			b1	6	L26c	
205	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・f		8c＋8e	8e			5	L25b	Ⅴ
206	Ⅰb1－2	口	Ⅳ2・e		8c＋8e				7	M25d	Ⅴ
207	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・f		8c＋8e			b1	4	M26b	Ⅲ
208	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・f		8c＋8e				5	M25a	Ⅴ
209	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・f		8c			b1	5	L23b	Ⅳ
210	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・f－e		8c＋8e			b1	5	L26b	Ⅳ
211	Ⅰb1－2	胴			8c＋8e			a1+b1	7	M22d	Ⅳ
212	Ⅰb1－2	胴			8c＋8e			b1	7	M23b	
213	Ⅰb1－2	胴			8c＋8e				6	M23c	Ⅳ
214	Ⅰb1－2	胴			8c				8	M22d	Ⅳ
215	Ⅰb1－2	胴			8c＋8e				7	L22b	Ⅳ
216	Ⅰb1－2	胴			8c＋8e				4	M22c	
217	Ⅰb1－2	胴			8c＋8e				5	L26b	
218	Ⅰb1－2	口	Ⅰ2・a		8e			b1	11	M25c	Ⅳ
219	Ⅰb1－2	胴			8d＋8e			b2	7	L26d	Ⅴ
220	Ⅰb1－2	口	Ⅰ?2・a		8e	8e			3	L25b	
221	Ⅰb1－2	胴			7e＋8c＋8e			2	7	M23a	
222	Ⅰb1－2	胴			7f＋8e				7	L24b	
223	Ⅰb1－2	口	Ⅰ3・f		7c＋8e	8e			9	L25c	Ⅳ
224	Ⅰb1－3	胴			7c＋8a＋8e				7	M25d	Ⅴ
225	Ⅰb1－3	口	Ⅰ1・f		8a＋8e	8e			7	L26d	
226	Ⅰb1－3	口	Ⅰ3・f		8a				5	M25b	Ⅴ
227	Ⅰb1－3	口	Ⅰ3・f		8a				5	K27b	Ⅳ・Ⅴ
228	Ⅰb1－3	口	Ⅰ3・a		8a＋8e			b1	5	M22d	
229	Ⅰb1－3	口	Ⅰ3・a－e		8a＋8e	5e			7		
230	Ⅰb1－3	胴			8a＋8e				5	M22c	
231	Ⅰb1－3	胴			8a＋8e				7		
232	Ⅰb1－3	胴			8a＋8e			b1	8	L25a	Ⅴ
233	Ⅰb1－3	胴			7c＋8a＋8e				6	M25d	Ⅲ
234	Ⅰb1－3	口	Ⅰ2・e		5a＋8a			b1	5	L22b	Ⅳ
235	Ⅰb1－4	口	Ⅲ?2・d		8d			a1	6	M22a	
236	Ⅰb1－5	口	Ⅲ?2・e		2a			a1	6	M23d	
237	Ⅰb1－5	口	Ⅲ?2・a－d		2a				6	M23d	
238	Ⅰb1－	底	X3a	7a					8	K26c	Ⅴ
239	Ⅰb1	底	X4a	8a					5	L26a	
240	Ⅰb1	底	X4a	7e＋8e					7	L25c	Ⅴ
241	Ⅰb1	底	X3a	8a＋8e					8	L24c	Ⅴ
242	Ⅰb1	底	X4b	7c＋8e					8	L26b	Ⅴ
243	Ⅰb2	口	Ⅳ1・f		6a＋8d＋8e	8e		b1	6	M25a	Ⅴ
244	Ⅰb2	口	Ⅰ2・a		6a＋8c＋8e	8e		a1+b1	6	L25d	
245	Ⅰb2	口	Ⅰ2・a		6a＋8e	8e		b1	6	L26b	Ⅳ

図番号	分類	部位	口縁・唇・底部形状	外面文様	口縁部文様	文様	内面文様	底部文様	炭化物	厚(mm)	発掘区	層位
246	Ⅰb2	口	Ⅰ2・b		6a・8e＋8c＋8e					5	K25b	Ⅴ
247	Ⅰb2	口	Ⅰ?2・a		6a＋8c＋8e	8e				6	L26a	Ⅳ
248	Ⅰb2	口	Ⅱ1・f		6a＋8c＋8e	8e			a1	5	M22d	Ⅴ
249	Ⅰb2	胴			6a＋8c＋8e				b1	8	M21d	Ⅳ
250	Ⅰb2	口	Ⅰ1・a		6a・8e＋7f				a1	6	L22b	Ⅳ
251	Ⅰb2	口	Ⅰ3・e		6a・2d＋7f	2d				5	L23a	Ⅳ
252	Ⅰb2	口	Ⅰ3・a		6a・2d＋7f					5	L25a	Ⅴ
253	Ⅰb2	胴			6a・8e＋7f					8	L22d	Ⅳ
254	Ⅰb2	胴			6a・5e＋7f					7	M25a	
255	Ⅰb2	口	Ⅰ2・d		6a＋8e＋7d	8e				6	M22d	Ⅳ
256	Ⅰb2	口	Ⅰ2・a		6a＋8a	8e				5	M22a	
257	Ⅰb2	胴			6a・8e＋8a＋8e					7	M22d	Ⅴ
258	Ⅰb2	胴			6a・8e＋8a				b1	7	L21c	
259	Ⅰb2	口	Ⅰ3・a－e		7f・7h＋8e	8e				5	M21c	Ⅳ
260	Ⅰb2	口	Ⅰ1・a		7d				b1	5	M22a	
261	Ⅰb2	胴			7f・7h				b1	7	M21c	Ⅳ
262	Ⅰb3	口	Ⅰ1・a		6b＋7g				b1・2	5	L24d	Ⅴ
263	Ⅰb3	口	Ⅰ3・a		6b＋7g				b1	5	L24d	Ⅴ
264	Ⅰb3	口	Ⅰ1・a		6b＋7g					4	L26b	Ⅳ
265	Ⅰb3	口	Ⅰ2・a		6b＋7g					5	L25c	
266	Ⅰb3	口	Ⅰ3・a		6b＋7g				a1	5	L26a	Ⅳ
267	Ⅰb3	口	Ⅰ3・a		6b					5	M25b	Ⅴ
268	Ⅰb3	口	Ⅰ3・a		6b・8e＋7g				b1	4	L24d	
269	Ⅰb3	口	Ⅰ1・c		6b＋7g					5	K27b	Ⅴ
270	Ⅰb3	胴			6b＋7g					4	L26b	Ⅳ
271	Ⅰb3	胴			6b＋7g					5	L26a	Ⅳ
272	Ⅰb3	胴			6b＋7d					9	M22a	
273	Ⅰb3	口	Ⅰ3・a		6b＋7d・7i					5	L26b	Ⅴ
274	Ⅰb3	口	Ⅰ3・a		6b＋7g＋8a					5	M24a	
275	Ⅰb3	胴			6b・2d＋8a					6		
276	Ⅰb4	口	Ⅱ2・a		7b					5	L25b	Ⅴ
277	Ⅰb4	口	Ⅰ2・a		7b					5	L24c	Ⅳ
278	Ⅰb4	口	Ⅱ2・a		7b					5	K24b	
279	Ⅰb4	口	Ⅰ2・a		7b				a1+b1	6	M25a	Ⅳ
280	Ⅰb4	口	Ⅰ2・a		7b					6	M22c	
281	Ⅰb4	口	Ⅰ2・a		7b?					5	M23b	
282	Ⅰb4	口	Ⅱ2・a		7d＋8e					7	M25b	Ⅴ
283	Ⅰb4	口	Ⅰ2・a		7j				b1	5	L22d	Ⅲ
284	Ⅰb4	口	Ⅰ2・a		7e					5	K24b	
285	Ⅰb4	口	Ⅰ1・a		7j＋8d					7	K25b	Ⅳ
286	Ⅰb4	胴			7j・7i					5	L22d	Ⅲ
287	Ⅰb4	胴			7j・7i					5	L22a	Ⅲ
288	Ⅰb4	胴			7b?					5	M22c	
289	Ⅰb4	胴			7d・7i				a1	5	L26a	Ⅳ
290	Ⅰb4	胴			7j					5	L22d	Ⅲ
291	Ⅰb4	胴			7j					8	L22b	Ⅳ
292	Ⅰb4	胴			7d・7i＋8e					7	L25a	Ⅴ
293	Ⅳb	口	Ⅰ2・b		0＋7e					7		
294	Ⅳb	口	Ⅰ2・b		0＋7e					7		

(2)　石器群

A地点から出土した石器・フレイク・石核・礫の総数は17,245点にのぼる。Ⅲ～Ⅴ層からの出土量が多い。その帰属する時期は土器群からみれば、Ⅲ層出土のものは縄文時代早期～後期の幅が考えられるが、Ⅳ・Ⅴ層は縄文時代早期に限定される。しかし出土石器の形態や土器群の数量など考慮すれば、そのほとんどが縄文時代早期に属すると考えて大過なかろう。しかしながらその細分時期のいずれに該当するかは、一部の石器を除いて判断を下す根拠に欠ける。したがって，ここではとくに細分土器群との比定は行わないことにする。

石器の器種は石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・加工痕のあるフレイク・石核・石斧・たたき石・石錘・砥石・すり石・石皿が確認されている。以下、器種について記述するが、個々の石器のデータは表4を参照されたい。なお、石器分類の記号は当センターの分類に基づいている。

石鏃（図80～83―1～199）

形態別・層位別に配列してある。1～35・195がⅢ層、36～84・196がⅣ層、85～183・191・194・197～199がⅤ層、184がⅥ層である。

Ⅲ層：1～5・8・15が明瞭な茎をもつもの。6・7・9・10・19は、茎が明瞭にみられない、基部がひし形ないし丸味をもつものである。11・12・14は最長幅が尖頭部にあるもの。22は三角形のもので基部がやや彎入している。23は明瞭ではないが五角形に近いもの。基部が平坦である。24はやや幅広の鏃。基部は平らに近いが、若干彎入気味である。25～31・33～35は細身で薄味のもの。27は茎部が熱を受け白っぽくなっている。32は鏃の未成品かと思われる。

Ⅳ層：37・39は明瞭ではないが茎がある。36・38は茎がなく柳葉形のもの。40は五角形の大型鏃である。41～45は三角形のもので、いずれも茎部が若干彎入している。52・53には主剥離面が残る。54・55は五角形で薄身に作られたもの。58～80、82～84は細身で入念な加工の施されたもの。

Ⅴ層：85は茎が明瞭にみられるもの。86は五角形の鏃。87・88は茎が明瞭でなく、ひし形を呈している。89・90は最大幅が尖頭部にあり、細身で薄く作り出されている。91～95柳葉形で作りがやや粗雑なもの。96～167は細身で薄く作り出された柳葉形の鏃である。168は縁辺部に加工が施されたもので、基部が彎入する。172は最大幅が尖頭部にあり、細身で薄く作り出されている。181～183はフレイクに簡単な加工を施しただけの鏃、195～198は槍先の可能性もあるが、一応鏃としておく。199は五角形の大型鏃である。薄身で入念な加工が施されている。

石槍（図84・86―200～220）

203がⅢ層、204・206～208がⅣ層、200～202、209～217がⅤ層からの出土である。203・215はかえしの明瞭なもの。200・201は入念な加工が施され、薄身に作り出されたもの。210・211は細身で断面が丸味をもっている。

石錐（図85・86―221～253）

221がⅢ層、222～234、251がⅣ層、235～250・253がⅤ層の出土品である。221・222・225は

棒状の刺突部をもつもの。230・232・234・246～248・250・251はフレイクの一端にかんたんな刺突部を設けたもの。226～229、231、233、235～244、249・252・253は石鏃・つまみ付きナイフ・石槍ないしその未成品に刺突部が作り出されたものである。

つまみ付きナイフ（図87～93—254～385）

254～258がⅢ層、259～315がⅣ層、316～328がⅤ層から出土したものである。254は二次加工が表面（図左側）全体に施され、右側縁部が急角度の刃部をもち、表面（図右側）のつまみ部および右側縁部に細かな加工が施されている（ⅢＡ１）。殆どがこのタイプに属する。256・257は二次加工が縁辺部にのみ施されている（ⅢＡ３）。306は両面加工のナイフである（ⅢＡ４）。つまみ付きナイフはこの３種類が確認されている。ⅢＡ１は形態に、尖頭形（たとえば280）、半月形（たとえば268）、一側縁（刃部）が極度に彎入しているもの（たとえば267）、先が幅広のもの（たとえば353）などバリエーションが認められる。ⅢＡ３は概して作りが粗雑である。ⅢＡ４は尖頭状のものが多い。

スクレイパー（図94～98—386～450）

386～388がⅢ層、389～410がⅣ層、411～450がⅤ層から出土したものである。386・387・392・395・396・402・405・415～418・423・424・426・427・432～434・437が縁辺全体に加工の施されたスクレイパーで、形状は円形を基本としている。389・391・393・411～414，425・431が下端部（エンド）に刃部のあるスクレイパーである。400・406・435は両側縁に刃部のあるスクレイパーである。

石核（図99～101—451～474）

451～472はⅤ層から出土。ほとんどの石核には板状の角礫が用いられている。剥離面は一定せず、大半の石核が原石面を残している。463・466・469・471・472は主剥離面をもった残核である。なお，451～469は一括資料である。

石斧（図102～105—475～515）

475～479はⅢ層、480～488・510・513はⅣ層、489～506・508・511～515はⅤ層出土。ほとんどの石斧は475のように擦り切り痕を残している。形態的には481のように大型のものと、502のような小型がある。480は刃部だけが磨かれているもの。483の側縁には敲打痕が残っている。507には剥離調整された刃部が作り出されているが、磨かれていない。両刃がほとんどで、明瞭な片刃斧はないが、494・499～501はやや片刃に近いものである。509～515は擦り切り痕のある石斧残片である。

たたき石（図103・105—517～525）

517・518・522はⅣ層、519～521・523・524はⅤ層出土。516には２か所の敲打痕が認められる。517は長円形の礫の両端に敲打痕がある。518は本来はすり石なのであろうが、擦面に敲打痕が認められる。519は扁平な礫の両側縁に敲打痕がある。521はすり石とたたき石の用途を有するもので、周縁に敲打痕がある。522～525は扁平な円礫の平らな両面に敲打痕が認められる。

石錘（図106～109—526～606）

526はⅢ層、527～552はⅣ層、553～606はⅤ層からの出土である。大半が長軸両端に打ち欠きのある錘。551・552・599・603は短軸両端に打ち欠きをもつ。548には打ち欠きを結ぶような擦痕が両面に認められる。

砥石（図110～111―607～624）

607・608はⅢ層、609～614はⅣ層、615～624はⅤ層出土。607・610は片面に砥痕のあるもの。609～612・615～621は両面に砥痕のあるもの。612は石鋸で刃部が直線状になっている。613・614・622～624には砥面に溝が認められる。

すり石（図112～121―625―760）

625～633はⅢ層、634～671はⅣ層、672～742はⅤ層出土。Ⅲ層：625～628・631～632は断面が隅丸三角形の礫の稜を擦ったもの。625～628には擦面が1か所、631・632には2か所ある。629・630は扁平な礫の側縁を擦ったもの。擦幅はせまく、1か所。633は扁平な円礫の平担な面を擦面としている。

Ⅳ層：634～668は断面が隅丸三角形の礫の稜を擦ったもの。634～660には1か所、661～667には2か所、668には3か所の擦面がある。669は礫の稜ではなく、平担な面を擦ったもので、擦面は2か所ある。670は扁平な礫の側縁に擦面があり、平担な面にも一部擦った痕が認められる。671は扁平な円礫の平担な面に擦面があり、側縁の一部にも擦った痕がある。

Ⅴ層：672～742は断面が隅丸三角形の礫の稜を擦ったもの。672～730には擦面が1か所、731～741には2か所、742には3か所ある。758～760は出土層位不明。いわゆる北海道式石冠で敲打により握り部が作り出され，幅広の擦面をもつ。

石皿（図122～124―761～774）

761はⅢ層、762～766はⅣ層、767～773はⅤ層出土。761は長軸が66cmある大きな礫で、平担面に擦面がある。使用面は円錐状のくぼみになっている。762・764～766・768・769・771は板状の礫の平担面に使用面がある。762・766・771は片面、764・765・768・769は両面に使用面がある。763・767・772～774は扁平な円礫ないし、その破片に使用面のあるもの。763・676・772・774は片面、773は両面に使用面がある。770は角柱状の礫の一面に使用面がある。

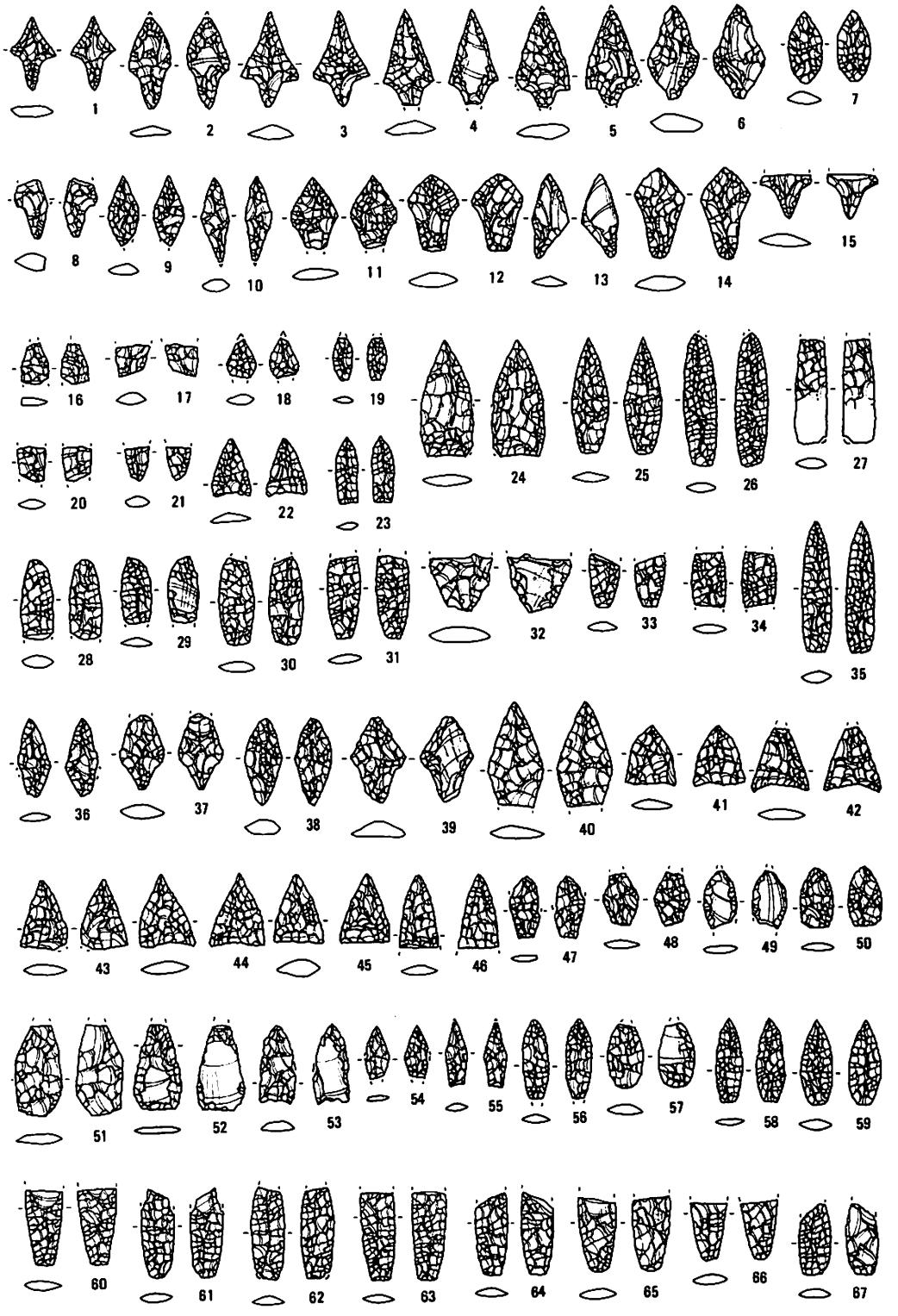


図80　A地点出土の石鏃

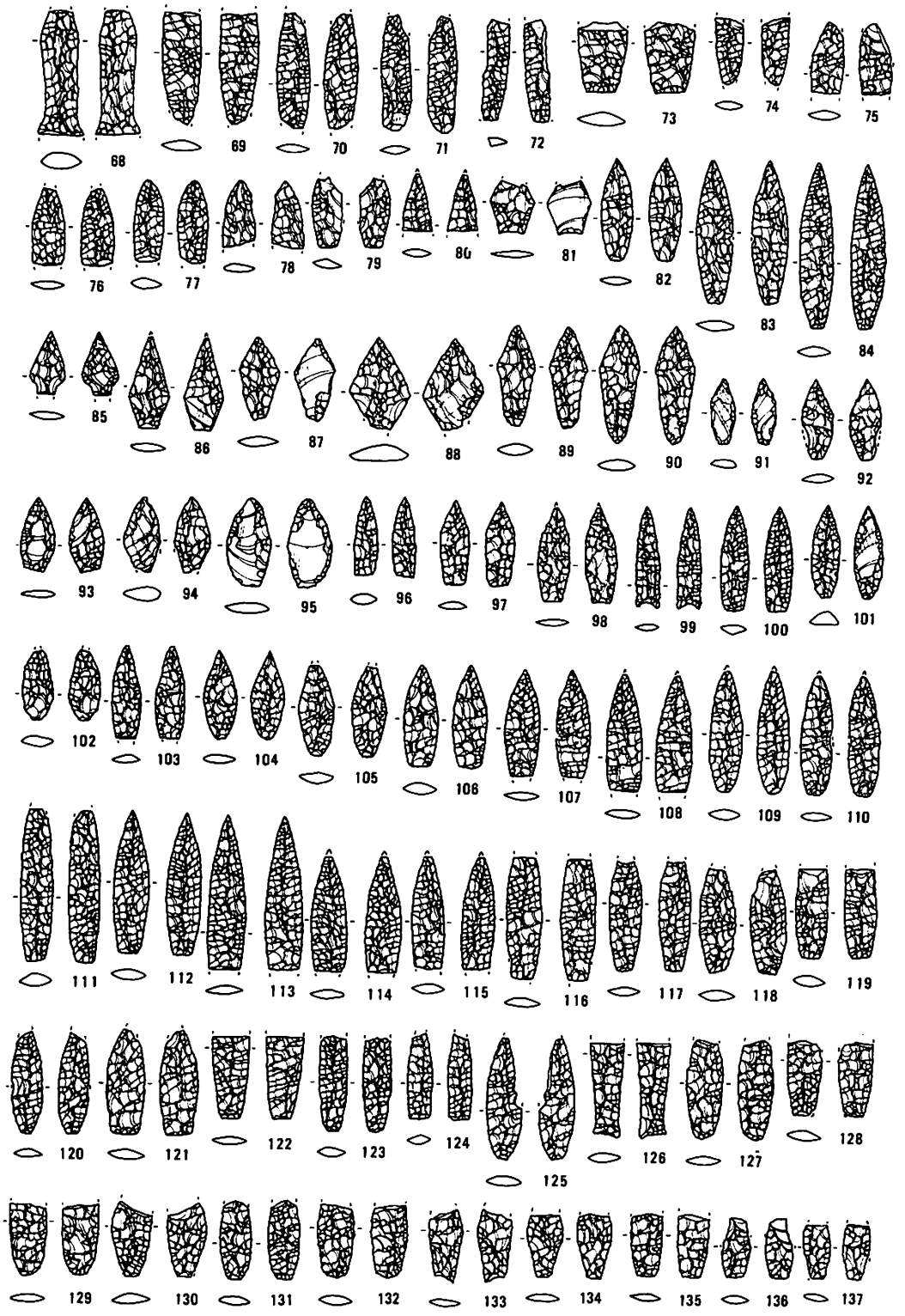


図81　A地点出土の石鏃

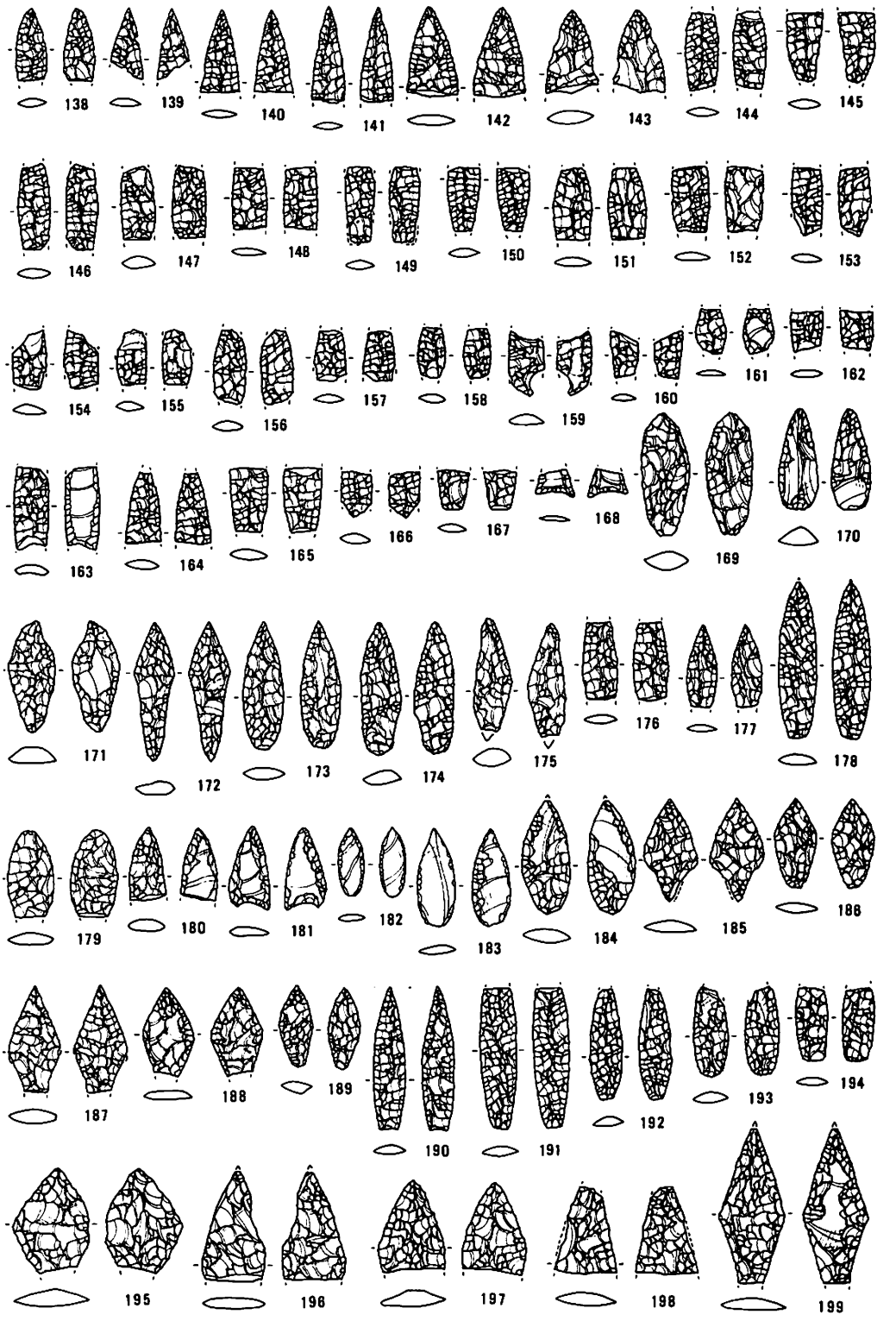


図82　A地点出土の石鏃

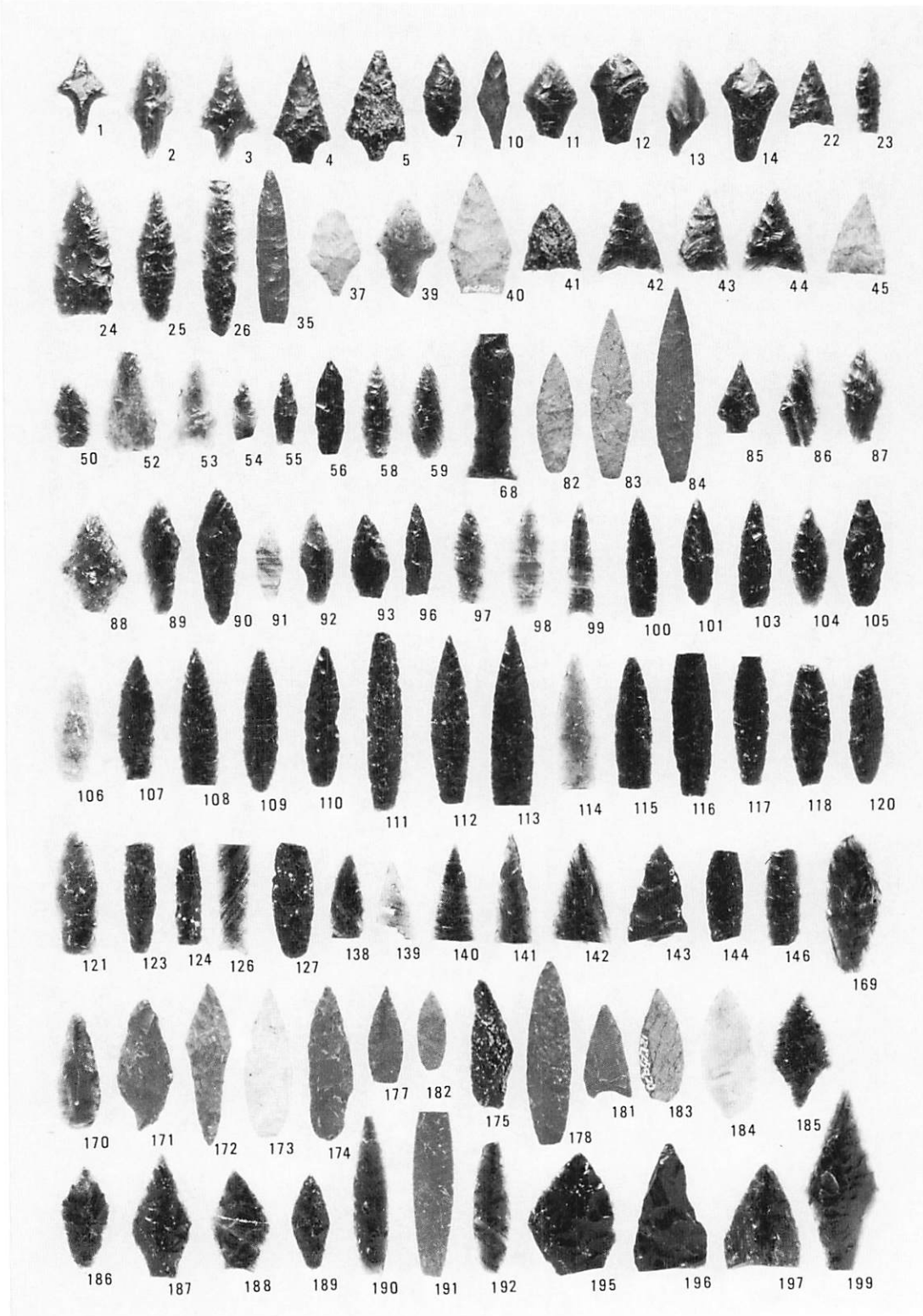


図83　A地点出土の石鏃

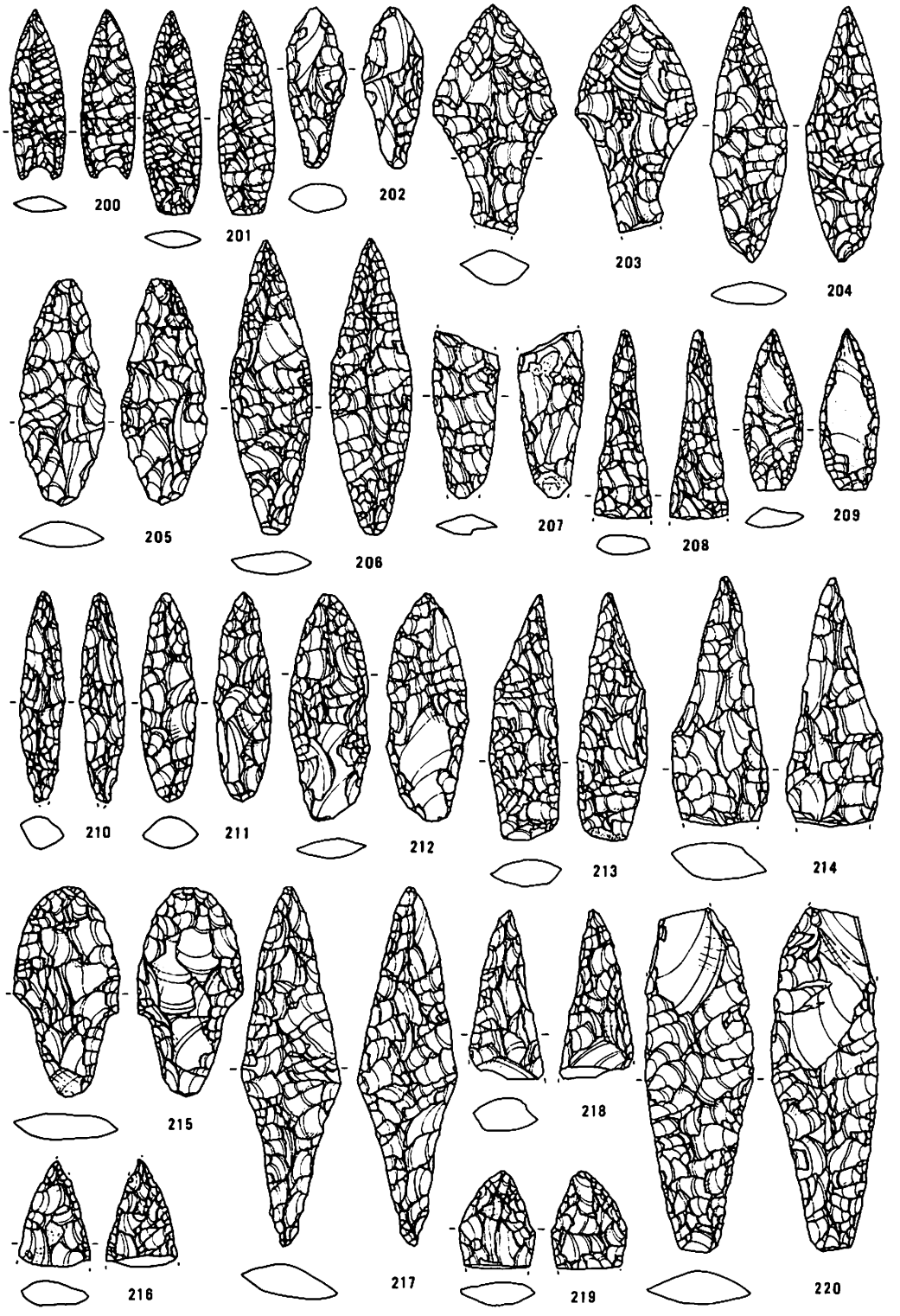


図84　A地点出土の石槍

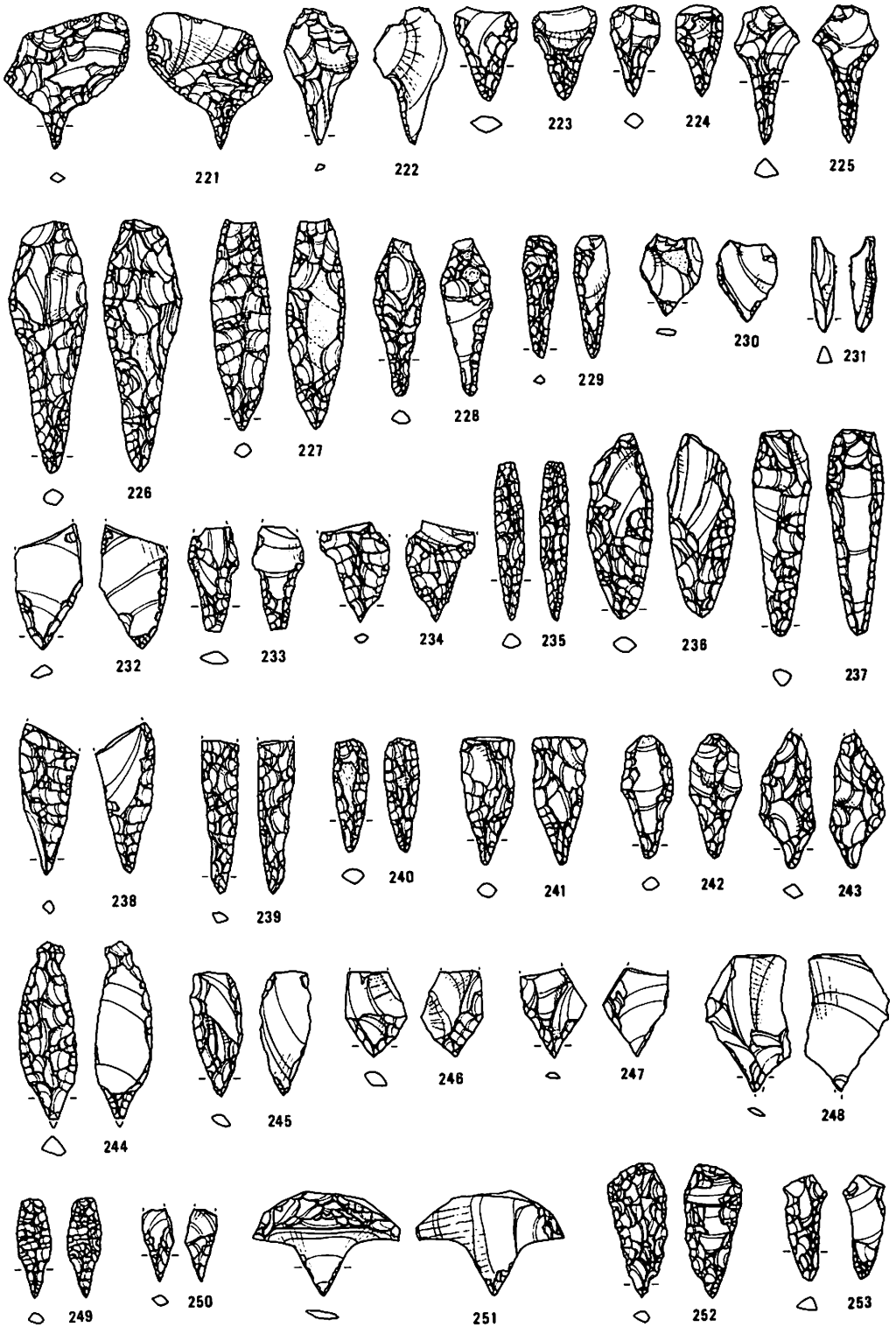


図85　A地点出土の石錐

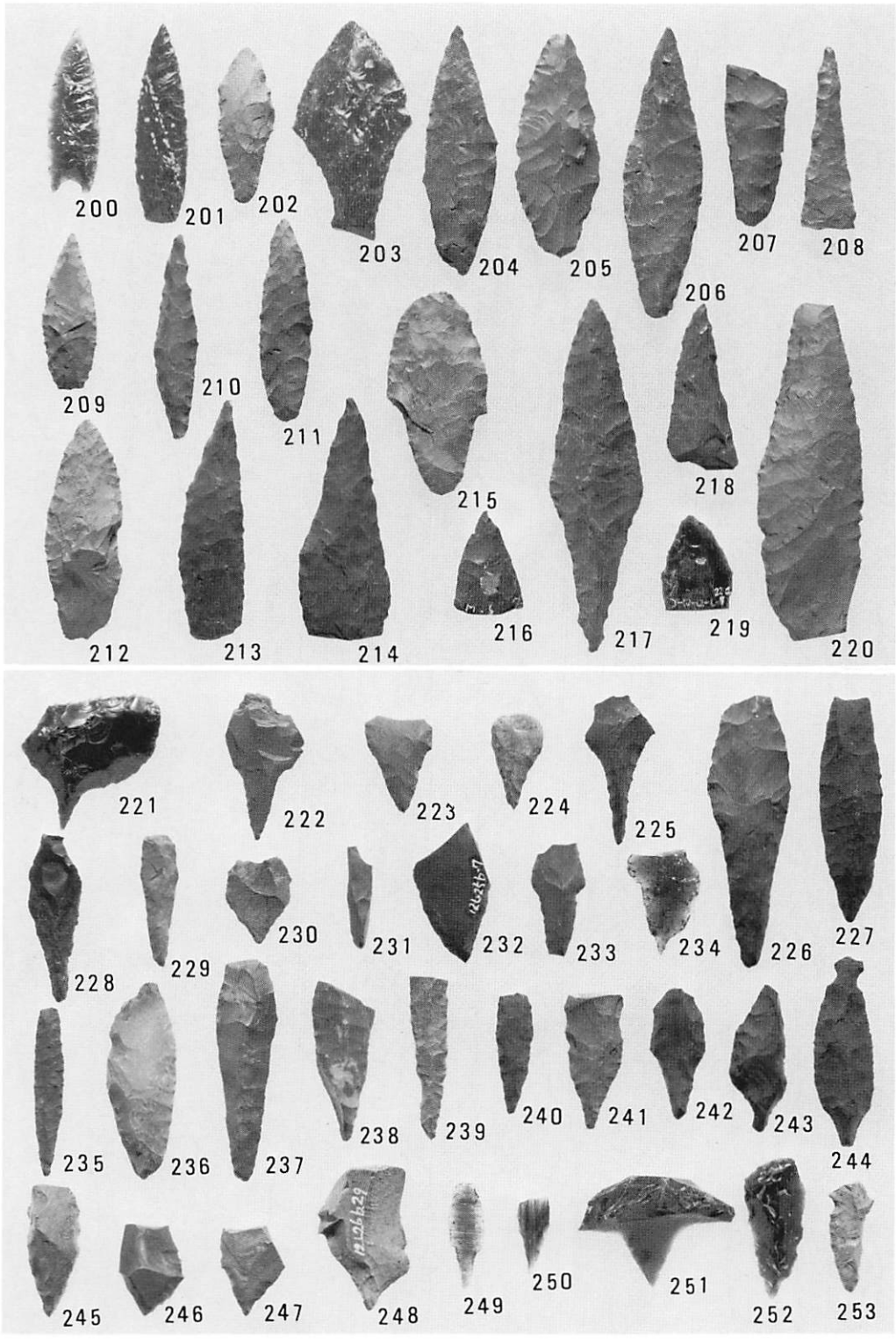


図86　A地点出土の石槍・石錐

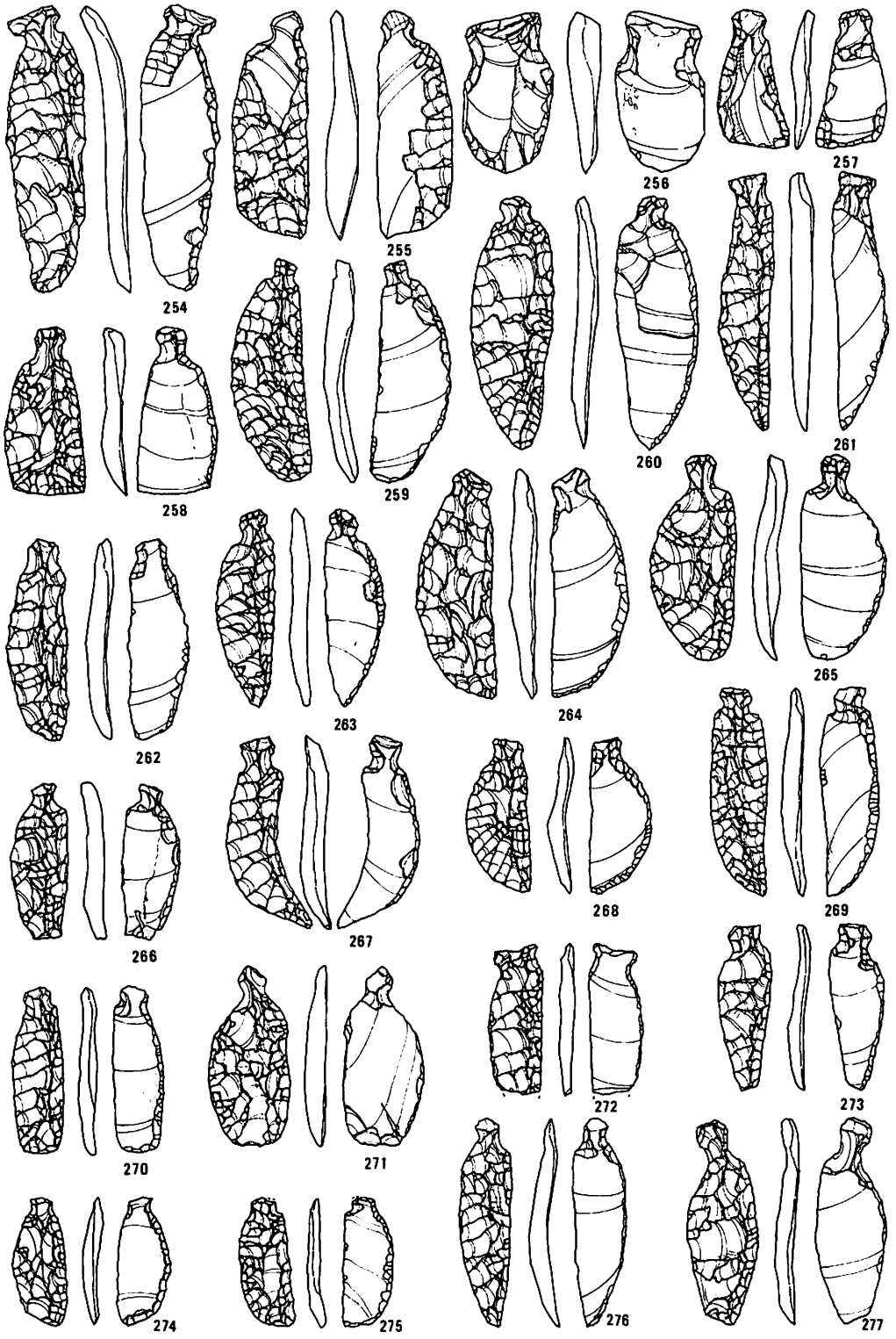


図87　A地点出土のつまみ付きナイフ

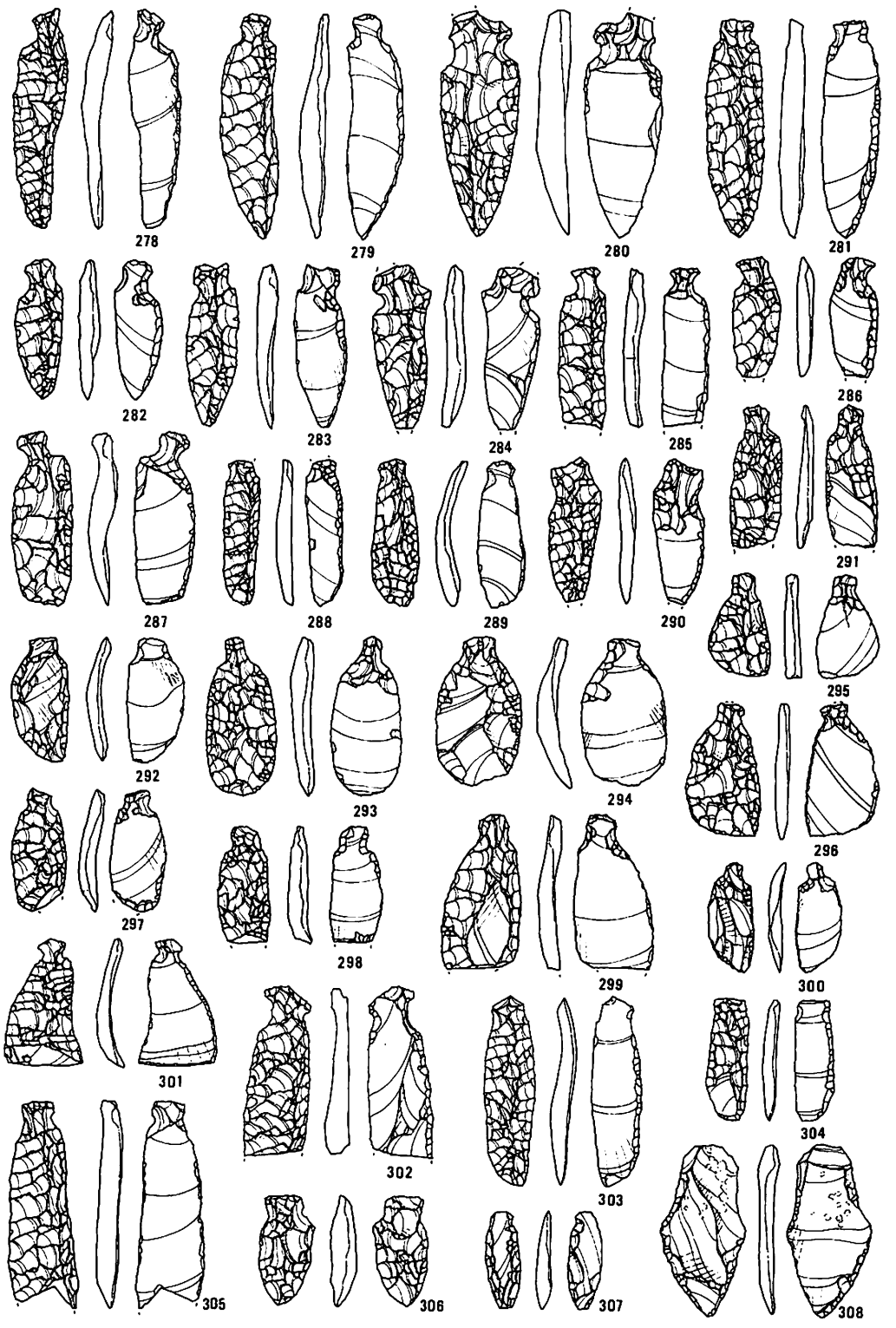


図88　A地点出土のつまみ付きナイフ

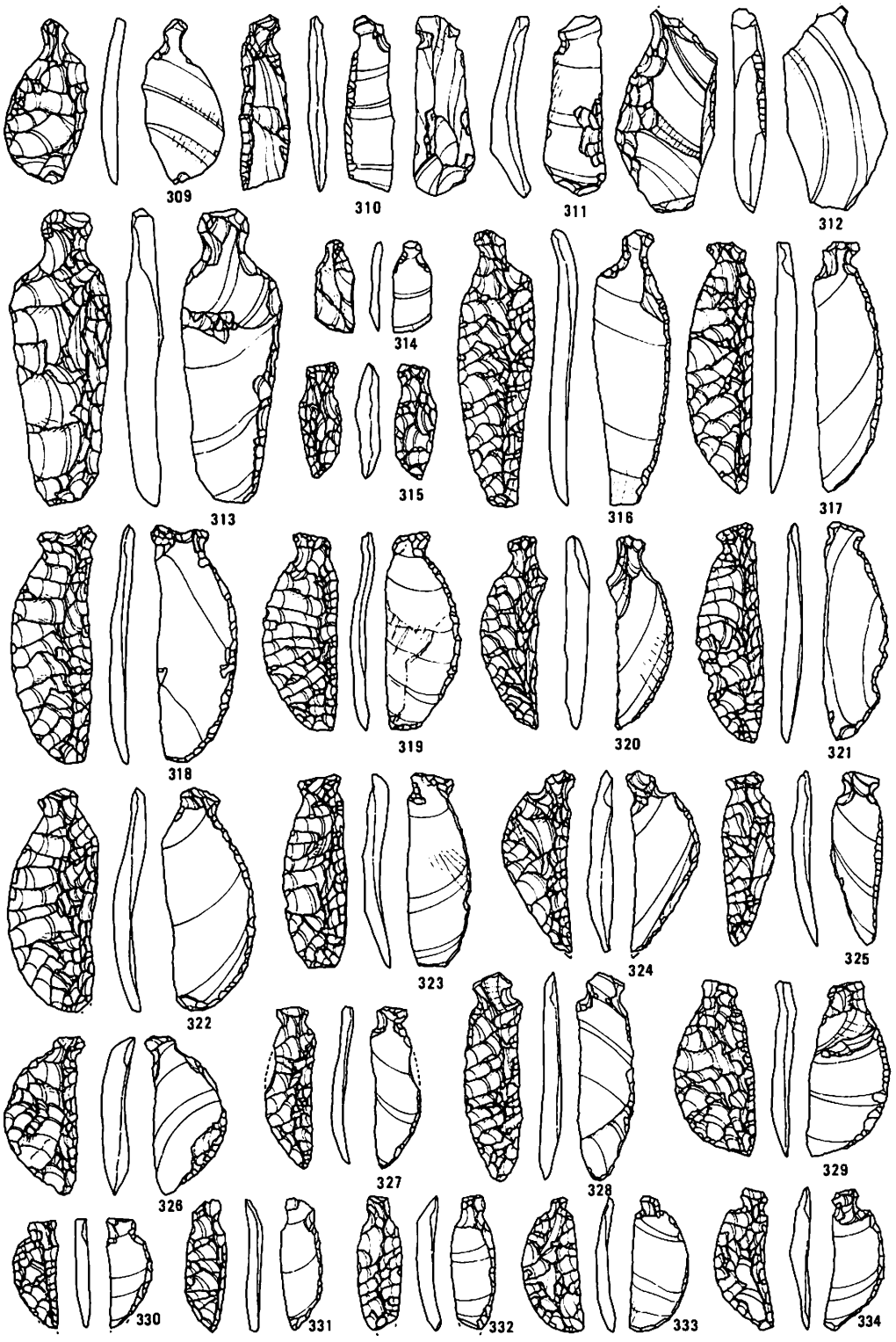


図89　A地点出土のつまみ付きナイフ

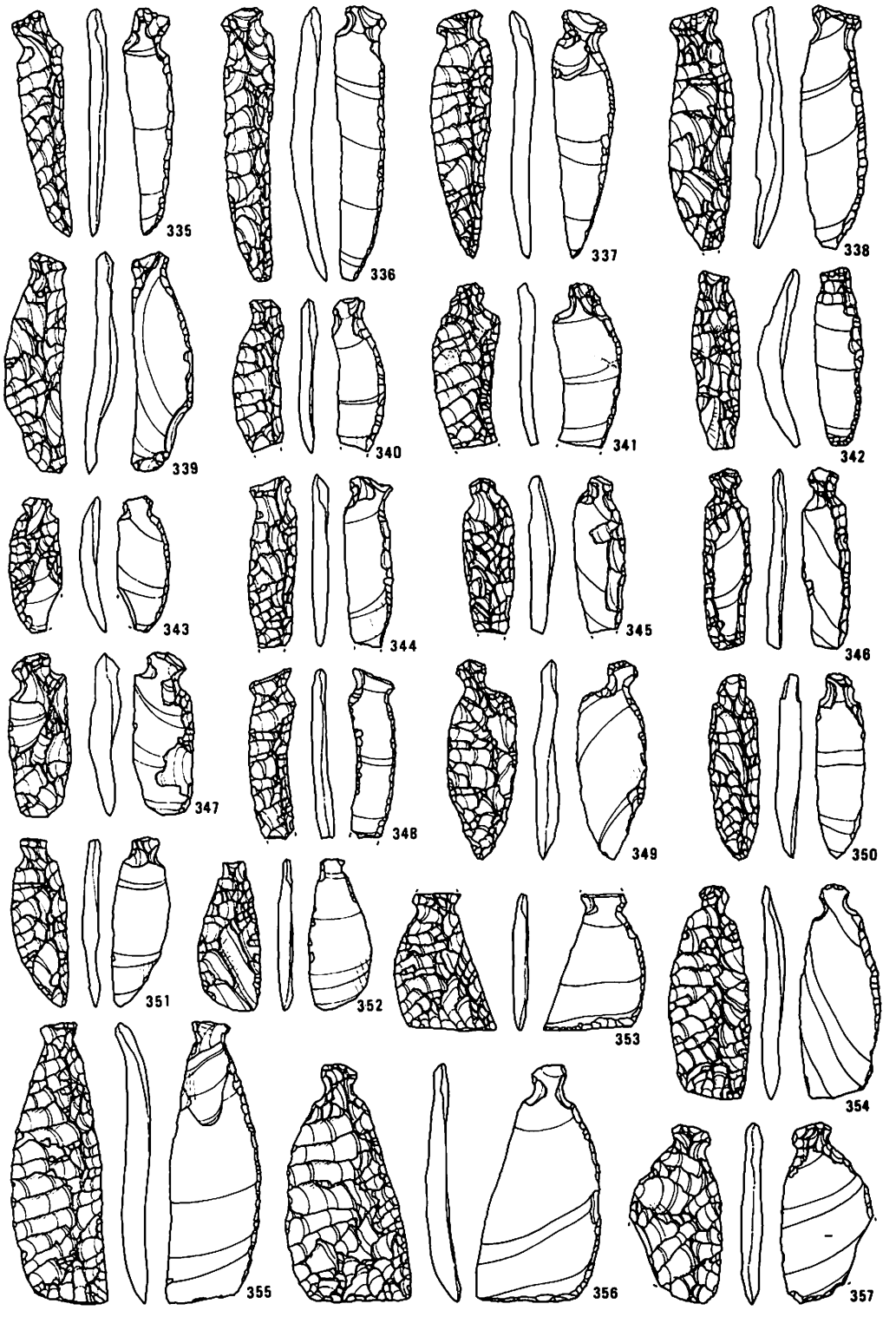


図90　A地点出土のつまみ付きナイフ

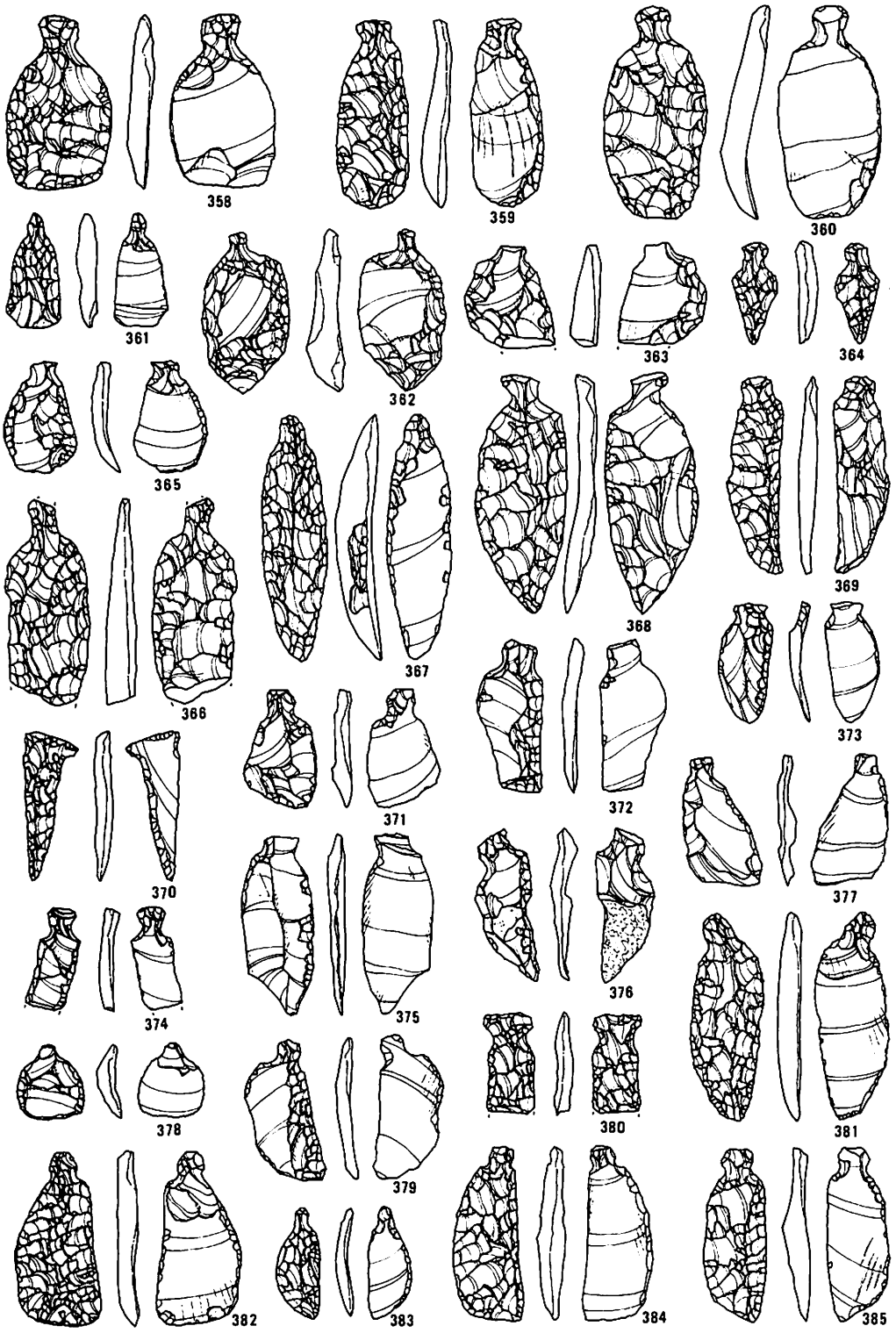


図91　A地点出土のつまみ付きナイフ

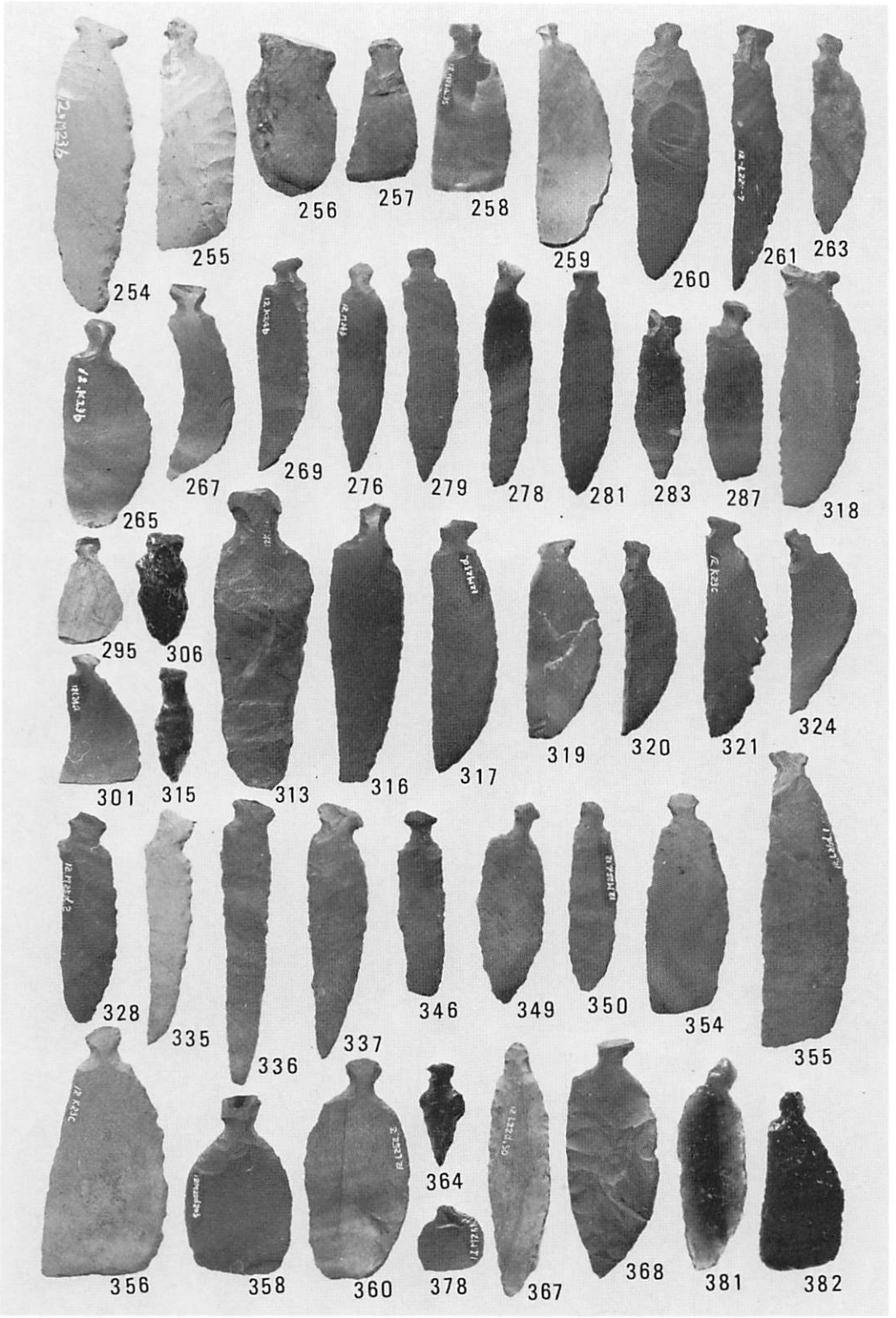


図92　A地点出土のつまみ付きナイフ

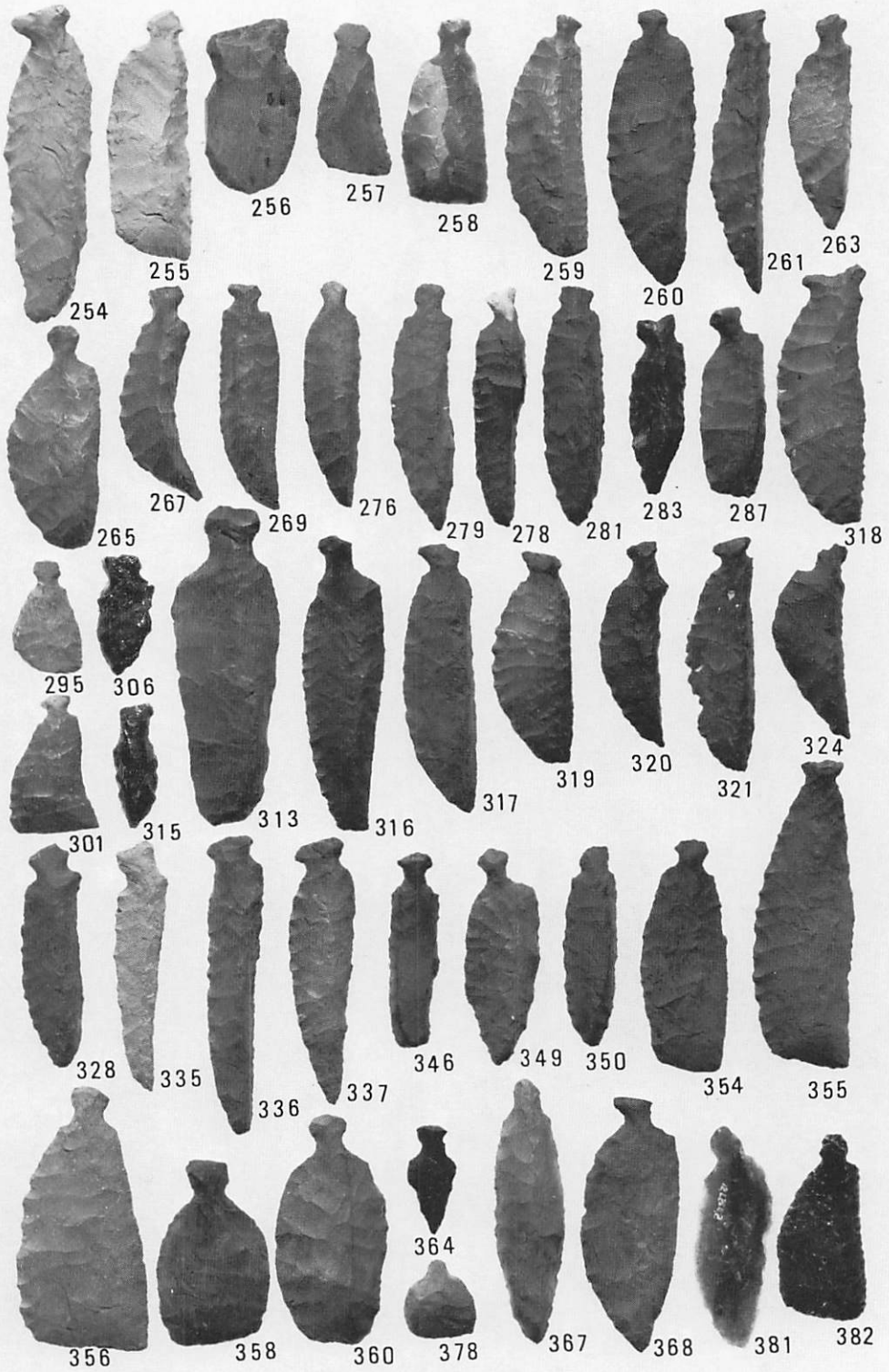


図93　A地点出土のつまみ付きナイフ

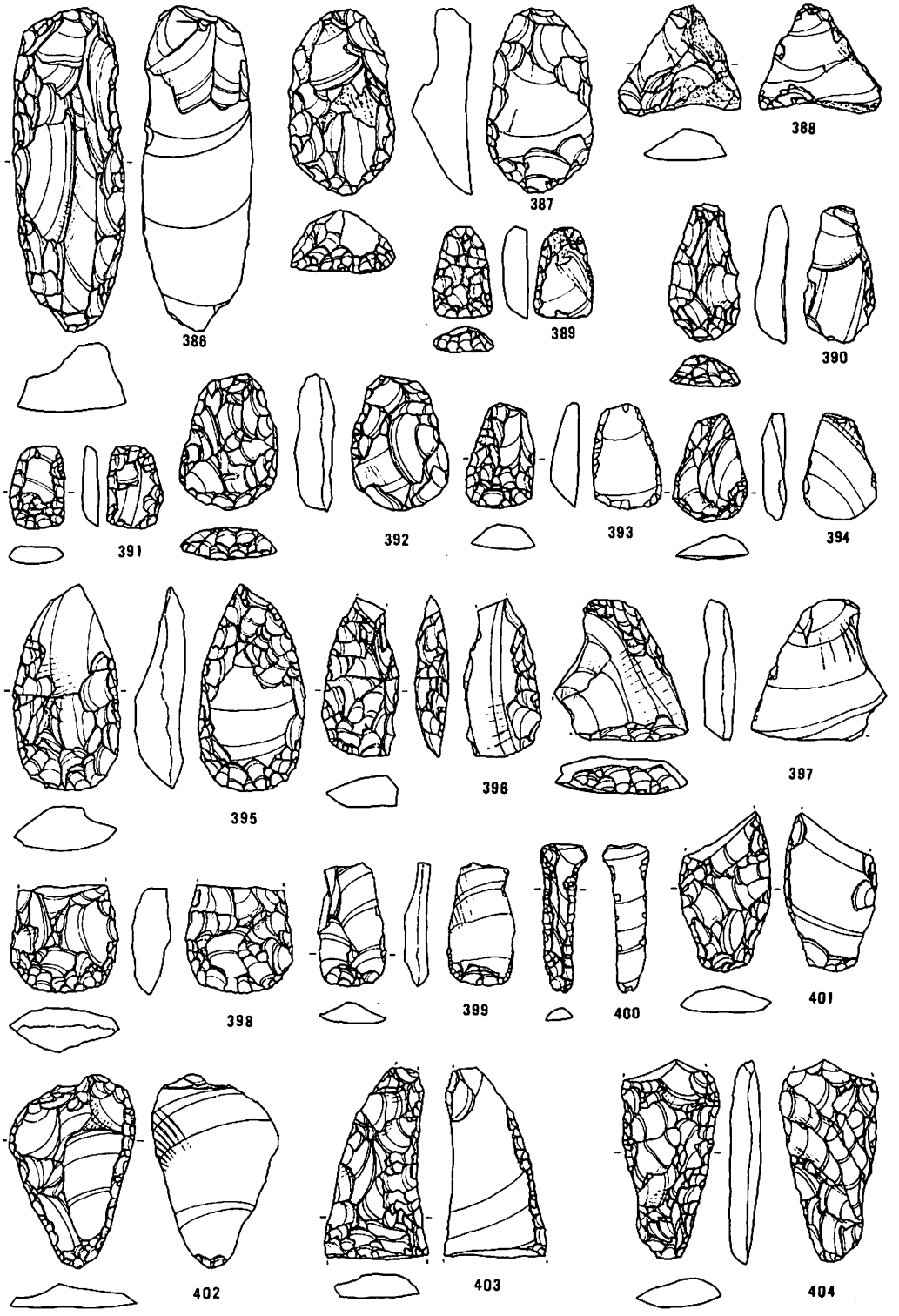


図94　A地点出土のスクレイパー

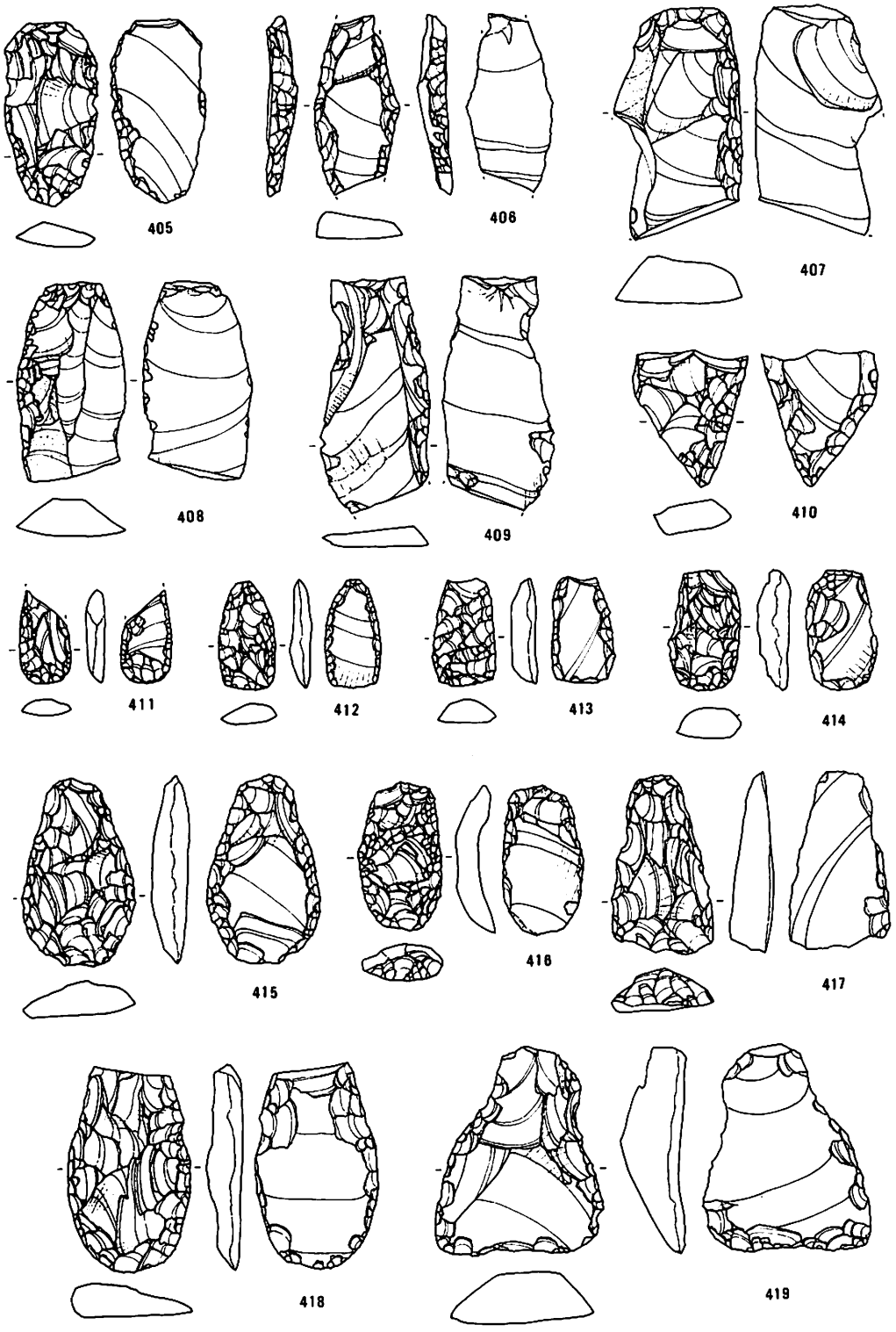


図95　A地点出土のスクレイパー

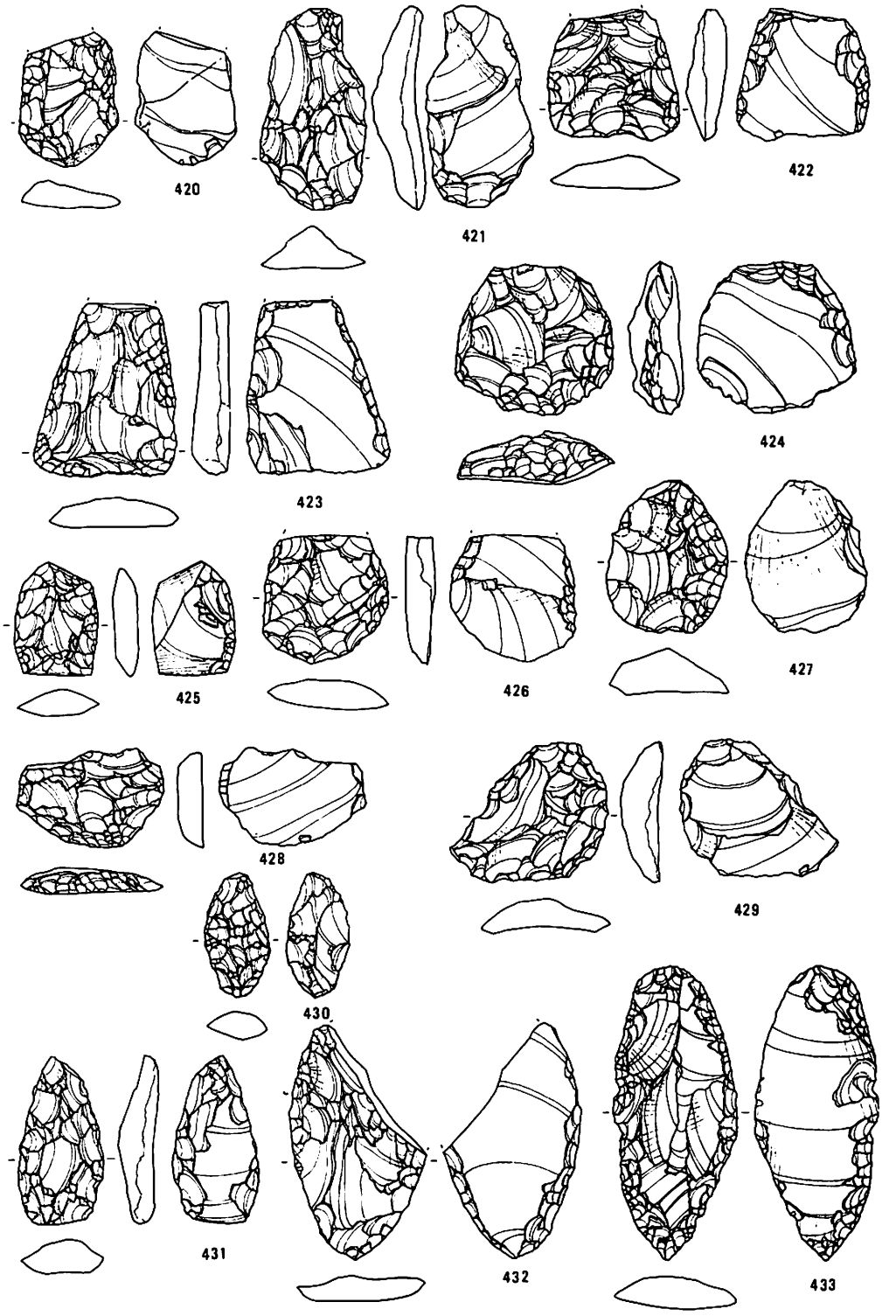


図96　A地点出土のスクレイパー

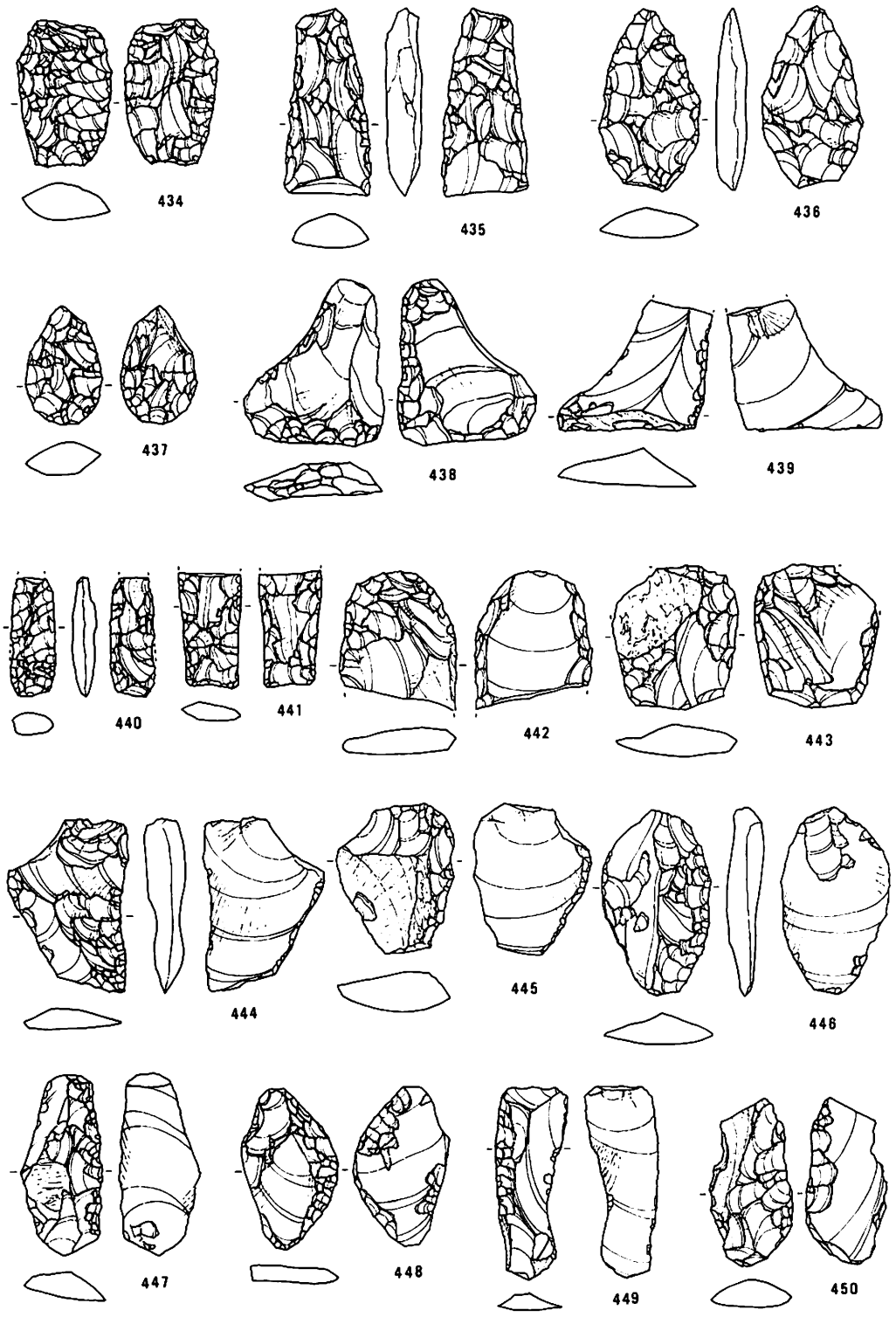


図97　A地点出土のスクレイパー

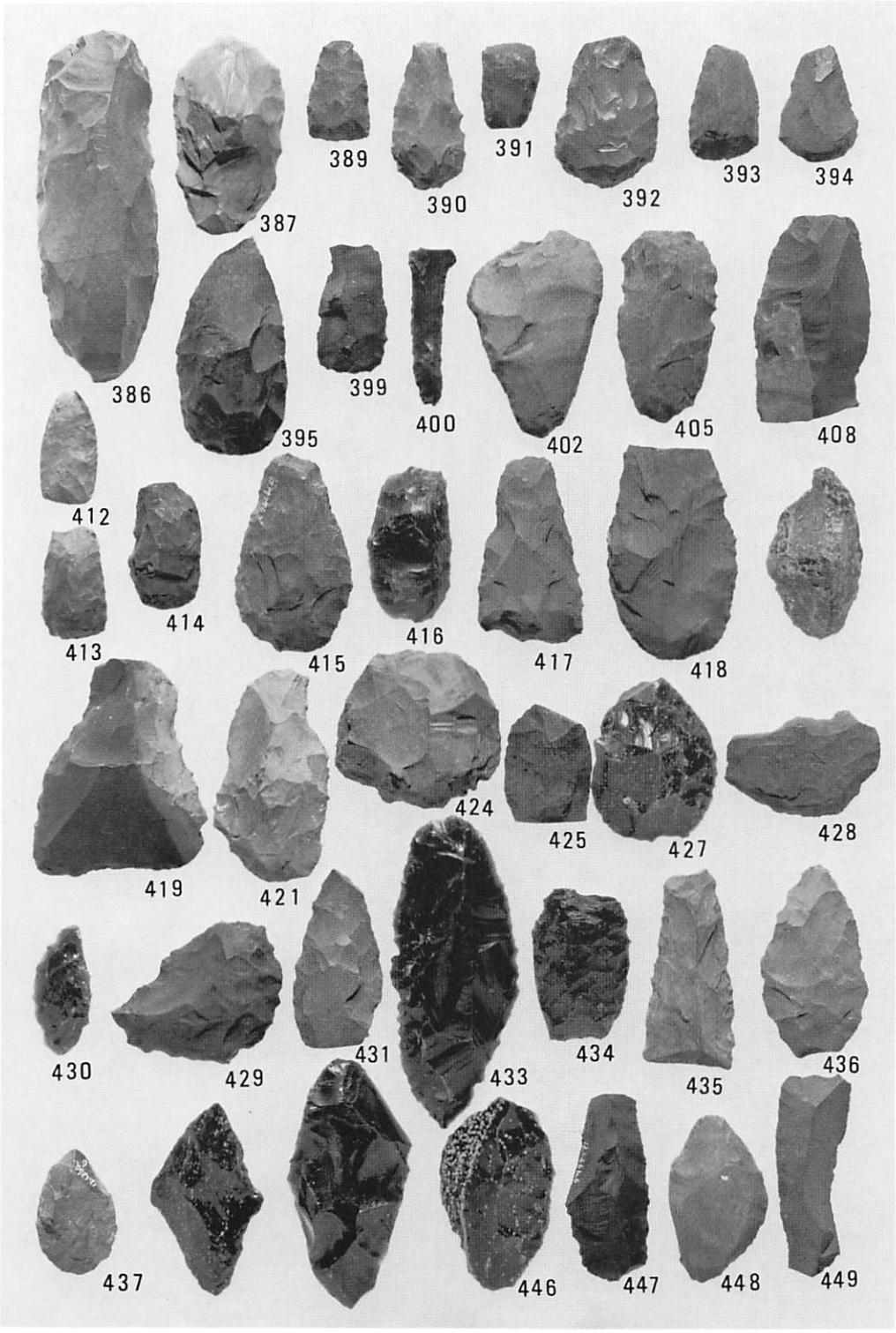


図98　A地点出土のスクレイパー

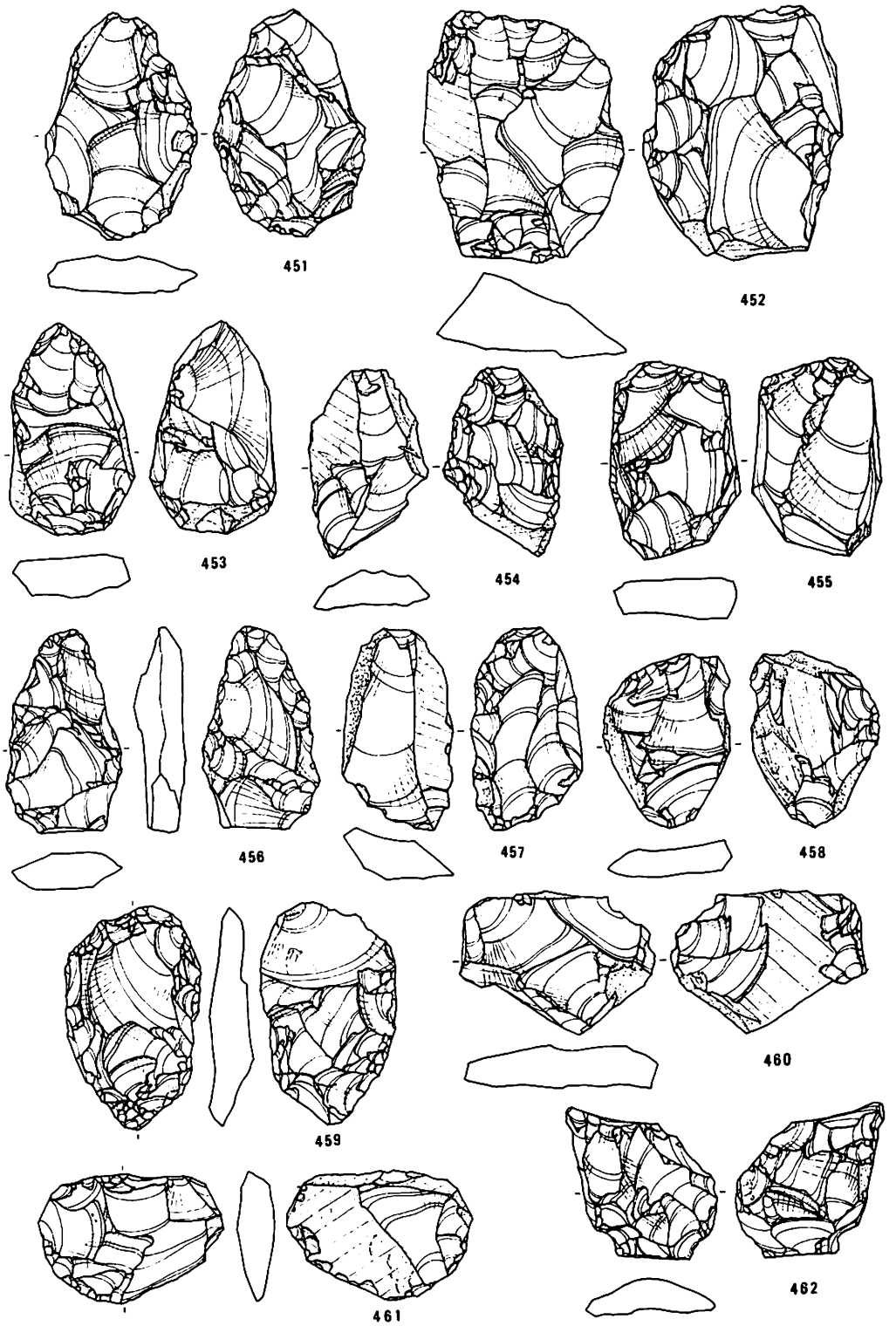


図99　A地点出土の石核

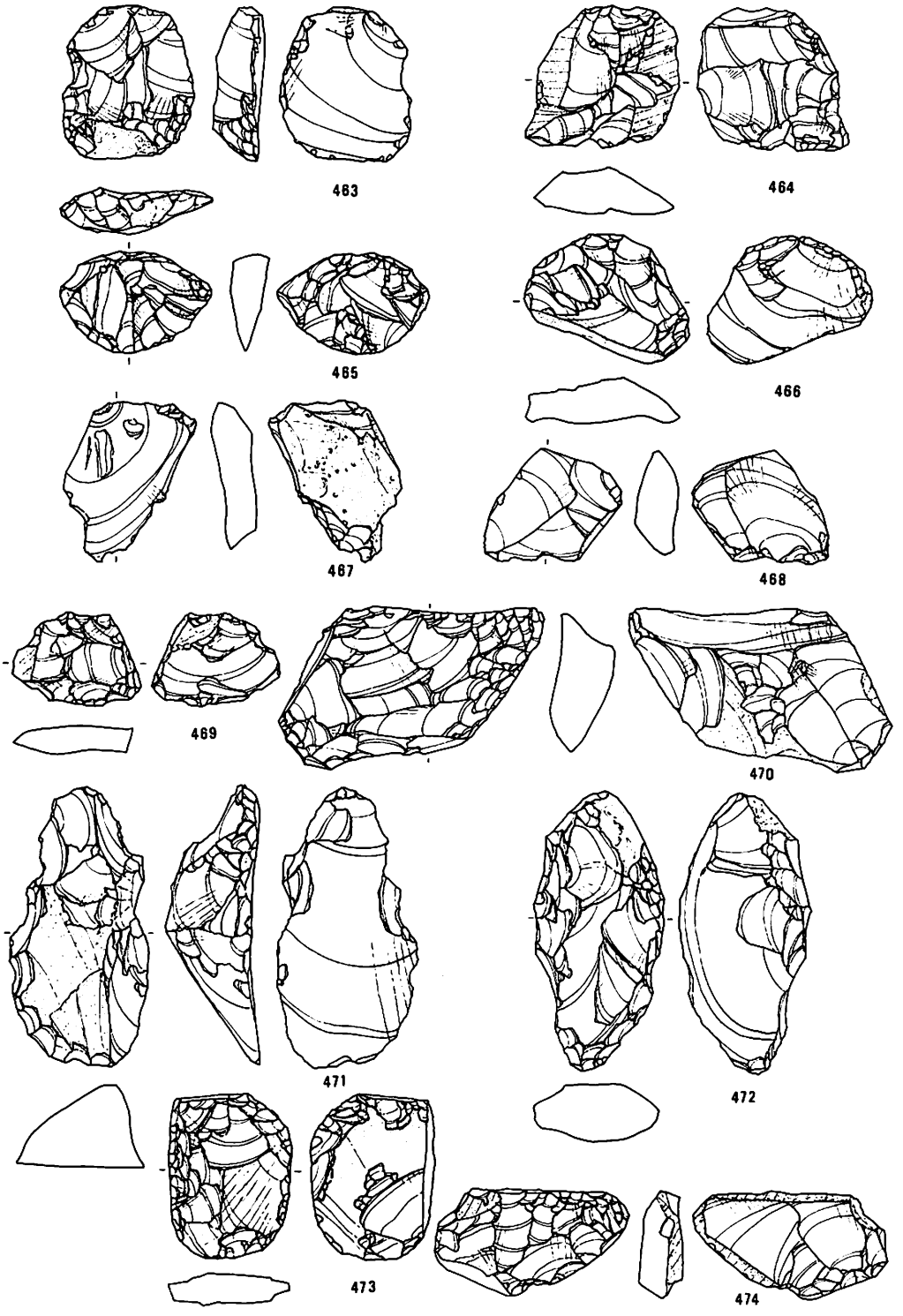


図100　A地点出土の石核

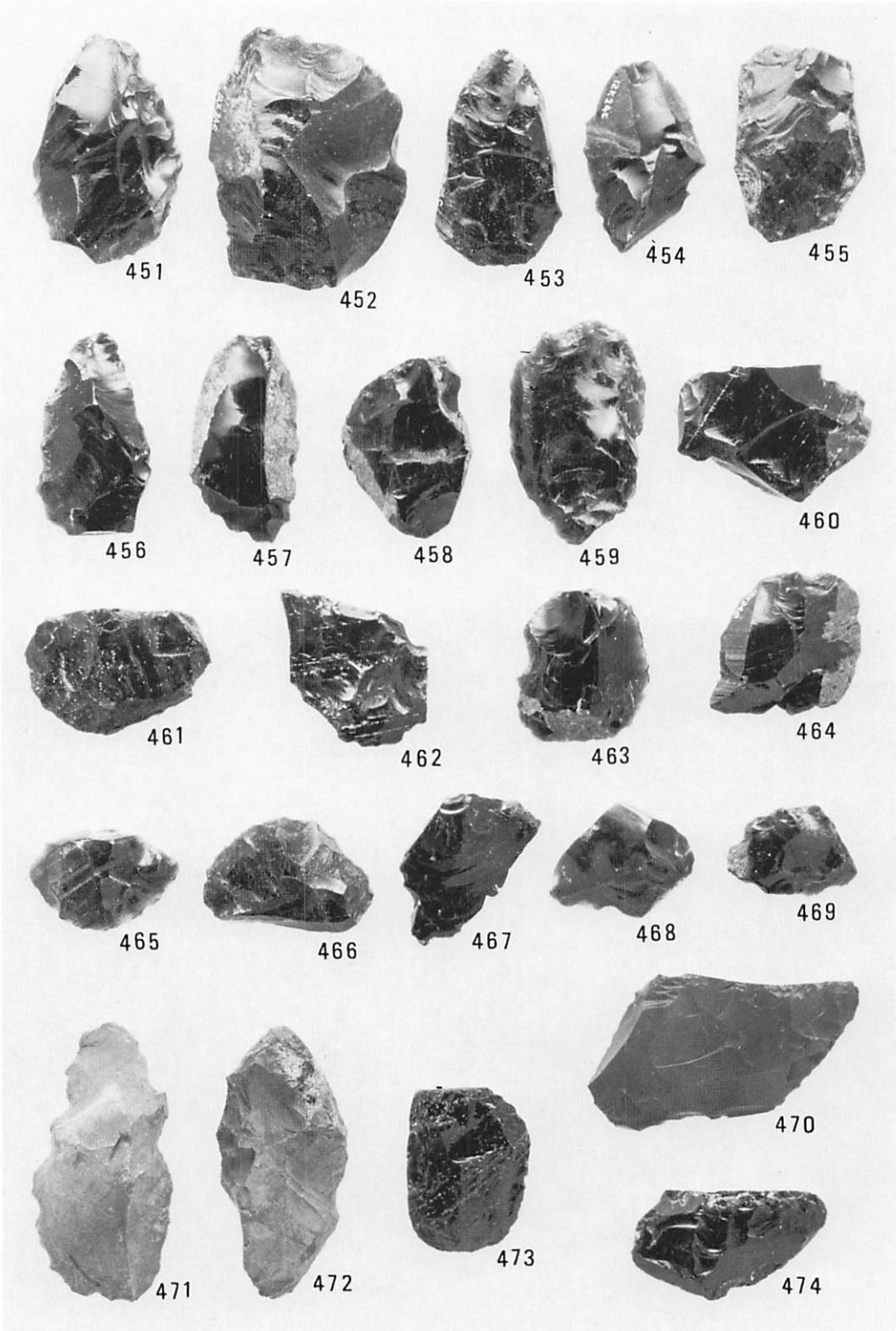


図101　A地点出土の石核

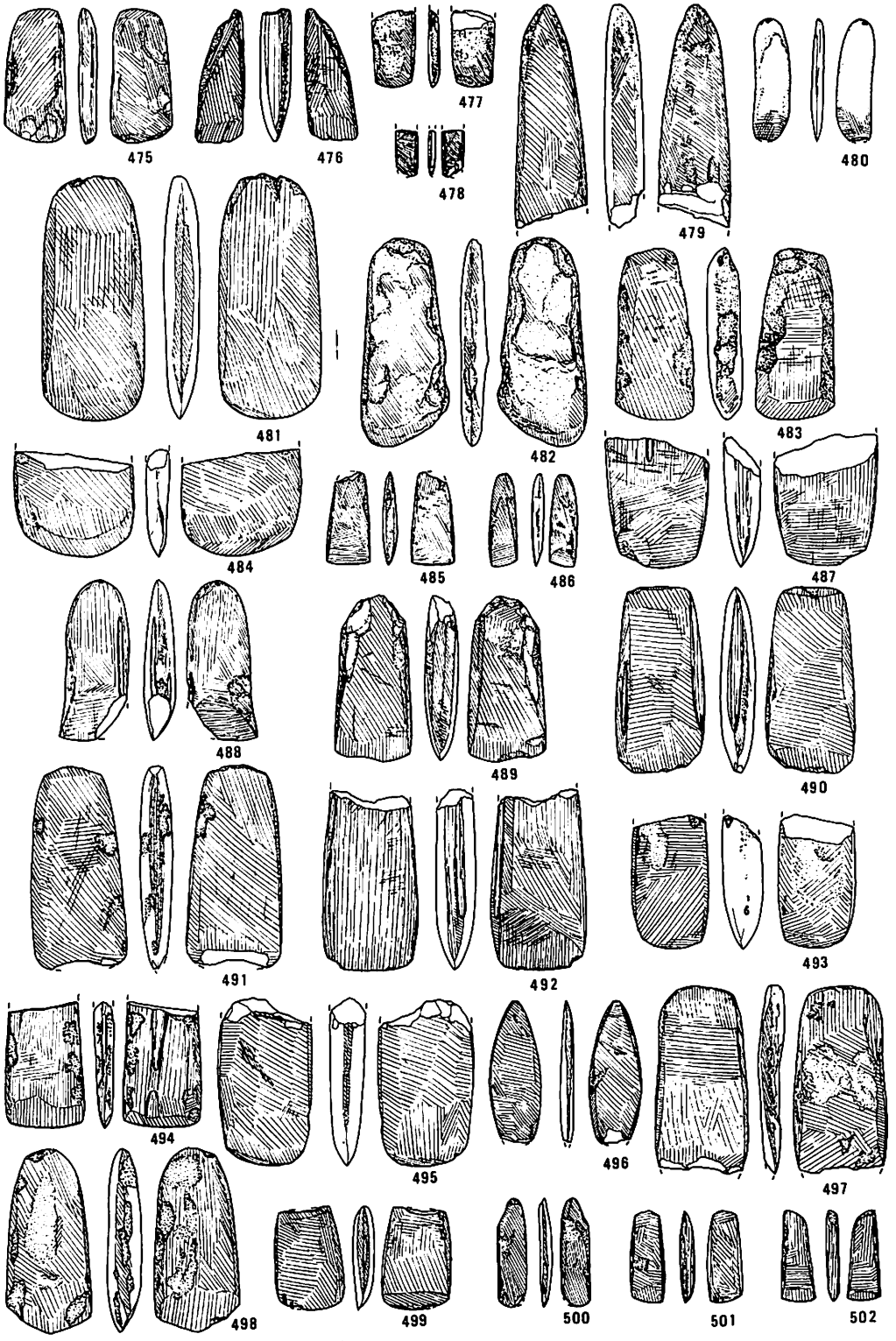


図102　A地点出土の石斧

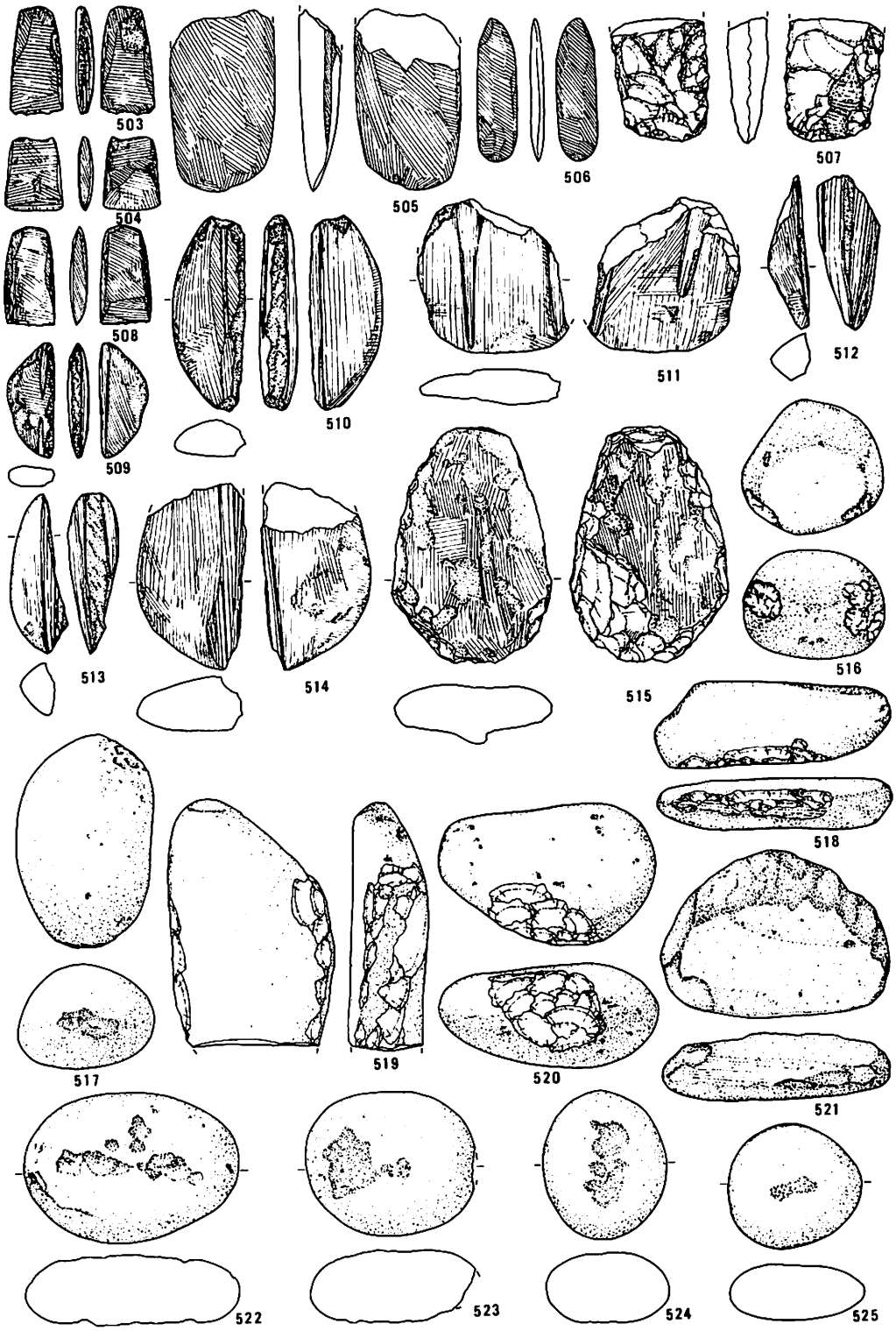


図103　A地点出土の石斧・たたき石

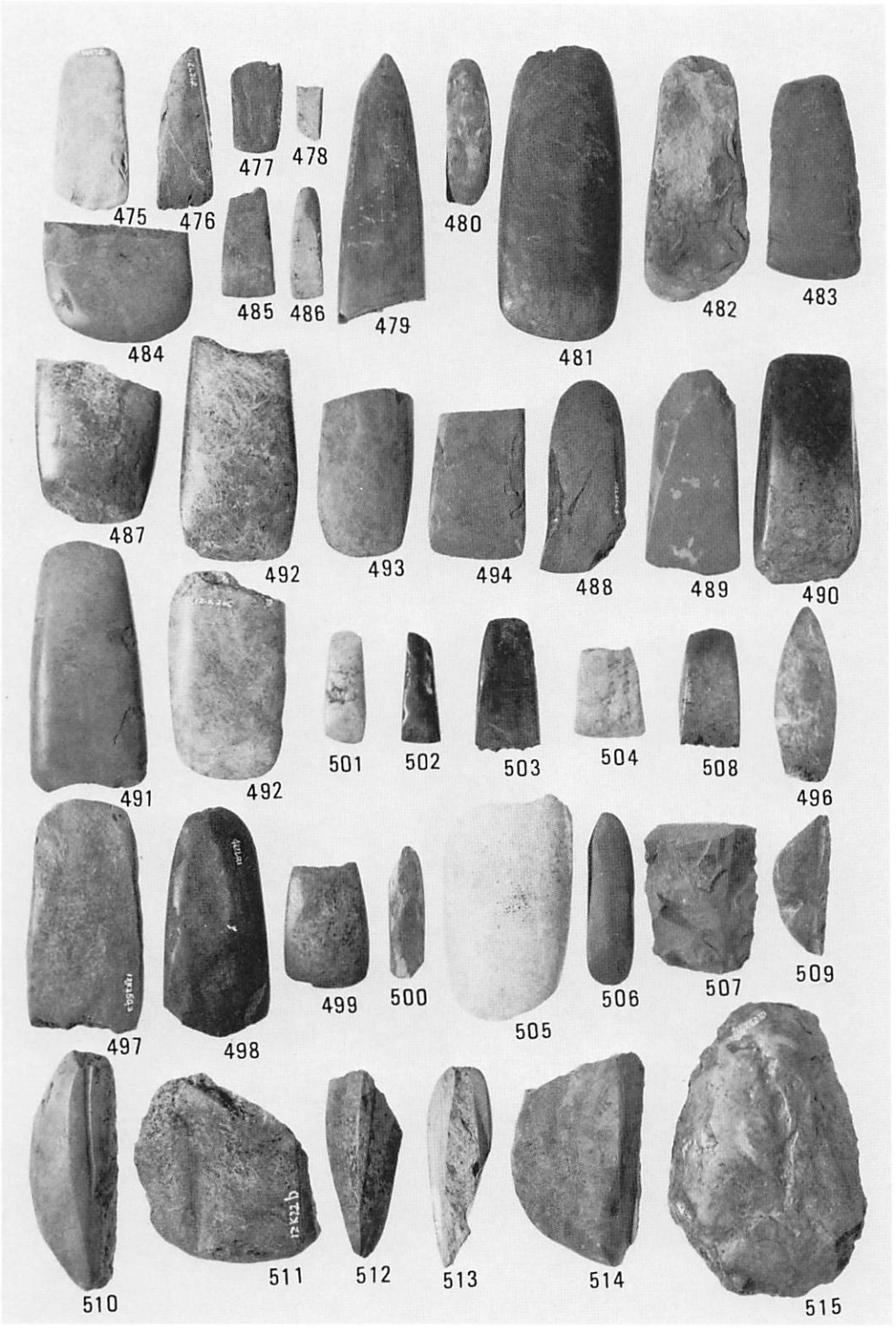
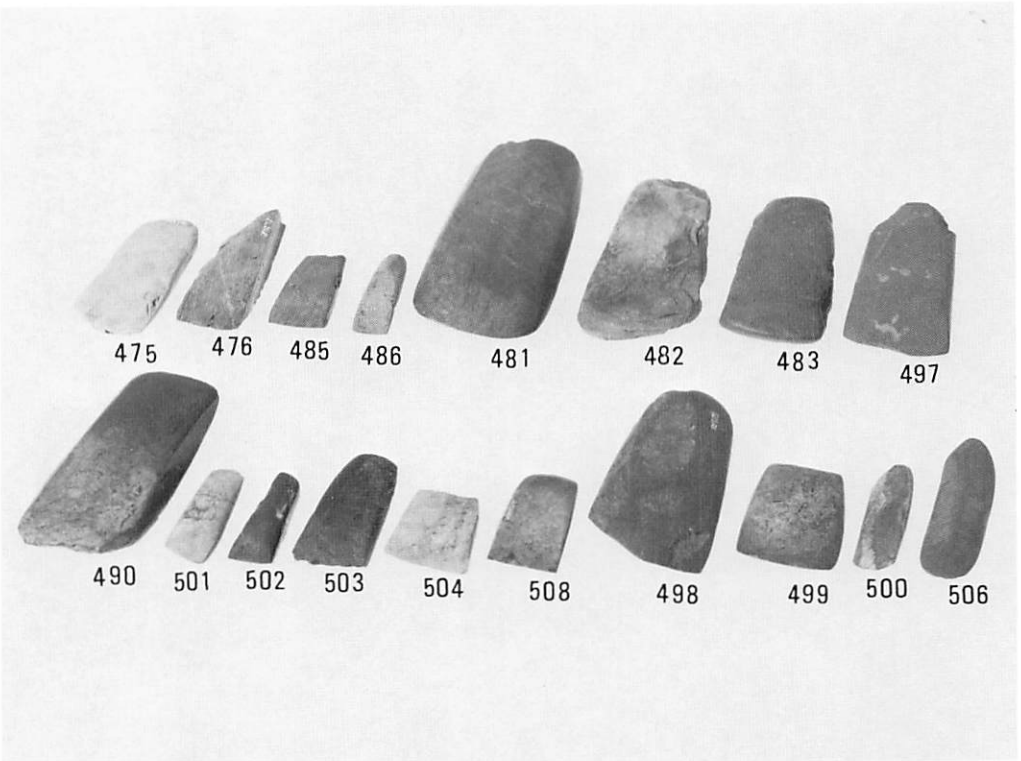


図104　A地点出土の石斧



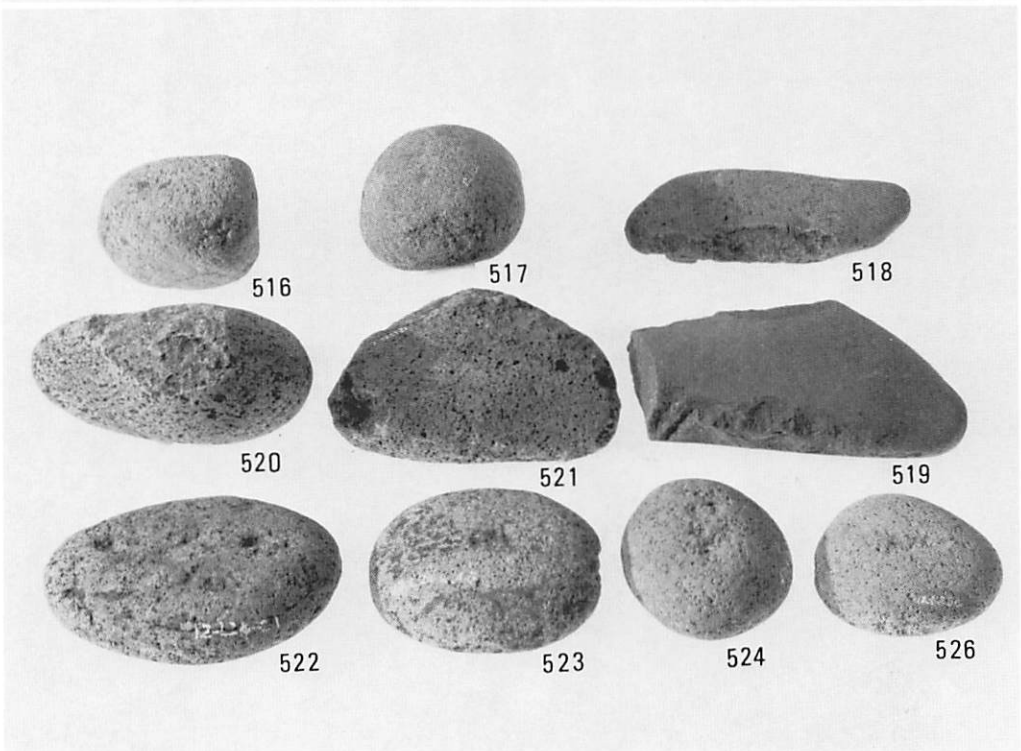


図105　A地点出土の石斧・たたき石

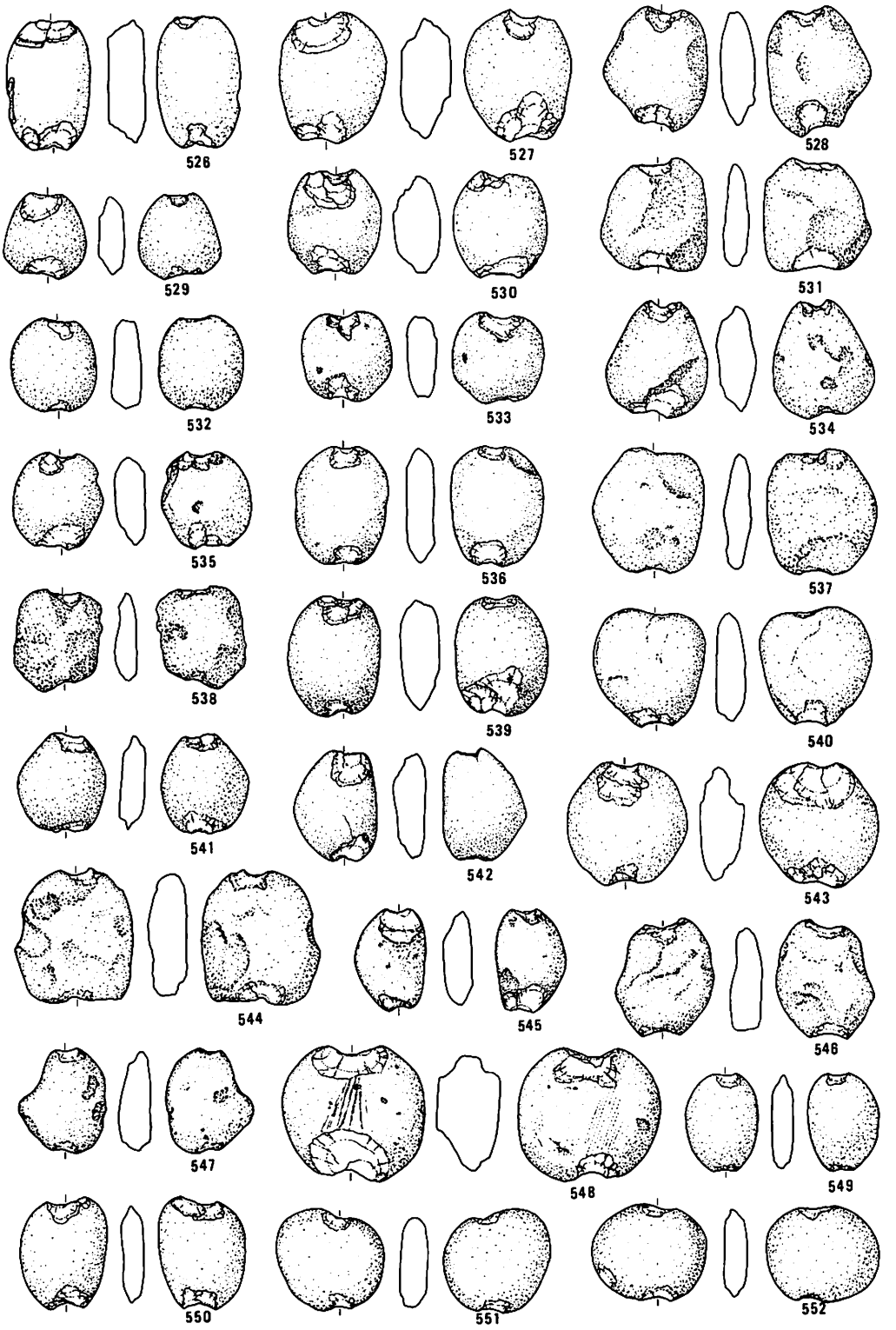


図106　A地点出土の石錘

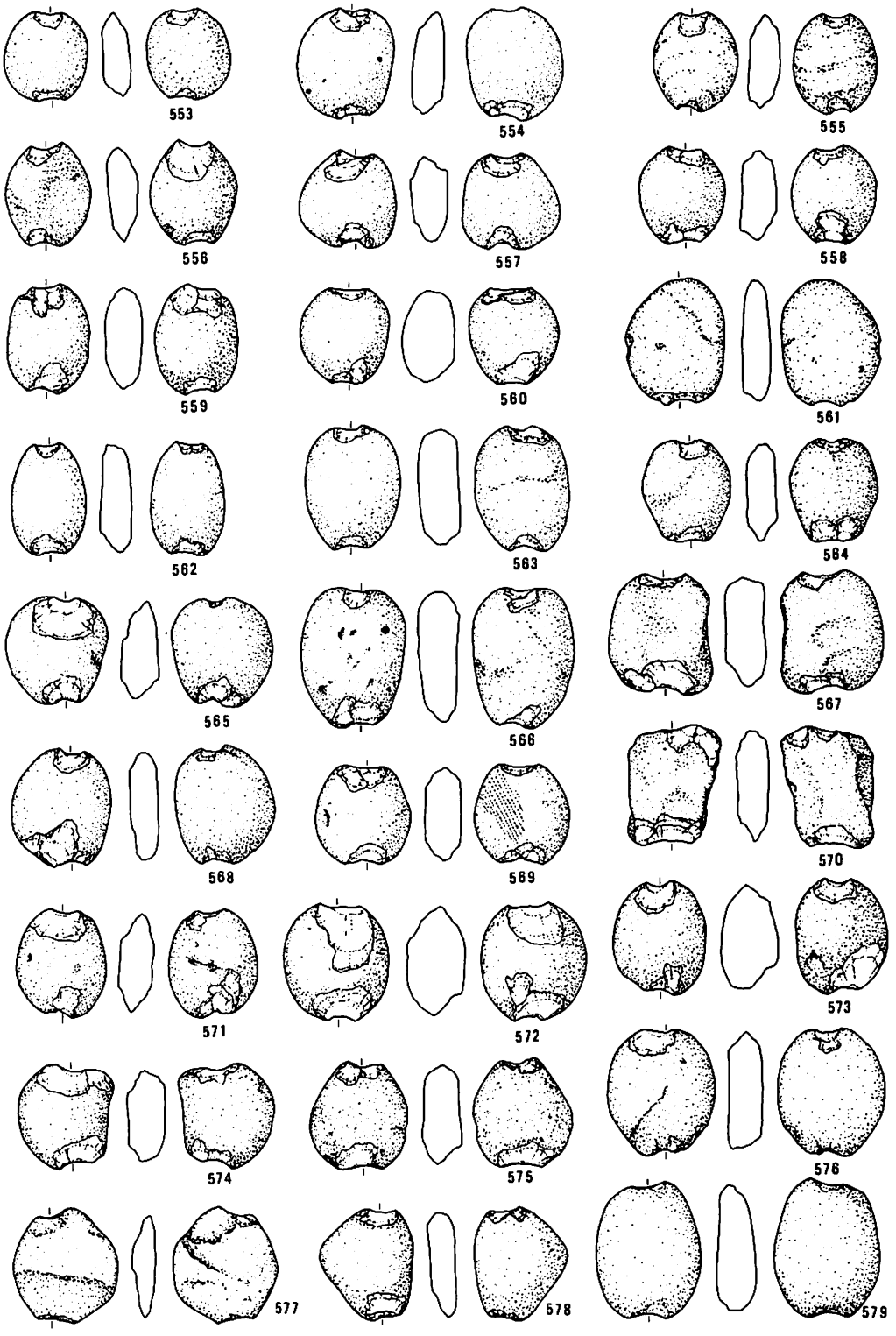


図107　A地点出土の石錘

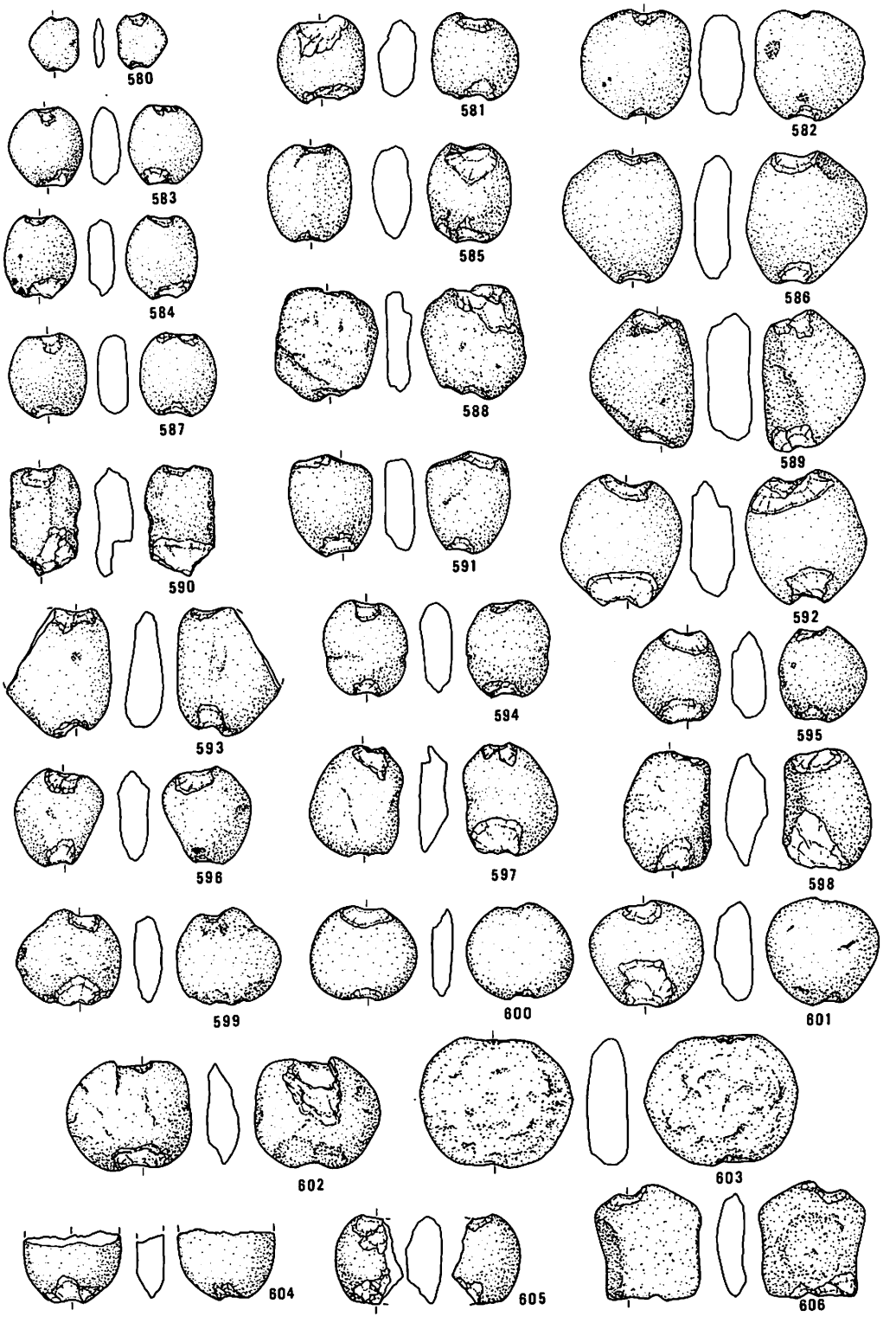


図108　A地点出土の石錘

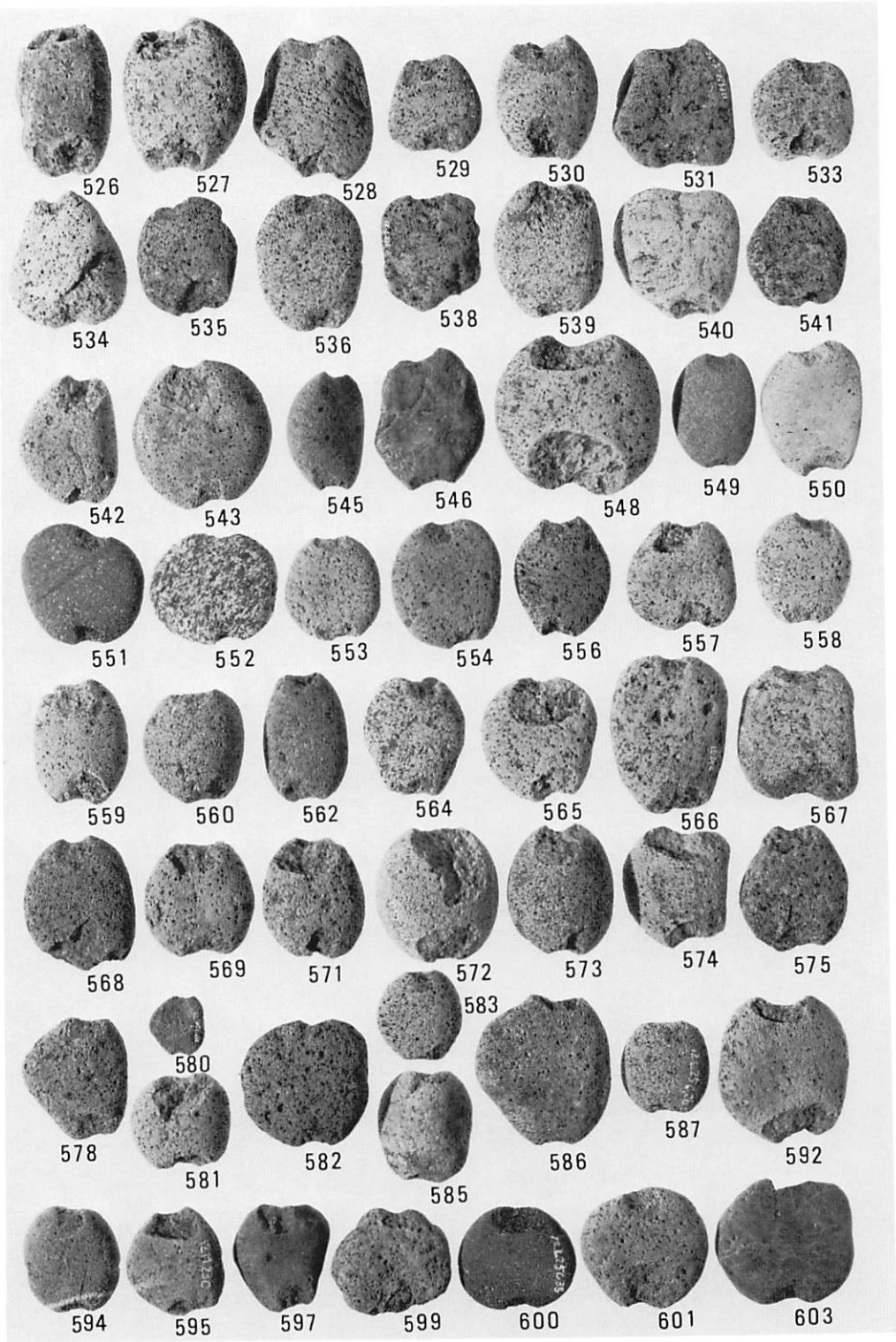


図109　A地点出土の石錘

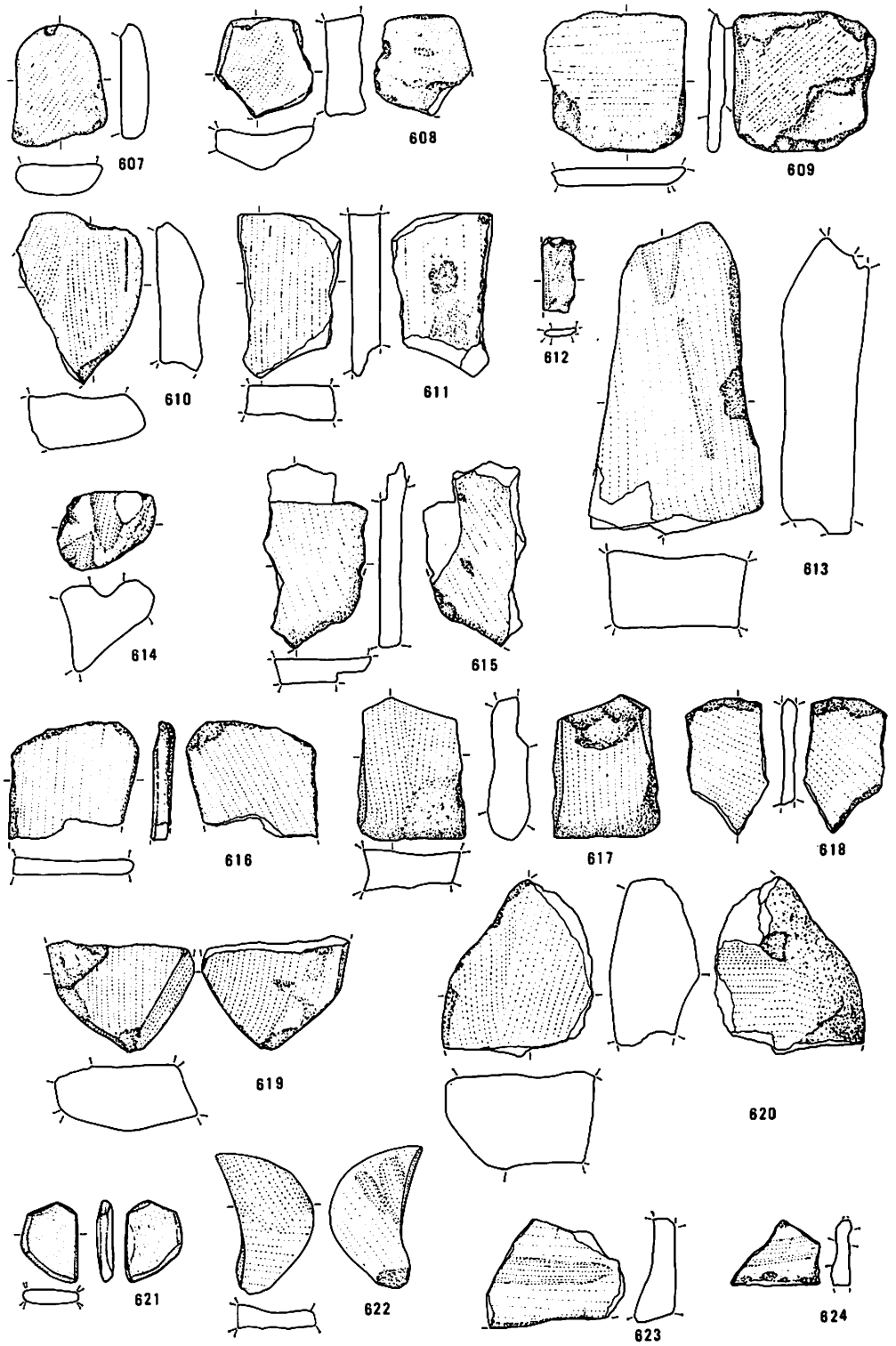
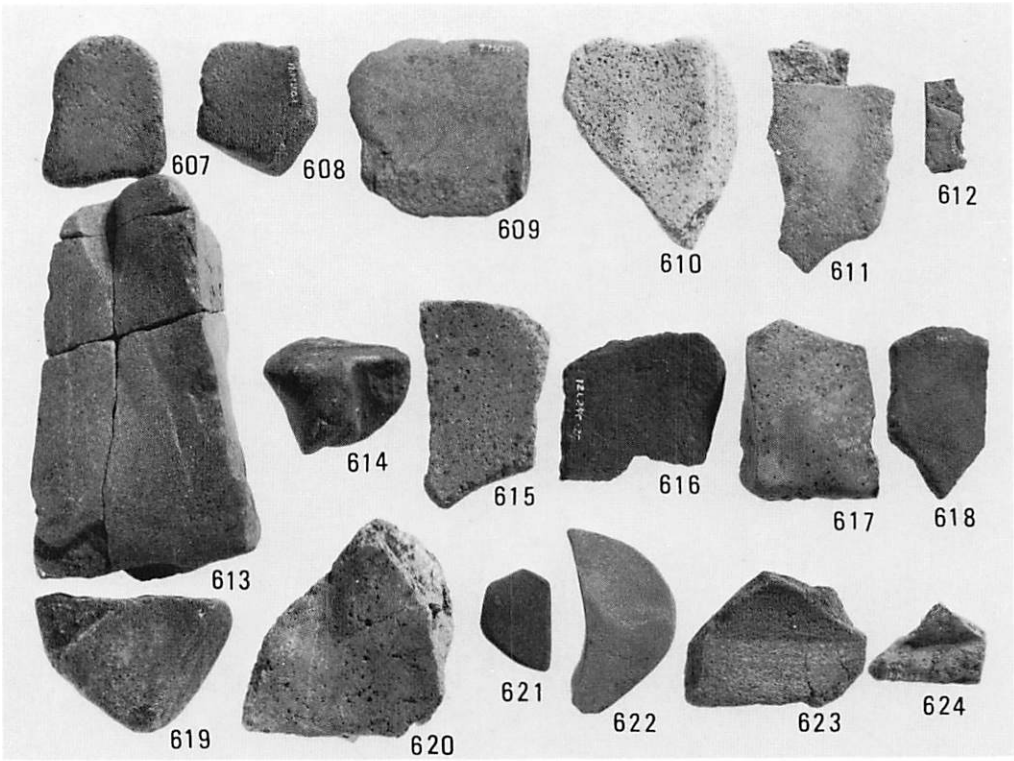


図110　A地点出土の砥石



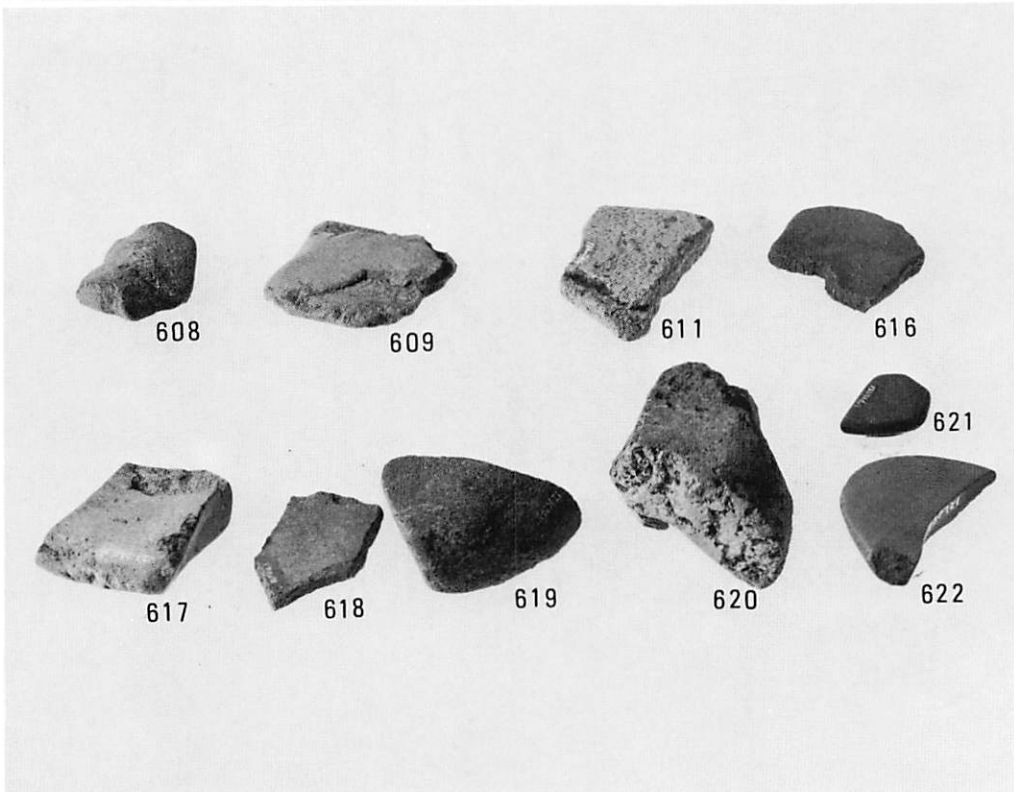


図111　A地点出土の砥石

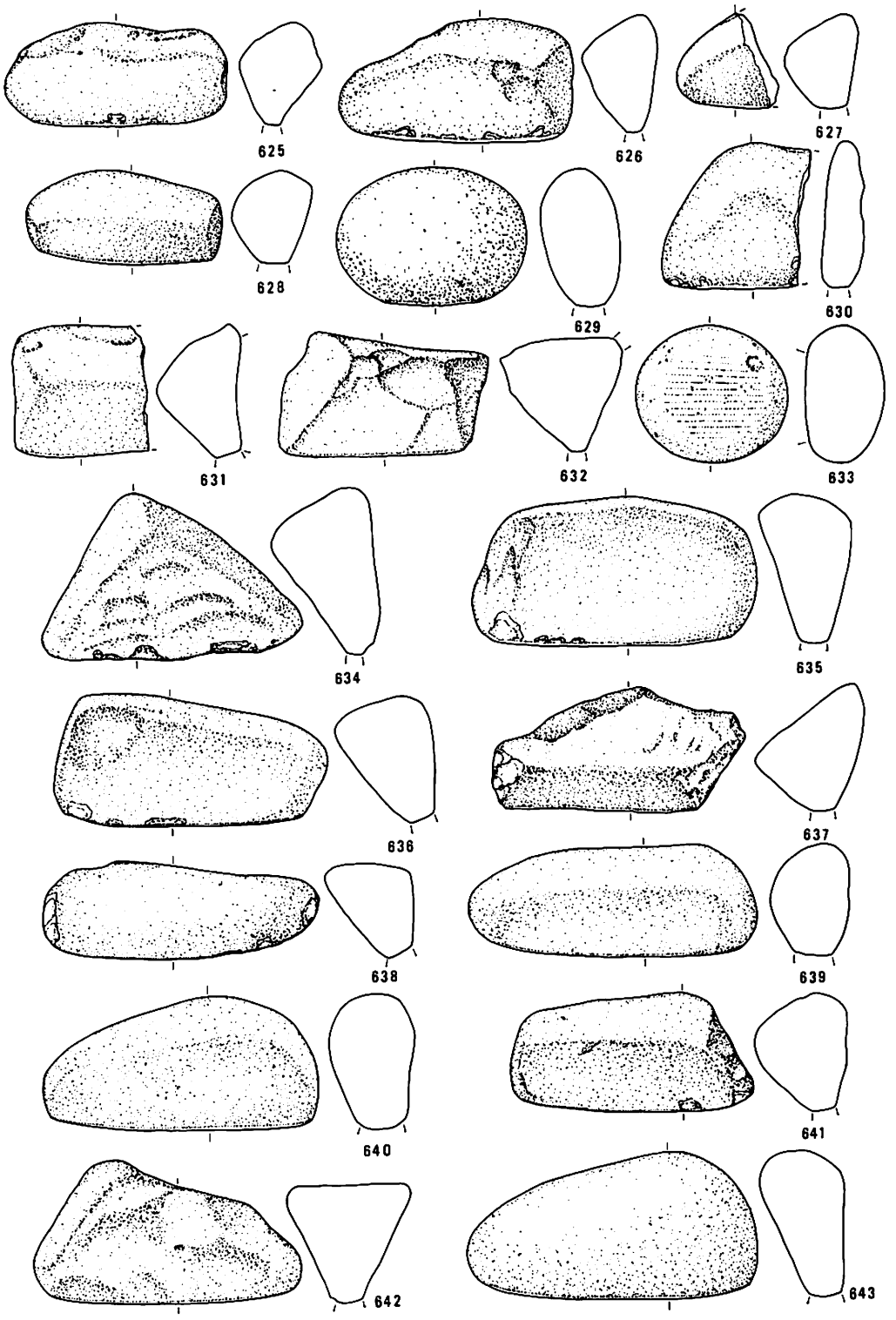


図112　A地点出土のすり石

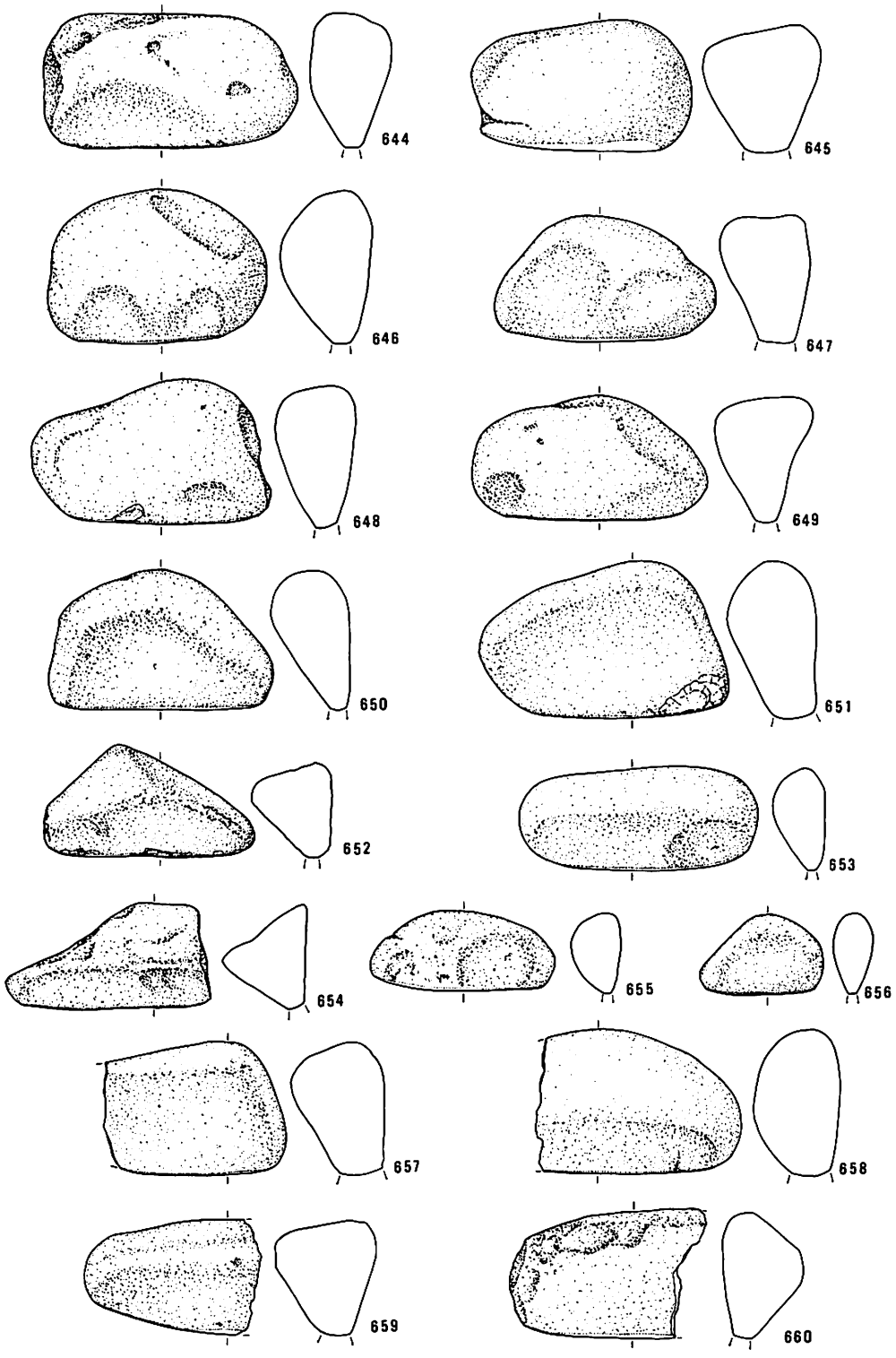


図113　A地点出土のすり石

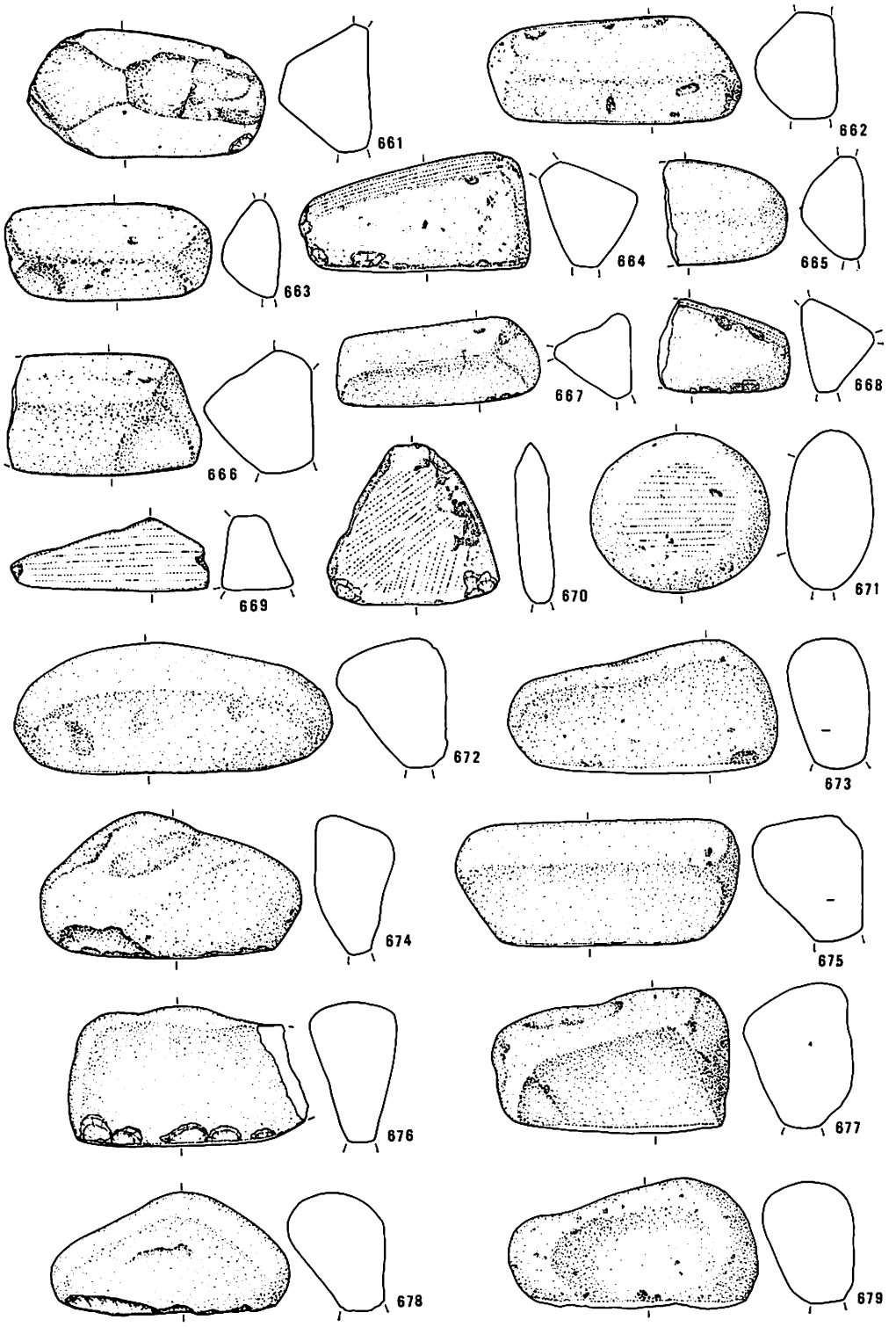


図114　A地点出土のすり石

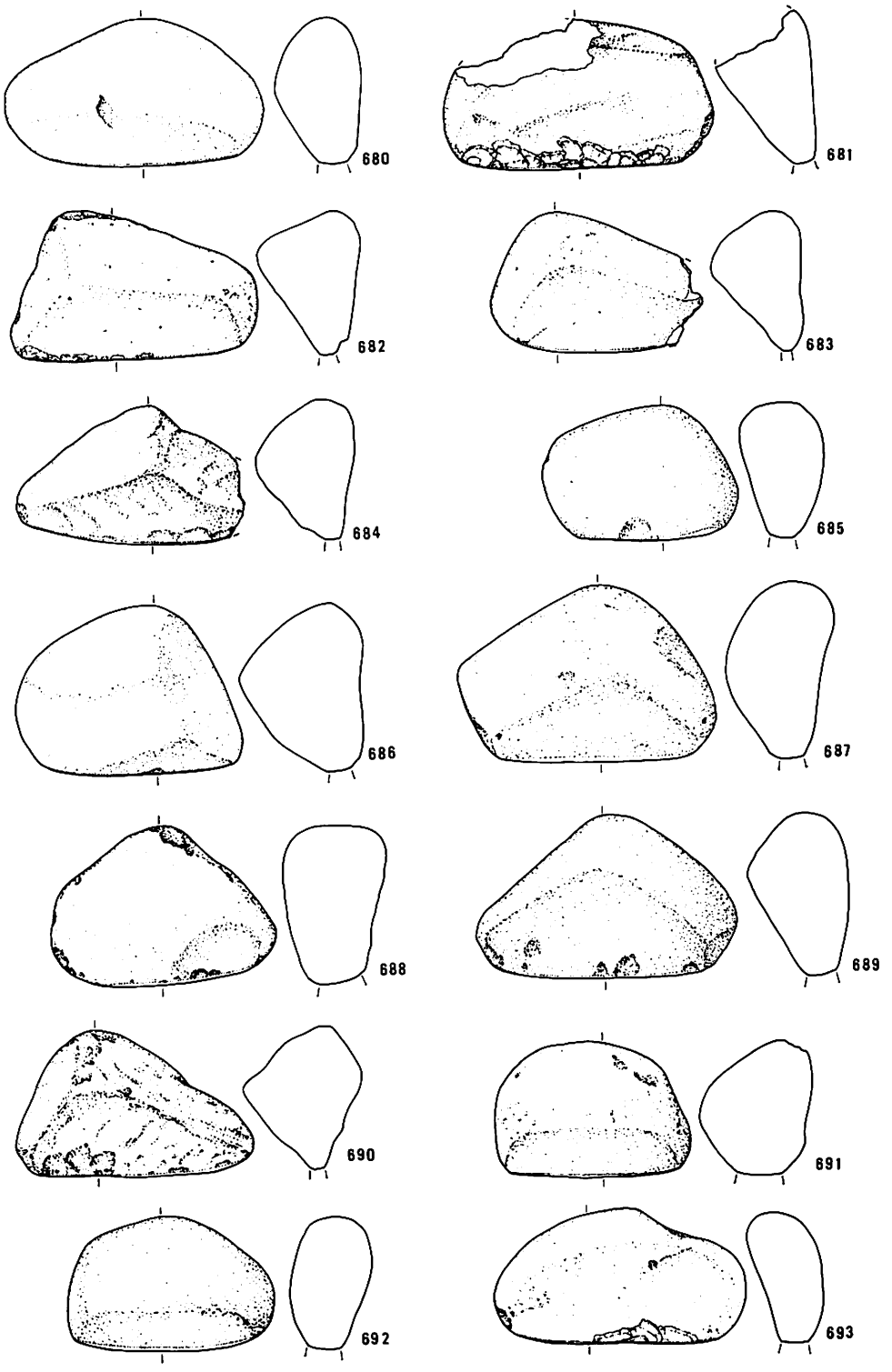


図115　A地点出土のすり石

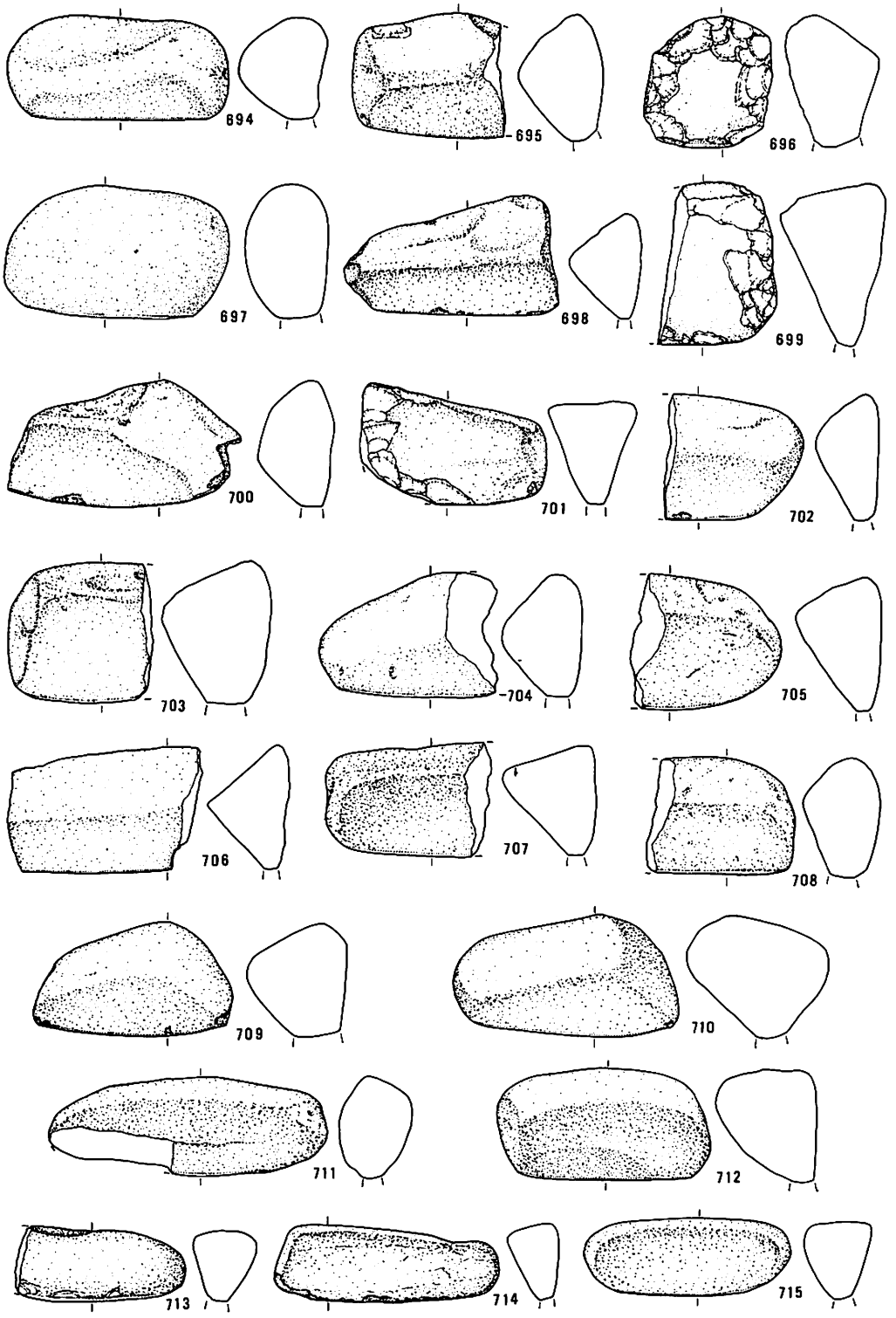


図116　A地点出土のすり石

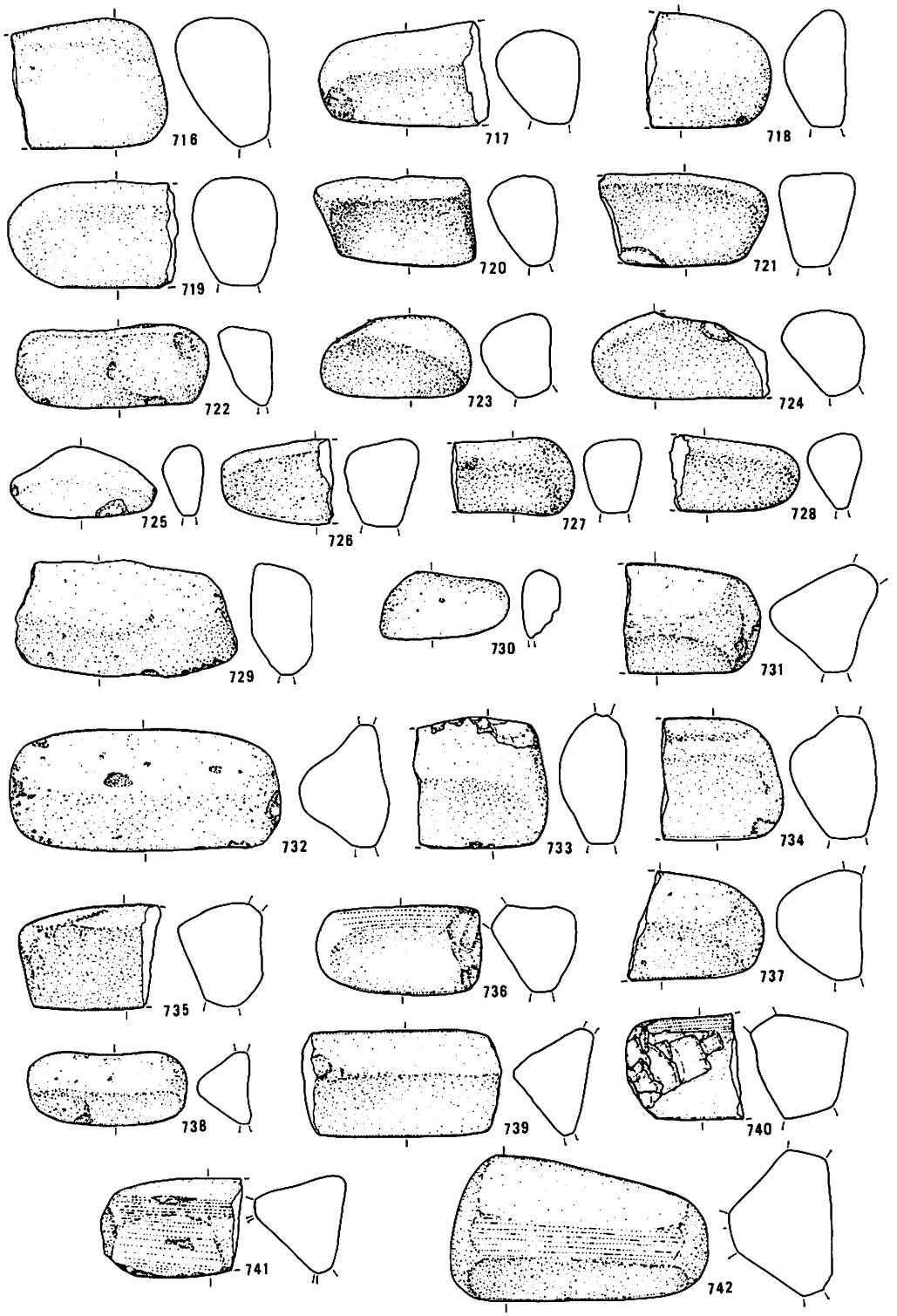


図117　A地点出土のすり石

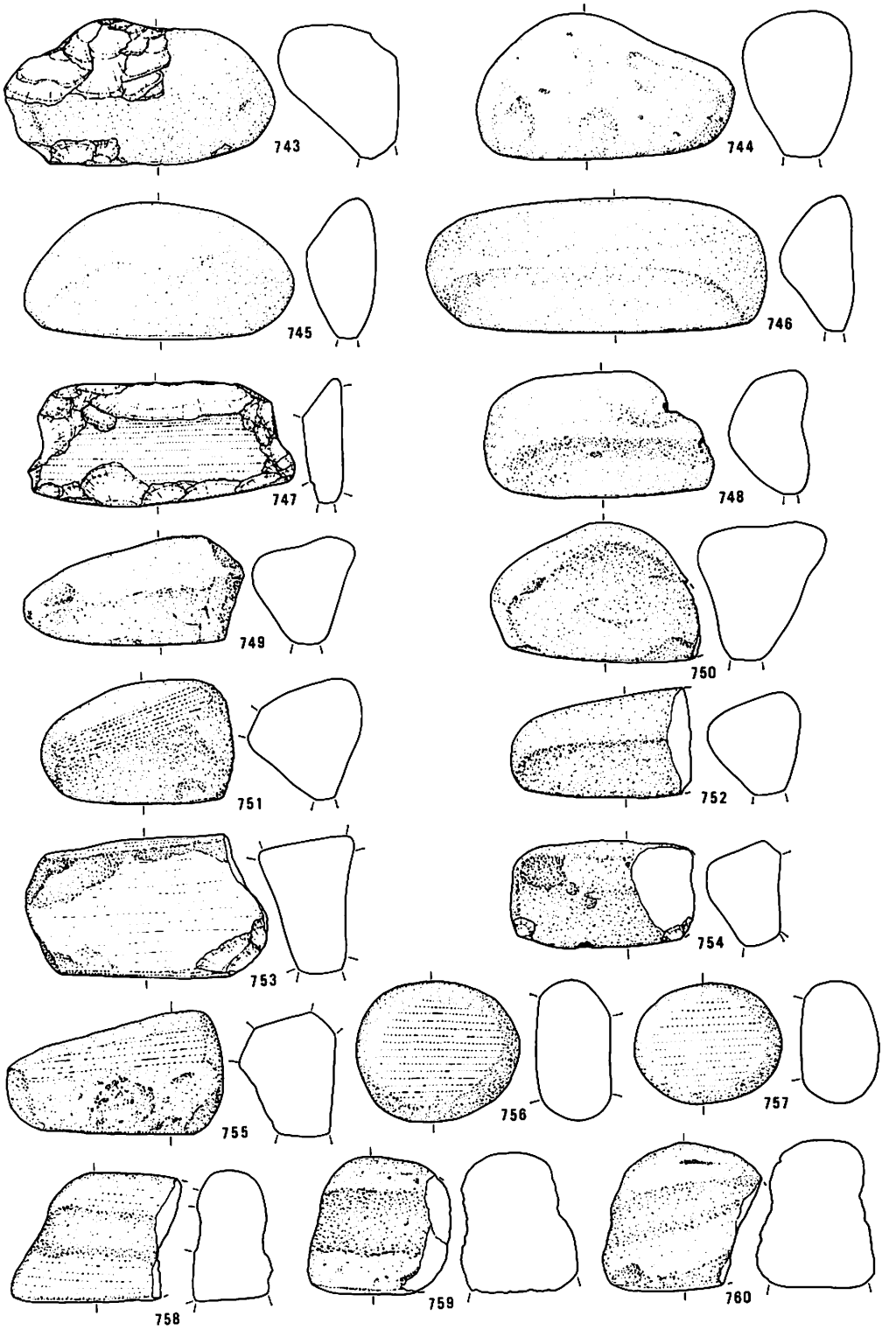


図118　A地点出土のすり石

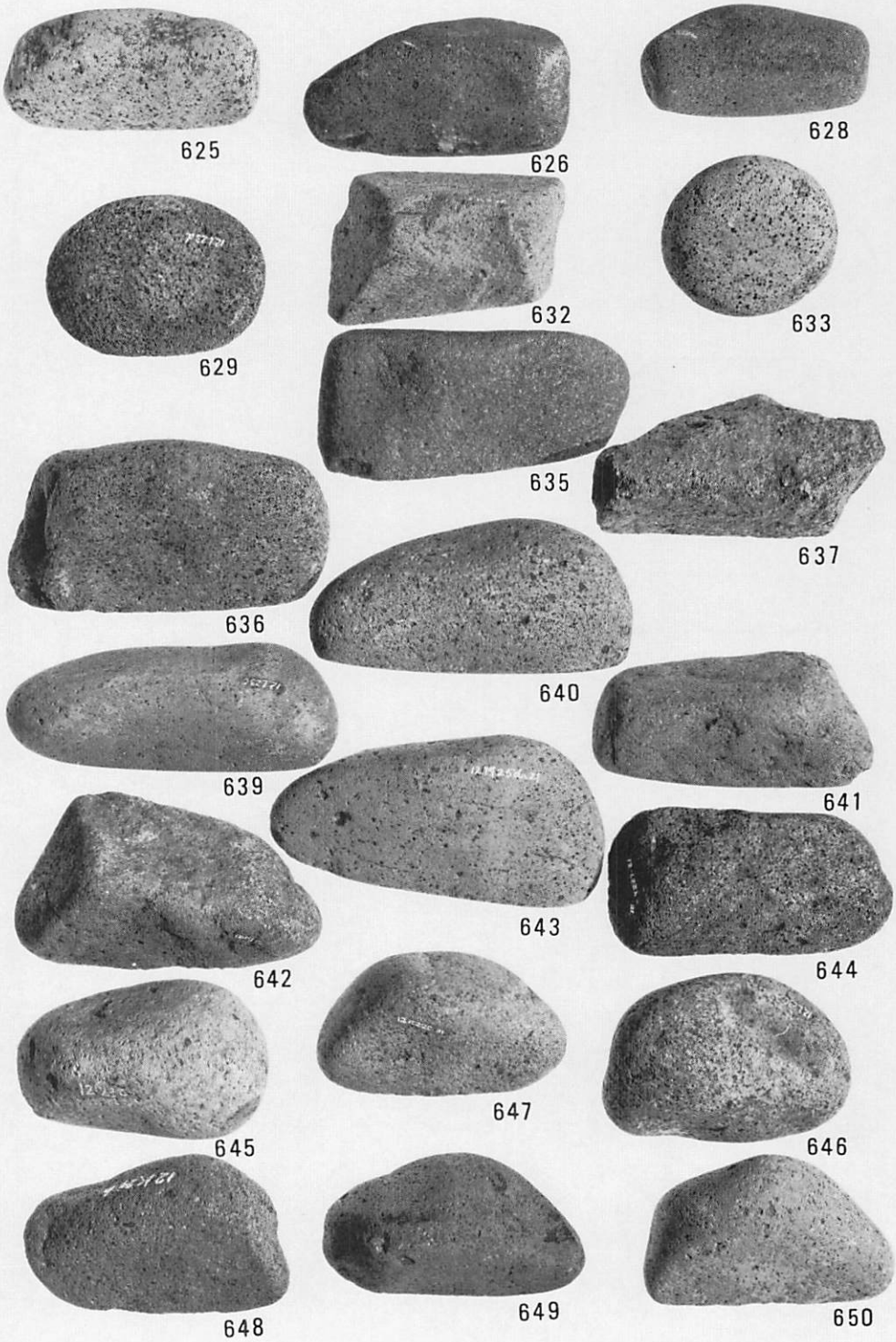


図119　A地点出土のすり石

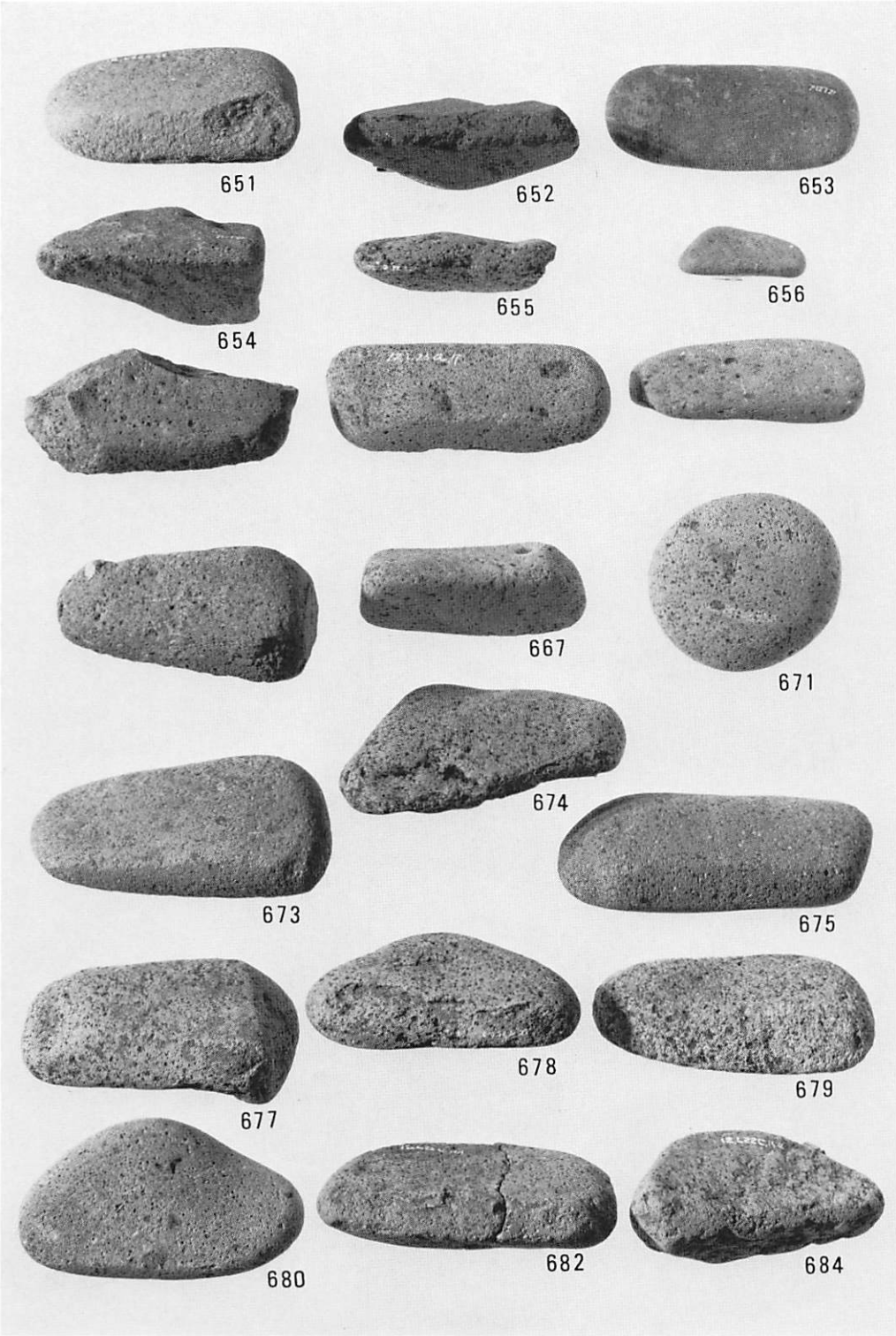


図120　A地点出土のすり石

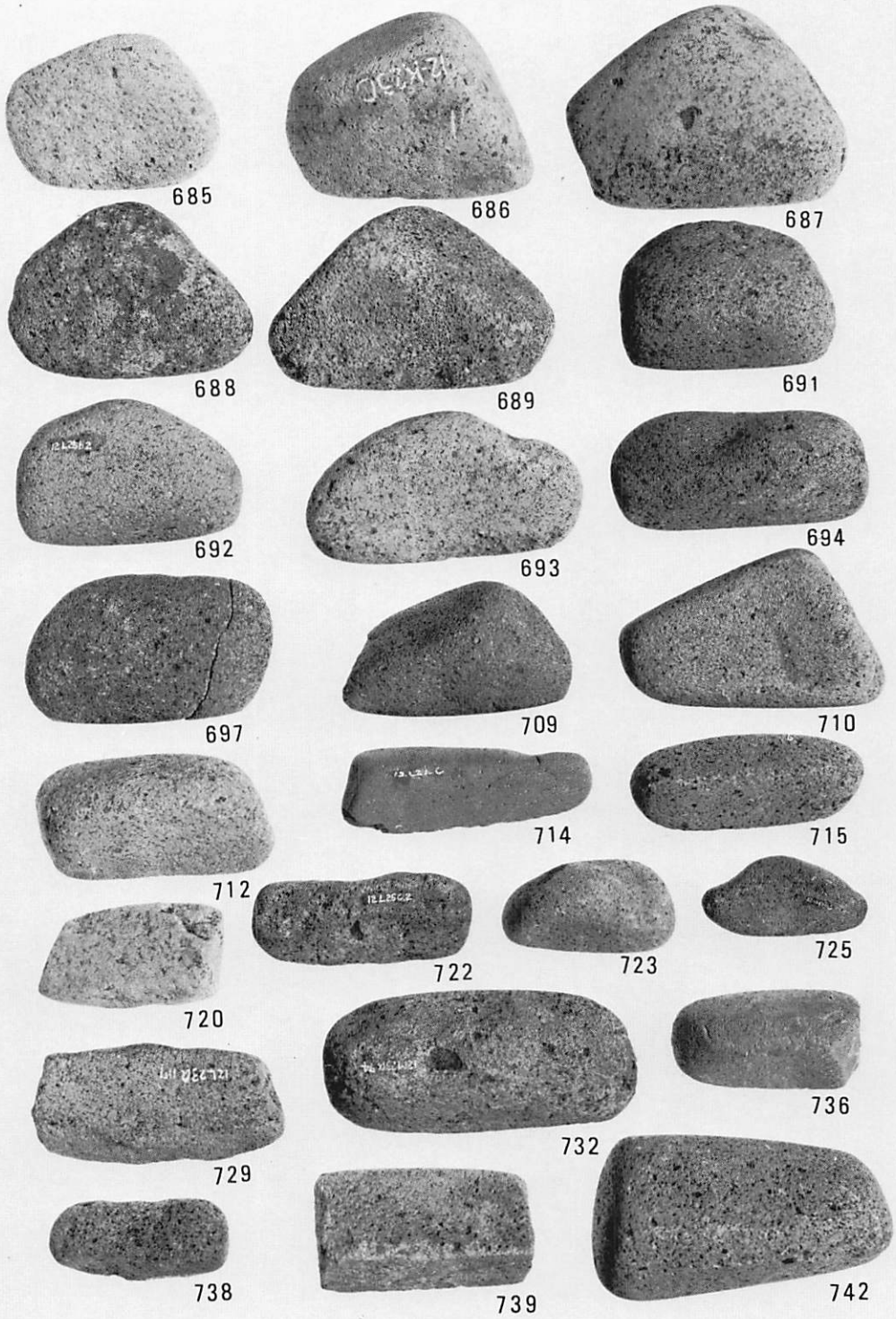


図121　A地点出土のすり石

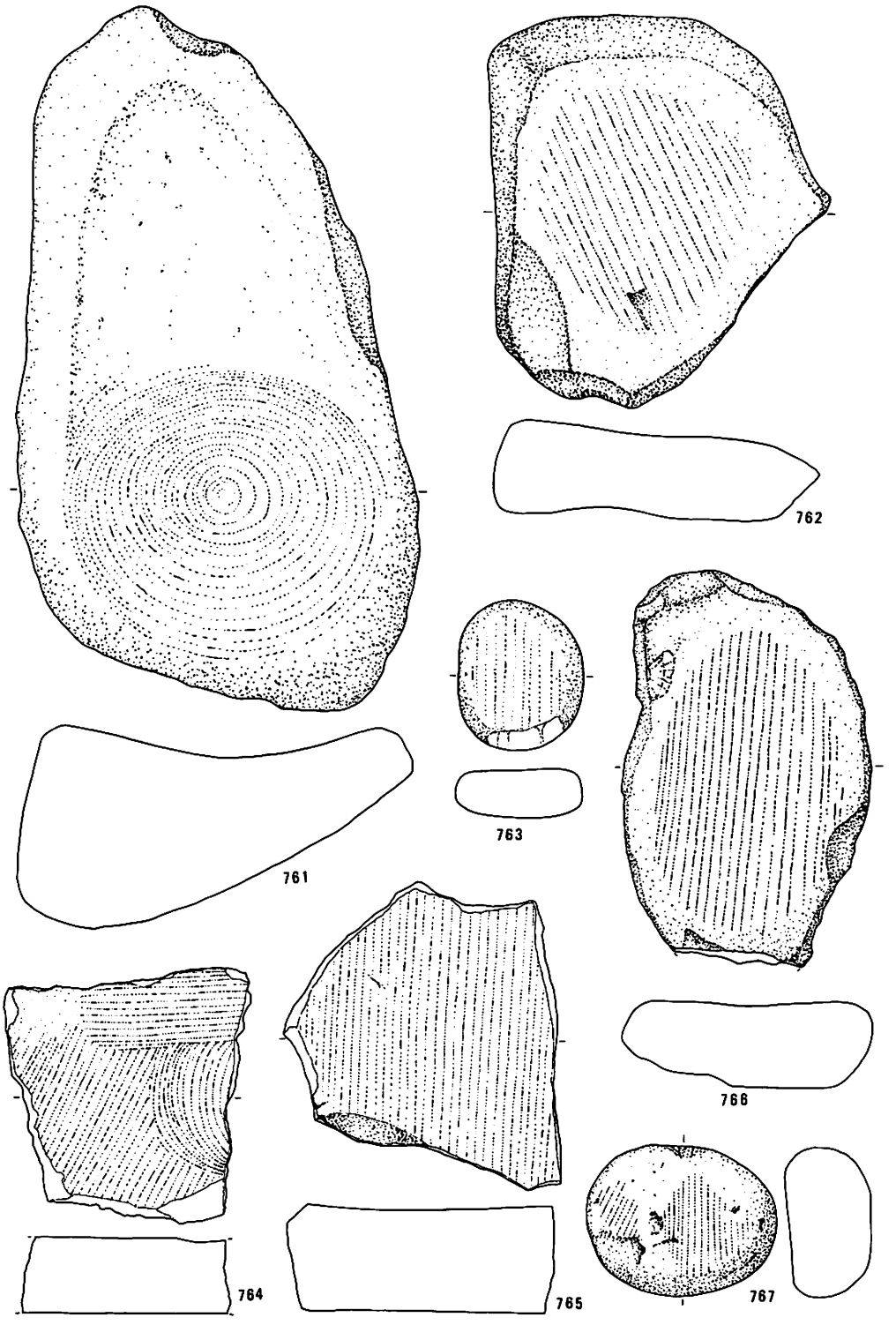


図122　A地点出土の石皿

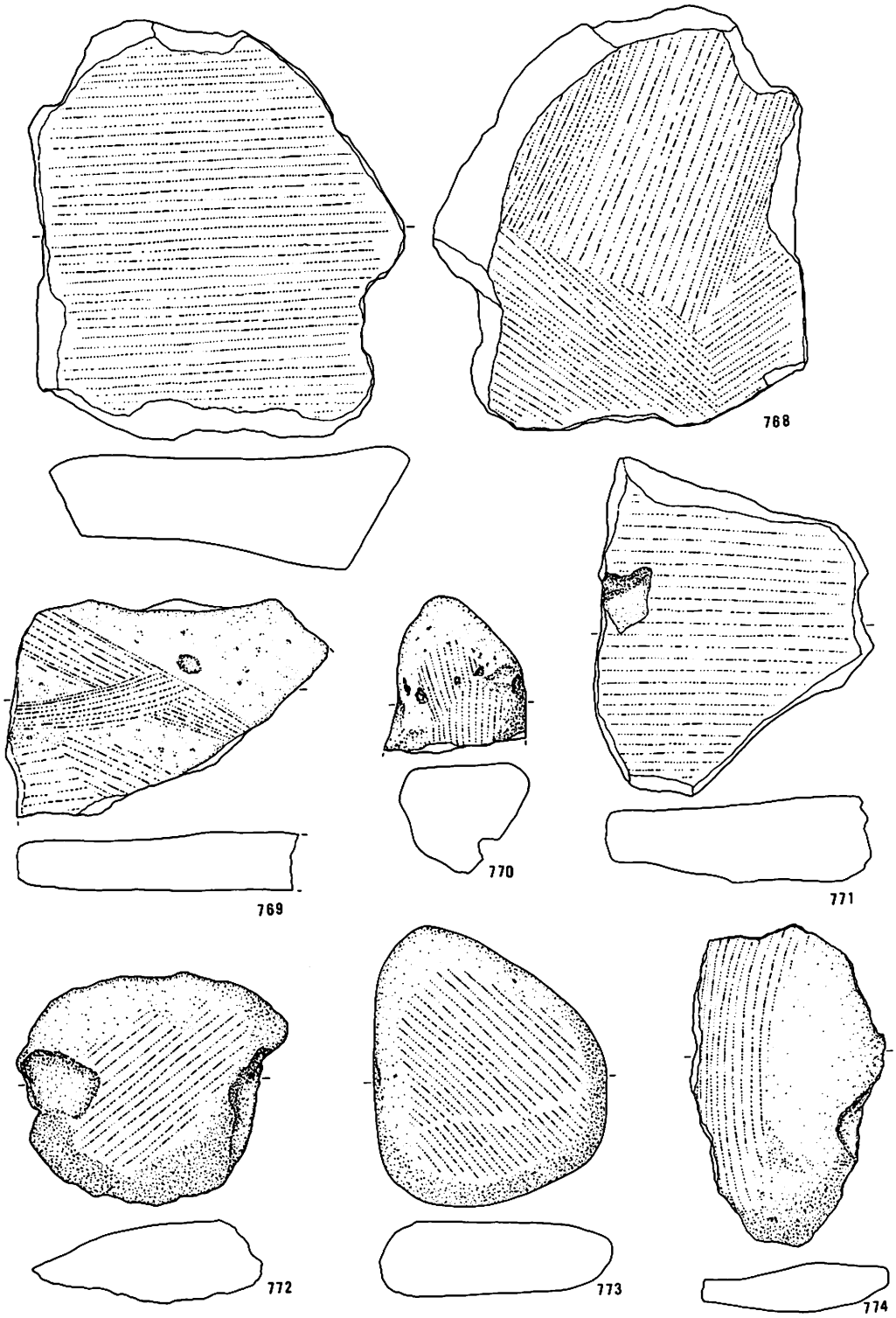
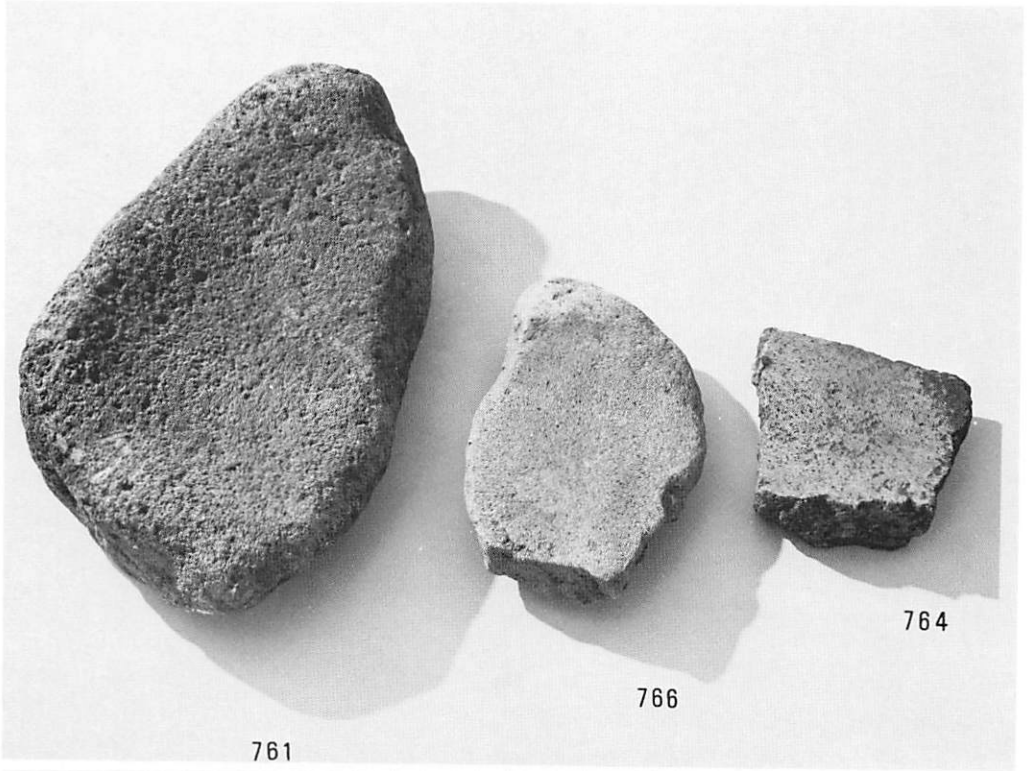


図123　A地点出土の石皿



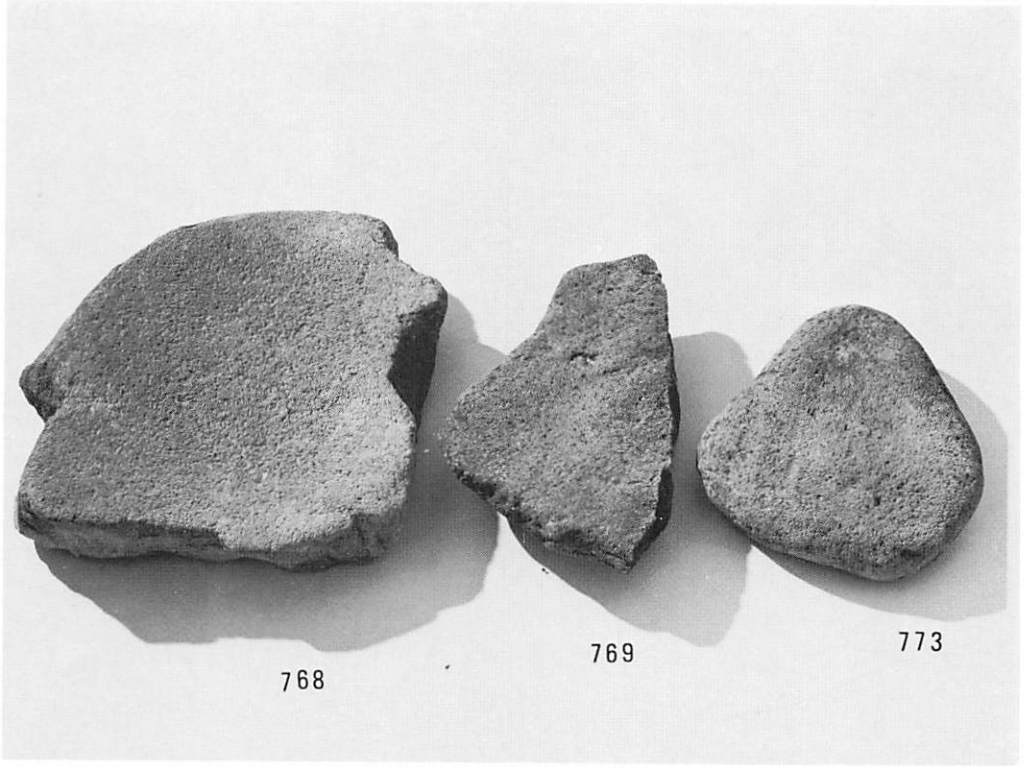


図124　A地点出土の石皿

図125　発掘状況(上)および完掘状況（下）

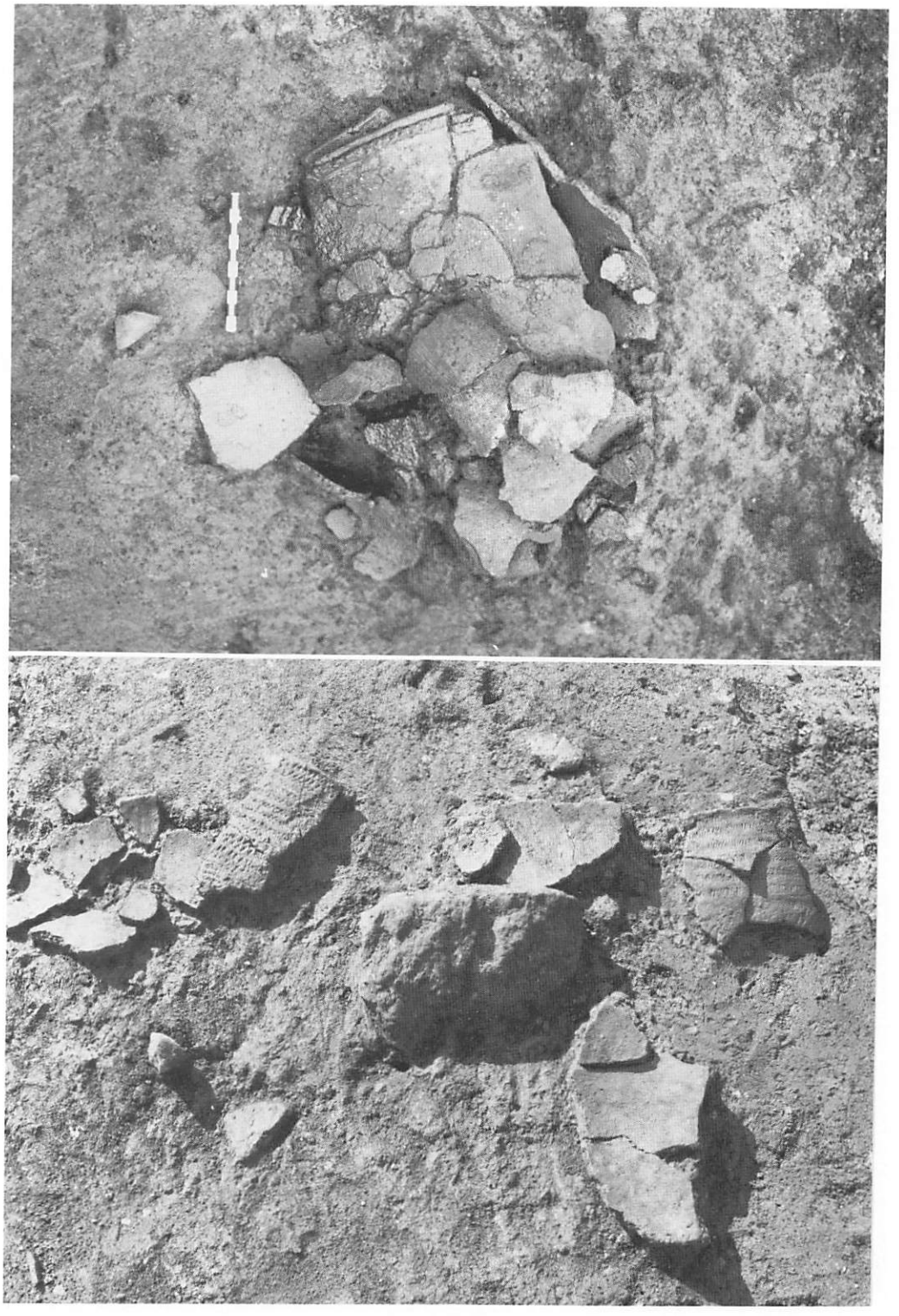


図126　遺物出土状況　　上：L23a区出土のⅠ群a－3類土器
下：L26a区出土のⅠ群b－1類土器

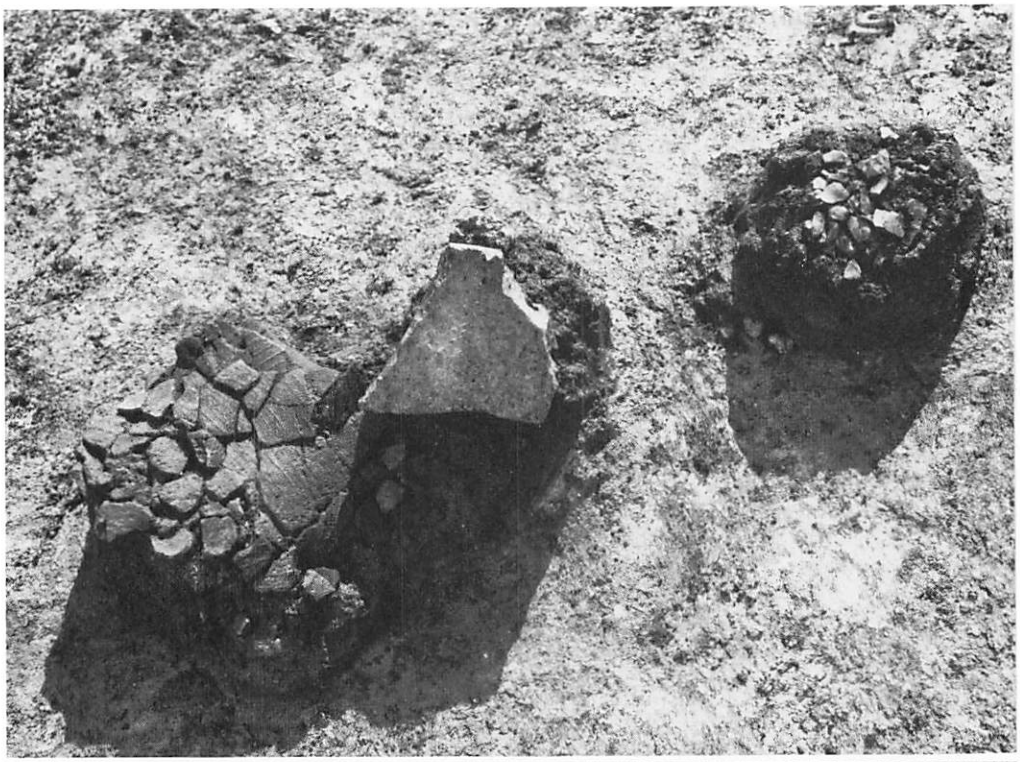


図127　遺物出土状況　上：L24d区出土のⅠ群b－3類土器
下：K24c区出土の石斧

表4　A地点出土石器一覧

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
1	石鏃	ⅠA5	0.5	Obs.	K23C	Ⅲ
2	石鏃	ⅠA5	(0.5)	Obs.	K26b	Ⅴ上
3	石鏃	ⅠA5	1.0	Obs.	L22b	Ⅲ
4	石鏃	ⅠA5	(1.1)	Obs.	M23b	Ⅲ
5	石鏃	ⅠA5	(1.2)	Obs.	K23b	Ⅲ
6	石鏃	ⅠA4	(1.6)	Obs.	L22d	Ⅲ
7	石鏃	ⅠA4	0.6	Obs.	K24b	Ⅲ～Ⅳ
8	石鏃	ⅠA5	(0.7)	Obs.	K23C	Ⅲ
9	石鏃	ⅠA4	(0.4)	Obs.	K24b	Ⅲ
10	石鏃	ⅠA4	(0.6)	Obs.	L22b	Ⅲ
11	石鏃	ⅠA6	(0.8)	Obs.	L22d	Ⅲ
12	石鏃	ⅠA6	(1.4)	Obs.	L22d	Ⅲ
13	石鏃	ⅠA8	(0.6)	Obs.	K23b	Ⅲ
14	石鏃	ⅠA6	1.4	Obs.	K22C	Ⅲ
15	石鏃	ⅠA5	(0.5)	Obs.	K24b	Ⅲ～Ⅳ
16	石鏃	ⅠA	(0.3)	Obs.	K23b	Ⅳ
17	石鏃	ⅠA	(0.4)	Obs.	K23C	Ⅲ
18	石鏃	ⅠA	(0.3)	Obs.	M22a	
19	石鏃	ⅠA4	(0.1)	Obs.	L22d	Ⅲ
20	石鏃	ⅠA	(0.35)	Obs.	K23b	Ⅳ
21	石鏃	ⅠA	(0.2)	Obs.	K24b	Ⅲ～Ⅳ
22	石鏃	ⅠA3	0.4	Obs.	K24b	Ⅲ
23	石鏃	ⅠA2b	(0.2)	Obs.	L22d	Ⅲ
24	石鏃	ⅠA7	(2.1)	Obs.	M24a	Ⅲ
25	石鏃	ⅠA2a	1.0	Obs.	K26c	Ⅲ下
26	石鏃	ⅠA2a	(1.1)	Obs.	K24b	Ⅲ
27	石鏃	ⅠA2a	(1.2)	Obs.	L23d	Ⅲ
28	石鏃	ⅠA2a	(1.0)	Obs.	M23b	Ⅲ
29	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	M23a	Ⅲ
30	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	M25b	Ⅲ
31	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	K24b	Ⅲ
32	石鏃	ⅠA?	(1.2)	Obs.	K24b	Ⅲ～Ⅳ
33	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	K24b	Ⅲ～Ⅳ
34	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	K24b	Ⅲ～Ⅳ
35	石鏃	ⅠA2a	(1.2)	Ha-Sh.	K24b	Ⅲ～Ⅳ
36	石鏃	ⅠA4	(0.4)	Obs.	M24b	Ⅳ
37	石鏃	ⅠA5	(0.8)	Ha-Sh.	L25c	Ⅳ
38	石鏃	ⅠA4	1.1	Obs.	M24d	Ⅳ
39	石鏃	ⅠA5	(1.3)	Obs.	L24c	Ⅳ
40	石鏃	ⅠA7	(1.7)	Ha-Sh.	L23b	Ⅳ
41	石鏃	ⅠA3	(0.7)	Obs.	M22a	
42	石鏃	ⅠA3	(0.9)	Obs.	L23b	Ⅳ
43	石鏃	ⅠA3	(0.7)	Obs.	K23b	Ⅳ
44	石鏃	ⅠA3	(0.9)	Obs.	L22c	Ⅳ
45	石鏃	ⅠA3	1.1	Ha-Sh.	K23b	Ⅳ
46	石鏃	ⅠA	(0.7)	Obs.	K23b	Ⅳ
47	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	L22d	Ⅳ
48	石鏃	ⅠA4	(0.4)	Obs.	L24a	Ⅳ
49	石鏃	ⅠA4	(0.4)	Obs.	L22d	Ⅳ
50	石鏃	ⅠA4	(0.4)	Obs.	M22a	
51	石鏃	ⅠA	(1.4)	Obs.	L24d	Ⅳ
52	石鏃	ⅠA8	(0.9)	Obs.	L22b	Ⅳ
53	石鏃	ⅠA8	0.7	Obs.	M21d	Ⅳ
54	石鏃	ⅠA2b	(0.15)	Obs.	L23b	Ⅳ
55	石鏃	ⅠA2b	(0.2)	Obs.	L23b	Ⅳ
56	石鏃	ⅠA4	(0.5)	Obs.	L25b	Ⅳ上
57	石鏃	ⅠA4	(0.6)	Obs.	M21d	Ⅳ
58	石鏃	ⅠA2a	0.4	Obs.	M23c	Ⅳ
59	石鏃	ⅠA2a	0.7	Obs.	K24b	Ⅳ
60	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	L23d	Ⅳ
61	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	K24b	Ⅳ
62	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	K26c	Ⅳ下
63	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	L24d	Ⅳ
64	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	L24b	Ⅳ
65	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	L25a	Ⅳ上
66	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	M24c	
67	石鏃	ⅠA2a	(0.5)	Obs.	L23a	Ⅳ
68	石鏃	ⅠA2a	(2.9)	Obs.	K22c	Ⅳ
69	石鏃	ⅠA2a	(1.4)	Obs.	L25d	Ⅳ下
70	石鏃	ⅠA2a	(1.0)	Obs.	L24d	Ⅳ
71	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	K23b	Ⅳ
72	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	L25a	Ⅳ
73	石鏃	ⅠA2a	(1.4)	Obs.	K26c	Ⅳ下
74	石鏃	ⅠA2a	(0.5)	Obs.	K23b	Ⅳ
75	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	M22d	
76	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	M25b	Ⅳ上
77	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	M23c	Ⅳ
78	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	M23b	ⅣとⅤの間
79	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	M22a	
80	石鏃	ⅠA2a	(0.3)	Obs.	K23b	Ⅳ
81	石鏃	ⅠA2b	(0.4)	Obs.	M21d	Ⅳ
82	石鏃	ⅠA2a	0.75	Ha-Sh.	L24d	Ⅳ
83	石鏃	ⅠA2a	(1.4)	Ha-Sh.	K23c	Ⅳ
84	石鏃	ⅠA2a	1.6	Ha-Sh.	L23d	Ⅳ
85	石鏃	ⅠA5	(0.4)	Obs.	L22d	Ⅴ
86	石鏃	ⅠA2b	(0.6)	Obs.	K26c	Ⅴ
87	石鏃	ⅠA4	(0.7)	Obs.	L22c	Ⅴ
88	石鏃	ⅠA4	(2.0)	Obs.	L-25d	Ⅴ中
89	石鏃	ⅠA6	1.0	Obs.	M22c	Ⅴ
90	石鏃	ⅠA6	1.3	Obs.	L26b	Ⅴ中

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位	図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
91	石鏃	ⅠA4	0.3	Obs.	L22d	Ⅴ	141	石鏃	ⅠA2a	(0.75)	Obs.	L25a	Ⅴ下
92	石鏃	ⅠA4	(0.5)	Obs.	L26c	Ⅴ	142	石鏃	ⅠA2a	(1.3)	Obs.	M25c	Ⅴ上
93	石鏃	ⅠA4	0.6	Obs.	L24d	Ⅴ	143	石鏃	ⅠA2a	(1.5)	Obs.	L25d	Ⅴ
94	石鏃	ⅠA4	(1.0)	Obs.	K22c	Ⅴ	144	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	L25b	Ⅴ
95	石鏃	ⅠA4	(1.1)	Obs.	L25d	Ⅴ	145	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	K25b	Ⅴ
96	石鏃	ⅠA2a	0.7	Obs.	L25c	Ⅴ下	146	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	K25c	Ⅴ
97	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	L25b	Ⅴ下	147	石鏃	ⅠA2a	(1.0)	Obs.	L26b	Ⅴ中
98	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	L24c	Ⅴ下	148	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	L26d	Ⅴ
99	石鏃	ⅠA2a	0.5	Obs.	M23a	Ⅴ	149	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	K25c	Ⅴ
100	石鏃	ⅠA2a	0.6	Obs.	M25d	Ⅴ下	150	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	L25b	Ⅴ
101	石鏃	ⅠA2a	0.8	Obs.	M25d	Ⅴ	151	石鏃	ⅠA2a	(1.0)	Obs.	K24b	Ⅴ
102	石鏃	ⅠA2a	(0.5)	Obs.	K26b	Ⅴ	152	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	K23c	Ⅴ
103	石鏃	ⅠA2a	(0.5)	Obs.	M25d	Ⅴ	153	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	K27a	Ⅴ
104	石鏃	ⅠA2a	0.5	Obs.	M26a	Ⅴ	154	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	K25c	Ⅴ
105	石鏃	ⅠA2a	(1.1)	Obs.	K25d	Ⅴ	155	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	K25c	Ⅴ
106	石鏃	ⅠA2a	1.1	Obs.	L22d	Ⅴ	156	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	K24b	Ⅴ
107	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	L25d	Ⅴ	157	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	K25c	Ⅴ
108	石鏃	ⅠA2a	(1.1)	Obs.	L25c	Ⅴ	158	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	L26b	Ⅴ
109	石鏃	ⅠA2a	(1.0)	Obs.	K24b	Ⅴ	159	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	K24b	Ⅴ
110	石鏃	ⅠA2a	(1.0)	Obs.	L26d	Ⅴ上	160	石鏃	ⅠA2a	(0.2)	Obs.	K25c	Ⅴ
111	石鏃	ⅠA2a	(1.7)	Obs.	K25c	Ⅴ中	161	石鏃	ⅠA2a	(0.3)	Obs.	K24b	Ⅴ
112	石鏃	ⅠA2a	1.3	Obs.	K25b	Ⅴ	162	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	K24b	Ⅴ
113	石鏃	ⅠA2a	(1.5)	Obs.	L25c	Ⅴ	163	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	K26b	Ⅴ
114	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	K25c	Ⅴ	164	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	K25b	Ⅴ
115	石鏃	ⅠA2a	(1.1)	Obs.	K24b	Ⅴ	165	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	K25c	Ⅴ
116	石鏃	ⅠA2a	(1.4)	Obs.	K25b	Ⅴ	166	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	K26b	Ⅴ中
117	石鏃	ⅠA2a	(1.0)	Obs.	L26a	Ⅴ	167	石鏃	ⅠA2a	(0.3)	Obs.	K25b	Ⅴ
118	石鏃	ⅠA2a	(1.1)	Obs.	K25c	Ⅴ	168	石鏃	ⅠA3	(0.15)	Obs.	K24b	Ⅴ
119	石鏃	ⅠA2a	(1.1)	Obs.	L24c	Ⅴ	169	石鏃	ⅠA4	2.9	Obs.	L25c	Ⅴ中
120	石鏃	ⅠA2a	(0.7)	Obs.	K23c	Ⅴ	170	石鏃	ⅠA4	(4.3)	Obs.	K23c	Ⅲ
121	石鏃	ⅠA2a	(1.2)	Obs.	M21c	Ⅴ	171	石鏃	ⅠA4	(2.6)	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ
122	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	K25c	Ⅴ	172	石鏃	ⅠA6	1.6	Ha-Sh.	M21d	Ⅴ
123	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	K23b	Ⅴ	173	石鏃	ⅠA2a	(1.5)	Ha-Sh.	L23b	Ⅴ
124	石鏃	ⅠA2a	(0.5)	Obs.	K26b	Ⅴ上	174	石鏃	ⅠA2a	2.1	Ha-Sh.	M24d	Ⅴ下
125	石鏃	ⅠA2a	(1.2)	Obs.	K25c	Ⅴ上	175	石鏃	ⅠA2a	(1.9)	Obs.	L24c	Ⅴ
126	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	L25c	Ⅴ中	176	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	M26a	Ⅴ上
127	石鏃	ⅠA2a	(1.1)	Obs.	L25a	Ⅴ下	177	石鏃	ⅠA2a	(0.5)	Ha-Sh.	K23b	Ⅴ
128	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	L25b	Ⅴ	178	石鏃	ⅠA2a	(2.0)	Ha-Sh.	L24a	Ⅴ
129	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	K26b	Ⅴ中	179	石鏃	ⅠA4	(1.5)	Obs.	M26a	Ⅴ上
130	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	L24d	Ⅴ	180	石鏃	ⅠA4	(0.9)	Obs.	M24b	Ⅴ
131	石鏃	ⅠA2a	(0.8)	Obs.	L25c	Ⅴ下	181	石鏃	ⅠA8	0.8	Ha-Sh.	L25d	Ⅴ上
132	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	L25c	Ⅴ下	182	石鏃	ⅠA8	0.4	Ha-Sh.	L24d	Ⅴ下
133	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	K24b	Ⅴ	183	石鏃	ⅠA8	0.9	Ha-Sh.	L25a	Ⅴ下
134	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	K26b	Ⅴ	184	石鏃	ⅠA4	(2.1)	Aga-Sh.	K24c	Ⅵ
135	石鏃	ⅠA2a	(0.5)	Obs.	K23c	Ⅴ	185	石鏃	ⅠA5	1.2	Obs.	M22a	不明
136	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	L25a	Ⅴ下	186	石鏃	ⅠA4	(0.7)	Obs.	L21c	C調
137	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	M24b	Ⅴ	187	石鏃	ⅠA5	(1.8)	Obs.	M22a	トレンチ
138	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	M23b	Ⅴ	188	石鏃	ⅠA4	(1.0)	Obs.	L24a	C調
139	石鏃	ⅠA2a	(0.4)	Obs.	K25b	Ⅴ	189	石鏃	ⅠA4	0.7	Obs.	M22d	不明
140	石鏃	ⅠA2a	(0.5)	Obs.	M25c	Ⅴ上	190	石鏃	ⅠA2a	1.3	Obs.	L25a	C調

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
191	石鏃	ⅠA2a	(1.5)	Ha-Sh.	K23c	Ⅴ
192	石鏃	ⅠA2a	(1.2)	Obs.	K22c	Ⅳ
193	石鏃	ⅠA2a	(0.9)	Obs.	K22c	Ⅳ
194	石鏃	ⅠA2a	(0.6)	Obs.	M22a	
195	石鏃	ⅠA6	(3.2)	Obs.	L22d	
196	石鏃	ⅠA6	(2.4)	Obs.	M21c	Ⅳ
197	石鏃	ⅠA6	(2.5)	Obs.	K22c	Ⅴ
198	石鏃	ⅠA6	(2.3)	Obs.	L26b	Ⅴ中
199	石鏃	ⅠA6	(2.5)	Obs.	M25d	Ⅴ
200	石槍	ⅠB2	3.6	Obs.	L25a	Ⅴ上
201	石槍	ⅠB2	4.6	Obs.	K22c	Ⅴ
202	石槍	ⅠB2	6.0	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ
203	石槍	ⅠB1	(23.3)	Obs.	K22c	Ⅲ
204	石槍	ⅠB2	12.6	Ha-Sh.	L23d	Ⅳ
205	石槍	ⅠB2	15.3	Ha-Sh.	L25b	Ⅴ中
206	石槍	ⅠB2	16.2	Ha-Sh.	L24d	Ⅳ
207	石槍	ⅠB2	6.5	Ha-Sh.	K22c	Ⅳ
208	石槍	ⅠB	(5.0)	Ha-Sh.	L25b	Ⅳ下
209	石槍	ⅠB2	4.1	Ha-Sh.	L24a	Ⅴ
210	石槍	ⅠB2	(7.9)	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ
211	石槍	ⅠB2	8.1	Ha-Sh.	M22b	Ⅴ
212	石槍	ⅠB2	14.4	Ha-Sh.	K26c	Ⅴ
213	石槍	ⅠB2	15.4	Ha-Sh.	K26c	Ⅴ
214	石槍	ⅠB	(22.4)	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ上
215	石槍	ⅠB1	16.3	Ha-Sh.	L25b	Ⅴ上
216	石槍	ⅠB	(4.5)	Ha-Sh.	M25a	Ⅴ中
217	石槍	ⅠB2	25.7	Ha-Sh.	L26a	Ⅴ
218	石槍	ⅠB	(9.9)	Ha-Sh.	M24a	c調
219	石槍	ⅠB	(4.3)	Obs.	L21c	c調
220	石槍	ⅠB2	(35.7)	Ha-Sh.	L24a	c調
221	石錐	ⅡA3	8.1	Obs.	L22d	Ⅲ
222	石錐	ⅡA3	3.7	Ha-Sh	L26a	Ⅳ下
223	石錐	ⅡA1	(2.0)	Ha-Sh.	L23a	Ⅳ
224	石錐	ⅡA1	2.3	Ha-Sh.	K23b	Ⅳ
225	石錐	ⅡA3	2.9	Ha-Sh.	L22c	Ⅳ
226	石錐	ⅡA2	13.5	Ha-Sh.	L22b	Ⅳ
227	石錐	ⅡA2	8.2	Ha-Sh.	L23d	Ⅳ
228	石錐	ⅡA2	(3.0)	Ha-Sh.	L23a	Ⅳ
229	石錐	ⅡA2	1.5	Ha-Sh.	M21d	Ⅳ
230	石錐	ⅡA1	(1.6)	HA-Sh.	M24d	Ⅳ
231	石錐	ⅡA2	(0.6)	Ha-Sh.	L23a	Ⅳ
232	錐	ⅡA1	(4.0)	Ha-Sh.	L25b	Ⅳ中
233	石錐	ⅡA2	(2.0)	Ha-Sh.	L23b	Ⅳ
234	石錐	ⅡA1	(2.3)	Obs.	L22c	Ⅳ
235	石錐	ⅡA2	1.6	Ha-Sh.	L25b	Ⅴ
236	石錐	ⅡA2	(9.8)	Ha-Sh.	L26b	Ⅴ
237	石錐	ⅡA2	8.8	Ha-Sh.	M24d	Ⅴ上
238	石錐	ⅡA2	(5.1)	Ha-Sh.	L25d	Ⅴ上
239	石錐	ⅡA2	(2.1)	Ha-Sh.	L26c	Ⅴ上
240	石錐	ⅡA2	(1.6)	Ha-Sh.	L26a	Ⅴ上

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
241	石錐	ⅡA2	(4.1)	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ
242	石錐	ⅡA2	3.3	Ha-Sh.	K26b	Ⅴ上
243	石錐	ⅡA2	(5.3)	Ha-Sh.	M23d	Ⅴ
244	石錐	ⅡA2	(5.1)	Ha-Sh.	M24b	Ⅴ
245	石錐	ⅡA1	3.8	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ
246	石錐	ⅡA1	(2.6)	Ha-Sh.	L26c	Ⅴ上
247	石錐	ⅡA1	(1.9)	Ha-Sh.	L26d	Ⅴ
248	石錐	ⅡA1	(5.6)	Ha-Sh.	L26b	Ⅴ下
249	石錐	ⅡA2	0.8	Obs.	M25b	Ⅴ上
250	石錐	ⅡA1	(0.6)	Obs.	L26d	Ⅴ上
251	石錐	ⅡA1	6.8	Obs.	M23b	Ⅳ
252	石錐	ⅡA2	3.9	Obs.	L24a	Ⅴ
253	石錐	ⅡA2	1.6	Ha-Sh.	M25b	Ⅴ上
254	つまみ付きナイフ	ⅢA1	16.4	Ha-Sh.	M23b	Ⅲ
255	つまみ付きナイフ	ⅢA1	4.5	Ha-Sh.	K23b	Ⅲ
256	つまみ付きナイフ	ⅢA3	11.8	Ha-Sh.	K24b	Ⅲ
257	つまみ付きナイフ	ⅢA3	4.1	Ha-Sh	M23c	Ⅲ
258	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.4	Ha-Sh.	M23a	Ⅲ
259	つまみ付きナイフ	ⅢA1	9.1	Ha-Sh.	L25d	Ⅳ下
260	つまみ付きナイフ	ⅢA1	11.5	Ha-Sh.	M25d	Ⅳ下
261	つまみ付きナイフ	7.5	7.5	Ha-Sh.	L23b	Ⅳ
262	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.8	Ha-Sh.	M22c	Ⅳ
263	つまみ付きナイフ	ⅢA1	5.6	Ha-Sh.	M25d	Ⅳ
264	つまみ付きナイフ	ⅢA1	10.0	Ha-Sh.	L26b	Ⅳ下
265	つまみ付きナイフ	ⅢA1	9.8	Ha-Sh.	K23b	Ⅳ
266	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(4.9)	Ha-Sh.	L23d	Ⅳ
267	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.8	Ha-Sh.	L24d	Ⅳ
268	つまみ付きナイフ	ⅢA1	4.6	Ha-Sh.	M23d	Ⅳ
269	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.2	Ha-Sh.	K24b	Ⅳ
270	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.9	Ha-Sh.	K25c	Ⅳ
271	つまみ付きナイフ	ⅢA1	9.3	Ha-Sh.	K24b	Ⅳ
272	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.6)	Ha-Sh.	M22a	Ⅳ
273	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.7)	Ha-Sh.	K25b	Ⅳ
274	つまみ付きナイフ	ⅢA1	2.5	Ha-Sh.	K26c	Ⅳ
275	つまみ付きナイフ	ⅢA1	2.7	Obs.	L25c	Ⅳ下
276	つまみ付きナイフ	ⅢA1	5.6	Ha-Sh.	M24b	Ⅳ
277	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.5	Ha-Sh.	K24b	Ⅳ
278	つまみ付きナイフ	ⅢA1	5.0	Ha-Sh.	M25d	Ⅳ上
279	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.1	Ha-Sh.	L26d	Ⅴ
280	つまみ付きナイフ	ⅢA1	13.8	Ha-Sh.	L26a	Ⅳ下
281	つまみ付きナイフ	ⅢA1	8.1	Ha-Sh.	K26c	Ⅴ上
282	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.9)	Ha-Sh.	K26b	Ⅴ
283	つまみ付きナイフ	ⅢA1	4.5	Ha-Sh.	K26c	Ⅳ下
284	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(4.9)	Ha-Sh.	L26c	Ⅳ
285	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.8)	Ha-Sh.	M24d	Ⅳ
286	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.0)	Ha-Sh.	K26c	Ⅳ
287	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.4	Ha-Sh.	L22b	Ⅳ
288	つまみ付きナイフ	ⅢA1	2.6	Ha-Sh.	L22d	Ⅳ
289	つまみ付きナイフ	ⅢA1	2.5	Ha-Sh.	L26b	Ⅳ下
290	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.3)	Ha-Sh.	M22c	Ⅳ

図番号	器　種	分　類	重量(g)	材　質	発掘区	層　位
291	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.7	Ha-Sh.	M23d	Ⅳ
292	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.1	Ha-Sh.	M24b	Ⅴ
293	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.2	Ha-Sh.	L26a	Ⅳ中
294	つまみ付きナイフ	ⅢA3	6.9	Ha-Sh.	M25d	Ⅳ中
295	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.0	Ha-Sh.	M24d	Ⅳ
296	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.8	Ha-Sh.	L24b	Ⅳ
297	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.1)	Ha-Sh.	L23d	Ⅳ
298	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.8	Ha-Sh.	M25d	Ⅳ上
299	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(6.8)	Ha-Sh.	K26c	Ⅳ下
300	つまみ付きナイフ	ⅢA3	1.4	Ha-Sh.	M21d	Ⅳ
301	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.6	Ha-Sh.	L24a	Ⅳ
302	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.5	Ha-Sh.	L24b	Ⅳ
303	つまみ付きナイフ	ⅢA1	4.9	Ha-Sh.	K26c	Ⅳ
304	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(2.4)	Ha-Sh.	M23c	Ⅳ
305	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(9.5)	Ha-Sh.	L26b	Ⅳ下
306	つまみ付きナイフ	ⅢA4	3.7	Obs.	M23c	Ⅳ
307	つまみ付きナイフ	ⅢA3	1.5	Ha-Sh.	K23b	Ⅳ
308	つまみ付きナイフ	ⅢA3	1.5	Ha-Sh.	K23b	Ⅳ
309	つまみ付きナイフ	ⅢA3	6.1	Mnd.	K24b	Ⅳ
310	つまみ付きナイフ	ⅢA3	4.7	Ha-Sh.	M25d	Ⅳ上
311	つまみ付きナイフ	ⅢA3	7.7	Ha-Sh.	K26c	Ⅳ
312	つまみ付きナイフ	ⅢA3	(9.0)	Ha-Sh.	L23d	Ⅳ
313	つまみ付きナイフ	ⅢA1	29.6	Hornf.	K24b	Ⅳ
314	つまみ付きナイフ	ⅢA3	31.3	Obs.	K24c	Ⅴ
315	つまみ付きナイフ	ⅢA4	2.8	Obs.	K23b	Ⅳ
316	つまみ付きナイフ	ⅢA1	11.4	Ha-Sh.	L24b	Ⅴ上
317	つまみ付きナイフ	ⅢA1	10.5	Ha-Sh.	M23d	Ⅴ下
318	つまみ付きナイフ	ⅢA1	8.1	Ha-Sh.	K26b	Ⅴ上
319	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.1	Ha-Sh.	L26d	Ⅴ上
320	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.1	Ha-Sh.	L26a	Ⅴ下
321	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.7	Ha-Sh.	K23c	Ⅴ
322	つまみ付きナイフ	ⅢA1	11.6	Ha-Sh.	K26b	Ⅴ上
323	つまみ付きナイフ	ⅢA1	5.9	Ha-Sh.	K26c	Ⅴ下
324	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.0	Ha-Sh.	L26a	Ⅴ
325	つまみ付きナイフ	ⅢA1	4.6	Ha-Sh.	L26c	Ⅴ上
326	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.8	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ上
327	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.6)	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ下
328	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.3	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ上
329	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.3	Ha-Sh.	L26b	Ⅴ中
330	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(1.8)	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ中
331	つまみ付きナイフ	ⅢA1	2.4	Ha-Sh.	K26c	Ⅴ
332	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(2.5)	Ha-Sh.	L23c	Ⅴ
333	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.0	Ha-Sh.	K27b	Ⅴ
334	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(2.8)	Ha-Sh.	K27b	Ⅴ
335	つまみ付きナイフ	ⅢA1	4.4	Ha-Sh.	L26a	Ⅴ上
336	つまみ付きナイフ	ⅢA1	8.5	Ha-Sh.	M25a	Ⅴ下
337	つまみ付きナイフ	ⅢA1	8.5	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ中
338	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(11.1)	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ
339	つまみ付きナイフ	ⅢA1	8.3	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ上
340	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.9)	Ha-Sh.	K26b	Ⅴ
341	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(4.8)	Ha-Sh.	L23d	Ⅴ
342	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(5.6)	Ha-Sh.	L26a	Ⅳ
343	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(2.7)	Ha-Sh.	K27b	Ⅴ
344	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(4.5)	Ha-Sh.	K26c	Ⅴ
345	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(5.5)	Ha-Sh.	M22d	Ⅴ
346	つまみ付きナイフ	ⅢA3	(4.8)	Ha-Sh.	K25b	Ⅴ
347	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.3	Ha-Sh.	M22d	Ⅴ
348	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.5)	Ha-Sh.	M25b	Ⅴ
349	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.4	Ha-Sh.	L24d	Ⅴ下 ピット上
350	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.2	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ
351	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.8	Ha-Sh.	L24d	Ⅴ下
352	つまみ付きナイフ	ⅢA1	3.3	Ha-Sh.	L24d	Ⅴ
353	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(6.0)	Ha-Sh.	K26a	Ⅴ
354	つまみ付きナイフ	ⅢA1	8.7	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ中
355	つまみ付きナイフ	ⅢA1	19.1	Ha-Sh.	L26d	Ⅴ
356	つまみ付きナイフ	ⅢA1	8.4	Ha-Sh.	K23c	Ⅴ
357	つまみ付きナイフ	ⅢA1	4.8	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ中
358	つまみ付きナイフ	ⅢA1	11.0	Ha-Sh.	M21d	Ⅴ
359	つまみ付きナイフ	ⅢA1	10.7	Ha-Sh.	L25a	Ⅴ
360	つまみ付きナイフ	ⅢA1	14.2	Ha-Sh.	L25a	Ⅴ上
361	つまみ付きナイフ	ⅢA1	(3.0)	Ha-Sh.	L24d	Ⅴ中
362	つまみ付きナイフ	ⅢA3	9.5	Ha-Sh.	L22c	Ⅴ
363	つまみ付きナイフ	ⅢA3	4.2	Ha-Sh.	M25b	Ⅴ上
364	つまみ付きナイフ	ⅢA4	1.9	Ha-Sh.	L26a	Ⅴ上
365	つまみ付きナイフ	ⅢA3	3.0	Ha-Sh.	L25b	Ⅴ中
366	つまみ付きナイフ	ⅢA4	(3.8)	Ha-Sh.	K24b	Ⅴ
367	つまみ付きナイフ	ⅢA1	15.9	Ha-Sh.	L22d	Ⅴ
368	つまみ付きナイフ	ⅢA4	12.2	Ha-Sh.	M22d	Ⅴ
369	つまみ付きナイフ	ⅢA4	4.3	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ上
370	つまみ付きナイフ	ⅢA	2.4	Ha-Sh.	L24d	Ⅴ
371	つまみ付きナイフ	ⅢA3	3.0	Ha-Sh.	L25d	Ⅴ下
372	つまみ付きナイフ	ⅢA3	4.6	Ha-Sh.	M24d	Ⅴ上
373	つまみ付きナイフ	ⅢA3	2.2	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ
374	つまみ付きナイフ	ⅢA3	(2.1)	Ha-Sh.	L24d	Ⅴ
375	つまみ付きナイフ	ⅢA3	(4.9)	Ha-Sh.	M25b	Ⅴ上
376	つまみ付きナイフ	ⅢA3	(3.6)	Ha-Sh.	M26a	Ⅴ
377	つまみ付きナイフ	ⅢA3	2.3	Ha-Sh.	L26b	Ⅴ中
378	つまみ付きナイフ	ⅢA3	(1.7)	Ha-Sh.	M25b	Ⅴ上
379	つまみ付きナイフ	ⅢA3	3.4	Ha-Sh.	K26c	Ⅴ
380	つまみ付きナイフ	ⅢA4	(2.6)	Obs.	L24c	Ⅴ
381	つまみ付きナイフ	ⅢA1	9.1	Obs.	L25a	Ⅴ上
382	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.3	Obs.	K25b	Ⅴ上
383	つまみ付きナイフ	ⅢA1	1.9	Ha-Sh.	L26a	
384	つまみ付きナイフ	ⅢA1	7.3	Ha-Sh.	L25a	C　調
385	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.7	Ha-Sh.	L25a	C　調
386	スクレイパー	ⅢB	85.0	Ha-Sh.	L22a	
387	スクレイパー	ⅢB	27.7	Ha-Sh.	M23b	Ⅲ
388	スクレイパー	ⅢB	10.4	Obs.	L24a	Ⅲ
389	スクレイパー	ⅢB	10.4	Ha-Sh.	M23c	Ⅳ
390	スクレイパー	ⅢB	6.8	Ha-Sh.	L26b	Ⅳ下

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
391	スクレイパー	ⅢB	3.0	Ha-Sh.	L24a	Ⅳ
392	スクレイパー	ⅢB	14.4	Ha-Sh.	M24d	Ⅳ
393	スクレイパー	ⅢB	5.1	Ha-Sh.	L24a	Ⅳ
394	スクレイパー	ⅢB	4.35	Ha-Sh.	M25b	Ⅳ上
395	スクレイパー	ⅢB	25.8	Ha-Sh.	L24b	Ⅳ
399	スクレイパー	ⅢB	11.2	Ha-Sh.	L26a	Ⅳ下
397	スクレイパー	ⅢB	14.4	Obs.	L23a	Ⅳ
398	スクレイパー	ⅢB	13.8	Ha-Sh.	M23c	Ⅳ
399	スクレイパー	ⅢB	4.35	Ha-Sh.	L24a	Ⅳ
400	スクレイパー	ⅢB	2.0	Ha-Sh.	M24d	Ⅳ
401	スクレイパー	ⅢB	10.6	Ha-Sh.	M23b	Ⅳ
402	スクレイパー	ⅢB	17.0	Ha-Sh.	M24d	Ⅳ
403	スクレイパー	ⅢB	12.1	Ha-Sh.	M23d	Ⅳ
404	スクレイパー	ⅢB	15.1	obS.	K24b	Ⅳ
405	スクレイパー	ⅢB	11.8	Ha-Sh.	K23c	Ⅳ
406	スクレイパー	ⅢB	11.5	Ha-Sh.	L27a	Ⅳ
407	スクレイパー	ⅢB	42.6	Ha-Sh.	L23d	Ⅳ
408	スクレイパー	ⅢB	25.1	Ha-Sh.	M23b	Ⅳ
409	スクレイパー	ⅢB	22.3	Ha-Sh.	L23c	Ⅳ
410	スクレイパー	ⅢB	14.2	Ha-Sh.	M25b	Ⅳ上
411	スクレイパー	ⅢB	2.4	Ha-Sh.	L26a	Ⅴ
412	スクレイパー	ⅢB	3.2	Ha-Sh.	M24d	Ⅴ下
413	スクレイパー	ⅢB	5.4	Ha-Sh.	M25c	Ⅴ上
414	スクレイパー	ⅢB	8.1	Ha-Sh.	M24b	Ⅴ
415	スクレイパー	ⅢB	21.2	Ha-Sh.	M25a	Ⅴ上
416	スクレイパー	ⅢB	9.2	Obs.	M25d	Ⅴ上
417	スクレイパー	ⅢB	17.7	Ha-Sh.	L24c	Ⅴ
418	スクレイパー	ⅢB	38.3	Ha-Sh.	K26a	Ⅴ
419	スクレイパー	ⅢB	46.2	Ha-Sh.	M25b	Ⅴ中
420	スクレイパー	ⅢB	13.6	Ha-Sh.	M21d	Ⅴ
421	スクレイパー	ⅢB	21.0	Ha-Sh.	L25d	Ⅴ上
422	スクレイパー	ⅢB	16.3	Ha-Sh.	M25d	Ⅴ上
423	スクレイパー	ⅢB	26.2	Ha-Sh.	K27c	Ⅴ
424	スクレイパー	ⅢB	35.1	Ha-Sh.	L25d	Ⅴ
425	スクレイパー	ⅢB	6.1	Ha-Sh.	L23d	Ⅴ
426	スクレイパー	ⅢB	15.4	Ha-Sh.	M25b	Ⅴ上
427	スクレイパー	ⅢB	18.7	Obs.	L24d	Ⅴ中
428	スクレイパー	ⅢB	12.1	Ha-Sh	L24a	Ⅴ
429	スクレイパー	ⅢB	18.3	Ha-Sh.	M25a	Ⅴ中
430	スクレイパー	ⅢB	4.8	Obs.	M25d	Ⅴ
431	スクレイパー	ⅢB	13.3	Ha-Sh.	K25d	Ⅴ
432	スクレイパー	ⅢB	21.0	Ha-Sh.	M23c	Ⅴ上
433	スクレイパー	ⅢB	28.8	Obs.	M24d	Ⅴ下
434	スクレイパー	ⅢB	14.0	Obs.	M22a	Ⅴ
435	スクレイパー	ⅢB	15.7	Ha-Sh.	M23d	Ⅴ
436	スクレイパー	ⅢB	12.7	Ha-Sh.	K27b	Ⅴ
437	スクレイパー	ⅢB	7.7	Ha-Sh.	L26a	Ⅴ
438	スクレイパー	ⅢB	17.2	Aga-Sh.	L26d	Ⅴ上
439	スクレイパー	ⅢB	6.9	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ下
440	スクレイパー	ⅢB	3.3	Ha-Sh.	L25c	Ⅴ下
441	スクレイパー	ⅢB	4.0	Obs.	L25d	Ⅴ
442	スクレイパー	ⅢB	15.2	Ha-Sh.	L24d	Ⅴ中
443	スクレイパー	ⅢB	15.9	Ha-Sh.	L26c	Ⅴ上
444	スクレイパー	ⅢB	15.8	Obs.	L24a	Ⅴ
445	スクレイパー	ⅢB	18.6	Ha-Sh.	L24c	Ⅴ中
446	スクレイパー	ⅢB	14.6	Obs.	L24d	Ⅴ
447	スクレイパー	ⅢB	11.3	Ha-Sh.	L26b	Ⅴ中
448	スクレイパー	ⅢB	10.5	Ha-Sh.	M21d	Ⅴ
449	スクレイパー	ⅢB	7.2	Ha-Sh.	M25c	Ⅴ
450	スクレイパー	ⅢB	10.7	Ha-Sh.	M25c	Ⅴ上
451	石核	ⅨA	40.6	Obs.	K24c	Ⅴ
452	石核	ⅨA	108.4	Obs.	K24c	Ⅴ
453	石核	ⅨA	31.3	Obs.	K24c	Ⅴ
454	石核	ⅨA	21.4	Obs.	K24c	Ⅴ
455	石核	ⅨA	34.9	Obs.	K24c	Ⅴ
456	石核	ⅨA	(25.5)	Obs.	K24c	Ⅴ
457	石核	ⅨA	28.7	Obs.	K24c	Ⅴ
458	石核	ⅨA	25.3	Obs.	K24c	Ⅴ
459	石核	ⅨA	33.9	Obs.	K24c	Ⅴ
460	石核	ⅨA	36.9	Obs.	K24c	Ⅴ
461	石核	ⅨA	25.7	Obs.	K24c	Ⅴ
462	石核	ⅨA	22.3	Obs.	K24c	Ⅴ
463	石核	ⅨA	23.3	Obs.	K24c	Ⅴ
464	石核	ⅨA	27.3	Obs.	K24c	Ⅴ
465	石核	ⅨA	13.8	Obs.	K24c	Ⅴ
466	石核	ⅨA	21.5	Obs.	K24c	Ⅴ
467	石核	ⅨA	18.2	Obs.	K24c	Ⅴ
468	石核	ⅨA	16.4	Obs.	K24c	Ⅴ
469	石核	ⅨA	10.4	Obs.	K24c	Ⅴ
470	石核	ⅨA	64.4	Obs.	K25b	Ⅴ上
471	石核	ⅨA	72.6	Ha-Sh.	K25c	Ⅴ下
472	石核	ⅨA	65.2	Ha-Sh.	M25c	Ⅴ
473	石核	ⅨA	20.6	Obs.	M22a	
474	石核	ⅨA	22.3	Obs.	M22a	
475	石斧	Ⅳ	49.5	Mud.	L23b	Ⅲ
476	石斧	Ⅳ	(53.2)	Tu.	L24a	Ⅲ
477	石斧	Ⅳ		Rhy.	M34d	Ⅲ
478	石斧	Ⅳ	(3.0)	Rhy.	L24a	Ⅲ
479	石斧	Ⅳ	(22.0)	Mud.	L23d	Ⅲ
480	石斧	Ⅳ	(20.3)	Mud.	L24b	Ⅳ
481	石斧	Ⅳ	340	Rhy.	L24a	Ⅳ
482	石斧	Ⅳ	155	Sch.	M21d	Ⅳ
483	石斧	Ⅳ	180	Gr-Mud.	M25d	Ⅳ中
484	石斧	Ⅳ	(103.6)	Gr-Mud.	M23d	Ⅳ
485	石斧	Ⅳ	(21.3)	Rhy.	L22d	Ⅳ
486	石斧	Ⅳ	10.7	Rhy.	K27b	Ⅳ
487	石斧	Ⅳ	(150)	Rhy.	K22c.	Ⅳ
488	石斧	Ⅳ	(110)	Rhy.	L25d	Ⅳ下
489	石斧	Ⅳ	(152.7)	Gr-Mud.	L25d	Ⅴ中
490	石斧	Ⅳ	(200)	Rhy.	K24c	Ⅴ

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
491	石斧	Ⅳ	(230)	Gr-Mud.	K24c	Ⅴ
492	石斧	Ⅳ	(250)	Rhy.	M25a	Ⅴ下
493	石斧	Ⅳ	(140)	Gr-Mud.	M22b	Ⅴ
494	石斧	Ⅳ	(71.9)	Gr-Mud.	L26a	Ⅴ上
495	石斧	Ⅳ	(197.9)	Rhy.	K24c	Ⅴ
496	石斧	Ⅳ	(31.3)	Rhy.	L26d	Ⅴ上
497	石斧	Ⅳ	(144.5)	Rhy.	K25a	Ⅴ
498	石斧	Ⅳ	180	Sch.	M22b	Ⅴ
499	石斧	Ⅳ	(50.4)	Rhy.	K24c	Ⅴ
500	石斧	Ⅳ	(14.1)	Gr-Mud.	L26b	Ⅴ中
501	石斧	Ⅳ	17.5	Rhy.	K23b	Ⅴ
502	石斧	Ⅳ	13.7	Rhy.	L25d	Ⅴ中
503	石斧	Ⅳ	(36.2)	Rhy.	K22c	Ⅴ
504	石斧	Ⅳ	22.3	Rhy.	M22c	Ⅴ
505	石斧	Ⅳ	(240)	Rhy.	K26c	Ⅴ
506	石斧	Ⅳ	25.9	Gr-Mud.	M22d	
507	石斧	Ⅳ	(130)	Gr-Mud.	M22a	
508	石斧	Ⅳ	31.2	Rhy.	M22d	
509	すり切残片	Ⅳ		Rhy.	L23d	Ⅳ
510	すり切残片	Ⅳ	(15)	Rhy.	K24b	Ⅴ
511	すり切残片	Ⅳ	235	Rhy.	K22b	Ⅴ
512	すり切残片	Ⅳ	68.4	Rhy.	M25b	Ⅴ
513	すり切残片	Ⅳ	(99.5)	Rhy.	K25b	Ⅴ
514	すり切残片	Ⅳ	(327)	Rhy.	M25d	Ⅴ
515	すり切残片	Ⅳ	599	Rhy.	L23a	Ⅴ
516	たたき石	ⅤA1	600	And.	L23d	Ⅲ
517	たたき石	ⅤA1	952	And.	L23d	Ⅳ
518	たたき石	ⅤA2	315	And.	K23c	Ⅴ
519	たたき石	ⅤA2	1180	Sa.	M24d	Ⅴ
520	たたき石	ⅤA1	856	And.	M25a	Ⅴ中
521	たたき石	ⅤA2	604	And.	L22c	
522	たたき石	ⅤA3	700	And.	L24c	Ⅳ上
523	たたき石	ⅤA3	540	And.	L24d	Ⅴ
524	たたき石	ⅤA3	350	And	L24b	Ⅴ
525	たたき石	ⅤA3	300	And.	K23c	
526	石錘	ⅦA2	110	And.	M23a	Ⅲ
527	石錘	ⅦA2	191.4	And.	L23b	Ⅳ
528	石錘	ⅦA2	107.4	And.	L24b	Ⅳ
529	石錘	ⅦA2	54.8	And.	K27c	Ⅳ
530	石錘	ⅦA2	140	And.	L24b	Ⅳ
531	石錘	ⅦA2	95.5	And.	M24d	Ⅳ
532	石錘	ⅦA2	87.2	And.	L25b	Ⅳ中
533	石錘	ⅦA2	75.0	And.	L24b	Ⅳ
534	石錘	ⅦA2	118	And.	K23c	Ⅳ
535	石錘	ⅦA2	66.4	And.	M24a	Ⅳ
536	石錘	ⅦA2	100.3	And.	L23b	Ⅳ
537	石錘	ⅦA2	116.7	And.	K23c	Ⅳ
538	石錘	ⅦA2	49.1	And.	L23b	Ⅳ
539	石錘	ⅦA2	161	And.	M23b	Ⅳ
540	石錘	ⅦA2	109.7	And.	L23b	Ⅳ
541	石錘	ⅦA2	55	And.	L24b	Ⅳ
542	石錘	ⅦA2	93.7	And.	L25c	Ⅳ
543	石錘	ⅦA2	185.5	And.	L23c	Ⅳ
544	石錘	ⅦA2	180	And.	M23c	Ⅳ
545	石錘	ⅦA2	185.5	And.	L23c	Ⅳ
546	石錘	ⅦA2	116.7	And.	L23b	Ⅳ
547	石錘	ⅦA2	61.8	And.	M24c	Ⅳ
548	石錘	ⅦA2	340	And.	L23b	Ⅳ
549	石錘	ⅦA2	50	Sa.	K27b	Ⅳ
550	石錘	ⅦA2	70	Sa.	M23c	Ⅳ
551	石錘	ⅦA3	115	And.	M24a	Ⅳ
552	石錘	ⅦA3	90	And.	M22c	Ⅳ
553	石錘	ⅦA2	54	And.	L26a	Ⅴ下
554	石錘	ⅦA3	103.7	And.	L25c	Ⅴ
555	石錘	ⅦA3	75	And.	M25d	Ⅴ下
556	石錘	ⅦA3	63.7	And.	M26a	Ⅴ中
557	石錘	ⅦA3	89.8	And.	M24d	Ⅴ下
558	石錘	ⅦA3	91.0	And.	L26b	Ⅴ下
559	石錘	ⅦA3	90.9	And.	L25c	Ⅴ
560	石錘	ⅦA3	133.6	And.	M25a	Ⅴ下
561	石錘	ⅦA3	105	And.	M21d	Ⅴ
562	石錘	ⅦA3	80	And.	M25b	Ⅴ下
563	石錘	ⅦA3	157.8	And.	L22c	Ⅴ
564	石錘	ⅦA3	74.1	And.	K26c	Ⅴ上
565	石錘	ⅦA3	103.1	And.	M25b	Ⅴ中
566	石錘	ⅦA3	140	And.	M24a	Ⅴ
567	石錘	ⅦA3	172.0	And.	L25d	Ⅴ下
568	石錘	ⅦA3	108.8	And.	K26b	Ⅴ
569	石錘	ⅦA3	91.1	And.	M24a	Ⅴ
570	石錘	ⅦA3	125	And.	M25a	Ⅴ上
571	石錘	ⅦA3	88.9	And.	L26a	Ⅴ下
572	石錘	ⅦA3	205	And.	L23a	Ⅴ
573	石錘	ⅦA3	157.2	And.	K26d	Ⅴ
574	石錘	ⅦA3	94	And.	M23d	Ⅴ
575	石錘	ⅦA3	98.9	And.	L23b	Ⅴ
576	石錘	ⅦA2	130	And.	M22b	Ⅴ
577	石錘	ⅦA2	80.1	And.	K26b	Ⅴ
578	石錘	ⅦA2	75	And.	M24b	Ⅴ
579	石錘	ⅦA2	165	And.	L26b	Ⅴ中
580	石錘	ⅦA2	4.7	And.	M23a	Ⅴ
581	石錘	ⅦA2	81.9	And.	L25a	Ⅴ中
582	石錘	ⅦA2	165.4	And.	L25b	Ⅴ
583	石錘	ⅦA2	54.5	And.	L24c	Ⅴ中
584	石錘	ⅦA2	43.9	And.	L22c	Ⅴ
585	石錘	ⅦA2	84.2	And.	L25a	Ⅴ上
586	石錘	ⅦA2	194	And.	M23b	Ⅴ
587	石錘	ⅦA2	68.0	And	L25c	Ⅴ
588	石錘	ⅦA2	78	And.	L26a	Ⅴ下
589	石錘	ⅦA2	155.6	And.	K24c	Ⅴ
590	石錘	ⅦA2	65	And.	L25d	Ⅴ

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
591	石鏃	Ⅷ A 2	80.3	And.	K24 c	Ⅴ
592	石鏃	Ⅷ A 2	176.4	And.	K25 c	Ⅴ
593	石鏃	Ⅷ A 2	145	And.	M24 a	Ⅴ
594	石鏃	Ⅷ A 2	76.0	Sa.	L22 c	Ⅴ
595	石鏃	Ⅷ A 2	67.3	Sa.	M23 c	Ⅴ
596	石鏃	Ⅷ A 2	70.1	Sa.	L25 d	Ⅴ下
597	石鏃	Ⅷ A 2	90	Mud.	M25 b	Ⅴ中
598	石鏃	Ⅷ A 2	115	Obs.	K26 b	Ⅴ
599	石鏃	Ⅷ A 3	82	And.	M23 d	Ⅴ
600	石鏃	Ⅷ A 3	70	And.	L25 c	Ⅴ中
601	石錐	Ⅷ A 3	120	And.	M26 a	Ⅴ
602	石錐	Ⅷ A 3	142	And.	M22 a	Ⅴ
603	石錐	Ⅷ A 3	325	Sa.	L26 c	Ⅴ上
604	石錐	Ⅷ A 2	(54.8)	And.	K23 b	Ⅴ
605	石錐	Ⅷ A 2	49	And.	M23 d	Ⅴ
606	石錐	Ⅷ A 2	99.3	And.	K24 c	Ⅴ
607	砥石	Ⅵ B 2	(65)	Sa.	M23 b	Ⅲ
608	砥石	Ⅵ B 2	(95)	Sa.	M25 a	Ⅲ
609	砥石	Ⅵ B 2	104.3	Sa.	L26 d	Ⅳ
610	砥石	Ⅵ B 2	(190)	And.	L25 c	Ⅳ下
611	砥石	Ⅵ B 2	(190)	And.	L24 b	Ⅳ
612	砥石	Ⅵ A 1	(4.8)	Sa.	M23 c	Ⅳ
613	砥石	Ⅵ B 1	(1,125)	Sa.	K24 b	Ⅳ
614	砥石	Ⅵ B 1	131.9	Sa.	M22 c	Ⅳ
615	砥石	Ⅵ B 2	(110)	Sa.	L26 b	Ⅴ下
616	砥石	Ⅵ B 2	78.0	Sa.	L25 c	Ⅴ下
617	砥石	Ⅵ B 2	170.8	Sa.	L24 d	Ⅴ
618	砥石	Ⅵ B 2	(40.0)	Sa.	M26 a	Ⅴ
619	砥石	Ⅵ B 2		Sa.	K24 b	Ⅴ
620	砥石	Ⅵ B 2	(425)	Sa.	L26 a	Ⅴ
621	砥石	Ⅵ B 1	19.2	Sa.	L26 d	Ⅴ
622	砥石	Ⅵ B 1	62	Sa.	L25 a	Ⅴ下
623	砥石	Ⅵ B 1	(130)	Sa.	K27 c	Ⅴ
624	砥石	Ⅵ B 1	(15)	Sa.	K24 b	Ⅴ
625	十り石	Ⅵ A 1	590	And.	M23 c	Ⅲ
626	十り石	Ⅵ A 1	600	And.	L23 d	Ⅲ
627	十り石	Ⅵ A 1	170	And.	M25 b	Ⅲ
628	十り石	Ⅵ A 1	480	And.	L24 b	Ⅲ
629	十り石	Ⅵ A 2	610	And.	L23 d	Ⅲ
630	十り石	Ⅵ A 2	280	And.	K23 c	Ⅲ
631	十り石	Ⅵ A 1	550	And.	M24 b	Ⅲ
632	十り石	Ⅵ A 1	845	And.	K22 c	Ⅲ
633	十り石	Ⅵ B 1	500	And.	M23 d	Ⅲ
634	十り石	Ⅵ A 1	910	And.	L24 d	Ⅳ
635	十り石	Ⅵ A 1	1,300	And.	K22 c	Ⅳ
636	十り石	Ⅵ A 1	1,030	And.	L22 c	Ⅳ
637	十り石	Ⅵ A 1	670	And.	L23 c	Ⅳ
638	十り石	Ⅵ A 1	(705)	And.	L24 d	Ⅳ
639	十り石	Ⅵ A 1	995	And.	L23 c	Ⅳ
640	十り石	Ⅵ A 1	910	And.	M23 a	Ⅳ
641	十り石	Ⅵ A 1	800	And.	L25 a	Ⅳ上
642	十り石	Ⅵ A 1	1,280	And.	M23 c	Ⅳ
643	十り石	Ⅵ A 1	1,070	And.	M25 d	Ⅳ中
644	十り石	Ⅵ A 1	780	And.	L23 b	Ⅳ
645	十り石	Ⅵ A 1	860	And.	K23 c	Ⅳ
646	十り石	Ⅵ A 1	960	And.	L23 c	Ⅳ
647	十り石	Ⅵ A 1	700	And.	K22 c	Ⅳ
648	十り石	Ⅵ A 1	780	And.	K24 b	Ⅳ
649	十り石	Ⅵ A 1	670	And.	L23 b	Ⅳ
650	十り石	Ⅵ A 1	660	And.	L24 b	Ⅳ
651	十り石	Ⅵ A 1	(995)	And.	L22 c	Ⅳ
652	十り石	Ⅵ A 1	413	And.	L25 b	Ⅳ上
653	十り石	Ⅵ A 1	410	And.	L23 d	Ⅳ
654	十り石	Ⅵ A 1	400	And.	L23 c	Ⅳ
655	十り石	Ⅵ A 1	210	And.	L24 d	Ⅳ下
656	十り石	Ⅵ A 1	100	And.	M22 c	Ⅳ
657	十り石	Ⅵ A 1	(715)	And.	L23 d	Ⅳ
658	十り石	Ⅵ A 1	(790)	And.	L24 d	Ⅳ
659	十り石	Ⅵ A 1	540	And.	L24 d	Ⅳ
660	十り石	Ⅵ A 1	580	And.	L23 d	Ⅳ
661	十り石	Ⅵ A 1	730	And.	L24 d	Ⅳ
662	十り石	Ⅵ A 1	781	And.	L25 a	Ⅳ中
663	十り石	Ⅵ A 1	400	And.	L23 a	Ⅳ
664	十り石	Ⅵ A 1	870	And.	L23 c	Ⅳ
665	十り石	Ⅵ A 1	260	And.	M26 b	Ⅳ上
666	十り石	Ⅵ A 1	(840)	And.	L26 b	Ⅳ
667	十り石	Ⅵ A 1	425	And.	K22 c	Ⅳ
668	十り石	Ⅵ A 1	250	And.	M25 d	Ⅳ中
669	十り石	Ⅵ A 1	310	And.	M24 d	Ⅳ
670	十り石	Ⅵ A 2	270	Sa.	L23 d	Ⅳ
671	十り石	Ⅵ B 1	680	And.	M24 a	Ⅳ
672	十り石	Ⅵ A 1	1,430	And.	L21 c	Ⅴ
673	十り石	Ⅵ A 1	980	And.	L23 a	Ⅴ
674	十り石	Ⅵ A 1	850	And.	K25 b	Ⅴ中
675	十り石	Ⅵ A 1	1,415	And.	M26 a	Ⅴ中
676	十り石	Ⅵ A 1	825	And.	L25 c	Ⅴ下
677	十り石	Ⅵ A 1	1,075	And.	L25 a	Ⅴ下
678	十り石	Ⅵ A 1	695	And.	M25 a	Ⅴ中
679	十り石	Ⅵ A 1	835	And.	M24 a	Ⅴ
680	十り石	Ⅵ A 1	890	And.	L25 b	Ⅴ中
681	十り石	Ⅵ A 1	940	And.	L22 c	Ⅳ
682	十り石	Ⅵ A 1	850	And.	M23 b	Ⅴ
683	十り石	Ⅵ A 1	680	And.	L25 b	Ⅴ
684	十り石	Ⅵ A 1	600	And.	L25 b	Ⅴ
685	十り石	Ⅵ A 1	520	And.	M26 a	Ⅴ
686	十り石	Ⅵ A 1	1,030	And.	K23 c	Ⅴ
687	十り石	Ⅵ A 1	1,220	And.	K24 b	Ⅴ
688	十り石	Ⅵ A 1	810	And.	L25 a	Ⅴ上
689	十り石	Ⅵ A 1	960	And.	M23 a	Ⅴ
690	十り石	Ⅵ A 1	750	And.	L22 c	Ⅴ

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
691	すり石	ⅥA1	830	And.	L24d	Ⅴ下
692	すり石	ⅥA1	650	And.	L25b	Ⅴ
693	すり石	ⅥA1	600	And.	L22c	Ⅴ
694	すり石	ⅥA1	780	And.	K26d	Ⅴ
695	すり石	ⅥA1	500	And.	M26b	Ⅴ
696	すり石	ⅥA1	460	And.	L27a	Ⅴ
697	すり石	ⅥA1	840	And.	L23c	Ⅵ
698	すり石	ⅥA1	420	And.	L24c	Ⅴ中
699	すり石	ⅥA1	515	And.	L24d	Ⅴ
700	すり石	ⅥA1	670	And.	M23d	Ⅴ
701	すり石	ⅥA1	488	And.	M23c	Ⅴ
702	すり石	ⅥA1	351	And.	M23b	Ⅴ
703	すり石	ⅥA1	745	And.	K26c	Ⅴ上
704	すり石	ⅥA1	490	And.	M24b	Ⅴ
705	すり石	ⅥA1	460	And.	M25d	Ⅴ
706	すり石	ⅥA1	565	And.	K23b	Ⅴ
707	すり石	ⅥA1	470	And.	L26b	Ⅴ
708	すり石	ⅥA1	430	And.	M24a	Ⅴ
709	すり石	ⅥA1	700	And.	K24c	Ⅴ
710	すり石	ⅥA1	979	And.	L25b	Ⅴ下
711	すり石	ⅥA1	538	And.	M24a	Ⅴ
712	すり石	ⅥA1	800	And.	M25a	Ⅴ
713	すり石	ⅥA1	280	And.	L25a	Ⅴ下
714	すり石	ⅥA1	240	And.	L21c	Ⅴ
715	すり石	ⅥA1	380	And.	L26d	Ⅴ上
716	すり石	ⅥA1	610	And.	K26b	Ⅴ
717	すり石	ⅥA1	490	And.	K25a	Ⅴ
718	すり石	ⅥA1	315	And.	M24a	Ⅴ
719	すり石	ⅥA1	552	And.	M22c	Ⅴ
720	すり石	ⅥA1	291	And.	L22c	Ⅴ
721	すり石	ⅥA1	420	And.	K23c	Ⅴ
722	すり石	ⅥA1	300	And.	L26c	Ⅴ上
723	すり石	ⅥA1	290	And.	L25c	Ⅴ
724	すり石	ⅥA1	400	And.	M23c	Ⅴ
725	すり石	ⅥA1	130	And.	M22a	Ⅴ
726	すり石	ⅥA1	208	And.	K26c	Ⅴ中
727	すり石	ⅥA1	210	And.	M24d	Ⅴ下
728	すり石	ⅥA1	170	And.	M25b	Ⅴ中
729	すり石	ⅥA1	575	And.	L23a	Ⅴ
730	すり石	ⅥA1	90	And.	L26d	Ⅴ
731	すり石	ⅥA1	450	And.	K26b	Ⅴ
732	すり石	ⅥA1	1,090	And.	M23a	Ⅵ
733	すり石	ⅥA1	430	And.	K26b	Ⅴ
734	すり石	ⅥA1	460	And.	M23d	Ⅴ
735	すり石	ⅥA1	460	And.	M24a	Ⅴ
736	すり石	ⅥA1	410	And.	K24c	Ⅴ
737	すり石	ⅥA1	390	And.	M22a	Ⅴ
738	すり石	ⅥA1	200	And.	L25d	Ⅴ
739	すり石	ⅥA1	560	And.	L23a	Ⅴ
740	すり石	ⅥA1	400	And.	L25c	Ⅴ
741	すり石	ⅥA1	400	And.	L26d	Ⅴ上
742	すり石	ⅥA1	1,318	And.	L26d	Ⅴ
743	すり石	ⅥA1	1,030	And.	L25a	
744	すり石	ⅥA1	1,220	And.	K23a	
745	すり石	ⅥA1	730	And.	L24a	
746	すり石	ⅥA1	1,240	And.	L22c	
747	すり石	ⅥA1	440	Sa.	M22a	
748	すり石	ⅥA1	650	And.	L23d	
749	すり石	ⅥA1	640	And.	M24c	
750	すり石	ⅥA1	780	And.	L22a	
751	すり石	ⅥA1	970	And.	M22d	
752	すり石	ⅥA1	600	And.	L23a	
753	すり石	ⅥA1	1,180	And.	L22d	
754	すり石	ⅥA1	470	And.	M24d	
755	すり石	ⅥA1	820	And.	L22a	
756	すり石	ⅥB1	620	And.	M22d	不明
757	すり石	ⅥB1	482	And.	L22a	
758	すり石	ⅥA4	(509)	And.	L22b	不明
759	すり石	ⅥA4	(575)	And.	L22c	不明
760	すり石	ⅥA4	(600)	And.	L22c	不明
761	石皿	ⅥB1	35,600	And.	K23a	Ⅲ
762	石皿	ⅥB1	12,400	And.	K24b	Ⅳ
763	石皿	ⅥB1	760	And.	L23d	Ⅳ
764	石皿	ⅥB1	4,800	And.	L22b	Ⅳ
765	石皿	ⅥB1	6,700	And.	L21c	Ⅳ
766	石皿	ⅥB1	8,300	And.	L24a	Ⅳ
767	石皿	ⅥB1	1,750	And.	K25c	Ⅴ
768	石皿	ⅥB1	14,600	And.	K25c	Ⅴ
769	石皿	ⅥB1	3,000	And.	L24c	Ⅴ
770	石皿	ⅥB1	1,650	And.	M24c	Ⅴ下
771	石皿	ⅥB1	5,200	And.	K26b	Ⅴ
772	石皿	ⅥB1	3,300	And.	K26b	Ⅴ
773	石皿	ⅥB1	4,200	And.	M25d	Ⅴ下
774	石皿	ⅥB1	2,100	And.	M24d	

Ⅳ　B地点の遺構と遺物

B地点の調査状況

Ⅳ　B地点の遺構と遺物

1　遺構の分布

B地点は倶多楽カルデラの外輪山からなる舌状の丘陵が南方に突出し、その西斜面の緩傾斜地に位置する。

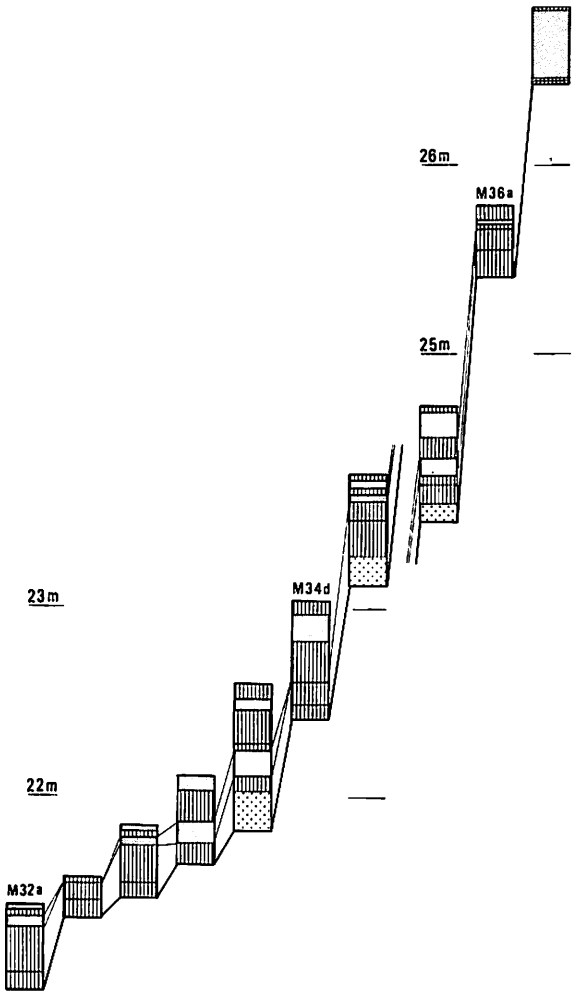
確認された遺構は、住居跡1、住居的施設2、墓1、Tピット1、土壙4、焼土4。

住居跡（H－1）は後述するとおり縄文時代後期初頭の所産で、L・M－35区から検出された。一部は調査区外にかかるため、完掘できなかった。

住居的施設は（P－1・2）、住居跡と同じ立地環境にあり、時期も縄文時代後期初頭であることから、住居跡と付随する施設なのかもしれない。

墓（P－3）は縄文時代後期の所産で、壙口・中に焼土に伴っている。墓周辺に多数の礫群があり、何らかの関連があるものかもしれない。

Tピット（P－7）は小川の縁辺部の平坦面にあり、長軸は、等高線と直交する。



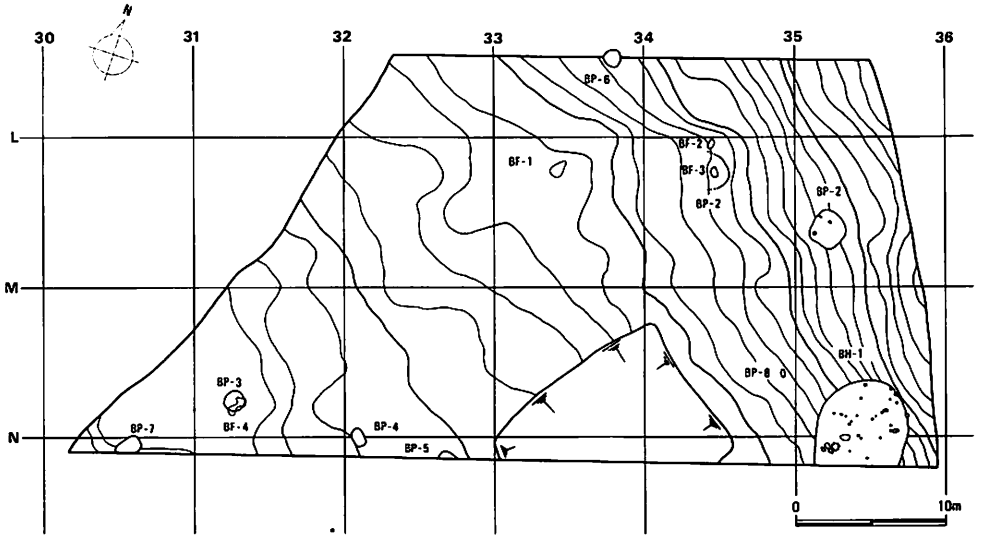


図128　B地点の遺構分布と土層柱状図

2　遺構

H－1（図129～133）

M・N－35区にある。覆土は9層に分けられる。Ⅰ層は暗褐色土の基本層序のⅣ層に対比。Ⅱ層は黒褐色土。基本層序のⅤ層に対比。Ⅲ層は黄褐色ローム。Ⅳ層は黒色土。Ⅱ層よりも黒味が強く粘性もある。覆土は基本層序のⅤ層に対比しうるが、細かいローム粒を含む。Ⅳ層よりも粘性が強い。Ⅵ層は黒褐色土。Ⅴ層と類似するが、より黒味が強く、粘性もある。Ⅶ層は褐色土。多量の細かいローム粒を含み、少量ではあるが炭化物を含む。Ⅷ層は黒色土。多量の炭化物を含み粘性も強い。Ⅸ層は多量の細かいローム粒と炭化物を含む粘性の強い土層。壁の立ち上がり付近にごく少量の焼土が確認された。平面形は一部が調査区外となっているため明らかではないが、おそらく長円形と思われる。長径(推定)8.10m、短径4.80m。炉跡は南壁よりにあり、6個の礫で囲まれている。また、その周辺からも焼土が4か所検出された。石囲い炉の土層は3層に分けられる。Ⅰ層は赤褐色の焼土。Ⅱ層は若干褐色がかっており、火熱の影響を受けた土。Ⅲ層は基本層序のⅦ層である。東壁からは多量の炭化材が検出された。そのほとんどが覆土中であり、近くに柱穴があることから、構造材かもしれない。また、覆土中からは点々と焼土が認められ、廃棄後、火災に遭遇した可能性も考えられる。柱穴は主に炭化材のある東壁周辺から検出された。確かに柱穴と考えられるのはa～pの16個、その他不明のものが10個である。それぞれの柱穴の床面からの深さは、aが27cm、bが44cm、cが15cm、dが33cm、eが23cm、fが26cm、gが18cm、hが20cm、iが23cm、jが33cm、kが25cm、lが22cm、nが25cm、nが16cm、oが20cm、pが36cmである。柱穴a・d・jは壁に設けられ、壁の傾斜に対してほぼ垂直である。柱穴配置の特徴は、主柱穴が明瞭ではなく、径の小さな柱穴がd・e・f・g・h・k・l・mのように直線的に設けられていることと、柱穴群が炭化材のある東壁側に偏っていることである。

遺物　覆土・床面ともに遺物の出土量は少ない。14は南側の柱穴p近辺から出土した土器。口径36.4cm。口縁部に平たい貼付帯が2段に付けている。器面にはRLの斜縄文が密に施され、貼付帯上にも回転方向を変えて同原体で施文されている。炭化物が器外面上半部に多量に付着している。床面の数cm上層から出土。15も14と同一個体と思われるが、接合できない口縁部破片。北西壁近くで出土。16・17は覆土出土のⅢ群b類の胴部破片。16は結束第1種の羽状縄文。器厚は11mm。17はにT字状の貼付帯がある。貼付帯の幅は6mm。その上に竹管状の工具による刺突文が施されている。地文はRL斜縄文。1～4・6～8は石鏃、5は石錐、9～11はスクレイパー、12は石核、13はたたき石である。石質は1～12が黒曜石、13が安山岩である。石器の重量は1：0.9g、2：1.1g、3：2.2g、4：2.9g、5：1.4g、6：(1.1) g、7：(5.3) g、8：(3.5) g、9：4.5g、10：11g、11：15.2g、12：25g、13：770gである。

小括　床面出土の土器がⅣ群a類であることから縄文後期の住居跡である。

炭化材の ^{14}C年代は、3.740±40年B．P．（KSU－559）である。

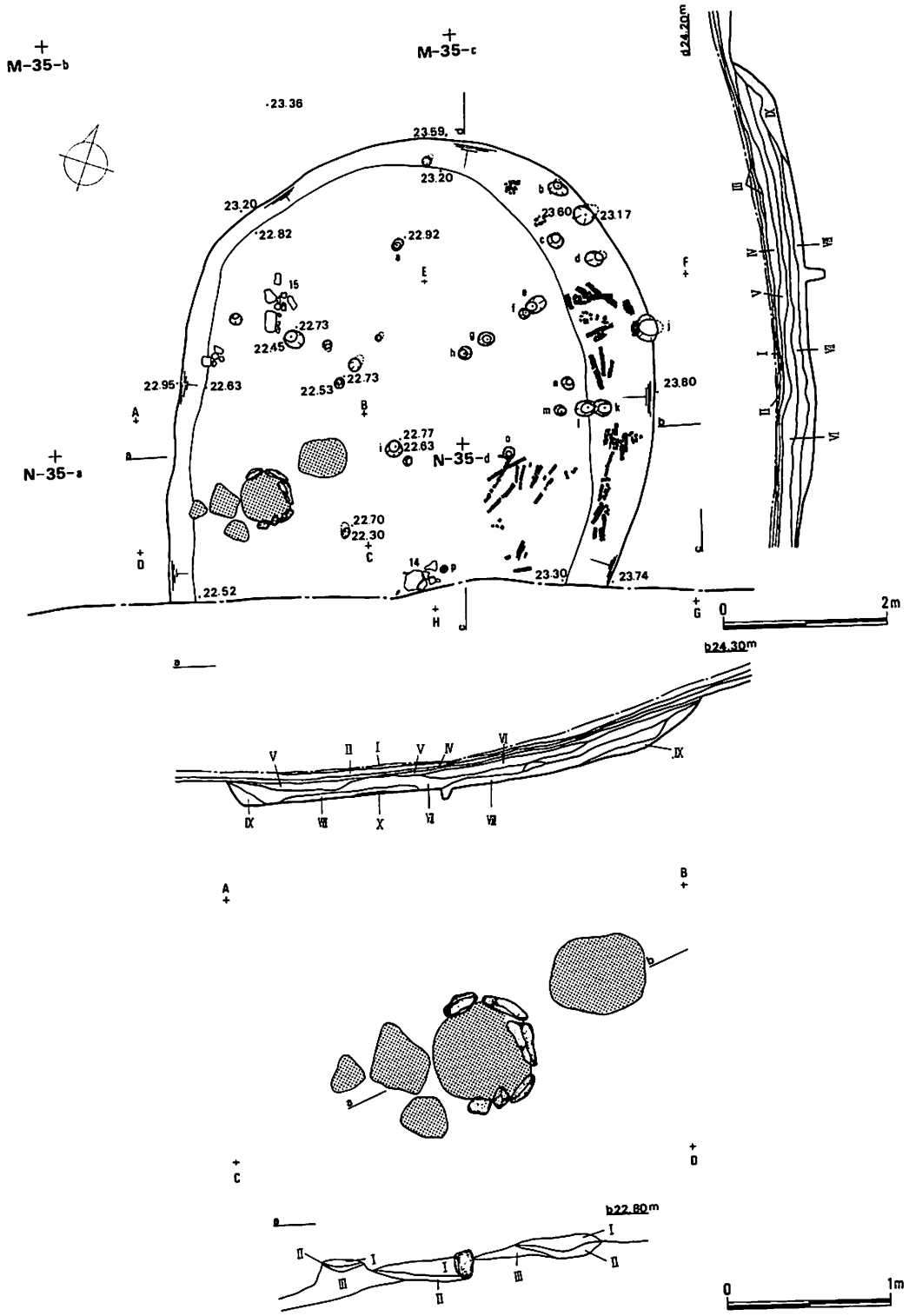

M-35-b
M-35-c
N-35-a
N-35-d
23.36
23.59
23.20
23.20
23.60
23.17
22.82
22.92
22.73
22.45
22.95
22.63
22.53
22.73
23.80
22.77
22.63
22.70
22.30
23.30
23.74
22.52
d24.20m
b24.30m
b22.80m
0
2m
1m

図129　H－1

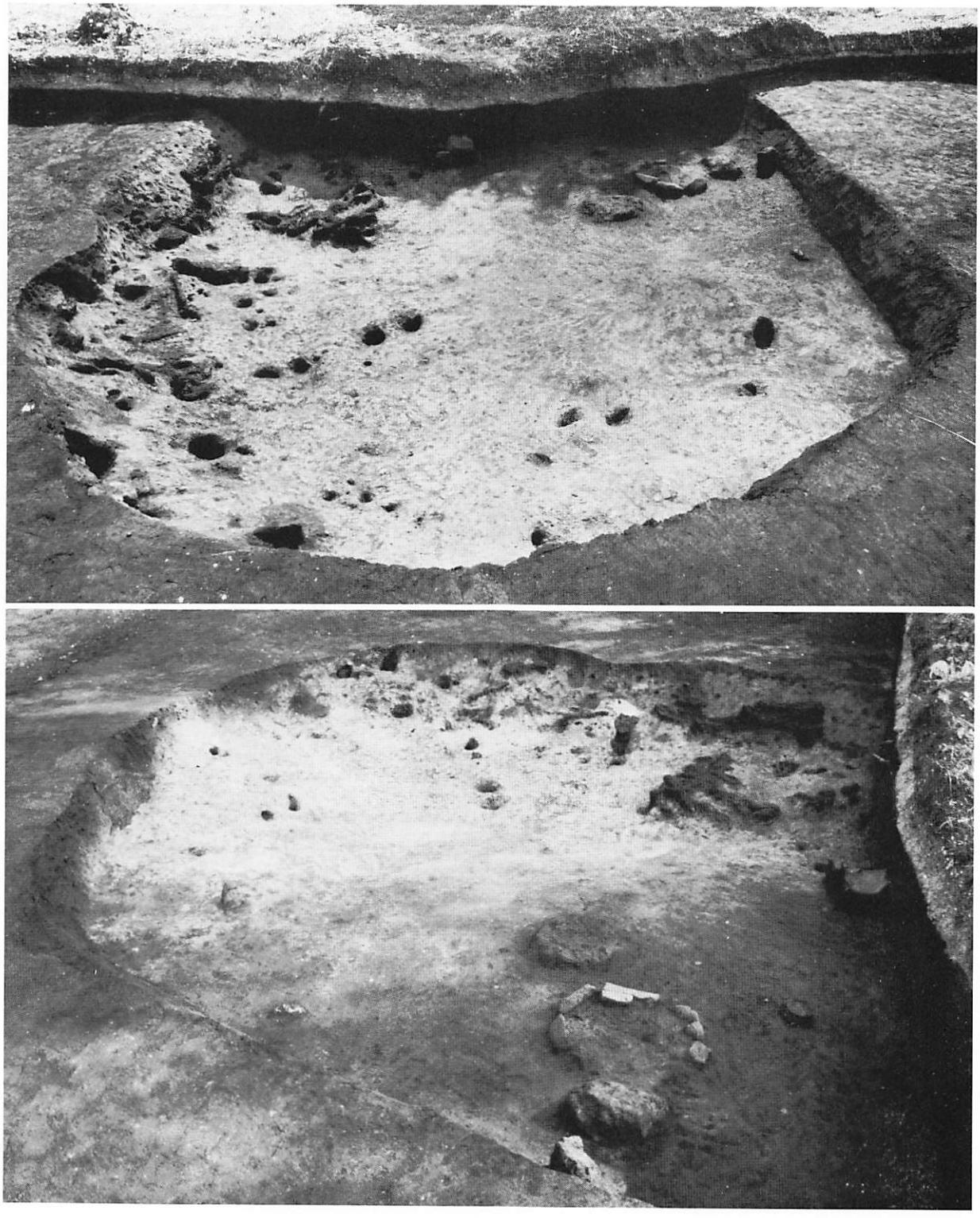


図130　H－1

図131　H－1

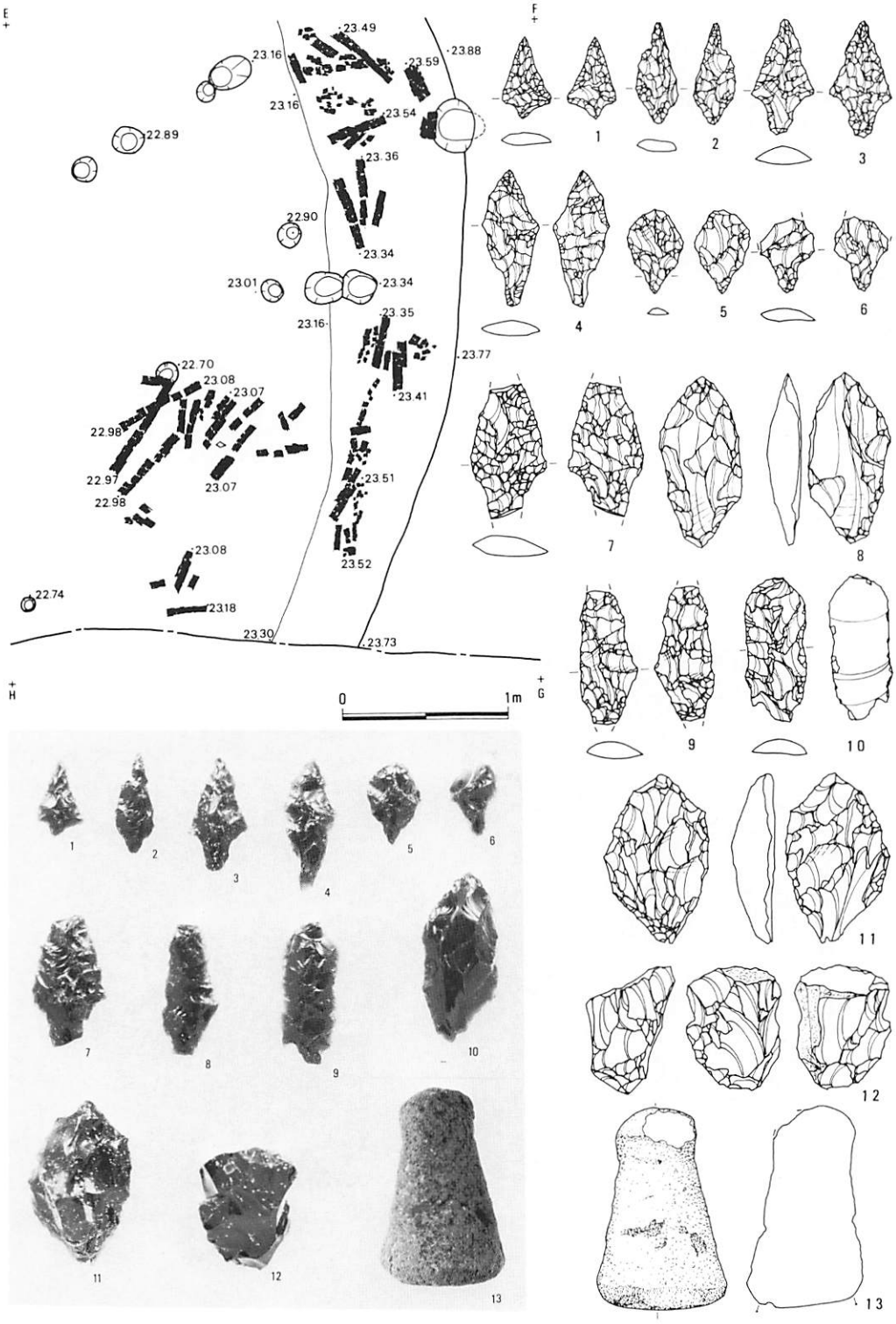
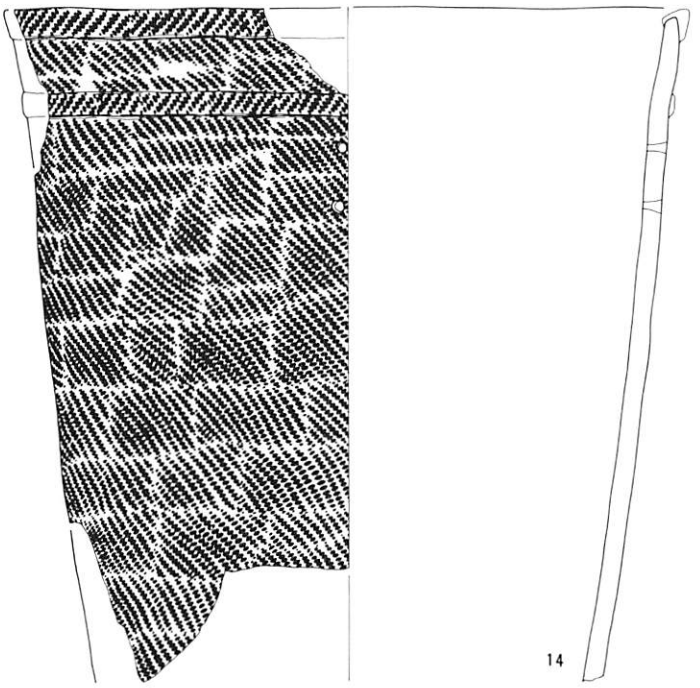
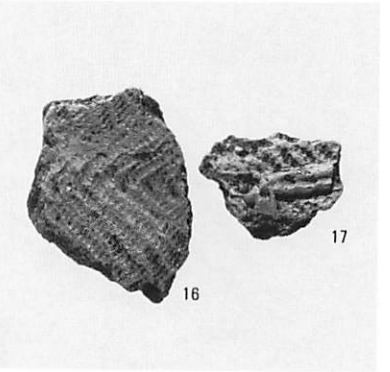


図132　H－1と出土遺物





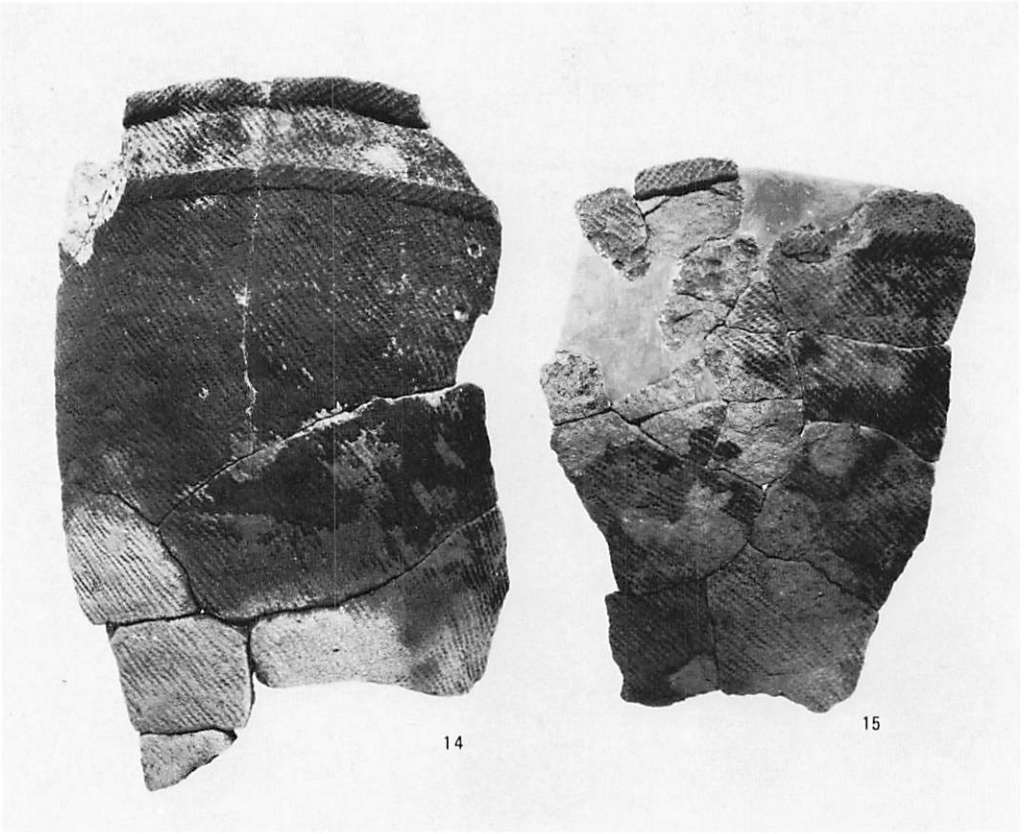


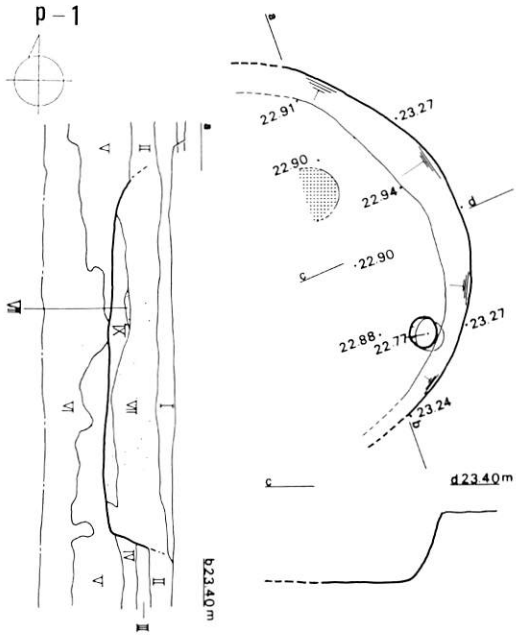
図133　H－1出土の土器

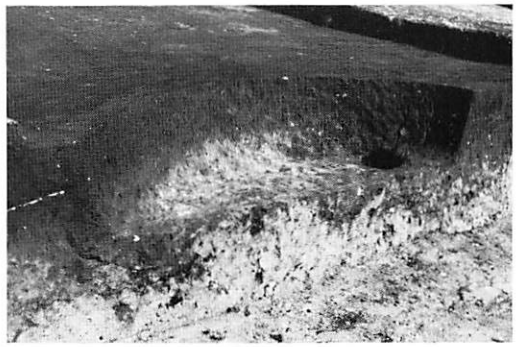
P－1

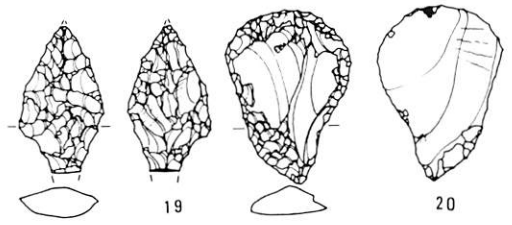
L－34区にある。土層は9層に分けられ、このうちのⅠ・Ⅶ～Ⅸ層が覆土である。Ⅰ～Ⅵ層は基本層序のⅣ～Ⅸ層に対比できる。Ⅶ層は黒褐色土。Ⅱ層とほぼ同じであるが、炭化粒が混入して区別される。Ⅷ層は茶褐色土。Ⅲ層と同一層の二次堆積である。Ⅴ層は黒褐色土。Ⅱ層と同じだが、Ⅵ層の黄褐色ローム粒が混入する。この遺構は掘り込み面が基本層序のⅤ層中であり、しかも床面がⅥ層を切ってⅦ層中に構築されていたため、確認に困難を極め、結局、土層断面精査において確認された遺構である。したがって、平面形は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。東壁ちかくの床面に径0.3mの焼土がある。南東壁よりに径0.14m、深さ0.10mの小穴が検出されたが、この遺構に伴うものかは判別できなかった。

遺物　18～19は覆土出土。18はＲＬ斜縄文のある胴部破片。器厚は10mm。17は石鏃。20はスクレイパーである。いずれも黒曜石製である。重量は19：6.2g、20：18.4g。

小括　時期を決定できる資料に欠けるが、遺構の掘り込み層位がⅤ層中であること、覆土中から、Ⅳ群a類が出土していることから、おそらく、縄文時代後期初頭の住居的施設と考えられる。







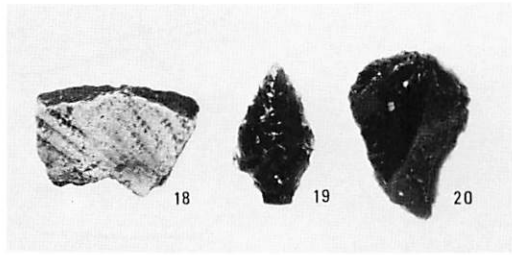


図134　P－1と出土遺物

P－2（図135・136）

L35d区にある。覆土は6層に分けられる。Ⅰ層は暗褐色土で多数のローム粒を含む。Ⅱ層は黒褐色土。Ⅲ層は黒褐色土で多量のロームを含む。土質はⅠ層に類似するが、堅くしまっている。Ⅳ層は黒褐色土。土質はⅡ層に類似するが、粘性を帯びる。Ⅴ層は基本層序のⅧ層に類似する。掘りすぎの疑いがある。Ⅵ層は暗黄褐色土。木の根による攪乱の可能性あり。平面形は西壁が不鮮明であるが、長径2.27m、短径約2.25mの隅丸方形。壁の立ち上がりはゆるやかである。床面は凸凹であるが堅くしまっている。南西コーナー寄りに長径0.43m、短径0.33mの焼土がある。柱穴状の小穴は三つあり、aは径22cm、深さ8cm、bは径17cm、深さ39cm、cは長径30cm、短径18cmの長円形で深さ28cmである。

遺物　21～26は床面ちかくの覆土中から出土した。21・22はLR斜縄文を施した胴部破片。21の器厚は11mm、22の器厚は10mm。23～24は茎をもつ石鏃。いずれも黒曜石製である。26は扁平な円礫を用いたすり石で側縁の一端にすり面をもつ。重量は23：2.3g、24：1.79g、24：1.7g、25：（1.9）g、26：510gである。

小括　土器はⅣ群a類に属する。覆土中とはいえ、床面ちかくからの出土であり、この遺構に伴う蓋然性が高い。石鏃・すり石を伴う可能性が強い。焼土を伴い、形態・規模・出土遺物に共通があることから、P－1と同じ施設と考えて大過なかろう。

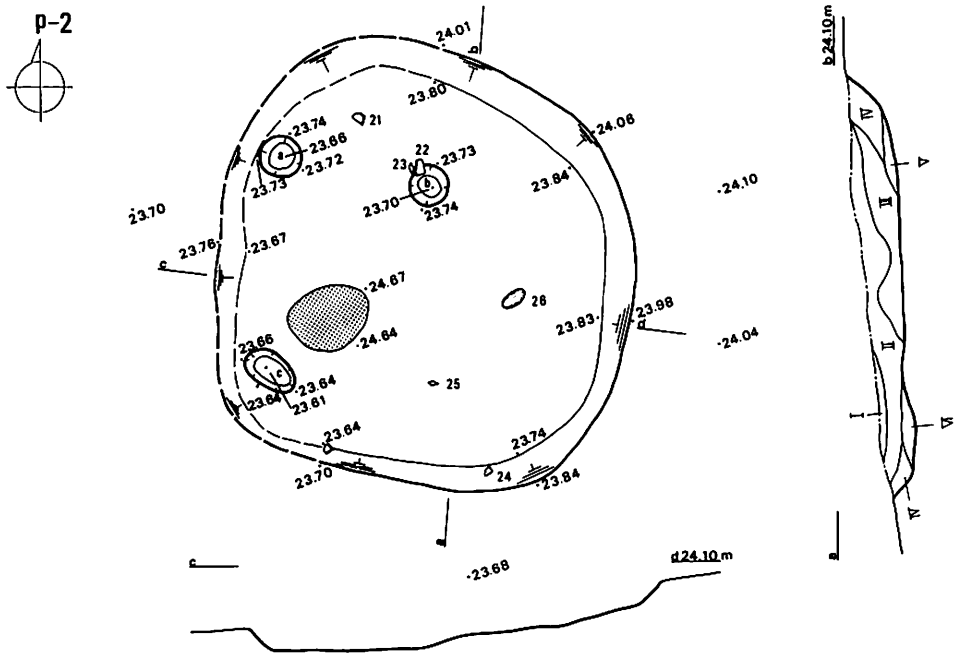
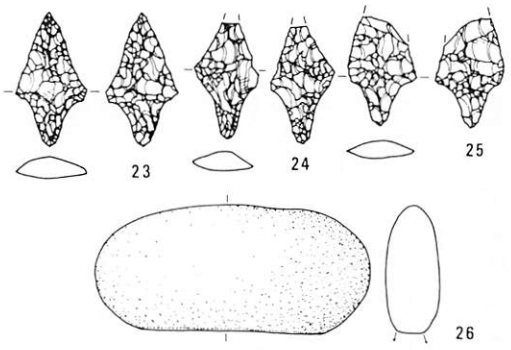


図135　P－2



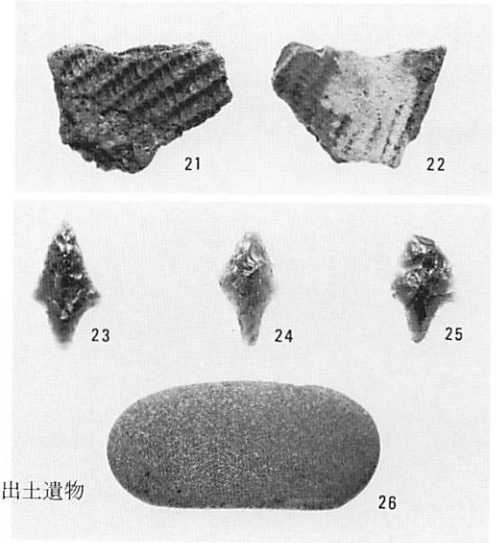
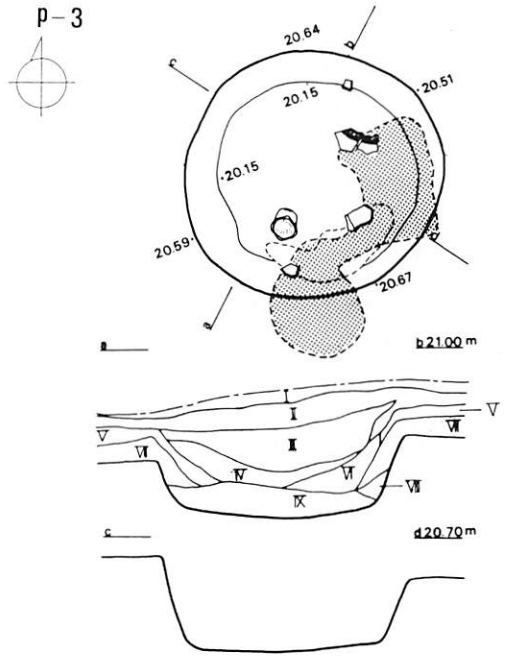


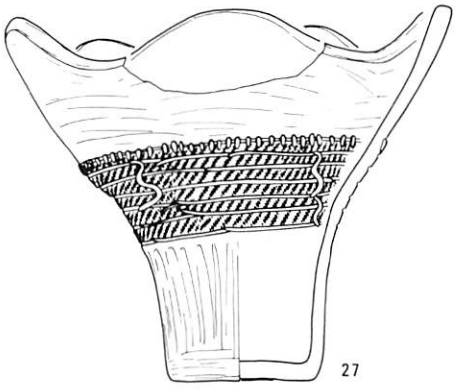
図136　P－2と出土遺物

P－3（図137）　M31b区にある。覆土は9層に分けられる。Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅶ層はそれぞれ基本層序のⅣ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層に対比される。Ⅲ層は暗褐色土で、多量の礫を含み粘性が強い。Ⅳ層は黒色土に若干のローム粒を含む。Ⅵ層は暗黄褐色土。多量のロームと黒色土が混在する。Ⅷ層は暗黄褐色土で、壁の崩落した土。Ⅸ層は黒褐色土。ローム粒と礫がまじり、焼土の小ブロックが混入する。覆土は明らかに埋土であり、堅くしまった土層である。平面形は長径1.40m、短径1.32mの円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。掘り込み面は、Ⅴ～Ⅶ層が土壙内に流入し明瞭な線引きができなかったが、Ⅴ層中であることは確実である。壙口部に図示したような焼土の広がりが確認でき、同様のものは南側壁面から底面にかけてもみられた。

遺物　27が壙口および覆土Ⅳ層中から出土した鉢形土器。口縁部が外反し胴下半から底部にかけてすぼまってほぼ垂直になる。底角は丸味をもち、底面は若干彎入する。口縁は五つの大きな波状となる。口径28.3cm、器高18.6cmである。胴部に文様が施される。地文はＬＲ斜縄文。沈線が平行して７本描かれ最上部の沈線上に刻目が施されている。下位の平行沈線上には「Ｓ」字状の沈線が縦位に描かれる。口縁部および胴下半から底部にかけては無文。

小括　土器はⅣ群ｂ類。縄文時代後期に属する。規模、形態から墓である。副葬品は土器１個体であるが、焼土が壙口から底部にかけてみられ、覆土と混在することからこの墓に伴うものである。周辺に大きな礫がこの墓をとりまくような形で出土しているが、その関連性は明らかでない（図141参照）。





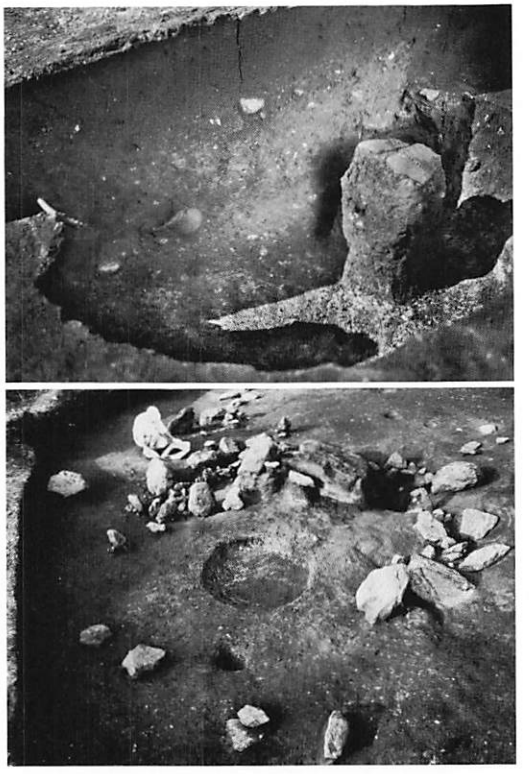
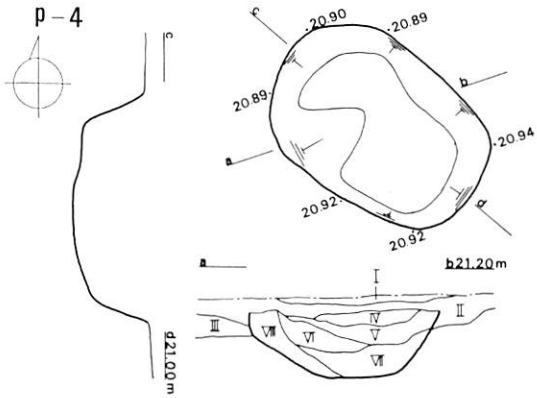


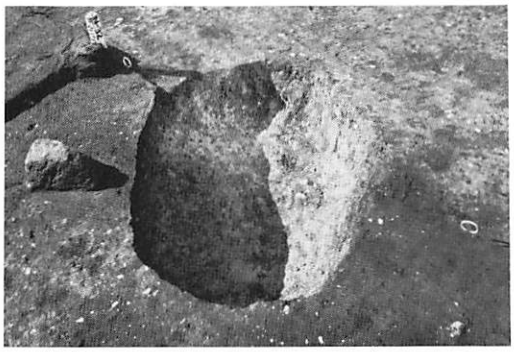
図137　Ｐ－３と出土遺物

P－4

M32b・N32a区にある。覆土は7層に分けられる。Ⅰ～Ⅲ層は基本層序のⅥ・Ⅶ・Ⅸ層に対比する。Ⅳ層は暗褐色土で、ロームを少量含む。Ⅴ層は黄褐色土で、ロームを少量含み粘性が強い。Ⅵ層は黒褐色土で、ロームを少量含む。Ⅶ層は黒褐色土。多量のローム粒を含み、粘性が強い。Ⅷ層は黄褐色土。壁の崩落土である。平面形は長径1.22m、短径0.86mの隅丸長方形である。底面はややいびつであるが、堅くしまっている。遺物は出土していない。

小括　時期・用途ともに不明である。





P－5

N32d区にある。覆土は6層に分けられる。Ⅰ～Ⅲ層は基本層序のⅥ～Ⅷ層に対比。Ⅳ層は黒色土。粘性が強い。少量のローム粒を含む。Ⅴ層はローム粒のブロック、Ⅵ層は壁の崩落土。Ⅶ層は黒褐色土でロームを多量に含む。平面形は一部が調査区外であるため不明である。確認できる大きさは長径1.31m、短径は不明。壁の立ち上がりは東壁が垂直であるが、西壁は緩やかな立ち上がりである。遺物は出土していない。

小括　時期・用途とも不明。

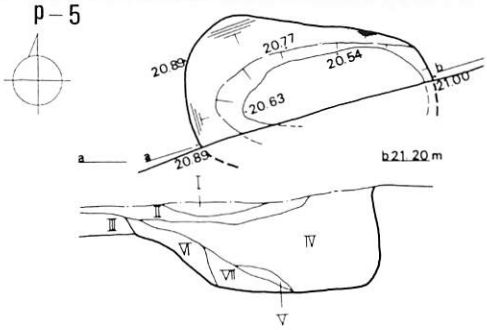


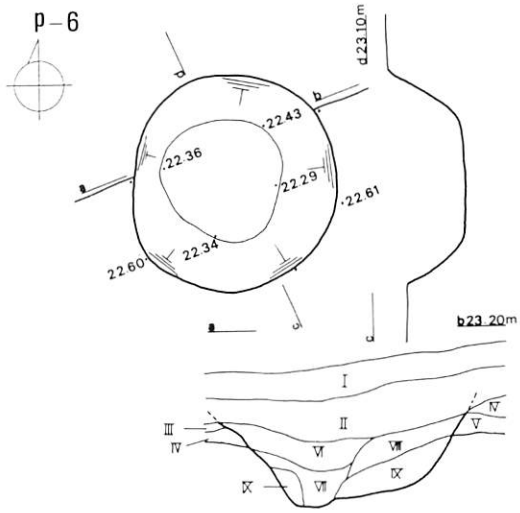
図138　P－4・5

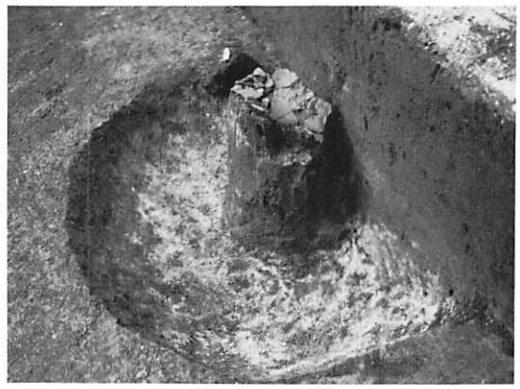
P－6

K33d区にある。覆土は7層に分けられる。Ⅰ～Ⅴ層は基本層序のⅣ～Ⅷ層に対比。Ⅵ層は暗褐色土で、土質はⅣ層に類似するが、炭化物を少量含み、粘性が強い。Ⅶ層は暗黄褐色土でローム粒を含む。Ⅷ層は褐色土で少量のローム粒を含む。Ⅺ層は黄褐色土。壁の崩落土である。平面形は長径1.14m、短径1.10mの円形である。壁はゆるやかに立ち上がる。底部は軟弱である。

遺物　壙口から土器1個体出土した(28)。口径は推定で29.0cmである。器形は口縁下部がくびれ外反し、胴下半部が急角度ですぼまる。口縁形態は四つの小突起をもつ。地文はLR斜縄文である。口唇には刺突列がある。

小括　この遺構は規模・形態からすれば、墓とするのは難しい。土器はⅣ群b類に属し、この遺構に伴う可能性が大きい。





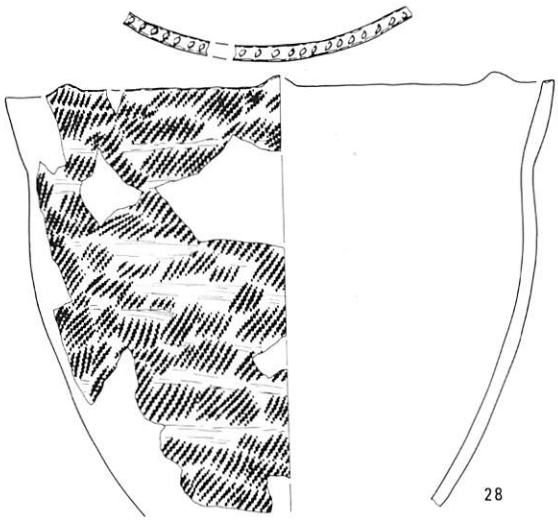


図139　P－6と出土遺物

P－7

N30d区にある。覆土は13層に分かれる。Ⅰ～Ⅵ層は基本層序のⅡ・Ⅳ～Ⅸ層に対比。Ⅶ層は黒褐色土。土質はⅢ層に類似するが、若干のローム粒を含む。Ⅷ層は黒色土で粘性が強い。Ⅸ層は黒褐色土。径1～1.5㎜の火山灰のようなものを多量に含む。粘性は強い。Ⅹ層は茶褐色土。若干のローム粒を含む。Ⅺ層は褐色土。基本層序Ⅸ層の崩落土。Ⅻ層は黒色土。XⅢ層は基本層序Ⅸ層の壁の崩落土。XⅣ層は黒色土。基本層序Ⅸ層のロームがブロック状に混入する。XⅣ層は茶褐色土で粘性が極めて強い。平面形は、開口面で長径1.70m、短径1.14mの小判形、底面で1.30m×0.33mの隅丸長方形。断面形は、下半はほぼ直立であるが、上半は崩落のために、著しく広がっている。底面からは3つの杭穴が確認された。杭穴の深さは北東から19、13、20㎝である。遺物は出土していない。

小括　平面形小判形で、底面に杭穴をもつTピットである。底面の長幅比は3.9。時期は不明である。

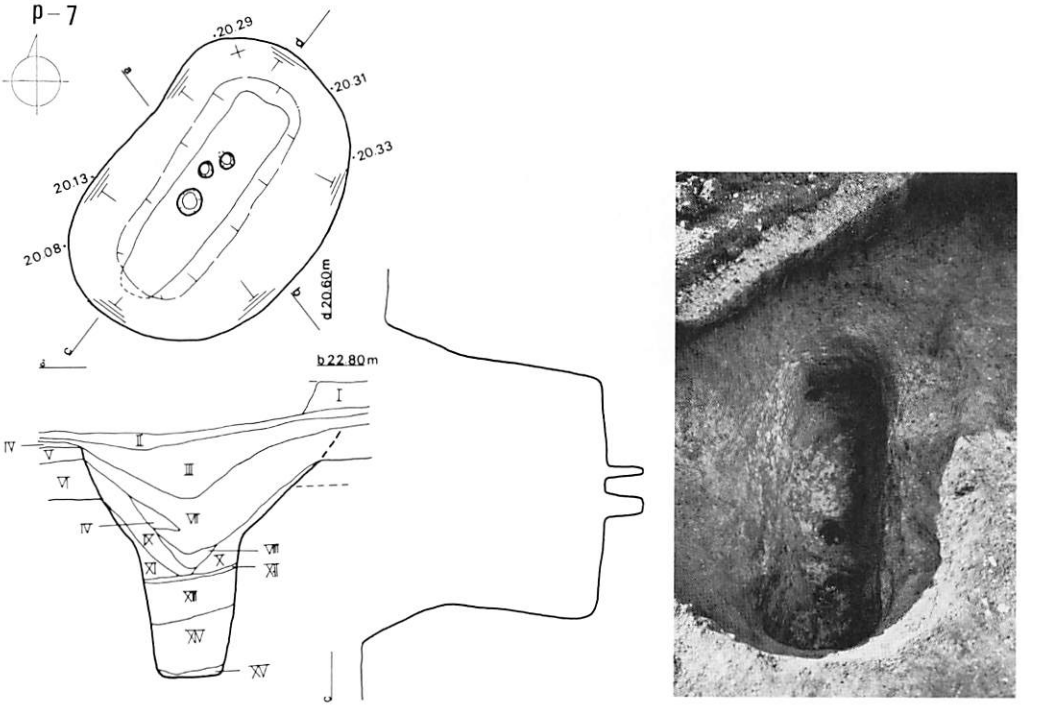


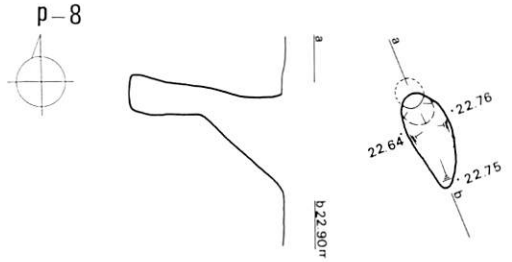
図140　P－7

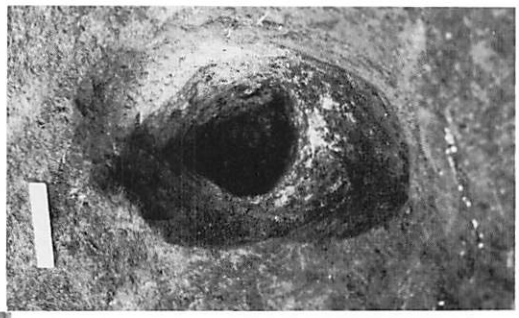
P－8

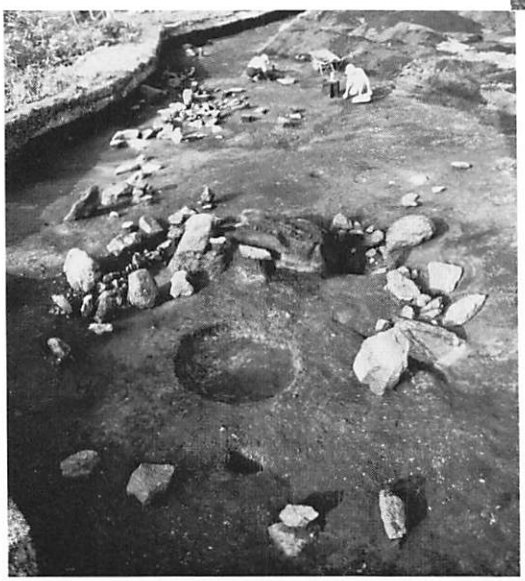
M34ｃ区にある。覆土は１層でソフトな黒色土である。平面形は長径0.44ｍ、短径0.26ｍの長円形。壙口部は広がり、底面にいくにしたがってすぼまり、柱穴状となっている。

遺物　覆土中からチップが406点が出土した。そのうち403点が黒曜石である。

小括　時期・用途ともに不明である。







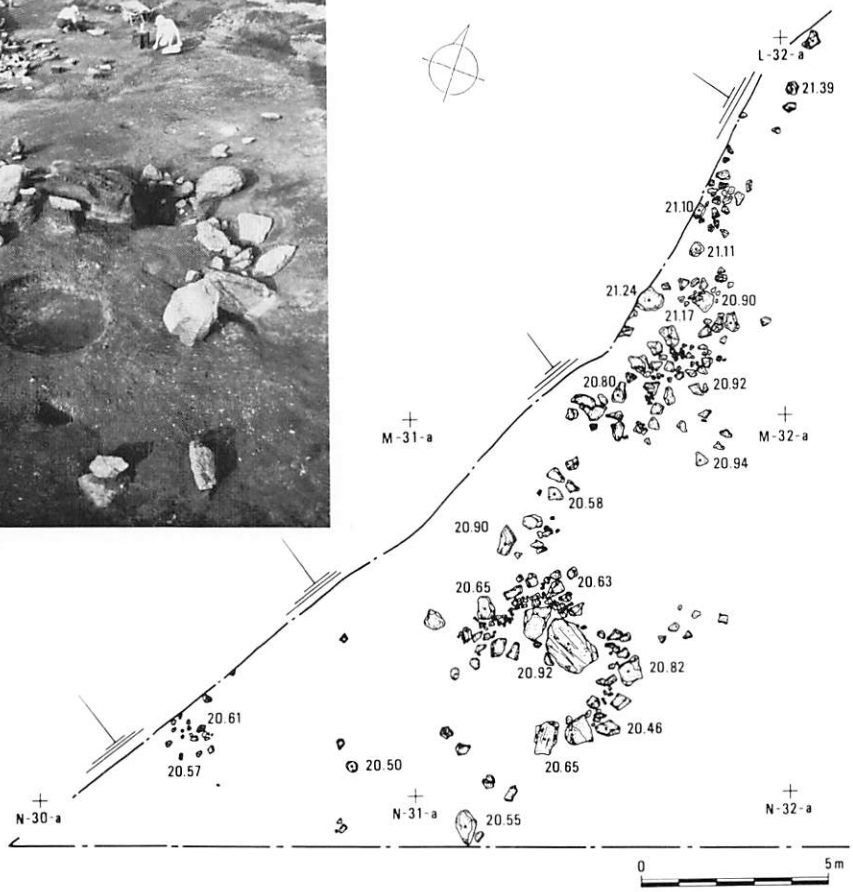


図141　P－8・礫群

3　遺物

(1)　土器群

B地点から出土した土器群はⅠ群a－2類、Ⅰ群b－1～4類、Ⅲ群b類、Ⅳ群a・b類があり、縄文時代早期・中期および後期に所属する。

Ⅰ群a－2類（図142・143－1～4・8～15）

1は口縁が平縁の筒形の深鉢で、口径18.6cm。無文であるが横位の調整痕がみられる。胎土には白色不透明の混和物が多量に混入している。2は推定口径17.5cmである。貝殻腹縁文が横位にまばらに施されている。縦位に調整痕がみられる。貝殻によるものかもしれない。3は小型土器で横位の条痕が施されている。4は器内外に貝殻条痕が施されている。とくに内面が顕著である。8・10～12は無文。13は横位に貝殻条痕が施されている。14は器内外とも浅い条痕が付けられている。15は乳房状尖底。

Ⅰ群b－1類（図143－16～18）

16は組紐圧痕文が施されている。17は短縄文・LR斜縄文が施されている。18は短縄文が施されている。

Ⅰ群b－2類（図144－19～30、34・35）

19は口縁に平行して2段の貼付帯が囲繞する。貼付帯上にはヘラ状の工具による刺突がある。地文はRL・LR斜縄文による結束第1種の羽状縄文。20は口縁上部に無文帯があり、下位にRL斜縄文が施された例。21～23・25・26・28・29・34・35は貼付帯上に縄が押圧された例。21はLR斜縄文。22・25・26・28・29・34・35はRL・LR斜縄文による羽状縄文。23は「U」字状の貼付帯、RL斜縄文が施される。24はRL・LR斜縄文による羽状縄文。30は縄の押圧を基線としてLR・LR斜縄文による羽状縄文の施された例。27はRL斜縄文が施されている。

Ⅰ群b－3類（図144－31～33、36～38）

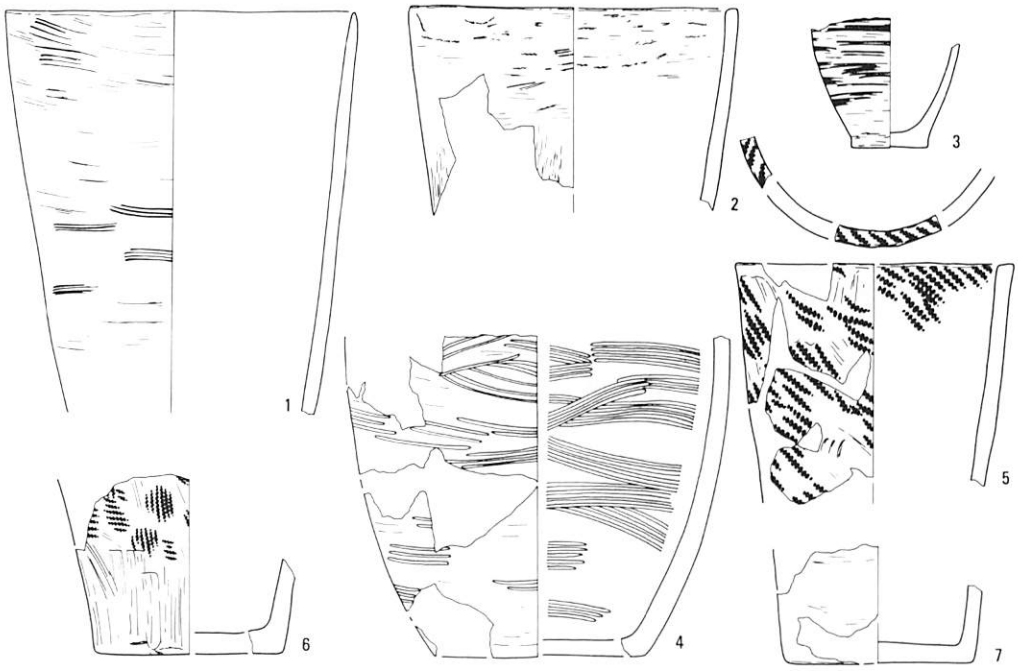
31は口縁に平行した2段の貼付帯のある例で貼付帯上は縄が押圧されている。地文にはRL斜縄文が施されている。31はⅠ群b－2類にちかいが縦の撚糸文がみられるので一応この類とした。32は3段の隆起線のある例。隆起線間は縦の撚糸文が施されている。口唇にはLR斜縄文が施されている。33は2段の隆起線のある例。撚糸文が施されている。隆起線間は無文である。36～38は絡条体圧痕文のある例。36は斜位の絡条体圧痕文が「ハ」の字状のモチーフを構成している。37は絡条体圧痕文・撚糸文のあるもの。横位の隆起線を基線として「Y」字状の隆起線が構成されている。38は隆起線間に絡条体圧痕文と撚糸文が交互に施される。

Ⅰ群b－4類（図144－39）

LR・RL斜縄文による羽状縄文が施された例。口唇および器内面がていねいに調整され光沢がある。Ⅰ群b－1類の可能性もあるが、焼成・調整などからこの類に区別した。

Ⅲ群b類（図145－40～47）

40は口縁上部が若干肥厚し、口唇及び肥厚帯上に半截竹管状の工具による刺突列が施されている。肥厚帯下位には、径8㎜の円形刺突列がめぐる。地文はLR斜縄文。41には肥厚帯がな



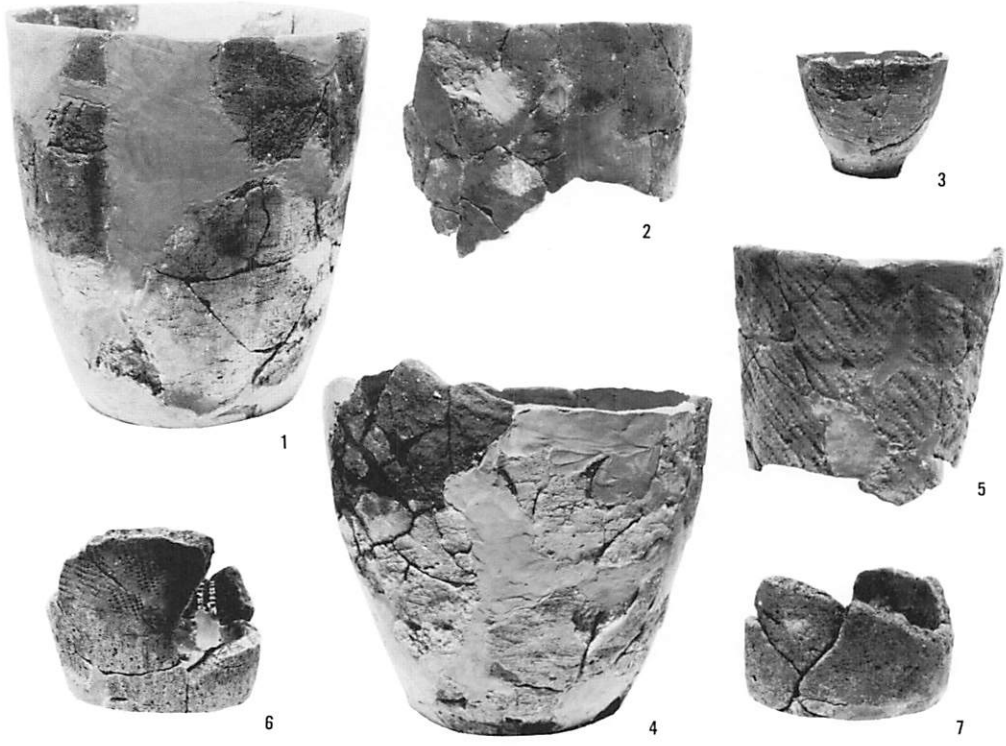


図142　B地点出土の土器群（Ⅰ群・Ⅳ群）

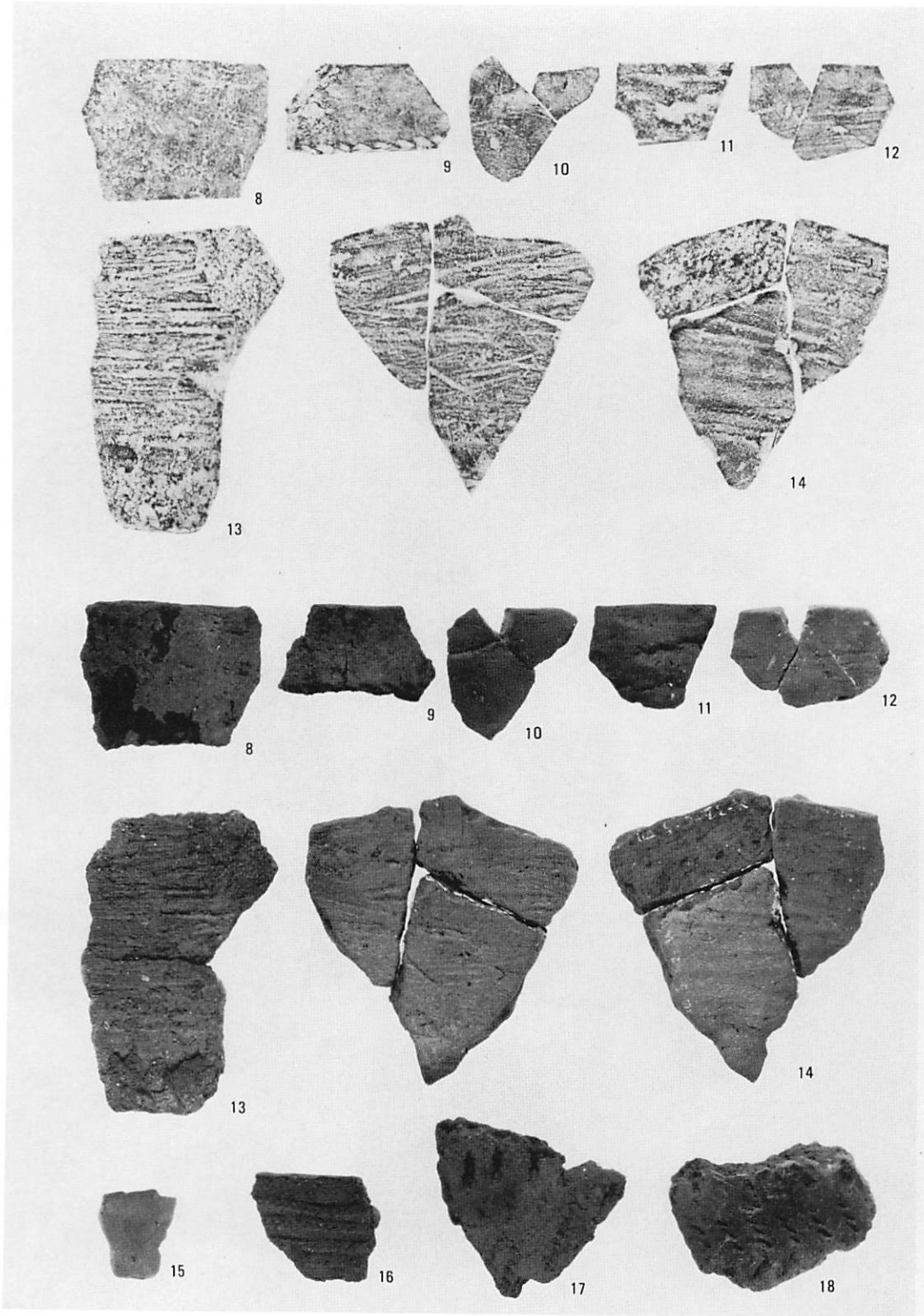


図143　B地点出土の土器群（Ⅰ群ａ類）

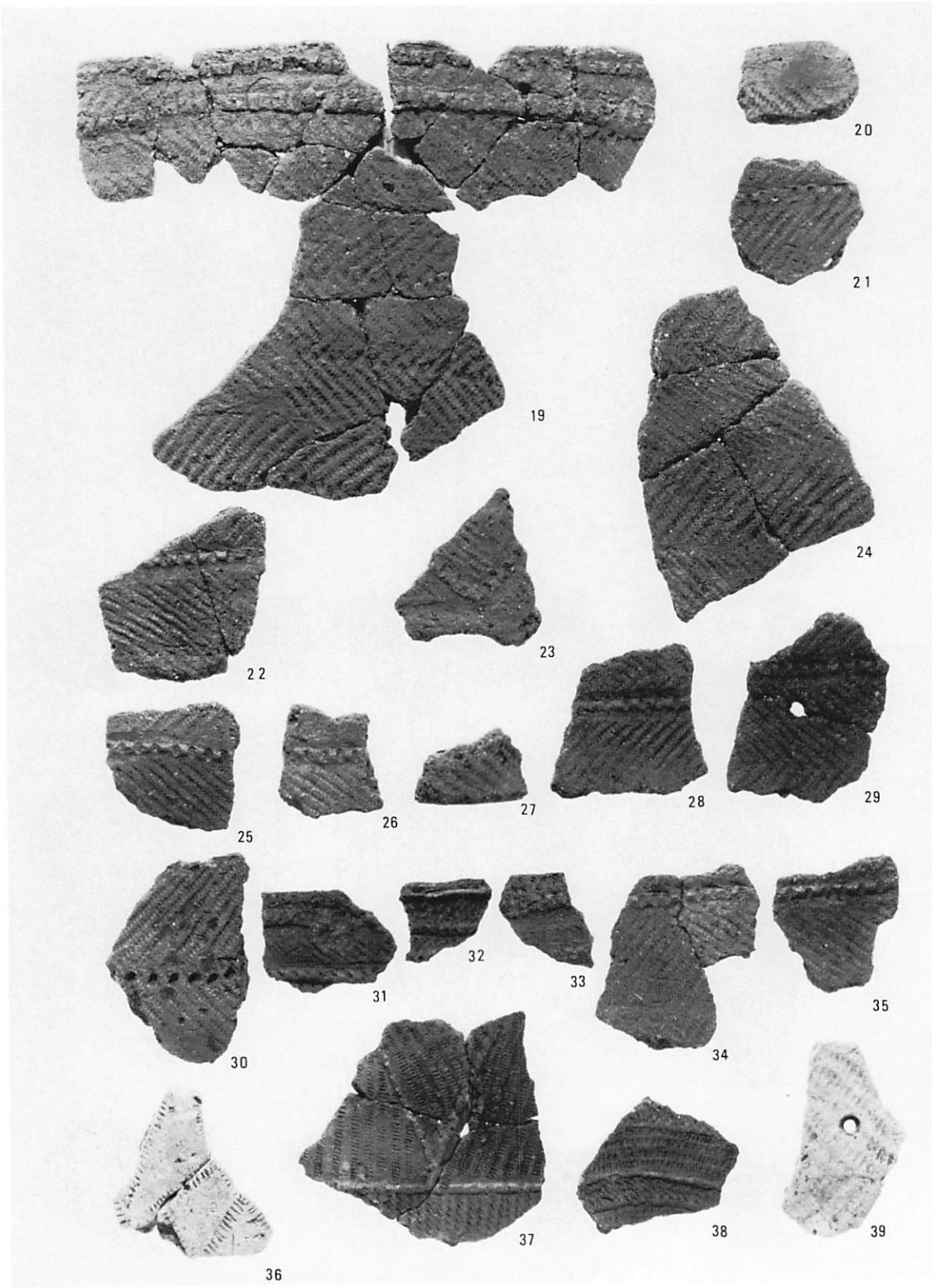


図144　B地点出土の土器群（Ⅰ群b類）

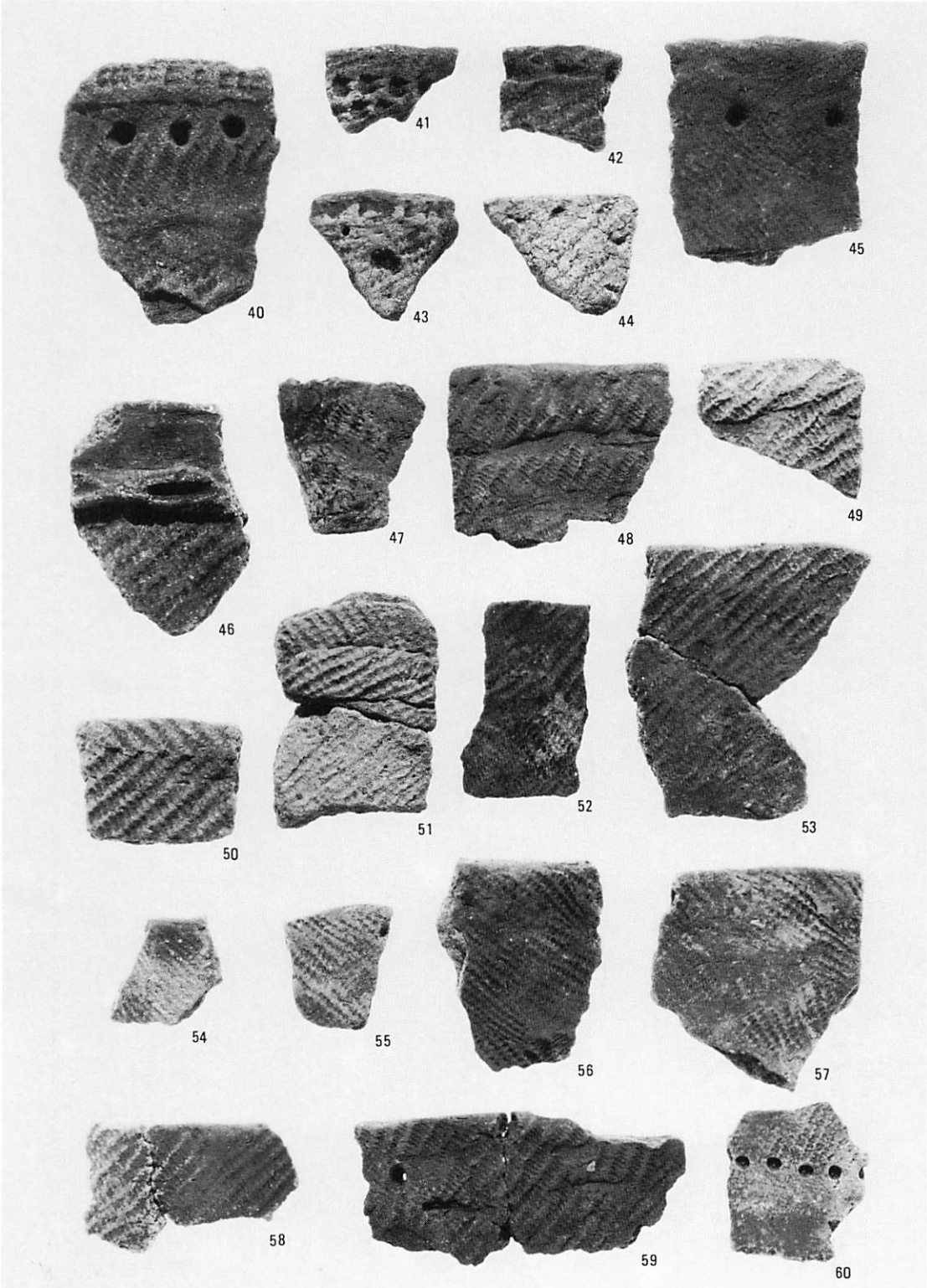


図145　B地点出土の土器群（Ⅲ群・Ⅳ群）

表5　B地点出土土器一覧

図番号	分類	部位	口縁・唇・底部形状	外面文様	口縁部文様	口唇部文様	内面文様	底部文様	炭化物	器厚(mm)	発掘区	層位
1	Ⅰa2	口	Ⅰ1・c	1c					a1・b1	7	L32d	Ⅶ
2	Ⅰa2	口	Ⅰ1・a	1c・3a						8	M31b	Ⅶ
3	Ⅰa2	底	X4a	1b					・b3	5	L31b	Ⅶ
4	Ⅰa2	底	X1a	1a			1a			10	L32c	Ⅶ
5	Ⅳa	口	Ⅰ1・c	7d		7d	7d			9	M32d	Ⅴ
6	Ⅳb	底	X4a	7d						9	M33d	Ⅴ
7	Ⅳb	底	X1a	0						8	M31b	Ⅴ
8	Ⅰa2	胴		0					a1・b1	6	M32c	Ⅶ
9	Ⅳb?	口	Ⅰ1・a	0・8d						6	L34b	Ⅴ
10	Ⅰa2	口	Ⅰ1・d	0						7	M32a	Ⅶ
11	Ⅰa2	口	Ⅰ1・c	0						5	M32c	Ⅶ
12	Ⅰa2	口	Ⅰ1・d	0						6	M31d	Ⅶ
13	Ⅰa2	胴		Ⅰa						6	M33d	Ⅵ
14	Ⅰa2	胴		Ⅰa			Ⅰa			10	M32c	Ⅶ
15	Ⅰa2	底	X5	0						4	L35b	Ⅶ
16	Ⅰb1	口	Ⅰ1・f	8c						5	M31c	Ⅶ
17	Ⅰb1	胴		7c・8e					・b2	9	L35a	Ⅶ
18	Ⅰb1	胴		8e						7	M33a	Ⅴ
19	Ⅰb2	口	Ⅰ1・a	6b・2d						6	L33a	Ⅶ
20	Ⅰb2	口	Ⅰ1・a	7c						4	K33b	Ⅶ
21	Ⅰb2	胴		6b・8e・7c						5	K33b	Ⅶ
22	Ⅰb2	胴		6b・8e・7f						5	K33b	Ⅶ
23	Ⅰb2	胴		6b・8e・7c						7	K33b	Ⅶ
24	Ⅰb2	胴		7f						6	K33b	Ⅶ
25	Ⅰb2	胴		6b・8e・7f						6	K33b	Ⅶ
26	Ⅰb2	胴		6b・8e・7f						5	K33b	Ⅶ
27	Ⅰb2	底	X3a	7d						7	K33b	Ⅶ
28	Ⅰb2	胴		6b・8e・7f						5	K33b	Ⅶ
29	Ⅰb2	胴		6b・8e・7f						5	K33c	Ⅶ
30	Ⅰb2	胴		8e・7f						8	K33b	Ⅶ
31	Ⅰb3	口	Ⅰ1・a	6b・7d・7g						4	L34b	Ⅶ
32	Ⅰb3	口	Ⅰ1・a	6b・7g						4	L33b	Ⅴ
33	Ⅰb3	口	Ⅰ1・a	6b・7g・0						4	L33b	Ⅶ
34	Ⅰb2	胴		6b・8e・7f						5	K33b	Ⅶ
35	Ⅰb2	胴		6b・8e・7f						4	K34b	Ⅶ
36	Ⅰb3	胴		8a						6	K34c	Ⅴ
37	Ⅰb3	胴		6b・7g・8a						6	K33b	Ⅴ
38	Ⅰb3	胴		6b・7g・8a						6	M34c	Ⅶ
39	Ⅰb4?	口	Ⅰ1・d	7f						7	M31c	Ⅶ
40	Ⅲb	口	Ⅰ3・a	5d・5f・7c		5d				9	L34a	Ⅴ
41	Ⅲb	口	Ⅰ3・a	5d・7c						7	L33a	Ⅵ
42	Ⅲb	口	Ⅰ3・e	5d・7c						9		Ⅴ
43	Ⅲb	口	Ⅰ3・a	5d・7c						8	L33d	Ⅴ
44	Ⅲb	口	Ⅰ1・b	5a・7c						8	K34c	Ⅴ
45	Ⅲb	口	Ⅰ1・a	5f・7d		5d				15		Ⅴ

図番号	分　類	部位	口縁・脚・底部形状	外面文様	口縁部文様	口脚部文様	内面文様	底部文様	炭化物	器厚(mm)	発掘区	層位
46	Ⅲb	口	Ⅰ3・b	6a・2a・7c・0						8	M33a	Ⅴ
47	Ⅲb	口	Ⅰ3・a	7c		5f				5	K34c	Ⅴ
48	Ⅳa	口	Ⅰ1・a	6c・7c						8	L34d	Ⅴ
49	Ⅳa	口	Ⅰ1・a	6c・7c						7	L35a	Ⅳ
50	Ⅳa	口	Ⅰ1・e	6c・7d・7c						9	M33d	Ⅴ
51	Ⅳa	脚		6a・7c・7f						10	M34b	Ⅴ
52	Ⅳa	口	Ⅰ1・a	7c						5	L34b	Ⅴ
53	Ⅳa	口	Ⅰ3・a	7c						10	L34a	Ⅴ
54	Ⅳa	口	Ⅰ1・a	7d						5	M36c	Ⅴ
55	Ⅳa	口	Ⅰ1・a	7d		7d				10	K34c	Ⅴ
56	Ⅳa	口	Ⅰ1・a	7d		7d				10	M34a	Ⅴ
57	Ⅳa	口	Ⅰ1・a	7d		7d				11	L33c	Ⅴ
58	Ⅳa	口	Ⅰ1・b	7c						8	L33d	Ⅴ
59	Ⅳa	口	Ⅰ3・c	7c						9	L33c	Ⅴ
60	?	脚		5f・7c・0						4	L35a	Ⅴ

く、２段の刺突列が施されている。地文はＬＲ斜縄文。42・43は口縁上部が若干肥厚する。肥厚帯上に刺突列がめぐる。地文はＬＲ斜縄文。44は口縁上部に刺突列がめぐる例。地文はＬＲ斜縄文。肥厚帯がなく、口唇の調整も平坦であり、この類に属せしめるには、少々疑問が残る。45は口唇に刺突列をもつ。口縁部には、径７㎜の円形刺突列がめぐる。地文は細かなＲＬ斜縄文。46には幅広の貼付帯がある。貼付帯には、円形刺突文と同じ施文具で短い沈線が施されている。貼付帯下位には、径９㎜の円形刺突列がめぐる。地文はＬＲ斜縄文。口縁上部と貼付帯間は、無文である。円形刺突文があるので、一応この類に含めたが、特異な土器である。46は口唇に円形刺突列のある例。地文はＬＲ斜縄文。

Ⅳ群ａ類（図142―５・６、図145―48～59）

５は推定口径14.8㎜のＲＬ斜縄文が器内外に施されたもの。口唇にも斜縄文が施されている。６は、ＲＬ斜縄文の施された底部破片。48～50は折り返し口縁で、口縁上部が肥厚するもの。48・49の地文はＬＲ斜縄文。50は肥厚帯上にＲＬ斜縄文があり、地文はＬＲ斜縄文である。51はバンド状の貼付帯の施された例。貼付帯上にはＬＲ斜縄文、地文はＲＬ・ＬＲ斜縄文による羽状縄文。52・53・58・57にはＬＲ斜縄文、54～57にはＲＬ斜縄文が施されている。

その他、９、60は、時期不詳である。９は無文であるが下位に縄線文（？）がみられる。60には竹管による円形刺突列がみられ、円形刺突の上位は無文、下位はＬＲ斜縄文。

Ⅳ群ｂ類（図142―７）

無文の底部破片。Ｐ―３の近くから出土した。

注　60の写真は、上下が逆。

(2)　石器群

B地点から出土した石器・フレイク・石核・礫の総数は　1,618点を数える。器種は、石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石刃・石核・石斧・石錘・砥石・すり石がある。

石鏃（図146、147、150—1～57）

1～8はⅣ層出土。6・7を除いて、すべて茎をもつ。8は9と同じように、鏃の未製品と思われる。9～36はⅤ層出土で、ほとんどの鏃が茎をもつ。9・19は片側のみにかえしが作り出されている。33～36は、Ⅰ群b類に伴う鏃で、細身で薄く作られている。37は基部が彎入した三角形のもの。38～55はⅣ層出土。Ⅶ層は、Ⅰ群a・b類の包含層であることから、これらは縄文時代早期の鏃とみて間違いないであろう。42は茎のある例。茎のある鏃のなかでも入念な加工が施され、ていねいな作りである。45は37と同じ基部の彎入した三角形の鏃。47～53は細身で薄く作り出された鏃でⅠ群b類に伴うもの。56・57はⅦ層出土。57は薄身に作り出された三角形の鏃で、入念な加工が施されている。

石槍（図147・150—58～64）

58はⅣ層、59～63はⅤ層、64はⅦ層からそれぞれ出土。60～62は、明瞭なかえしを持つ。58・59・60～62は、Ⅲ群b類ないしⅣ群a類に伴うものである。64は入念な両面加工の施されたもので、薄身に作り出されている。A地点P—2・20から出土している石槍と形態的に同一であり、Ⅰ群b—1類に伴う可能性が強い。

石錐（図147・150—65～68）

65～67は、棒状の刺突部を作り出したもの。67にはつまみ部がある。68は、スクレイパーの末端に刺突部を作り出したもの。

つまみ付きナイフ（図147・150—69～72）

69は幅広で大型のナイフで、扁平に作られており急角度の刃部をもたない。70の表面右側縁には、急角度の刃部が作り出されている。

スクレイパー（図148・150—73～80）

73はⅤ層出土、74～80はⅦ層出土。73には幅広の刃部が急角的に作り出されている。74は、表面右側縁に二次加工がある。75は部厚いフレイクを素材とし、全周に二次加工が施され、急角度の刃部が作り出されている。76は両側縁から先端にかけて二次加工を施したもの。77は表面左側に、78は表面両側縁に刃部がある例。79は粗雑なフレイクの表面両側に細かな二次加工を施したもの。80は表面右側縁に刃部を作り出したもの。

石刃（図148・150—81）

Ⅶ層から出土した。中央で折れており接合したもの。この石刃は、縄文時代早期の石刃鏃文化期の所産である。周辺を精査したが、伴出土器は確認できなかった。

石核（図148・150—82）

Ⅶ層出土。剝離方向は一定せず、規則性は認められない。

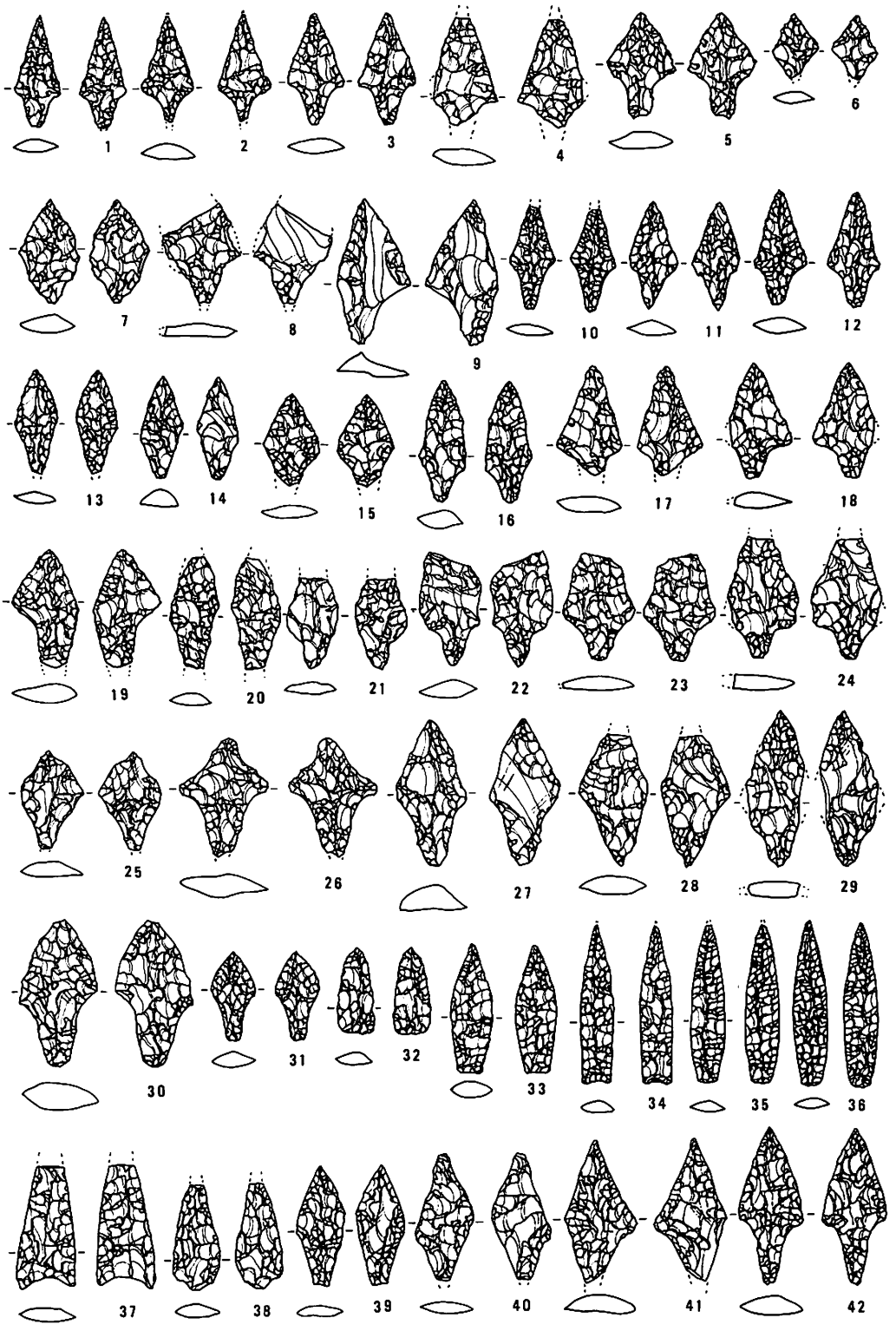


図146　B地点出土の石鏃

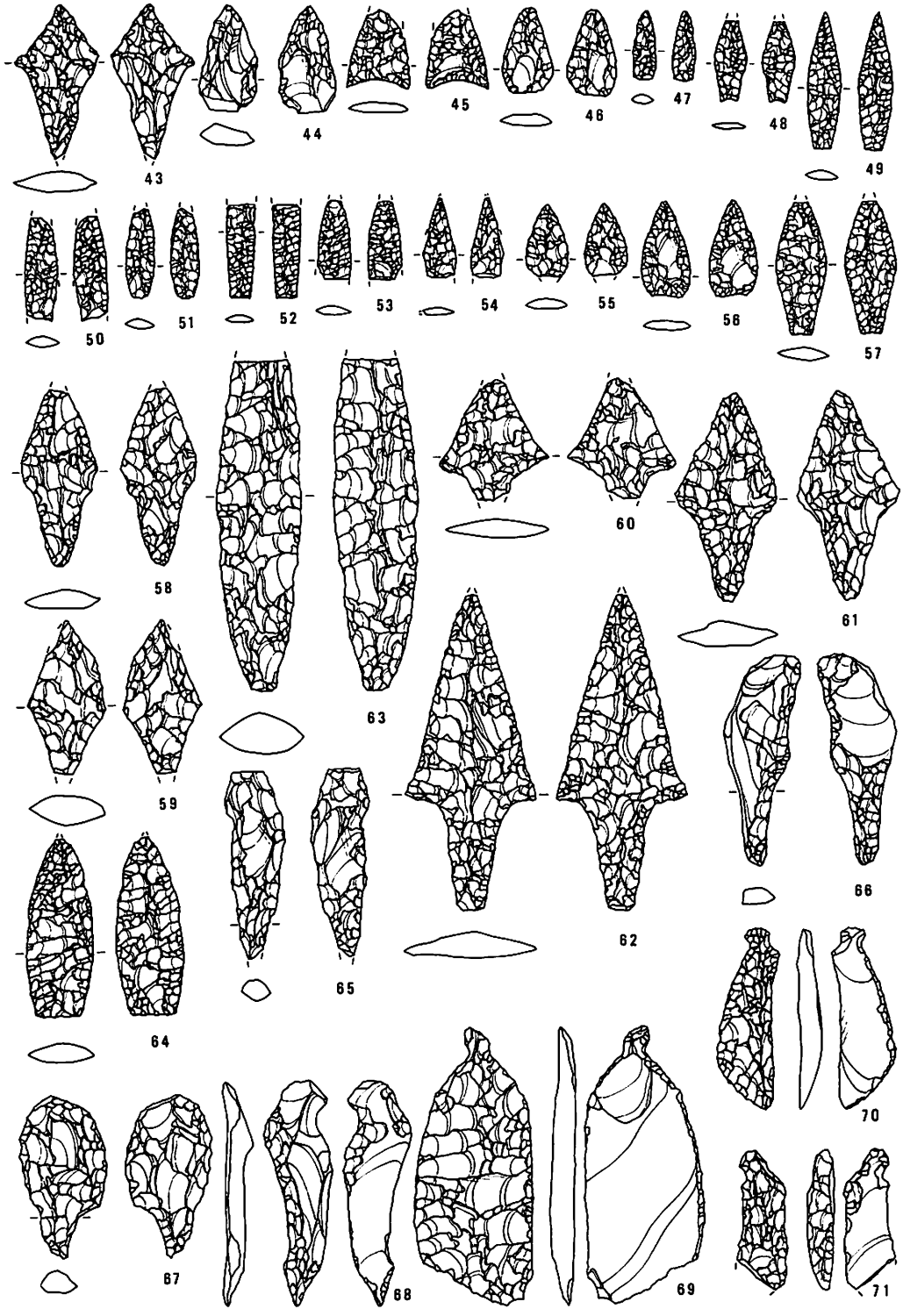


図147　B地点出土の石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ

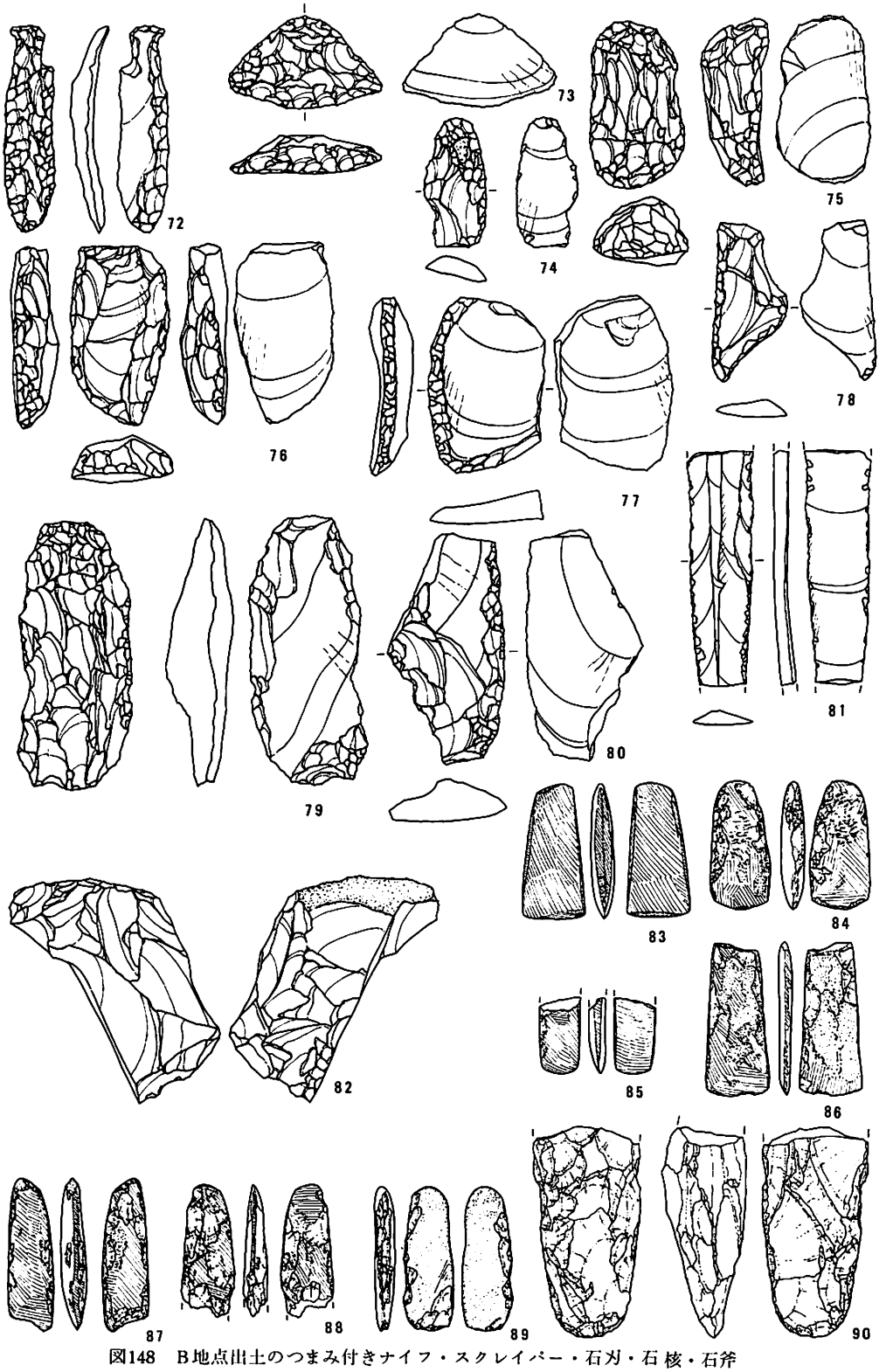


図148　B地点出土のつまみ付きナイフ・スクレイパー・石刃・石核・石斧

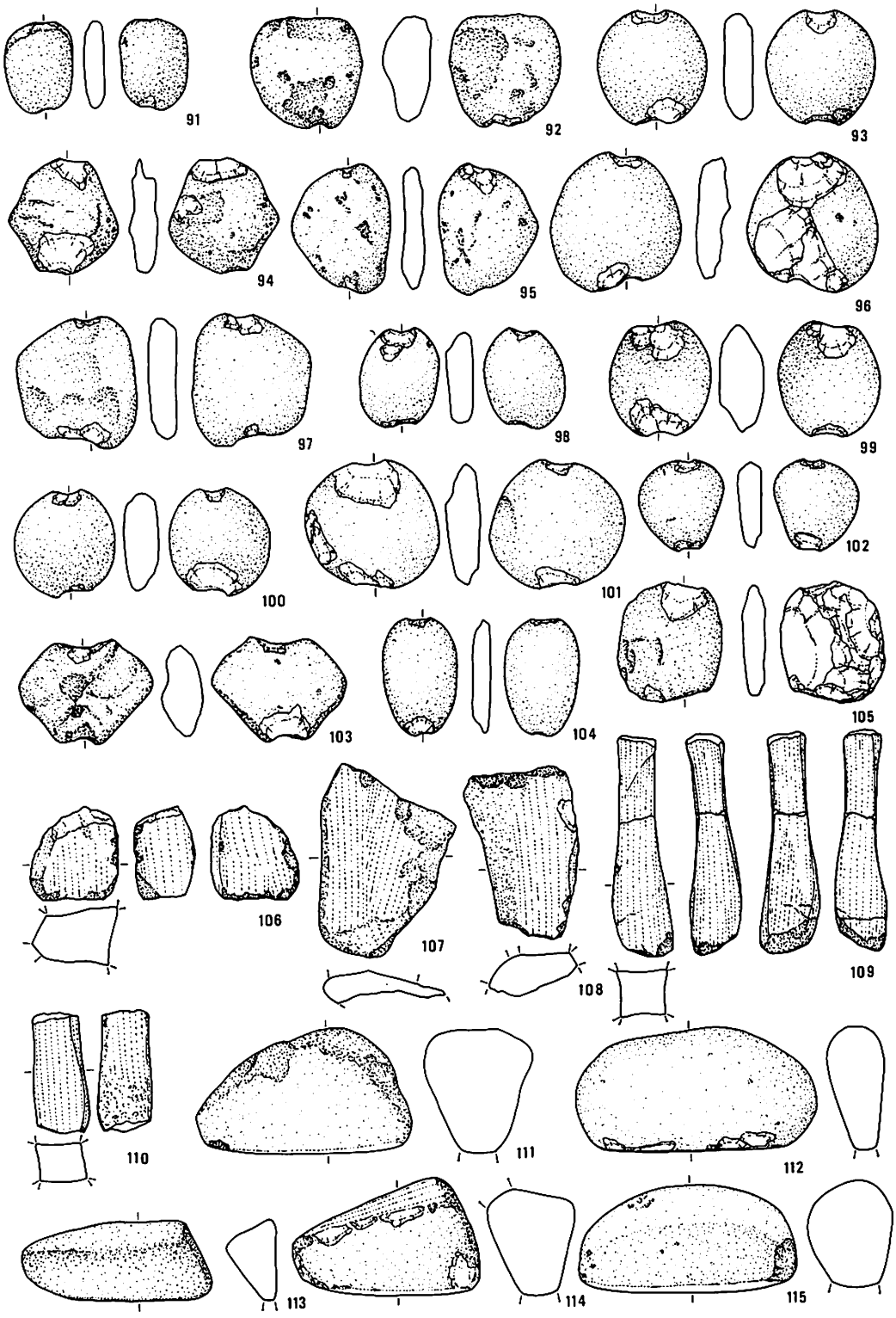


図149　B地点出土の石錘・砥石・すり石

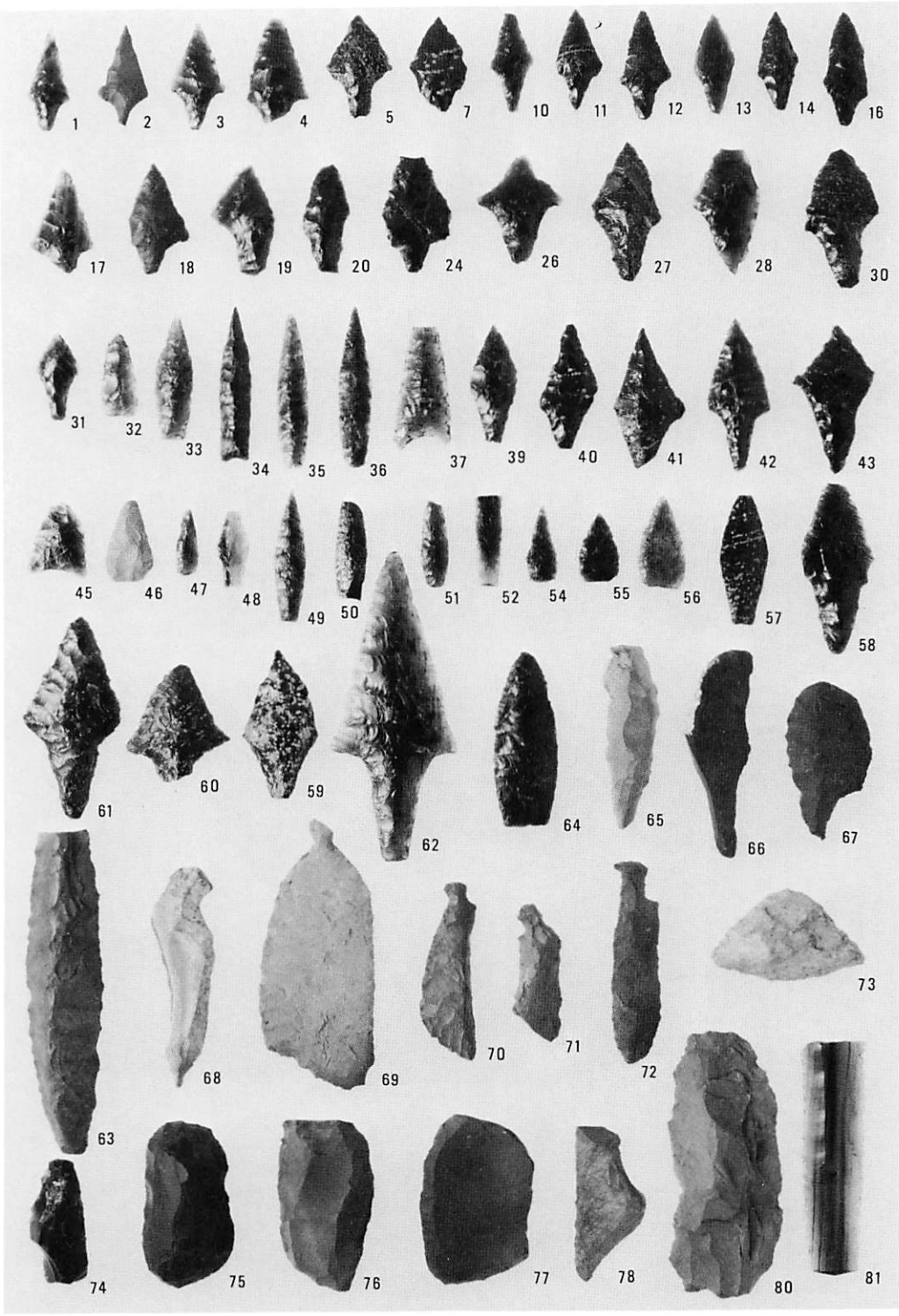


図150　B地点出土の石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石刃

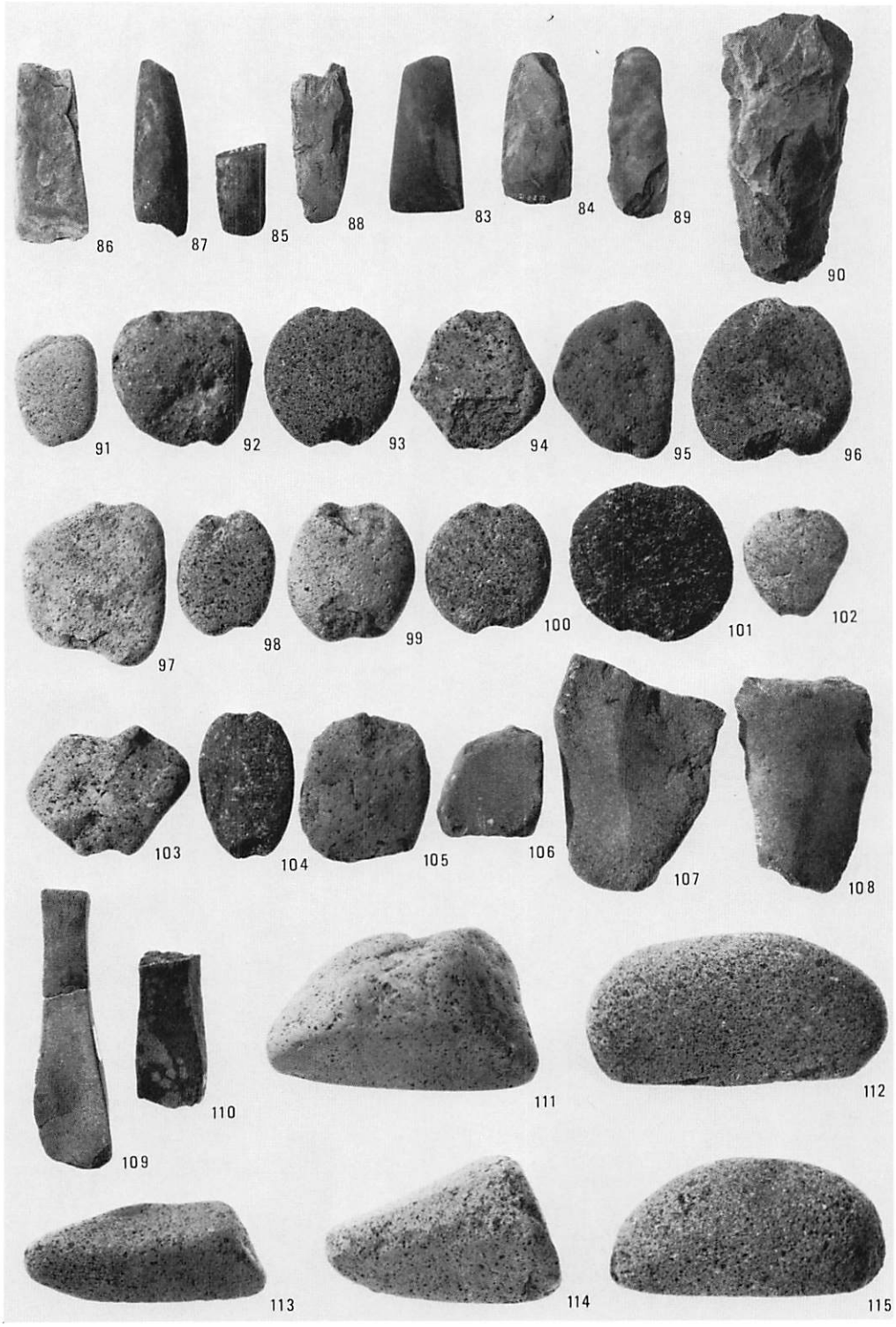


図151　B地点出土の石斧・石錘・砥石・すり石

表6　B地点出土石器一覧

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
1	石鏃	ⅠA5	1.2	Obs.	L34a	Ⅳ
2	石鏃	ⅠA5	1.4	Ha-Sh.	L34a	Ⅳ
3	石鏃	ⅠA5	1.7	Obs.	L34a	Ⅳ
4	石鏃	ⅠA5	2.7	Obs.	L33d	Ⅳ
5	石鏃	ⅠA5	2.1	Obs.	L34c	Ⅳ
6	石鏃	ⅠA4	2.3	Obs.	M34d	Ⅳ
7	石鏃	ⅠA4	2.3	Obs.	L34a	Ⅳ
8	石鏃	ⅠA5	3.4	Obs.	L34c	Ⅳ
9	石鏃	ⅠA5	3.8	Obs.	L34c	Ⅴ
10	石鏃	ⅠA5	1.0	Obs.	N31a	Ⅴ
11	石鏃	ⅠA5	1.5	Obs.	M33a	Ⅴ
12	石鏃	ⅠA5	1.7	Obs.	L35b	Ⅴ
13	石鏃	ⅠA4	1.4	Obs.	M31b	Ⅴ
14	石鏃	ⅠA4	1.1	Obs.	M34c	Ⅴ
15	石鏃	ⅠA5	2.2	Obs.	L35b	Ⅴ
16	石鏃	ⅠA5	2.2	Obs.	M35d	Ⅴ
17	石鏃	ⅠA5	2.0	Obs.	L34d	Ⅴ
18	石鏃	ⅠA5	2.2	Obs.	L34b	Ⅴ
19	石鏃	ⅠA5	3.0	Obs.	K33c	Ⅴ
20	石鏃	ⅠA5	1.9	Obs.	M34d	Ⅴ
21	石鏃	ⅠA5	2.2	Obs.	L35b	Ⅴ
22	石鏃	ⅠA5	3.1	Obs.	L35b	Ⅴ
23	石鏃	ⅠA5	3.0	Obs.	L35b	Ⅴ
24	石鏃	ⅠA5	2.9	Obs.	L35b	Ⅴ
25	石鏃	ⅠA4	1.7	Obs.	N34d	Ⅴ
26	石鏃	ⅠA5	4.5	Obs.	L33c	Ⅴ
27	石鏃	ⅠA5	5.3	Obs.	M36c	Ⅴ
28	石鏃	ⅠA5	3.6	Obs.	K34b	Ⅴ
29	石鏃	ⅠA5	3.2	Obs.	L35b	Ⅴ
30	石鏃	ⅠA5	7.0	Obs.	M34a	Ⅴ
31	石鏃	ⅠA5	1.1	Obs.	L34a	Ⅴ
32	石鏃	ⅠA4	1.2	Obs.	M32c	Ⅴ
33	石鏃	ⅠA2a	2.3	Obs.	L34c	Ⅴ
34	石鏃	ⅠA2a	1.9	Obs.	L35b	Ⅴ
35	石鏃	ⅠA2a	1.5	Obs.	L32b	Ⅴ
36	石鏃	ⅠA2a	1.0	Obs.	K32c	Ⅴ
37	石鏃	ⅠA3	3.0	Obs.	M36c	Ⅴ
38	石鏃	ⅠA5	2.1	Obs.	L34b	Ⅵ
39	石鏃	ⅠA5	2.0	Obs.	M33a	Ⅵ
40	石鏃	ⅠA5	2.1	Obs.	M35a	Ⅵ
41	石鏃	ⅠA5	2.5	Obs.	L34b	Ⅵ
42	石鏃	ⅠA5	3.3	Obs.	L34a	Ⅵ
43	石鏃	ⅠA5	4.2	Obs.	L34a	Ⅵ
44	石鏃	ⅠA4	2.2	Obs.	L32c	Ⅵ
45	石鏃	ⅠA3	1.3	Obs.	K33b	Ⅵ
46	石鏃	ⅠA4	1.6	Ha-Sh.	L31d	Ⅵ
47	石鏃	ⅠA2a	0.4	Obs.	K34b	Ⅵ
48	石鏃	ⅠA2a	0.5	Obs.	K33c	Ⅵ
49	石鏃	ⅠA2a	1.5	Obs.	L31c	Ⅵ
50	石鏃	ⅠA2a	1.1	Obs.	L32a	Ⅵ
51	石鏃	ⅠA2a	0.8	Obs.	M32d	Ⅵ
52	石鏃	ⅠA2a	0.6	Obs.	L34c	Ⅵ
53	石鏃	ⅠA2a	0.8	Obs.	M33d	Ⅵ
54	石鏃	ⅠA2a	0.5	Obs.	L32d	Ⅵ
55	石鏃	ⅠA4	0.8	Obs.	L33b	Ⅵ
56	石鏃	ⅠA4	1.1	Obs.	L33b	Ⅵ
57	石鏃	ⅠA2b	2.2	Obs.	L33b	Ⅵ
58	石槍	ⅠB1	6.1	Obs.	L33d	Ⅳ
59	石槍	ⅠB1	6.1	Obs.	M34c	Ⅴ
60	石槍	ⅠB1	3.9	Obs.	L35b	Ⅴ
61	石槍	ⅠB1	9.0	Obs.	M33b	Ⅴ
62	石槍	ⅠB1	16.5	Obs.	M33a	Ⅴ
63	石槍	ⅠB2	35	Ha-Sh.	L34a	Ⅴ
64	石槍	ⅠB2	6.1	Obs.	M32d	Ⅵ
65	石錐	ⅡA2	10.4	Ha-Sh.		Ⅵ
66	石錐	ⅡA2	8.3	Ha-Sh.		Ⅵ
67	石錐	ⅡA3	9.6	Ha-Sh.		Ⅳ
68	石錐	ⅡA1	7.8	Ha-Sh.	L34a	Ⅳ
69	つまみ付きナイフ	ⅢA1	20	Ha-Sh.	M33d	Ⅴ
70	つまみ付きナイフ	ⅢA1	5.6	Ha-Sh.	L31c	Ⅵ
71	つまみ付きナイフ	ⅢA1	5.4	Ha-Sh.	K33b	Ⅴ
72	つまみ付きナイフ	ⅢA1	6.6	Ha-Sh.	M34d	Ⅵ
73	スクレイパー	Ⅲ B	15	Ha-Sh.	K34b	Ⅴ
74	スクレイパー	Ⅲ B	5.6	Ha-Sh.	L31b	Ⅵ
75	スクレイパー	Ⅲ B	30	Ha-Sh.	M34c	Ⅵ
76	スクレイパー	Ⅲ B	25	Ha-Sh.	M31c	Ⅵ
77	スクレイパー	Ⅲ B	20	Ha-Sh.	M31c	Ⅵ
78	スクレイパー	Ⅲ B	48	Ha-Sh.	M32b	Ⅵ
79	スクレイパー	Ⅲ B	40	Ha-Sh.	L31c	Ⅵ
80	スクレイパ	Ⅲ B	34	Ha-Sh.	N31d	Ⅵ
81	石刃	Ⅹ	75	Obs.	L34d	Ⅵ
82	石核	Ⅸ	62	Ha-Sh.	L32c	Ⅵ
83	石斧	Ⅳ A	60	Gr-Mud.	M35a	Ⅴ
84	石斧	Ⅳ A	60	Gr-Mud.	M31d	Ⅵ
85	石斧	Ⅳ A	20	Sch.	M33d	Ⅴ
86	石斧	Ⅳ A	85	Mud.	M34a	Ⅳ
87	石斧	Ⅳ A	60	Sch.	L34a	Ⅳ
88	石斧	Ⅳ A	45	Mud.	K33c	Ⅴ
89	石斧	Ⅳ A	45	Mud.	L33b	Ⅵ
90	石斧	Ⅳ A	435	Gr-Mud.	L34d	Ⅵ

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位	図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
91	石錘	ⅦA 2	45	And.	M31c	Ⅴ	104	石錘	ⅦA 3	60	Gne.	M32d	Ⅵ
92	石錘	ⅦA 2	150	And.	N31a	Ⅴ	105	石錘	ⅦA 2	80	And.	M30c	Ⅵ
93	石錘	ⅦA 2	135	And.	M33d	Ⅵ	106	砥石	ⅦB 2	80	Sa.	K33c	Ⅴ
94	石錘	ⅦA 2	80	And.	M30c	Ⅵ	107	砥石	ⅦB 2	190	Sa.	L32c	Ⅵ
95	石錘	ⅦA 2	75	And.	L32c	Ⅵ	108	砥石	ⅦB 2	190	Sa.	M35a	Ⅳ
96	石錘	ⅦA 2	175	And.	L33d	Ⅵ	109	砥石	ⅦB 2	170	Sa.	L35a	Ⅵ
97	石錘	ⅦA 2	125	And.	L32c	Ⅵ	110	砥石	ⅦB 2	100	Sa.	L34d	Ⅴ
98	石錘	ⅦA 2	70	And.	L32c	Ⅵ	111	すり石	ⅦA 1	800	And.	L34c	Ⅵ
99	石錘	ⅦA 2	110	And.	L32c	Ⅵ	112	すり石	ⅦA 2	535	And.	M31c	Ⅵ
100	石錘	ⅦA 2	120	And.	L33b	Ⅵ	113	すり石	ⅦA 1	230	And.	M32c	Ⅴ
101	石錘	ⅦA 2	210	Gne.	M32d	Ⅵ	114	すり石	ⅦA 1	560	And.	L31c	Ⅵ
102	石錘	ⅦA 3	55	Sa.	L35b	Ⅵ	115	すり石	ⅦA 2	600	And.	M32d	Ⅵ
103	石錘	ⅦA 2	150	And.	M32c	Ⅵ							

石斧（図148・151—83～90）

刃部の残っているものは、すべて両刃である。84・86は刃部が磨滅している。84には基部両面に細かなキズがみられ、着柄の痕跡かもしれない。86は扁平な石斧である。84・89の側縁には敲打痕が残っている。90は打製石斧。

石錘（図149・151—91～105）

91・92はⅤ層、93～105はⅥ層出土。92・100・101・103は、短軸に打ち欠きのあるもので、その他は長軸に打ち欠きである。

砥石（図149・151—106～110）

105・106・110は、4面に砥面を持つもの。109・110は、砥面が若干くぼんでいる。

すり石（図149・151—111～115）

111・113・114は断面三角形の稜を擦面としている。114は2か所に擦面を持つ。112・115は、扁平な円礫の側縁に擦面のあるもの。

V　C地点の遺構と遺物

C地点の調査状況

V　C地点の遺構と遺物

1　遺構の分布

C地点の南側をアヨロ川が西から東へ流下し、調査区中央および東側18ラインに小川が南流してアヨロ川にそそいでいる。したがって、調査区は中央の小川により区分される。L・M—13・14区にある調査区は、K～M—15～18区の調査区よりも一段低位にあり、遺構は検出されず遺物の出土量も多くはない。東側の調査区からはTピットが1個、焼土が1か所検出された(図152)。

2　遺構

P—1（図153）

L16d区にある。覆土は9層に分けられる。Ⅰ・Ⅱ層は基本層序のⅣ・Ⅴ層に対比。Ⅲ層は暗褐色土。径0.5～1.5㎜のローム粒が混入し、粘性が強く堅くしまっている。Ⅳ層は黄褐色ロームブロックが混入する。基本層序のⅣと同じ土層である。Ⅴ層は褐色土で粒子の細かいローム粒を多量に含み、粘性が強い。Ⅳ層は黒褐色土で、多量の礫を含む。Ⅶ層は暗褐色土で、礫とローム粒を多量に含む。Ⅶ層は黄褐色土。壁の崩落土である。Ⅸ層は黒色土。平面形は長径3.4m、短径1.0mの溝状である。開口部は幅広で、底面が溝状に構築されている。遺物は出土していない。

小括　溝状のTピットである。底面の長幅比は29.5。時期は不明。

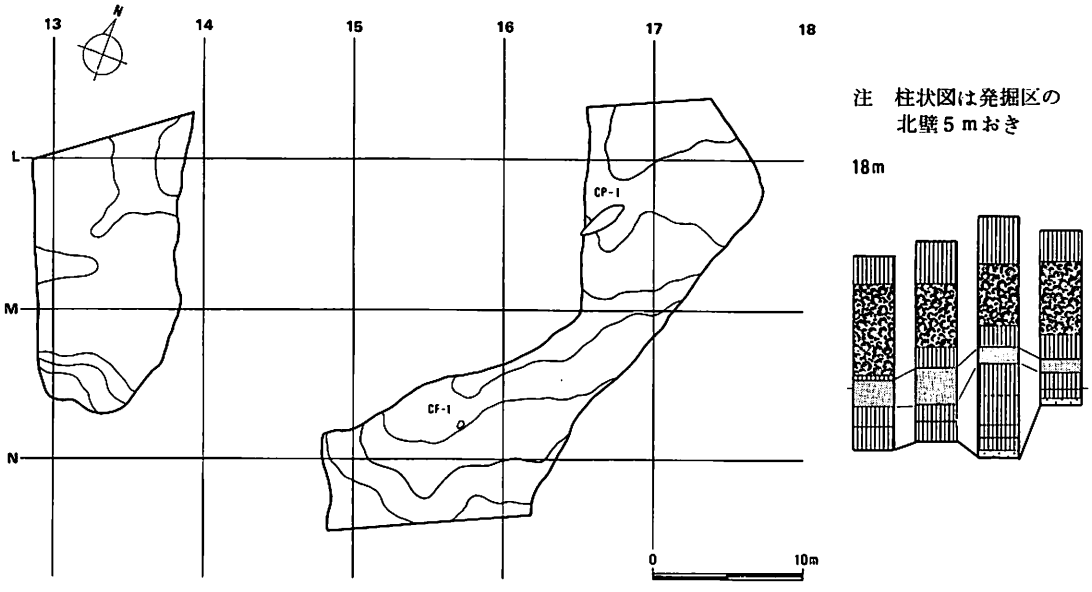


図152　C地点の遺構分布と土層柱状図

2　遺物

(1)　土器群

C地点から出土した土器群はⅠ群a類、Ⅰ群b類、Ⅲ群a類があり、縄文時代早期・中期に所属する。

Ⅰ群a－1類（図154・155－8、図156・157－12～20）

Ⅰ群a－1類は無文・沈線を主要な文様要素とし、稀に繊維を含む土器群である。12は無文地に沈線文を施した例。口縁に平行する2本の沈線と、それを結ぶ縦位の沈線で構成されている。沈線は植物質のもので描かれている。13～16は無文。器内外とも凹凸が著しい。16には指状の痕跡が認められる。13・15・16は繊維を含む。とくに15は多量に含有する。17～19には縦位の調整痕が認められる。原体は植物質と思われるが、17は貝殻？の可能性もある。20には絡条体圧痕文が施されている。8は底角の張り出した底部破片。縦位の調整痕が認められる。

Ⅰ群a－2類（図154・155－1～7・9～11、図156～158－21～42）

21・22は無文。21の器内面は凸凹ではあるが、ていねいに調整され光沢がある。23の口縁上部には外→内の円形刺突列がめぐる。地文は無文。24は口唇に爪形の刻目が施されている。地文は無文。1は口径20.4cm、器高26.5cmの平底深鉢である。口縁は四つの大きな波状をなす。横位の貝殻条痕が器全面を被覆している。貝殻腹縁文が口唇および表面胴上半部にまばらに施され、口縁内面にもみられる。2も口径16.1cm、器高15.5cmの深鉢。口縁は四つの突起状の波状で、器全面に貝殻条痕と貝殻押し引き文が施されている。貝殻腹縁文が口縁内外にまばらに施される。口縁

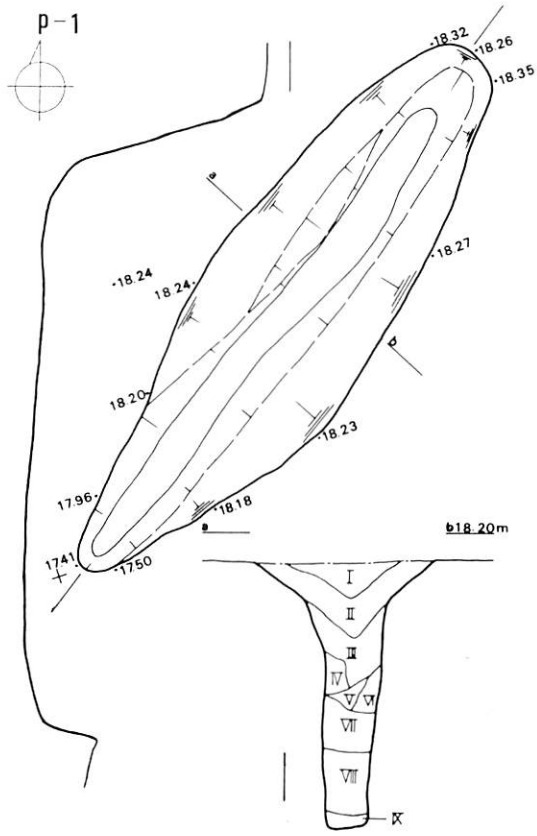


図153　P－1

上部と胴上半部に山形状沈線文が描かれる。その間に波頂部を基線として沈線文によるひし形のモチーフが描かれ、その交点に円形刺突文が施されている。3は山形沈線文で区画され、区画上位に貝殻腹縁文が充塡され、刺突列が波頂部から垂下している。胴部には貝殻殻表圧痕文が施文されている。4には口縁に平行して2本の沈線文が描かれ、沈線間に爪形の刺突文が施されている。同じ構成は胴部にもみられる。口唇には刻目が施されている。地文には貝殻条痕文が施され、浅い長円形の調整痕が認められる。貝殻によるものかもしれない。5は口径21.2cm。口縁部には細い沈線文が格子目に描かれ、下位には貝殻条痕文が施されている。6・7は貝殻条痕文を器全面に施したもの。25・27には沈線状にまばらな条痕が施されている。25は小突起をもつ波状口縁。いずれも口縁内面上部に貝殻条痕が施されている。26・28は貝殻条痕文の施された例。28の口唇には内外に貝殻腹縁文が施されている。29には貝殻腹縁文が横・斜位に施され、器内面にも斜位に施されている。30は山形の沈線により口縁部と胴部が区画され、区画内には貝殻腹縁文が充塡される。31は斜位・横位に沈線が描かれ、その間に刺突列が施されている。32は原体を縦にして貝殻押し引き文を施したもの。33は刺突と沈線により文様構成されている。口縁上部から横位の刺突列、平行沈線、山形状沈線が描かれ、さらに大きな山形の沈線が3段、2本の平行線があり、その内に刺突列、山形沈線が施される。地文には貝殻？押し引き文が施されている。34には2本単位の沈線が施されている。地文は縦位の細かな貝殻腹縁文である。35は尖底土器で、底部は砲弾形。36には横位の細かな貝殻腹縁文が施されている。37には斜位・横位の沈線が描かれ、平行沈線の中位には刺突列が施されている。9～10、38～42は底部破片。9の器外面は無文であるが、縦位の調整痕が残り、内面には貝殻条痕文が横位・斜位に施されている。38の底部内面には指頭の押圧がみられ、凸凹している。10・11・39～42は無文である。

1とともに検出された木炭の^{14}C年代は、8,270±850年B.P.（KSU—583）である。

Ⅰ群b－1類（図158—43～45）

43にはＲＬ・ＬＲ斜縄文による羽状縄文が施されている。44にはＬＲ斜縄文がまばらに施されている。45は短縄文が施されたもの。

Ⅰ群b－4類（図158—46～48・51）

46・47には横位に数段の撚糸文、48には羽状の撚糸文、51には結束第2種のあるＲＬ斜縄文が施されている。

Ⅲ群a類（図158—49・50・52・53）

Ⅲ群a類は円筒土器上層式土器である。しかし、資料が少ないため、その詳細は不明である。49・50には横位の隆起線があり、刺突文が施されている。52には細かなＬＲ斜縄文が施されている。53は有孔円盤。平行沈線が施されている。孔は焼成前に穿たれている。いずれも、器内面には「ミガキ」が明瞭に残っている。

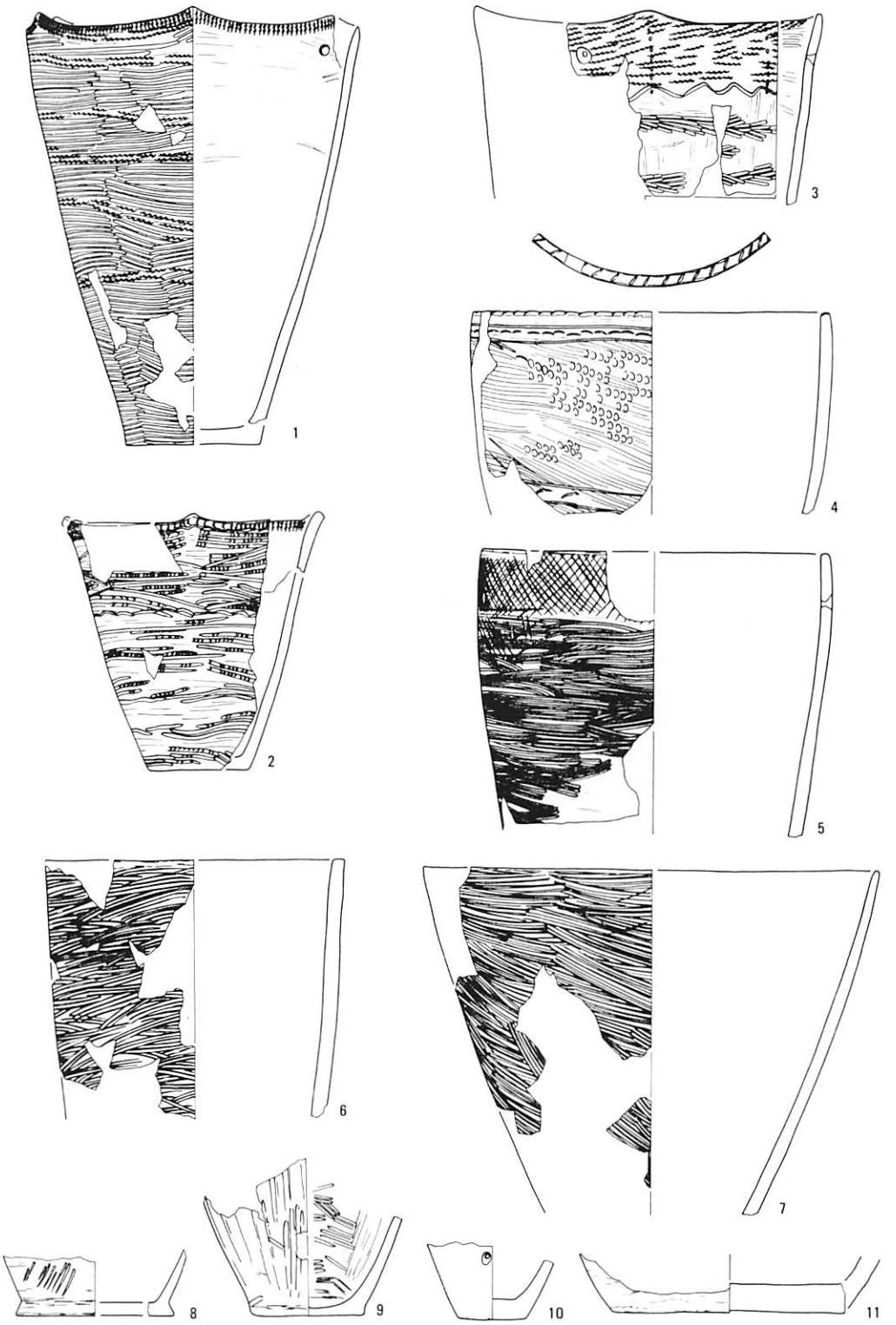


図154　C地点出土の土器群（Ⅰ群a類）

図155　C地点出土の土器群（Ⅰ群a類）

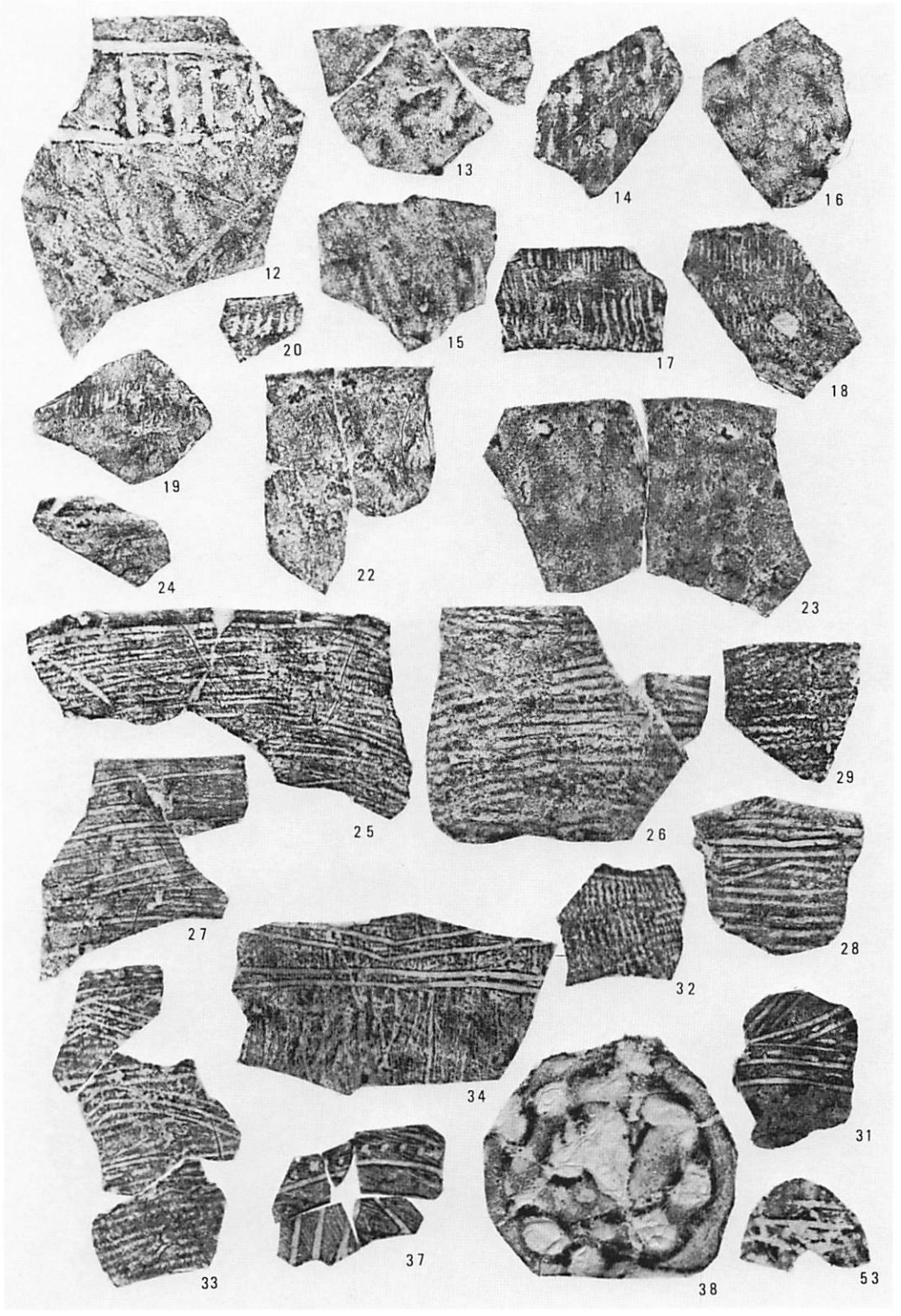


図156　C地点出土の土器群（Ⅰ群a類）

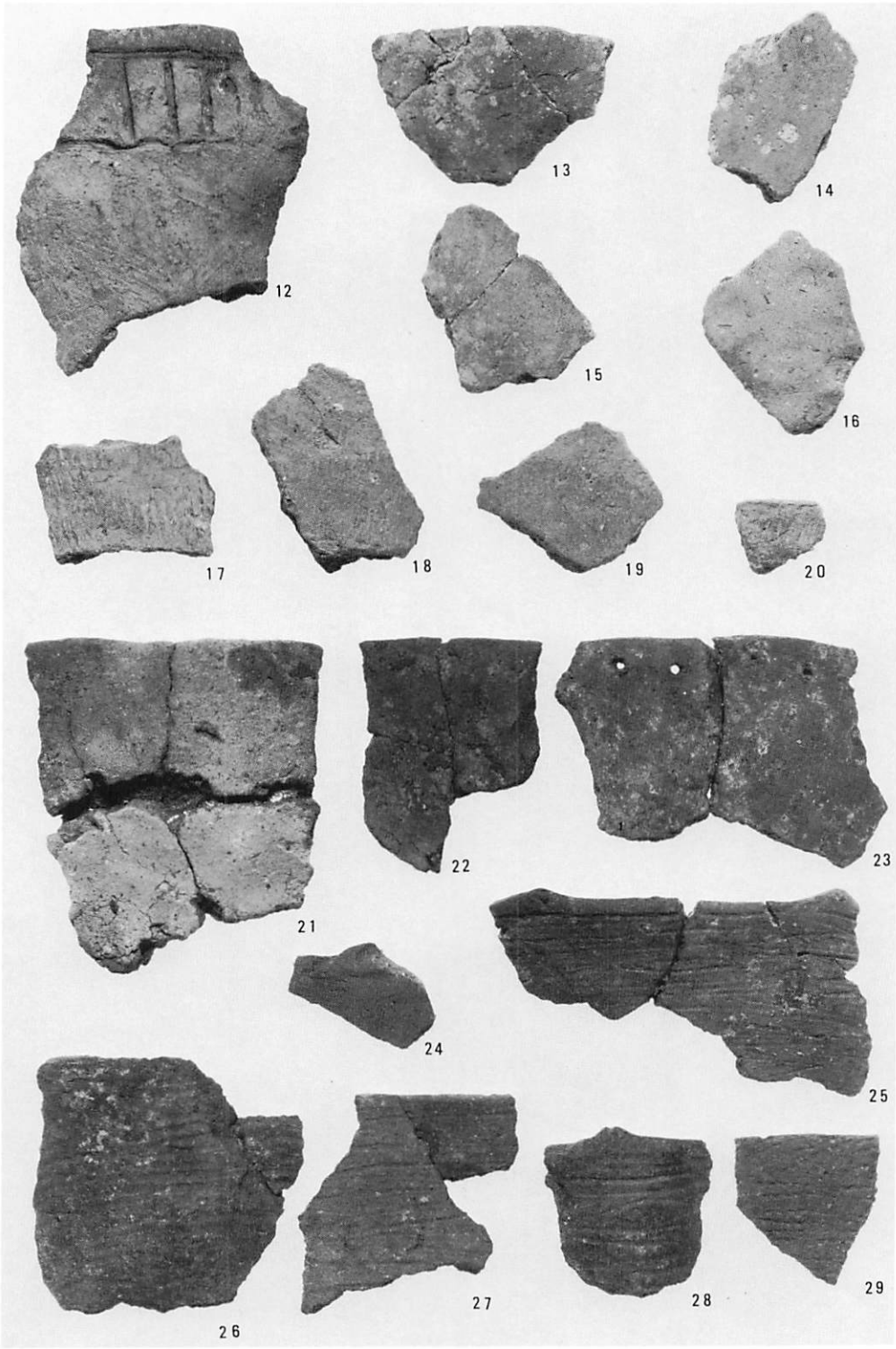


図157　C地点出土の土器群（Ⅰ群a類）

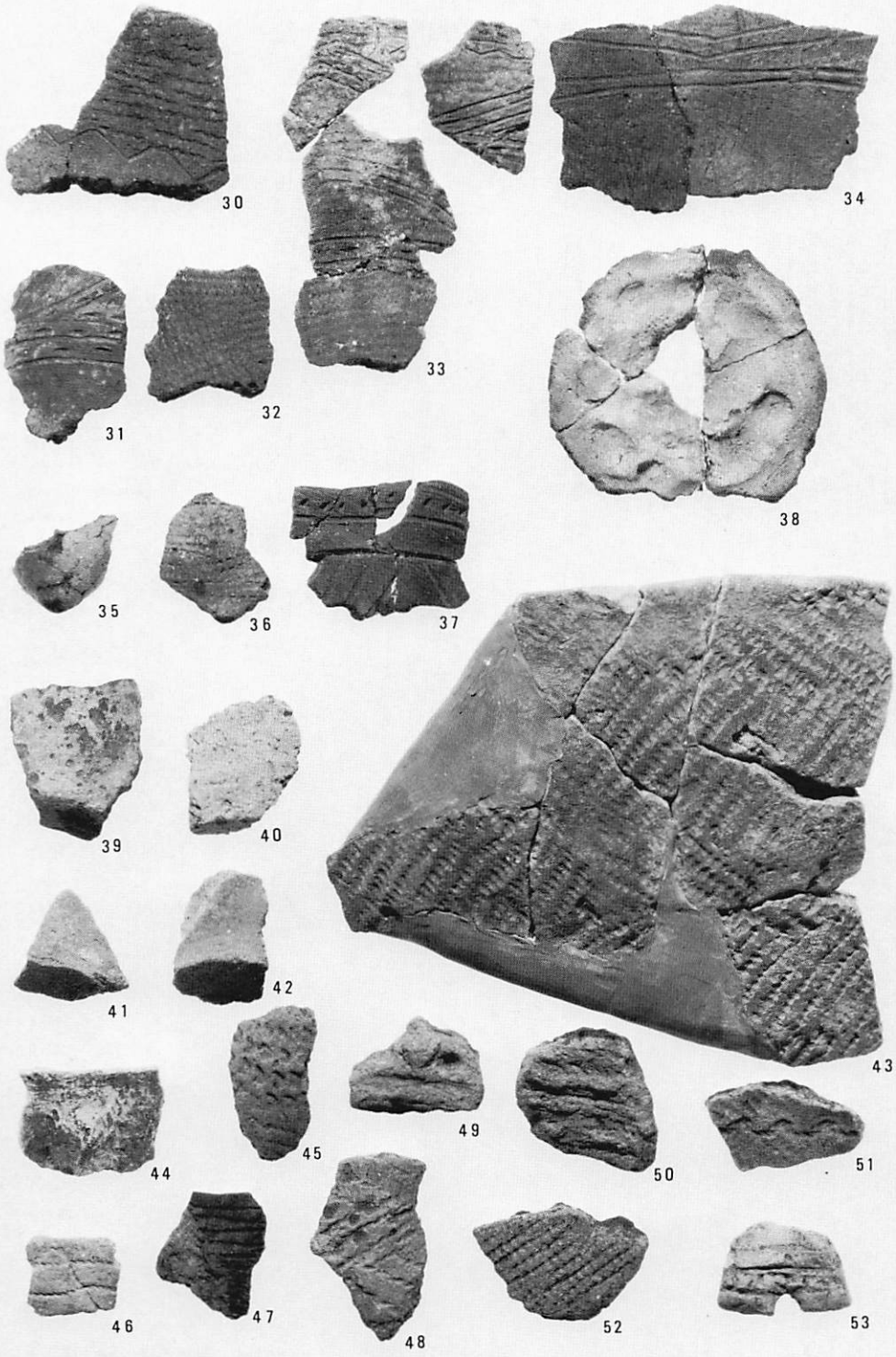


図158　C地点出土の土器群（Ⅰ群a・b類・Ⅳ群）

表7　C地点出土土器一覧

図番号	分類	部位	口縁・脚・底部形状	外面文様	口縁部文様	口脚部文様	内面文様	底部文様	炭化物	厚(mm)	発掘区	層位
1	Ⅰa2	個体	Ⅱ1・c　X1a	1a・3a		3a	3a		a1・b1・2・3	6	M16d	Ⅶ
2	Ⅰa2	個体	Ⅱ3・f　X1a	1a・4a・2a・5b		3a	3a		・b1・2・3	5	L17a	Ⅶ
3	Ⅰa2	口	Ⅱ1・a	5a	3a・2a・5b		3a		・b1	5	M15c	Ⅶ
4	Ⅰa2	口	Ⅰ2・a	2a・5c・1a	2a・5c	2d				7	K17b	Ⅶ
5	Ⅰa2	口	Ⅰ2・a	1a	2c				a1・2	8	M16d	Ⅶ
6	Ⅰa2	口	Ⅰ1・b	1a					a1	8	K17c	Ⅶ
7	Ⅰa2	口	Ⅰ1・a	1a					a1・b1・2	8	M16b	Ⅶ
8	Ⅰa1	底	X4a	1c						5	N15d	Ⅶ
9	Ⅰa2	底	X3i	0			1b			5	L15d	Ⅶ
10	Ⅰa2	底	X1a	0					・b3	5	K17b	Ⅶ
11	Ⅰa2	底	X1a	0						8	L17b	Ⅴ
12	Ⅰa1	口	Ⅰ1・a		0・2a					7	L16c	Ⅶ
13	Ⅰa1	口	Ⅰ2・g	0						6	L16d	Ⅶ
14	Ⅰa1	胴		0						4	L17b	Ⅶ
15	Ⅰa1	胴		0						5	L17b	Ⅶ
16	Ⅰa1	胴		0						7	L17b	Ⅶ
17	Ⅰa1	胴		1c						5	L16d	Ⅶ
18	Ⅰa1	胴		1c						7	L16d	Ⅶ
19	Ⅰa1	胴		1c						5	M15c	Ⅶ
20	Ⅰa1	口	Ⅰ1・b		8a					7	L17b	Ⅶ
21	Ⅰa2	口	Ⅰ1・a	0						12	L17a	Ⅶ
22	Ⅰa2	口	Ⅰ1・a	0					a1	5	L16d	Ⅶ
23	Ⅰa2	口	Ⅰ1・d	0	5f				a1・b1	4	N15d	Ⅶ
24	Ⅰa2	口	Ⅰ1・a		2d					6	K17c	Ⅶ
25	Ⅰa2	口	Ⅱ1・a	1a			1b			5	L16d	Ⅶ
26	Ⅰa2	口	Ⅰ1・a		1a				a1・b1	6	M15c	Ⅴ
27	Ⅰa2	口	Ⅰ1・d		1b		1a			6	L16d	Ⅶ
28	Ⅰa2	口	Ⅱ1・c		1b	3a	3a		a1・b1	5	M15c	Ⅶ
29	Ⅰa2	口	Ⅰ1・a		3a		3a			5	M15c	Ⅶ
30	Ⅰa2	口	Ⅰ1・a	0	2a・3a					5	N15a	Ⅳ
31	Ⅰa2	胴		2a・5a・0						6	K17b	Ⅶ
32	Ⅰa2	胴		4a・5b						5	K16c	Ⅴ
33	Ⅰa2	口	Ⅰ1・c	4a?	2a・5a					5	M15b	Ⅶ
34	Ⅰa2	胴		2a・3b			1a			5	L17a	Ⅶ
35	Ⅰa2	底	X5a	0							K17b	Ⅶ
36	Ⅰa2	胴		3a						3	K16c	Ⅶ
37	Ⅰa2	口	Ⅱ1・d		1c・2a・5a					4	L16c	Ⅶ
38	Ⅰa2	底	X　a					5e		5	L16d	Ⅶ
39	Ⅰa2	底	・X1a	0						9	L17a	Ⅶ
40	Ⅰa2	底	X1a	0						5	L17a	Ⅶ
41	Ⅰa2	底	X3a	0						7	L16d	Ⅶ
42	Ⅰa2	底	X3a	0						6	L17b	Ⅶ
43	Ⅰb1	口	Ⅰ1・a		7f					10	N15d	Ⅶ
44	Ⅰb1	口	Ⅰ1・b		7c					6	N16a	Ⅶ
45	Ⅰb1	胴			8e					8	L16c	Ⅵ

図番号	分類	部位	口縁・脣・底部形状	外面文様	口縁部文様	口縁部文様	内面文様	底部文様	炭化物	器厚(mm)	発掘区	層位
46	Ⅰb4	口	Ⅰ1・c		7g					4	L17a	Ⅷ
47	Ⅰb4	口	Ⅰ1・c		7g				a1	6	L16d	Ⅴ
48	Ⅰb4	胴			7j					5	L17b	Ⅴ
49	Ⅲa			5a・6b						6	M16c	Ⅴ
50	Ⅲa			6b						10	M16d	Ⅵ
51	Ⅰb4?			7i・7d						6	L16c	Ⅴ
52	Ⅲa			7c			ミガキ			8	L16d	Ⅴ
53	Ⅲa		有孔円盤	2a			ミガキ			10	M16b	Ⅴ

(2)　石器群

C地点から出土をした石器・フレイク・石核・礫の総数は695点である。石器の種類は、石鏃・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・たたき石・石錘・砥石・すり石・石皿である。以下、器種について記述するが、詳細については表8を参照されたい。

石鏃（図159・163―1～4）

1は細身に作り出された鏃。2・3は基部が平坦もしくは若干彎入した三角形鏃である。いずれも薄く作り出されている。4はやや大型で肩の張る五角形鏃。石質はいずれも黒曜石。

石槍（図159・163―5・6）

5はかえし部が明瞭に作り出されていて、柄部は太く、断面は全体的に丸味がある。6は槍の尖頭部の破片である。いずれも黒曜石製。

つまみ付きナイフ（図159・163―8～19）

8は、つまみという程ではないが、表面右側にえぐりを入れ柄部を作り出したもの。裏に細かな二次加工が施され、尖頭状となっている。錐として使用していた可能性もある。10～15には二次加工が表面全体に施され、15の右側縁には急角度の刃部が作り出されている。いずれも裏面右側縁に細かな剝離が施されている。9・16～19は両面加工のナイフ。9・18・19は柄部および尖頭部は入念な二次加工が施されているが、裏面の加工は粗雑である。16の断面は全体的に丸味をもっているが、柄部の作り出しはさほど明瞭ではない。17は、見事な両面加工のナイフである。大きく剝離されているわりには非常に薄く作られている。石質は、19がメノウ製のほか、すべて頁岩である。

スクレイパー（図159・160・163―7・20～28）

7は原石面を残した両面加工のスクレイパー。20～22は周縁に二次加工のある円形のスクレイパー。21の裏面右側縁には細かな加工を施してあり、つまみ付きナイフの未成品かもしれない。23～28は片側縁に刃部をもつもの。7・22・25・26が黒曜石製、そのほかは頁岩製である。

石斧（図160・163―29～33）

29は長さ18.9cmの大型石斧で、擦り切り痕がみられる。30・32は縦断面において刃部が彎曲しており、片刃状となるが明瞭な片刃斧ではない。31は刃部および裏面平坦部に部分的な研磨が施されている。32・33の側縁には敲打痕が残っている。

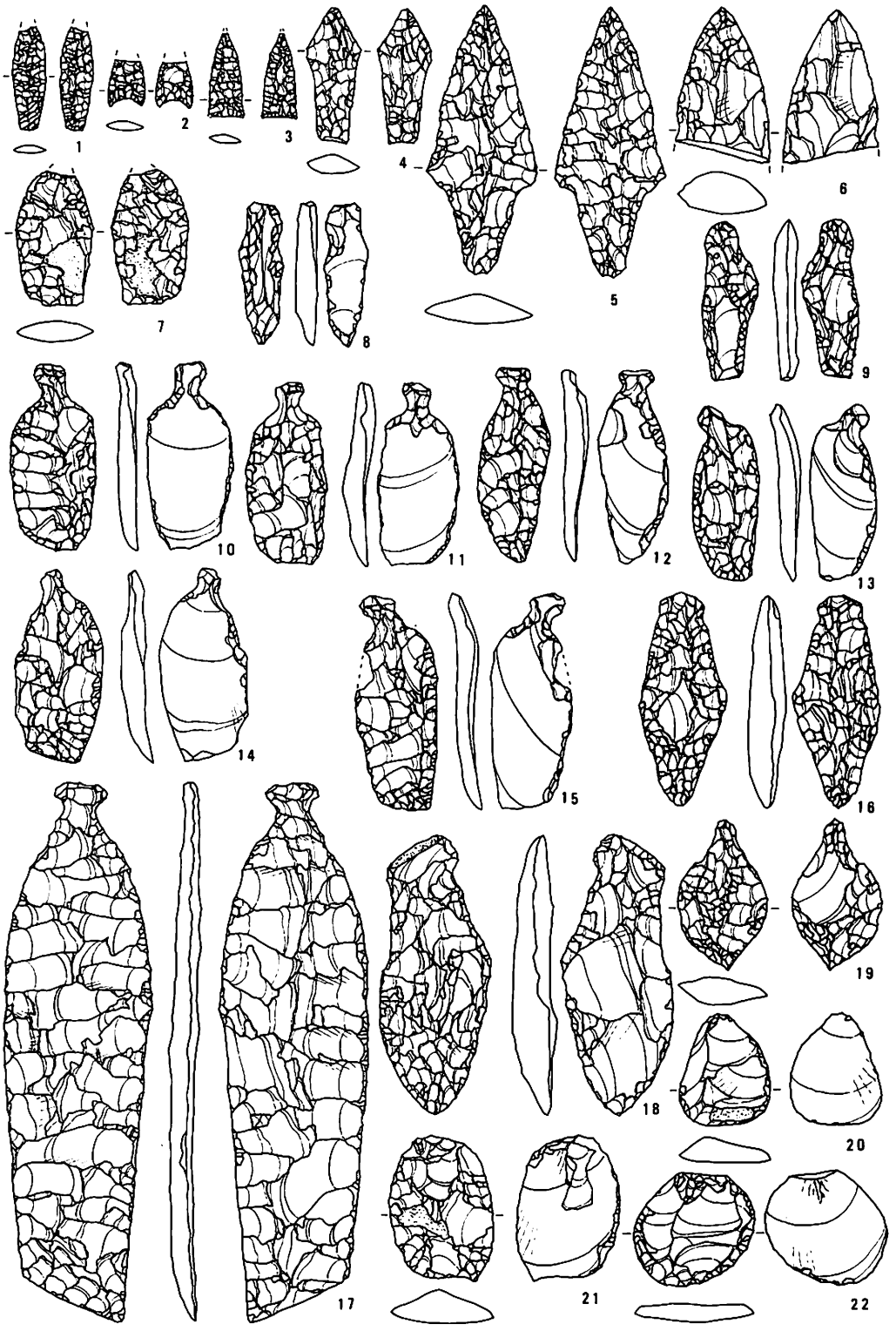


図159　C地点出土の石鏃・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー

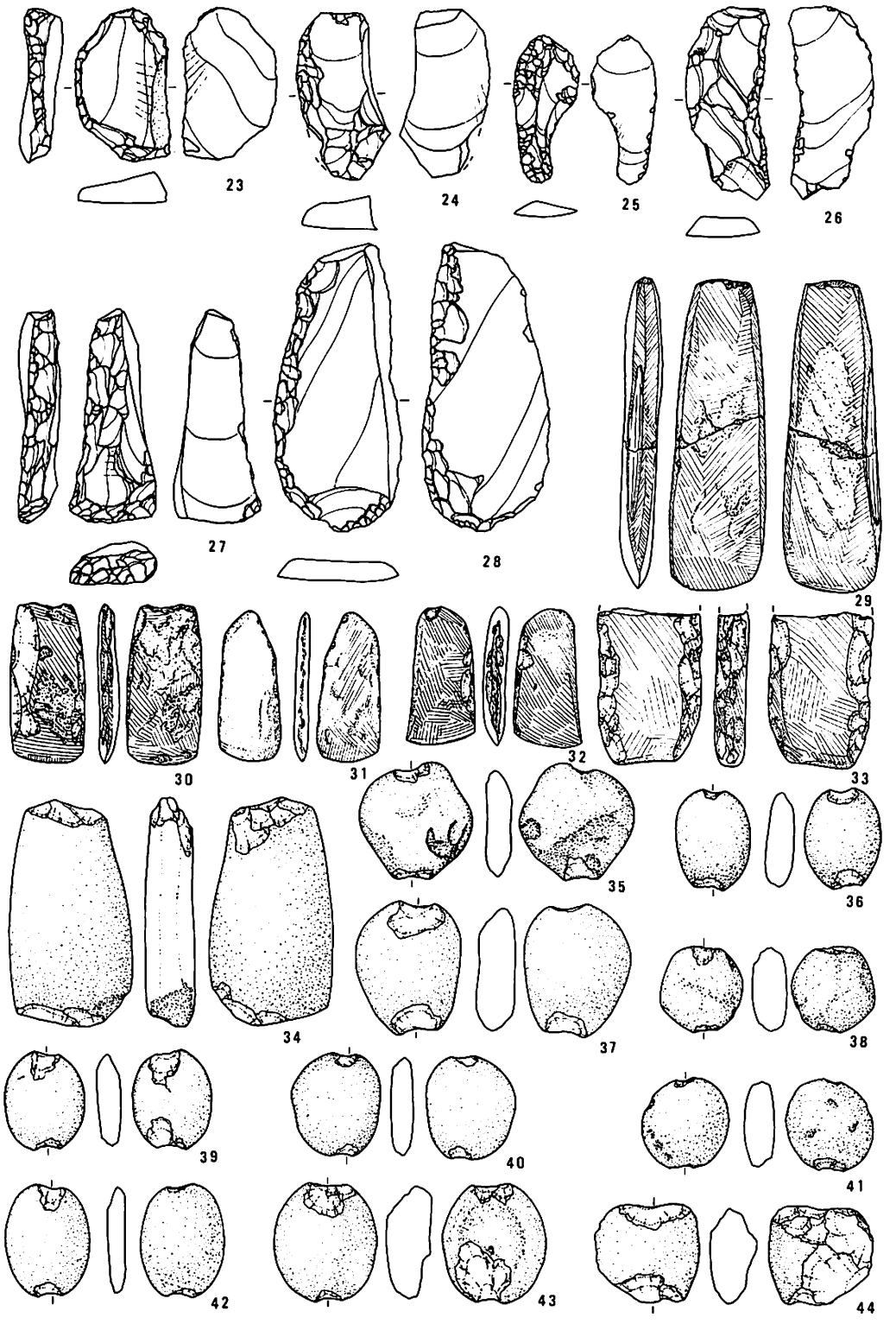


図160　C地点出土のスクレイパー・石斧・石錘

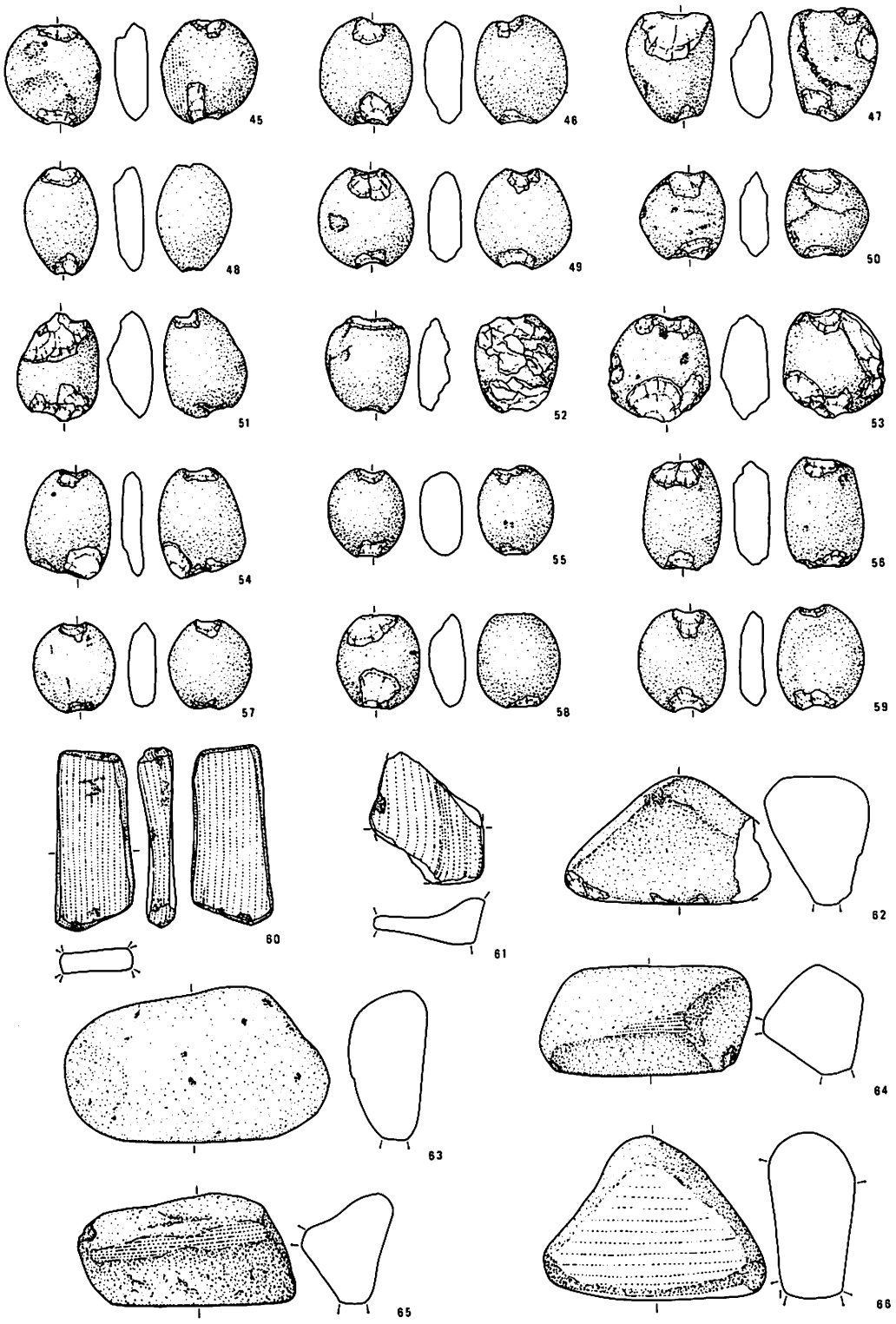


図161　C地点出土の石錘・砥石・すり石

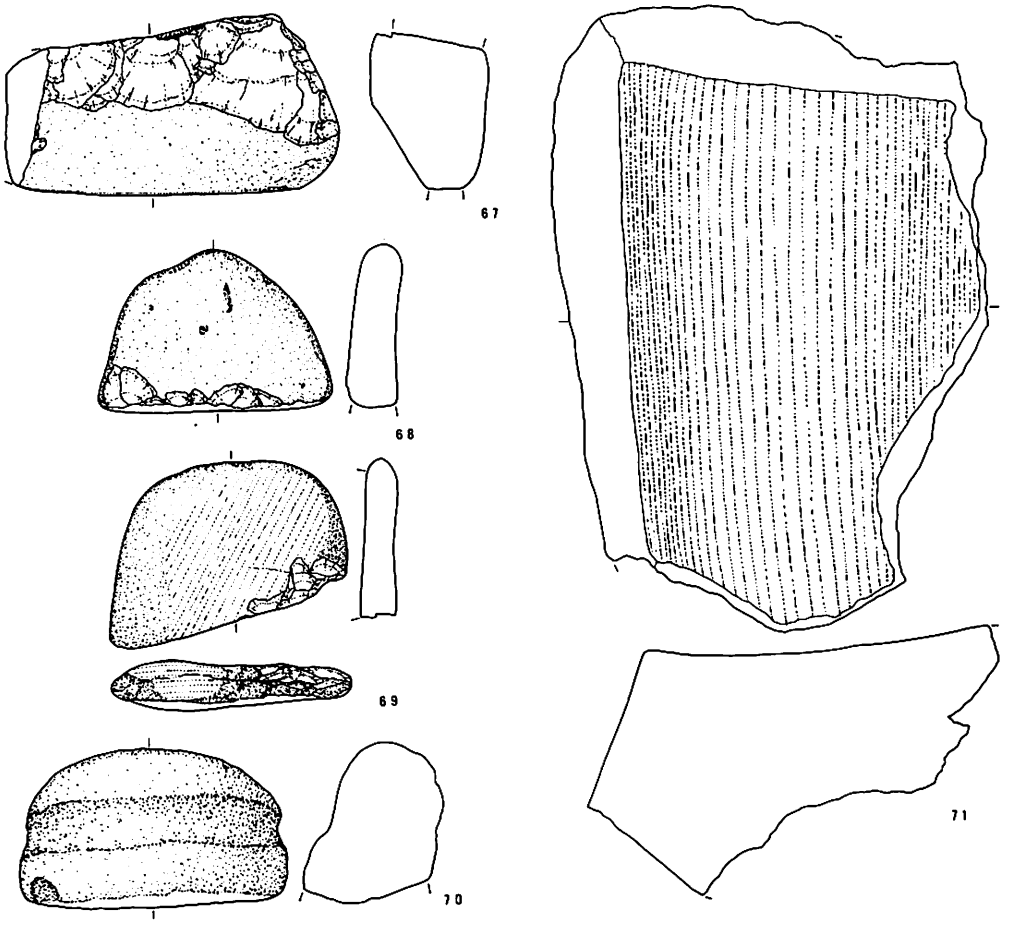


図162　C地点出土のすり石・石皿

たたき石（図160・163—34）

扁平な礫を素材とし、両端に大きな剝離痕がある。

石錘（図160・161・163・164—35～59）

すべて長軸両端に打ち欠きがあるものである。45の裏面の一部には研磨の痕が認められる。36・37のほかはすべてⅦ層一括資料であり、Ⅰ群a類に伴うものである。

砥石（図161・163—60・61）

いずれも板状の砂岩を用いている。60は両側縁および両平坦部に砥面をもち、平坦部は凹面をなしている。61は両平坦部に砥面をもち、両面とも凹面。

すり石（図161・162・164—62～70）

62・64・65・67は断面三角形の礫の稜を擦面としている。62は一稜を擦面とし、64・65・67は二稜に擦面がある。67には敲打による剝離痕があり、たたき石としても利用されたものと思

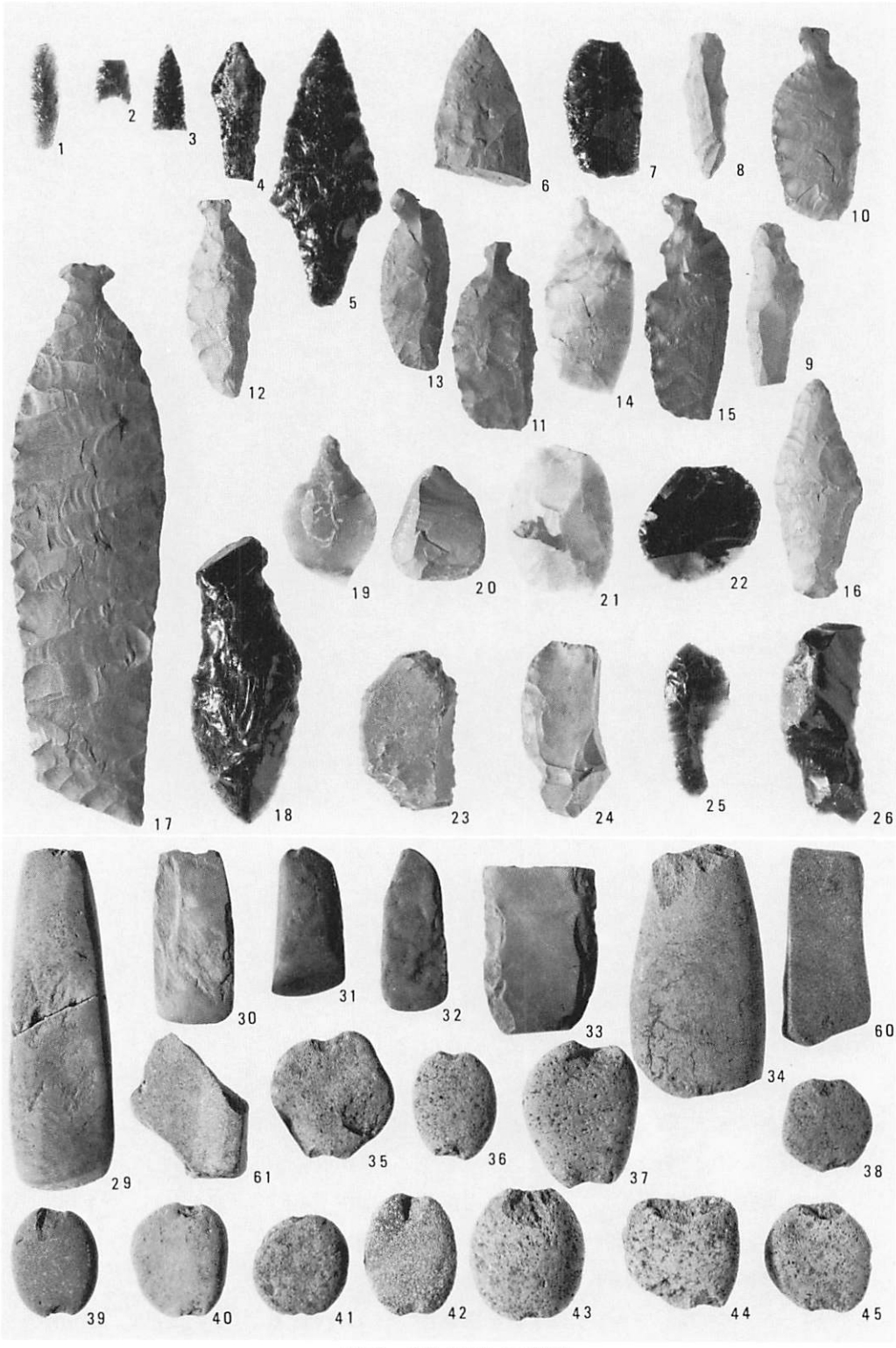


図163　C地点出土の石器群

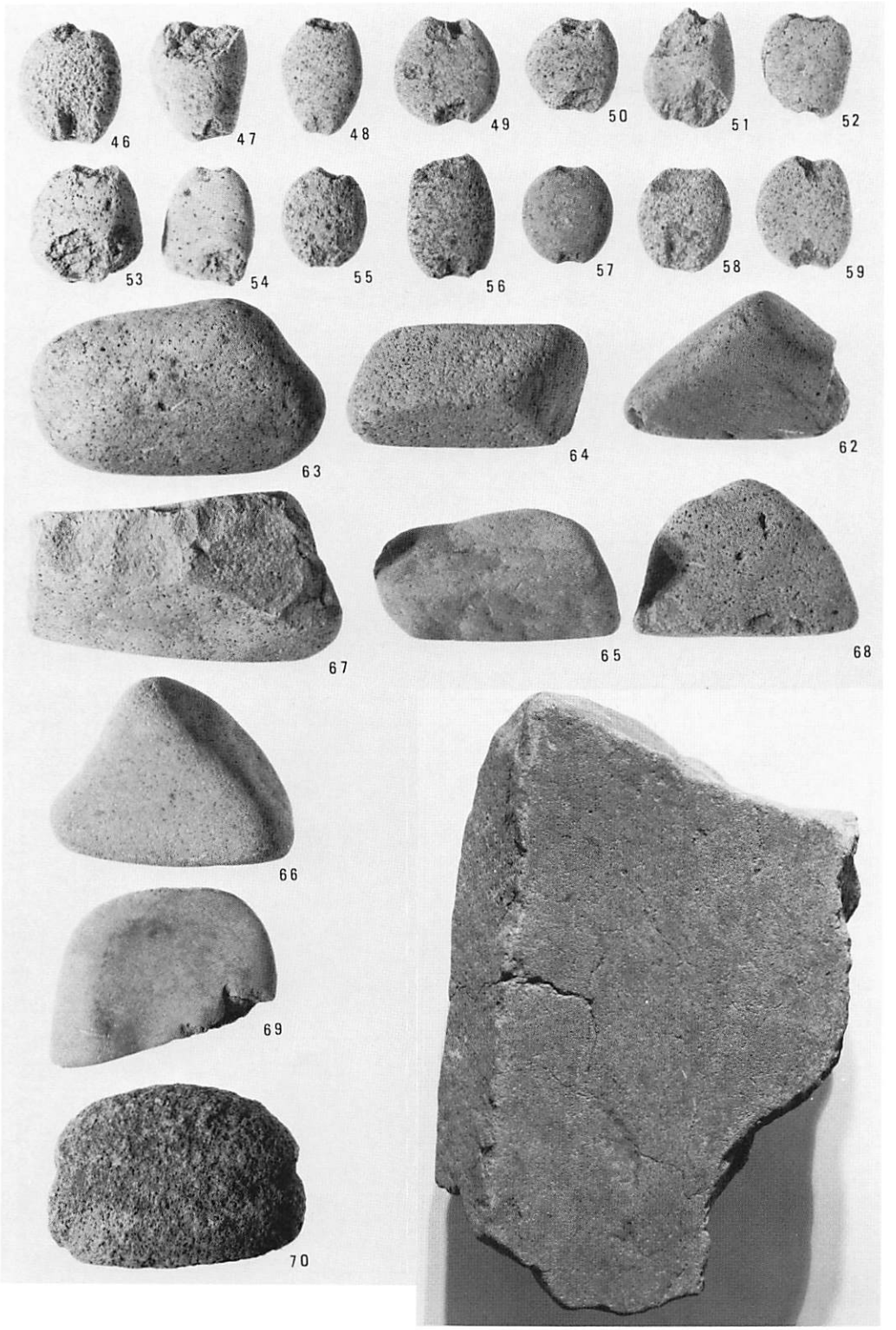


図164　C地点出土の石錘・すり石・石皿

われる。66・68・69の扁平な礫の側縁ないしは平坦面に擦面がある。70は幅広の擦面をもち、礫中央に敲打によって溝を作り出し握部としている。

石皿（図162・164—71）

大きな角礫の平坦な面を使用面としている。

表8　C地点出土石器一覧

図番号	器種	分類	重量(g)	材質	発掘区	層位
1	石鏃	IA2	(0.7)	Obs.	M15c	V
2	石鏃	IA3	(0.4)	Obs.	K17c	V
3	石鏃	IA3	(0.6)	Obs.	L17b	VI
4	石鏃	IA2b	3.4	Obs.	M16a	VI
5	石槍	IB1	14.9	Obs.	M15c	V
6	石槍	IB	(13.6)	Obs.	M15c	V
7	スクレイパー	IIIB	6.6	Obs.	L16b	V
8	つまみ付きナイフ	IIIA1	4.2	Obs.	L17a	V
9	つまみ付きナイフ	IIIA1	(5.4)	Ha-Sh.	K16c	V
10	つまみ付きナイフ	IIIA1	9.1	Ha-Sh.	L16d	V
11	つまみ付きナイフ	IIIA1	9.2	Ha-Sh.	L16c	VI
12	つまみ付きナイフ	IIIA1	7.2	Ha-Sh.	M16d	V
13	つまみ付きナイフ	IIIA1	7.4	Ha-Sh.	L16c	VI
14	つまみ付きナイフ	IIIA1	9.5	Ha-Sh.	M16d	VI
15	つまみ付きナイフ	IIIA1	9.7	Ha-Sh.	L17a	VI
16	つまみ付きナイフ	IIIA4	15.9	Ha-Sh.	M16c	V
17	つまみ付きナイフ	IIIA4	55	Ha-Sh.	M15c	V
18	つまみ付きナイフ	IIIA4	30	Ha-Sh.	L16c	V
19	つまみ付きナイフ	IIIA4	8.3	Aga.	N16a	VI
20	スクレイパー	IIIB	6.3	Ha-Sh.	K17b	VI
21	スクレイパー	IIIB	14.3	Ha-Sh.	L16c	V
22	スクレイパー	IIIB	8.1	Obs.	M16b	VI
23	スクレイパー	IIIB	15.4	Ha-Sh.	N16a	V
24	スクレイパー	IIIB	14.9	Ha-Sh.	K17b	VI
25	スクレイパー	IIIB	3.2	Obs.	M16b	VI
26	スクレイパー	IIIB	10.3	Obs.	L17a	VI
27	スクレイパー	IIIB	27	Ha-Sh.	K17b	VI
28	スクレイパー	IIIB	36.5	Ha-Sh.	L16d	VI
29	石斧	IVA	400	Mud.	N16a	V
30	石斧	IVA	80	Sch.	M17a	VI
31	石斧	IVA	45	Mud.	M16a	VI
32	石斧	IVA	80	Mud.	N15a	VI
33	石斧	IVA	225	Mud.	L16c	V
34	たたき石	VA1	500	And.	L13a	V
35	石錐	VIIB2	100	And.	M16b	VI
36	石錐	VIIB2	65	And.	M16a	VI
37	石錐	VIIA2	145	And.	M15c	VI
38	石錐	VIIA2	75	And.	M16b	VI
39	石錐	VIIA2	65	And.	N16a	VI
40	石錐	VIIA2	75	And.	N16a	VI
41	石錐	VIIA2	80	And.	N16a	VI
42	石錐	VIIA2	65	Sa.	N16a	VI
43	石錐	VIIA2	75	And.	N16a	VI
44	石錐	VIIA2	110	And.	N16a	VI
45	石錐	VIIA2	90	And.	N16a	VI
46	石錐	VIIA2	115	And.	N16a	VI
47	石錐	VIIA2	105	And.	N16a	VI
48	石錐	VIIA2	65	And.	N16a	VI
49	石錐	VIIA2	85	And.	N16a	VI
50	石錐	VIIA2	60	And.	N16a	VI
51	石錐	VIIA2	95	And.	N16a	VI
52	石錐	VIIA2	65	And.	N16a	VI
53	石錐	VIIA2	90	And.	N16a	VI
54	石錐	VIIA2	60	And.	N16a	VI
55	石錐	VIIA2	75	And.	N16a	VI
56	石錐	VIIA2	105	And.	N16a	VI
57	石錐	VIIA2	75	And.	N16a	VI
58	石錐	VIIA2	65	And.	N16a	VI
59	石錐	VIIA2	85	And.	N16a	VI
60	砥石	VIIB2	85	Sa.	M16a	VI
61	砥石	VIIB2	105	Sa.	K17b	VI
62	すり石	VIA1	650	And.	M16d	VI
63	すり石	VIA1	970	And.	N15d	V
64	すり石	VIA1	750	And.	M16b	VI
65	すり石	VIA1	680	And.	L17a	VI
66	すり石	VIA1	965	And.	L17a	VI
67	すり石	VIA1	1,425	And.	K17b	VI
68	すり石	VIA2	395	And.	M16c	V
69	すり石	VIA2	315	Sa.	L17a	VI
70	すり石	VIA4	870	And.	M16b	V
71	石皿	VIB	34,200	And.	M16a	V

Ⅵ　D地点の遺構？と遺物

D地点の調査状況

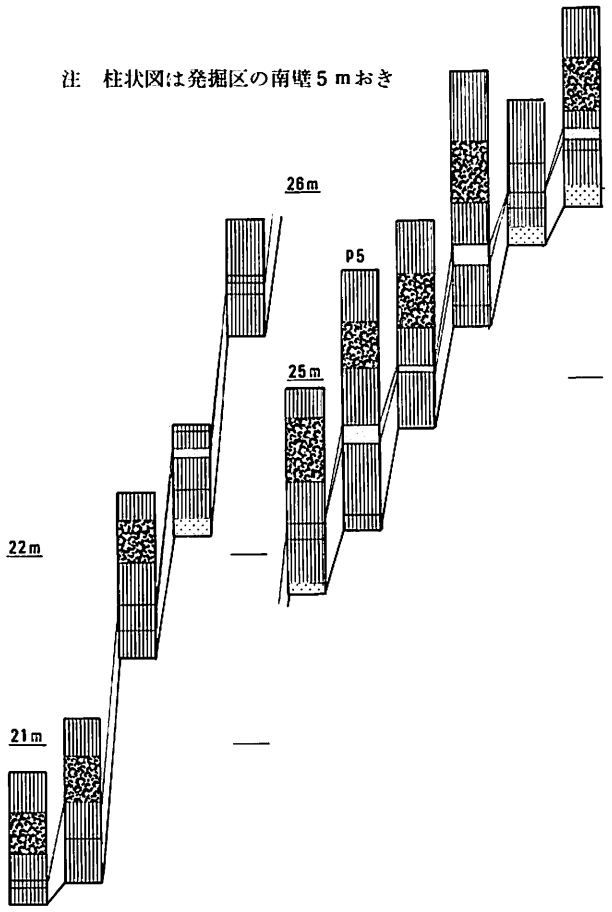
Ⅵ　D地点の遺構？と遺物

1　遺構？の分布

D地点は施工範囲の関係から二つの地区に分かれている。M・N－1～3区は北に面した急斜面上にある。この地区のほぼ中央が沢状に凹んでいる。西側の尾根状の斜面から焼土が1個検出された。遺物は頁岩のフレイクが1点のみである。

O・P－3～8区は、さきの地区の東側で、沢の出口にある台地状のところに位置している。

N・O－7区から土壙様のものが2個見つかったが、調査の結果、自然の営力によるものであることが判明した。土器片の集中が数か所で確認された。



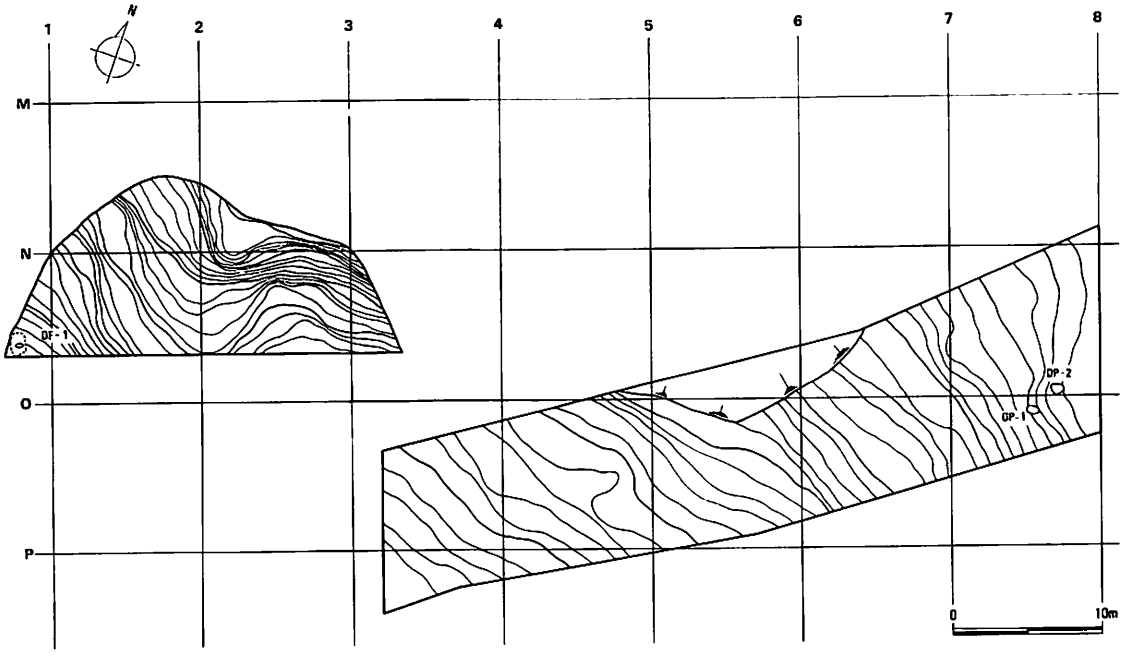


図165　D地点の遺構？分布と土層柱状図

2　遺構（？）

P－1

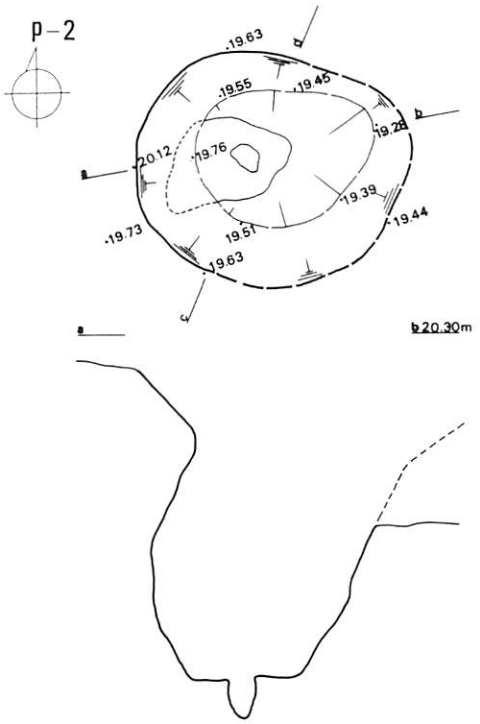
O７d区にある。平面形は長径0.90m、短径0.52mの長円形である。底は開口部よりも大きく、断面はオーバーハングしている。内部に空洞があった。出土遺物はない。

小括　形状、堆積物からみて、人為的なものではなく、地すべりまたは地下水の作用による穴と思われる。

P－2

N７c区にある。平面形は長径推定1.44m、短径1.20mのややいびつな円形である。西壁はオーバーハングする。底面には、小さな孔がある。遺物はない。

小括　P－1同様、自然の営力による穴と思われる。



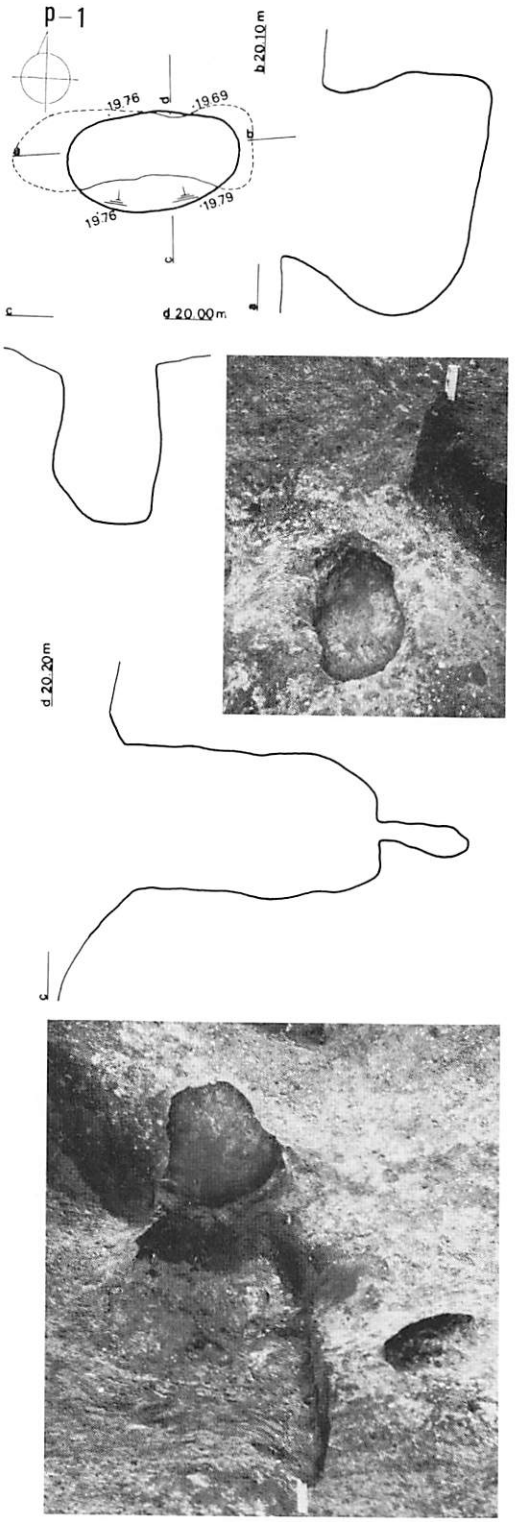


図166　P－1・2

3　遺物

(1)　土器群

Ⅰ群a－2類（図168－1～3）

1は無文の胴部破片。横位の調整痕がみられる。2・3は底部破片

Ⅰ群b－1類（図167～168－4～23）

4・5は同一個体。口縁部から胴部にかけて数段の短縄文が施され、下位には羽状縄文が施されている。6はゆるやかな波状口縁となる。口縁に平行して9本の組紐圧痕文が施されている。組紐圧痕文は縦位にも3本施され、組紐圧痕文の交点にはボタン状の貼付がある。また、組紐圧痕文間には短縄文が数段施され、下位は短縄文が施される。8～12は6と厚さ焼成など類似するが同一個体ではない。縄線文が数段施され、下位は短縄文が施される。8～12は隆帯のあるもの。8には数本の組紐圧痕文と縦位の縄線文が施されている。9・10は組紐圧痕文と短縄文のある例。11・12には組紐圧痕文がある。13は組紐圧痕文と縦位の縄線文のある例。14・16・17・19は組紐圧痕文と短縄文のある例。15は組紐圧痕文のある例。18はＬＲ斜縄文とループ状縄文の押圧のある例。20はＲＬ斜縄文のある例。21は縄線文と短縄文のある例。22は横位の絡条体圧痕文のある例。23は絡条体圧痕文とループ状縄文の押圧のある例。24～26は底部破片。24・25には組紐圧痕文、26はＬＲ斜縄文が施されている。

Ⅲ群a類（図169―27～33・36）

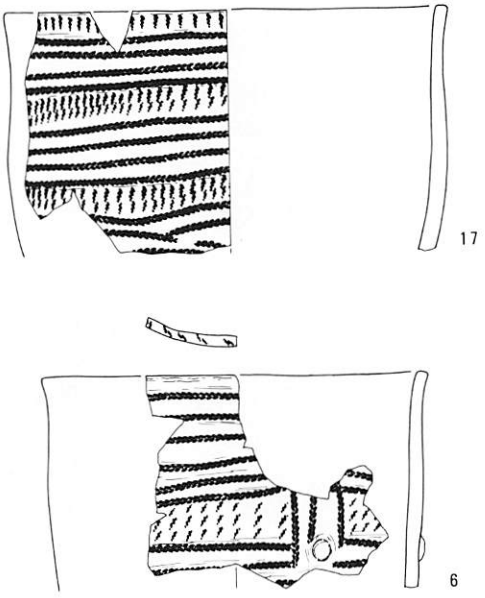
27～33は同一個体と思われる。図示していないが平底の底部破片も出土している。27・28は口縁部に近い破片で、肥厚帯がみられ、4本単位の撚糸文が横位・斜位に施されている。短縄文が肥厚帯および撚糸文の下位に施されている。29・31・32は隆帯のあるもの。29には短縄文がある。31～33は撚糸文と短縄文のある例。30はＲＬ・ＬＲ斜縄文による羽状縄文。36は土器の脚部の破片である。外径約8･5cm、脚部の幅1.5cm、厚さ1.2cmで、現存する高さは3.5cmである。

Ⅳ群c類（図169―34・35・37・38）

Ⅳ群c類は縄文時代後期の土器群のうち、縄文・いわゆる突こぶ文などの文様をもった土器群である。34は口縁部破片で、口縁に平行して刻目が施され、下位は無文。35も同じである。37には口縁に平行して内→外の突こぶ文が施され、地文はＬＲ斜縄文。38の地文はＲＬ斜縄文。

Ⅵ群（図169―39）

Ⅵ群は続縄文時代の土器群である。39は口縁に平行する沈線と刻目および縞縄文が施されている。



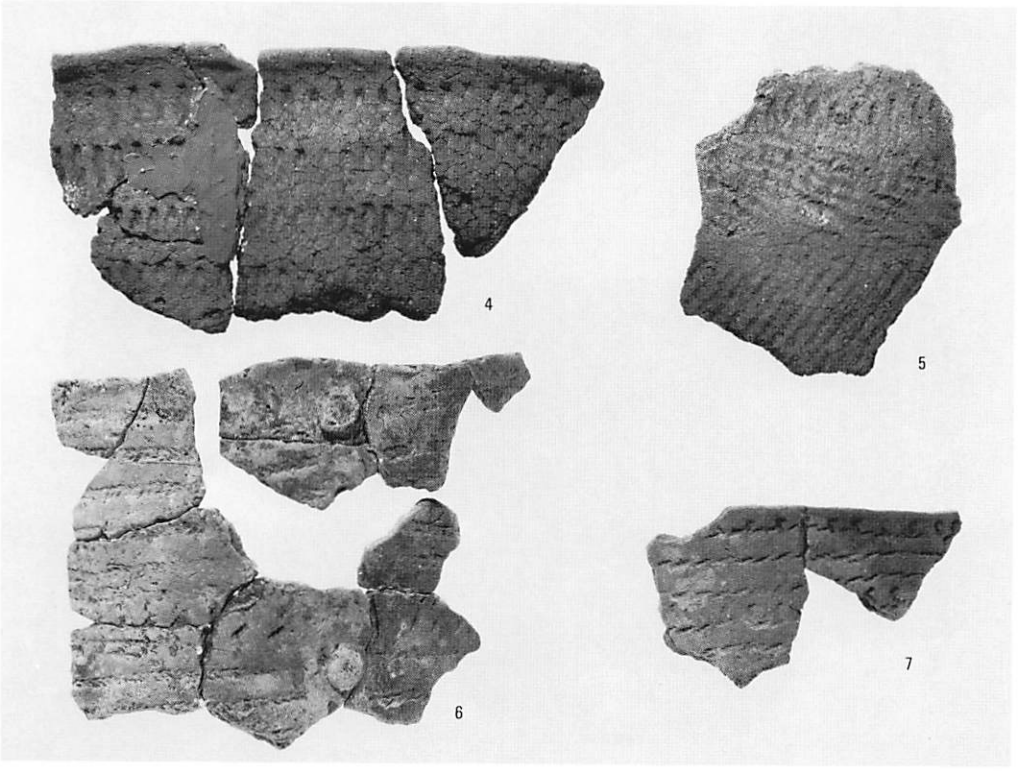


図167　D地点出土の土器群（Ⅰ群b類）

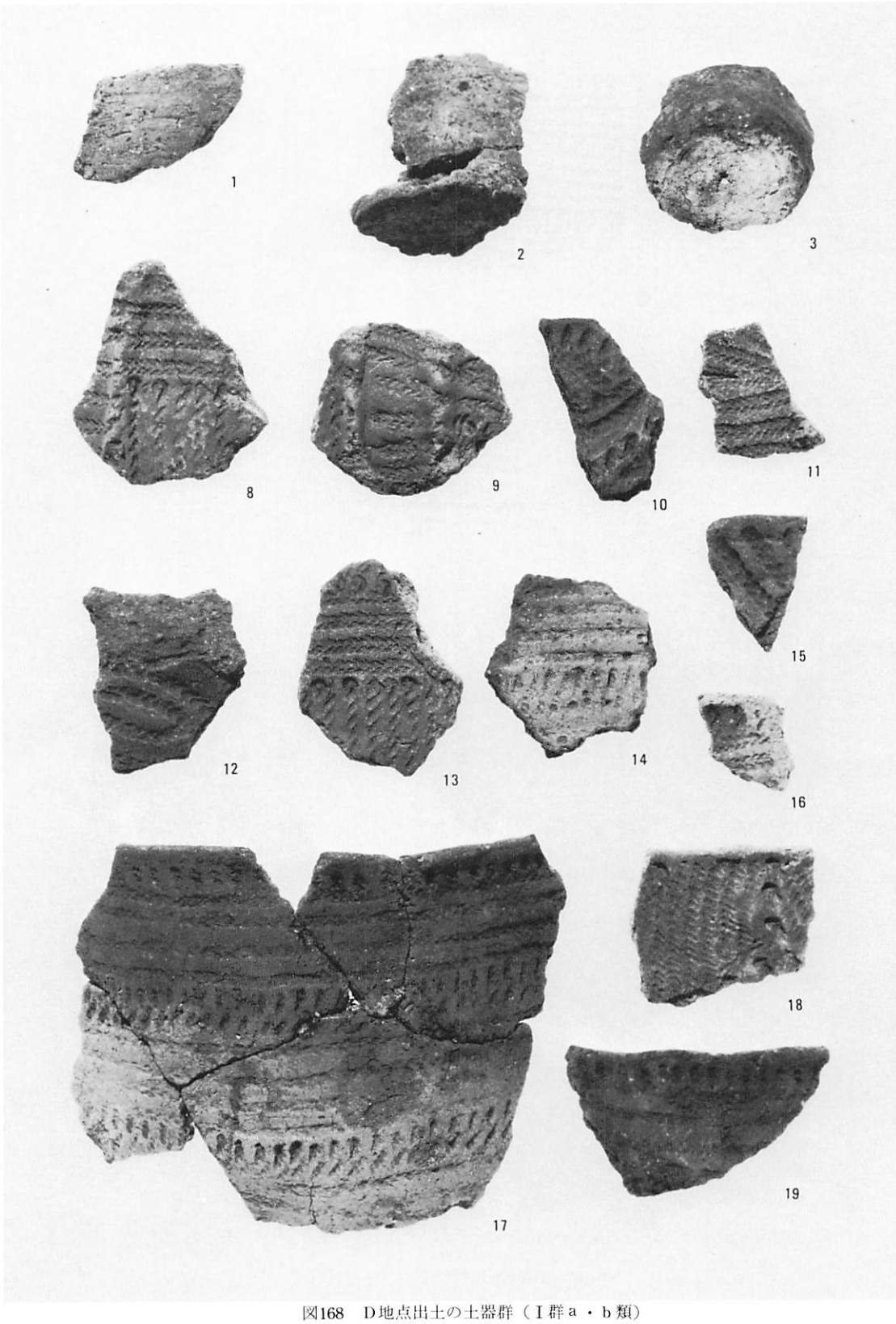


図168　D地点出土の土器群（Ⅰ群a・b類）

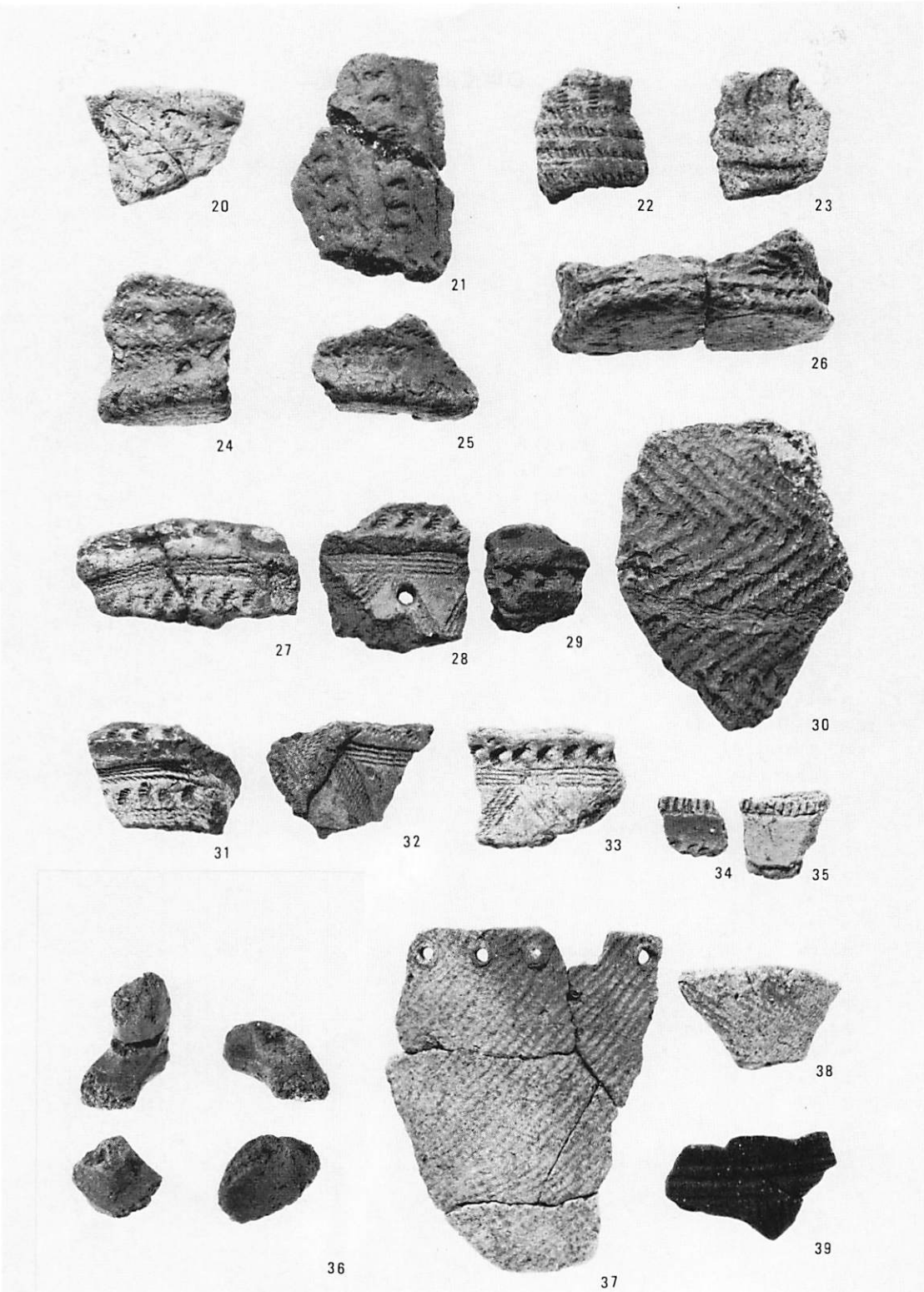


図169　D地点出土の土器群（Ⅰ群・Ⅲ群・Ⅳ群・Ⅵ群）

表9　D地点出土土器一覧

図番号	分類	部位	口縁・唇・底部形状	外面文様	口縁部文様	口頸部文様	内面文様	底部文様	炭化物	器厚(mm)	発掘区	層位
1	Ⅰa2	胴		1c						8	O5b	Ⅴ
2	Ⅰa2	底	X1a	0						8	P3d	Ⅶ
3	Ⅰa2	底	X2a	0						5	P3d	Ⅶ
4	Ⅰb1	口	Ⅰ3・a	8e						7	N6c	Ⅴ
5	Ⅰb1	胴		8e・7e						8	N6c	Ⅴ
6	Ⅰb1	口	Ⅱ3・f	6d・8c・8e		7g				5	P3a	Ⅴ
7	Ⅰb1	口	Ⅰ3・f	8d・8e						5	O4b	Ⅴ~Ⅵ
8	Ⅰb1	胴		6a・8c・8d						7	O4c	Ⅵ~Ⅶ
9	Ⅰb1	胴		6a・8e・8c						6	O4c	Ⅵ~Ⅶ
10	Ⅰb1	口	Ⅰ1・f	6a・8e・8c						7	O5c	Ⅴ~Ⅵ
11	Ⅰb1	胴		6a?・8c						7	O4c	Ⅵ~Ⅶ
12	Ⅰb1	胴		6a?・8c						5	O5c	Ⅴ~Ⅵ
13	Ⅰb1	胴		8c・8d						8	O4c	Ⅴ~Ⅶ
14	Ⅰb1	胴		8c・8e					b2	7	O4c	Ⅴ~Ⅶ
15	Ⅰb1	口	Ⅰ3・f	8c						6	O5c	Ⅴ~Ⅵ
16	Ⅰb1	口	Ⅰ3・f	8c・8e						5	O5b	Ⅴ
17	Ⅰb1	口	Ⅰ3・f	8c・8e					a1·b1·2	7	O4b	Ⅶ
18	Ⅰb1	口	Ⅰ1・f	7c・8f			7d		a1·b1·2	7	O4c	Ⅵ~Ⅶ
19	Ⅰb1	口	Ⅰ1・e	8c・8e						6	O4b	Ⅶ
20	Ⅰb1	口	Ⅰ3・f	7d						7	O5b	Ⅴ
21	Ⅰb1	胴		8d・8e						6	O4b	Ⅵ~Ⅶ
22	Ⅰb1	口	Ⅰ1・a	8a		8e				6	O5b	Ⅶ
23	Ⅰb1	胴		8a・8f						7	O5b	Ⅶ
24	Ⅰb1	底	X4a	8c						8	O4c	Ⅵ~Ⅶ
25	Ⅰb1	底	X4a	8c						8	O4c	Ⅵ~Ⅶ
26	Ⅰb1	底	X4a	7c						6	O3c	Ⅴ
27	Ⅲa	口?			6c・7g・8e					6	O6d	Ⅴ
28	Ⅲa	口?			6c・7g・8e					6	O6d	Ⅴ
29	Ⅲa	胴		6a・8e						6	O6d	Ⅴ
30	Ⅲa	胴		7f						6	O6d	Ⅴ
31	Ⅲa	胴		6a・8c・8e						6	O6d	Ⅴ
32	Ⅲa	胴		6a・8c・8e							O6d	Ⅴ
33	Ⅲa	胴		8c・8e						6	O6d	Ⅴ
34	Ⅳc	口	Ⅰ3・d	0		2d				5	O6d	Ⅴ
35	Ⅳc	胴		0・2d						6	N7b	Ⅴ
36	Ⅲa?	脚		0						9	O6d	Ⅴ
37	Ⅳc	口	Ⅰ3・e	5g・7c			2a			8	L7b	Ⅴ
38	Ⅳc	口	Ⅰ3・a	7d						5	L7b	Ⅴ
39	Ⅵ	口	Ⅰ3・e	2a・2d・7k						5	O5b	Ⅴ

(2)　石器群

D地点から出土した石器・フレイク・石核・礫の総数は557点である。そのうち礫は海岸から持ち込まれたものである。石器の器種には石鏃・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・すり石がある。

石鏃（図170・171—1～8）

1～4・6は茎のある鏃。1・6は小さな鏃で、かえし部が明瞭である。4は基部である。5はやや胴張りの三角形鏃で、茎部は平坦である。7は細身で薄く作り出されている。8は茎が明瞭でない柳葉形の鏃である。石質は頁岩の5以外は黒曜石。

石槍（図170・171—9）

かえし部は明瞭でない。断面は全体が丸味をもっている。頁岩製。

つまみ付きナイフ（図170・171—12～17）

10・12～13・15・16の表面には入念な二次加工が施され、裏面の一側縁にも細かな加工が加えられたものである。11はつまみ付きナイフかどうか判断が難しい。スクレイパーとすべきかもしれない。14はつまみというよりは柄が作り出されたもので、両側縁に二次加工が施されている。時代の降るものであろう。15は幅広で柳葉形の両面加工のナイフである。石質は11・14が黒曜石、ほかすべて頁岩である。

スクレイパー（図170・171—18）

断面三角形に作られており、表面左側に細かな加工がある。石質は黒曜石。

石斧（図176・171—19～22）

19は小型の扁平な両刃の石斧。20は板状の礫を素材とし狭長に作り出されたもので、側縁には調整による敲打痕が残っている。刃部は研磨されている。21は全面研磨された両刃の石斧である。22は擦り切りの溝を残している。

すり石（図170・171—23～25）

23・24は礫の側縁に擦面をもつもので、23の断面は三角形である。25は敲打調整され握部をもつすり石で、擦面の側縁には敲打痕がある。

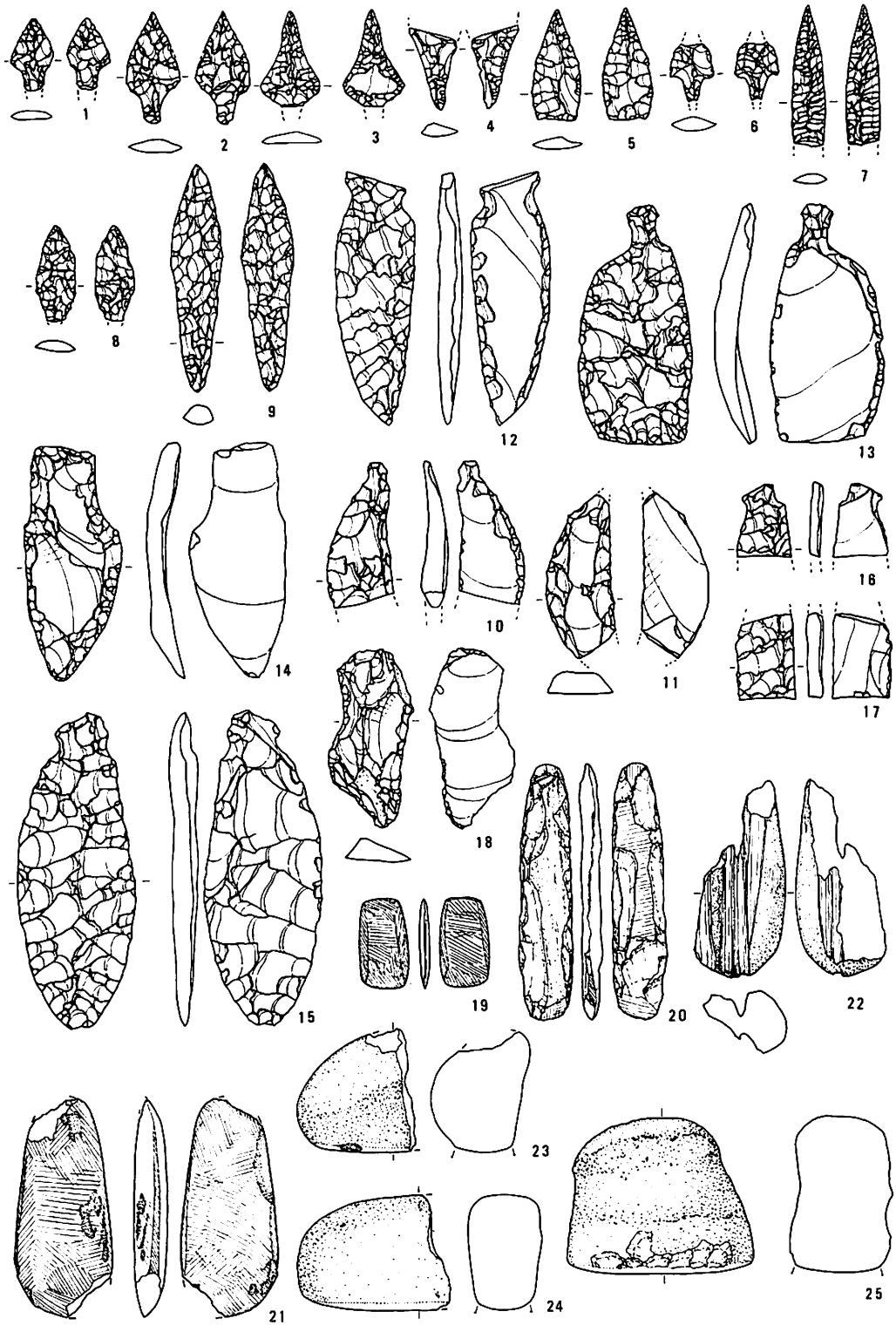


図170　D地点出土の石器群

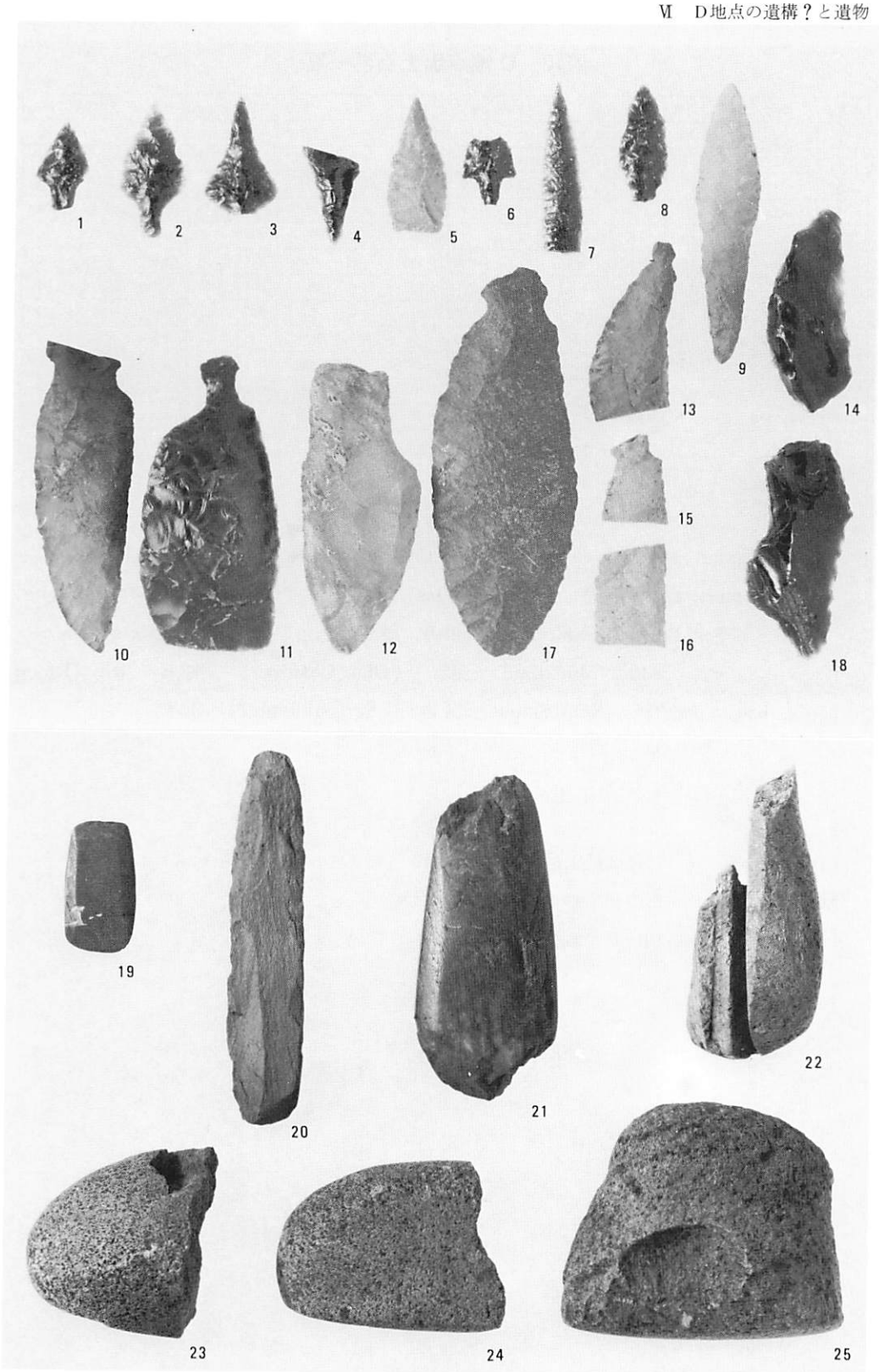


図171　D地点出土の石器群

表10　D地点出土石器一覧

図番号	器　種	分類	重量(g)	材　質	発掘区	層位	図番号	器　種	分類	重量(g)	材　質	発掘区	層位
1	石　鏃	IA5	(0.8)	Obs.	O3c	V	14	つまみ付きナイフ	IIIA2	(7.7)	Obs.	O3c	V
2	石　鏃	IA5	1.4	Obs.	O6d	V	15	つまみ付きナイフ	IIIA3	(1.3)	Ha-Sh.	P3a	V
3	石　鏃	IA5	(1.3)	Obs.	P4a	V	16	つまみ付きナイフ	IIIA1	(3.0)	Ha-Sh.	O4c	VII
4	石　鏃	IA5	(0.9)	Obs.	O5c	V	17	つまみ付きナイフ	IIIA1	25	Ha-Sh.	O4c	VII
5	石　鏃	IA3	1.6	Ha-Sh.	N7b	V	18	スクレイパー	IIIB	9.4	Obs.	O6d	V
6	石　鏃	IA5	(0.8)	Obs.	O4c	VI~VII	19	石　斧	IVA	13.8	Rhv.	O4c	VII
7	石　鏃	IA2	(1.2)	Obs.	O4d	V	20	石　斧	IVA	75	Sch.	O3c	V
8	石　鏃	IA4	(1.0)	Obs.	O4c	VI~VII	21	石　斧	IVA	225	Rhv.	O4c	VII
9	石　槍	IB2	8.5	Ha-Sh.	O4c	VI~VII	22	擦り切り残片		195	Rhv.	O5c	V
10	つまみ付きナイフ	IIIA1	12.3	Ha-Sh.	O3c	VII	23	す　り　石	IVA	(435)	And.	O4b	V
11	つまみ付きナイフ	IIIA1	17.1	Obs.	O4c	VI~VII	24	す　り　石	VIA	465	And.	O4b	V
12	つまみ付きナイフ	IIIA1	14.8	Ha-Sh.	O3c	V	25	す　り　石	VIA	960	And.	P4d	V
13	つまみ付きナイフ	IIIA1	(6.0)	Ha-Sh.	N7b	V							

石質略号　Aga.(Agate)：めのう　Aga-Sh.(Agated Shale)：めのう質頁岩　And.(Andesite)：安山岩　Gne.(Gneiss)：片麻岩　Gr-Mud.(Green Mudstone)：緑色泥岩　Ha-Sh.(Hard Shale)：硬質頁岩　Hornf.(Hornfels)：ホルンフェルス　Mud.(Mudstone)：泥岩　Obs.(Obsidian)：黒曜石　Rhy.(Rhyolite)：流紋岩　Sch.(Schist)：片岩　Sa.(Sandstone)：砂岩

計測値　mm　(　)付は破損品で現存値

分類記号　当センターの従来の分類に準拠

注　A地点の出土層位は旧層位である。

Ⅶ まとめ

縄文時代早期東釧路Ⅲ式土器

Ⅶ まとめ

1 土器群

(1) 土器分類の基準

a 形態の分類（図172）

口縁部形状は6つに分類した。Ⅰ：平縁 Ⅱ：大波状縁 Ⅲ：小波状縁 Ⅳ：大突起縁 Ⅴ：小突起縁 Ⅵ：上面観が方形の口縁

口縁部断面形状は3つに分類した。1：直状のもの 2：内彎するもの 3：外反するもの

口唇断面形状は7つに分類した。a：丸頭のもの b：平頭のもの c：尖頭のもの d：外側に傾斜するもの e：内側に傾斜するもの f：外側にめくれるもの g：内側にめくれるもの

底部断面の形状は5つに分類した。X1：断面が平底で張り出さないもの X2：平底で丸味をもつもの X3：平底で若干張り出すもの X4：平底で強く張り出すもの X5：尖底のもの さらに平底の底部を、a：平らなもの b：丸味をもつもの c：揚底のものに分けた。

そのほか、炭化物の付着状態を、a1：外面上部 a2：外面中部 a3：外側下部 b1：内面上部 b2：内面中部 b3：内面下部に分けた。

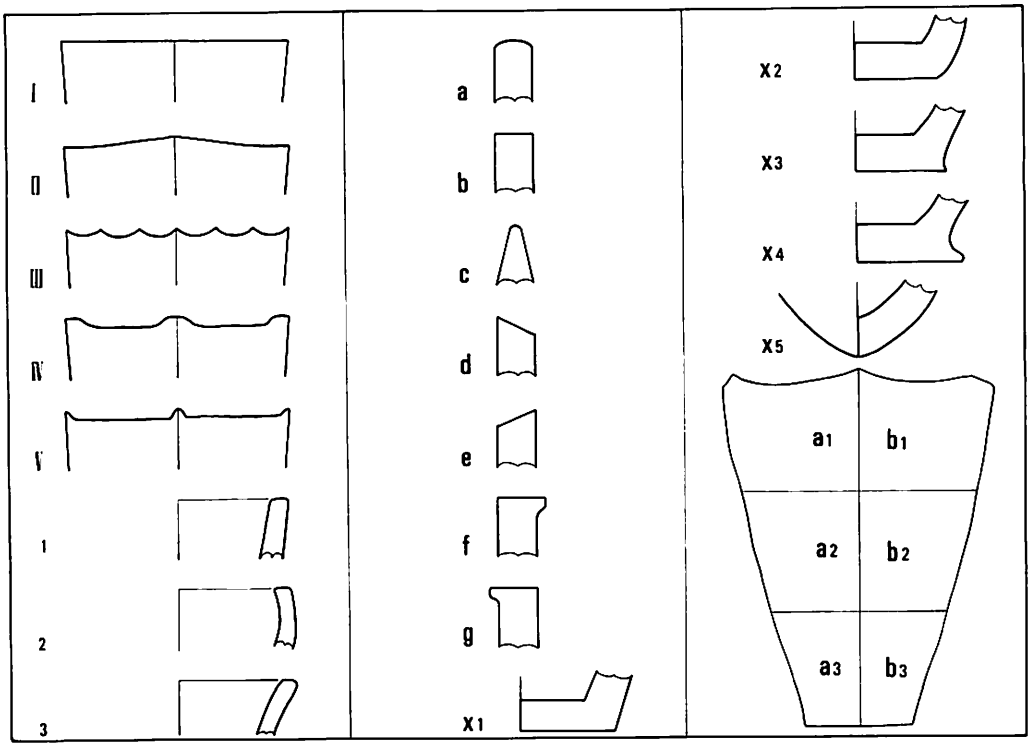
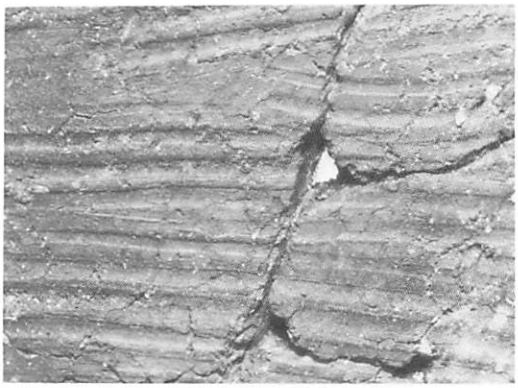
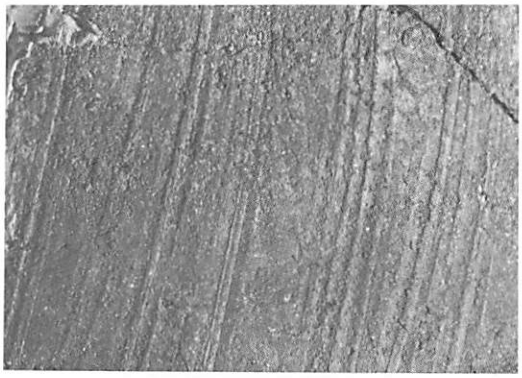


図172 土器形態の分類



貝殻条痕文(1a)

貝殻条痕文(1a)



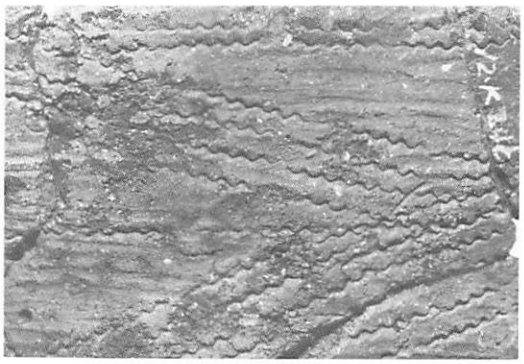
条痕文(1b)

沈線文(2a)

沈線文(2c)

沈線文(2c)

沈線文(2c)

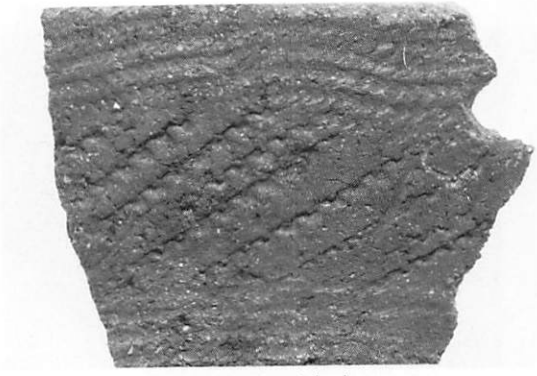


貝殻腹縁文(3a)

図173　土器の文様要素

貝殻腹縁文(3b)

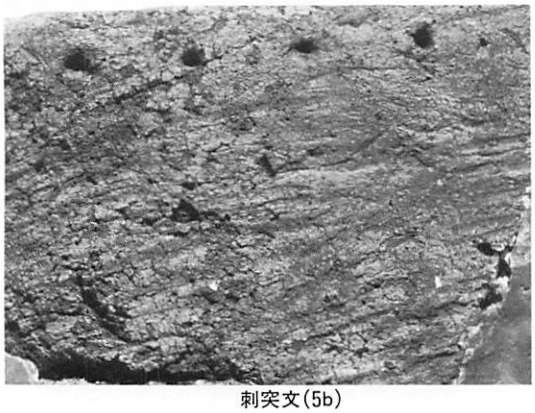
貝殻腹縁文(3c)



貝殻押し引き文(4a)

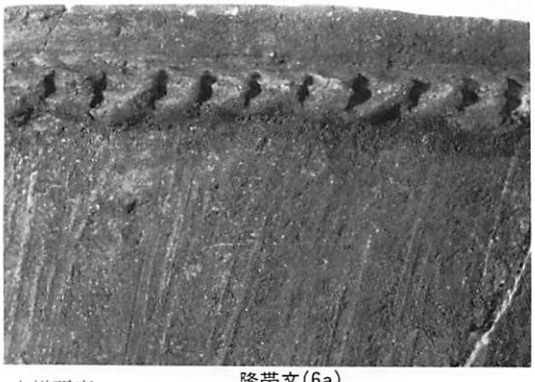
貝殻押し引き文(4b)

刺突文(5a)



刺突文(5b)

刺突文(5c)



隆帯文(6a)

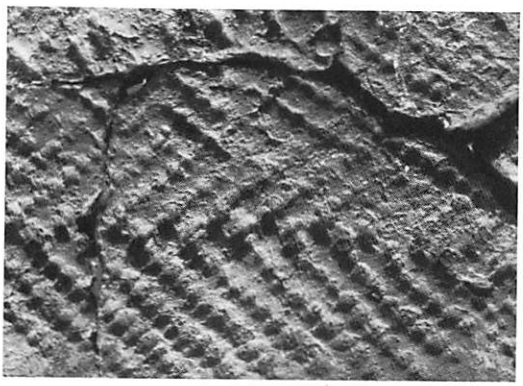
図174　土器の文様要素

貝殻条痕文(1a)

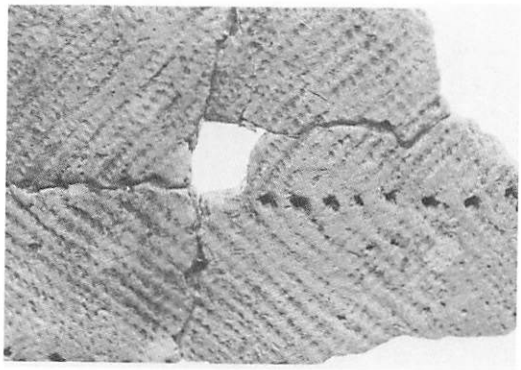
円孔文(5f)

隆線文(6b)

ＲＬ斜縄文(7d)



羽状縄文(7h)

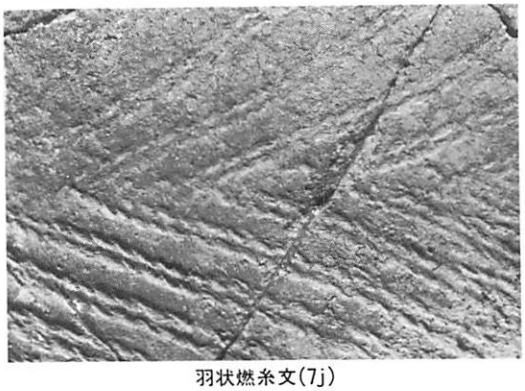


羽状縄文(7h)

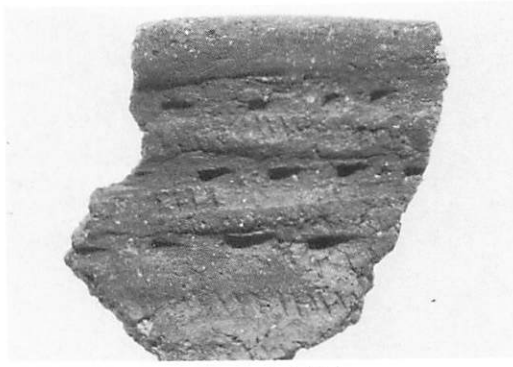
結束第１種(7i)

縄線文(8d)

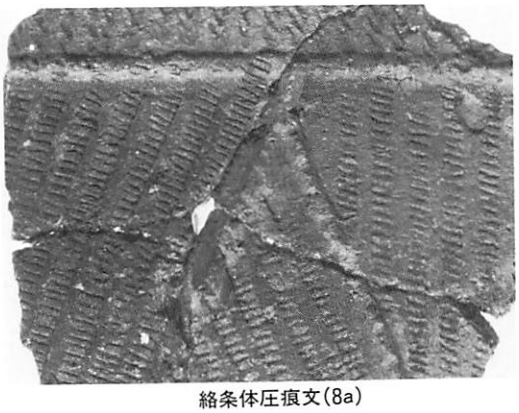
図175　土器の文様要素



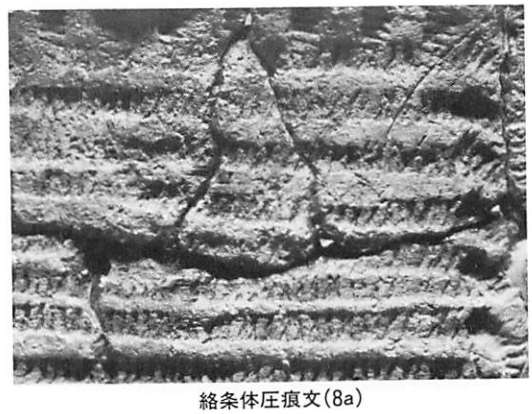
羽状燃糸文(7j)



絡条体圧痕文(8a)

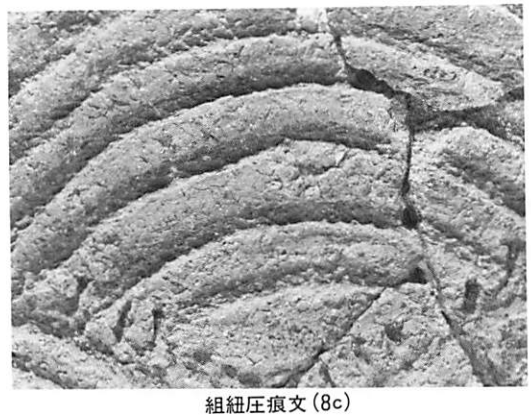


絡条体圧痕文(8a)



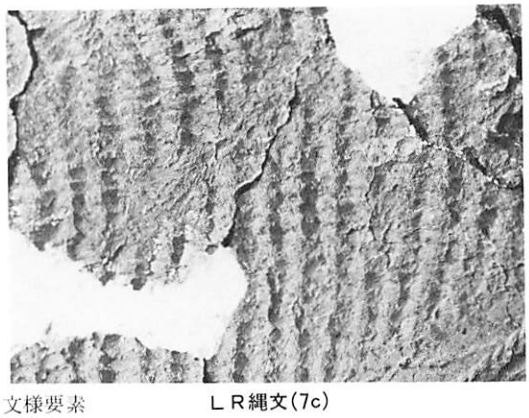
絡条体圧痕文(8a)

絡条体圧痕文(8a)



組紐圧痕文(8c)

短縄文(8e)



ＬＲ縄文(7c)

図176　土器の文様要素

b　文様の分類（図173～176）

0：無文のもの

1：条痕・擦痕のもの　a：貝殻条痕文　b：条痕文　c：擦痕。

2：沈線のもの　a：沈線文　b：沈線内に刺突のあるもの　c：細い沈線文　d：刻目状の沈線文

3：貝殻腹縁文のもの　a：腹縁文の明瞭なもの　b：腹縁文が破線状になるもの　c：腹縁文が点線状になるもの

4：貝殻押し引き文の施されたもの　a：明らかに押し引き文となるもの　b：腹縁の痕を残しながら押し引きされたもの

5：刺突文のあるもの　a：長円形の刺突文　b：円形の刺突文　c：爪形の刺突文　d：半截竹管による刺突文　e：指頭による押圧　f：円孔文　g：へら状工具による刺突文　h：突こぶ文

6：貼付のあるもの　a：隆帯文　b：隆線文　c：肥厚帯　d：ボタン状の貼付文

7：回転縄文によるもの　a：R斜縄文　b：L斜縄文　c：LR斜縄文　d：RL斜縄文　e：LRないしRL斜縄文による羽状縄文　f：RL＋LR斜縄文による羽状縄文　g：撚糸文　h：結束第1種　i：結束第2種　j：羽状撚糸文　k：縞縄文

8：押圧縄文によるもの　a：単軸絡条体圧痕文　b：多軸絡条体圧痕文　c：組紐圧痕文　d：縄線文　e：短縄文　f：ループ状縄文。

(2) 土器の時期別分布（図177～図182）

A地点の主体となる土器群はⅠ群土器である。なかでもⅠ群b－1類の出土量が多く、発掘地区中央の高まりにある遺構をとり囲むように分布する。時期別の偏在性はとくにみられない。

B地点はⅣ群土器が主体を占め、その時期の遺構周辺に分布する傾向がある。Ⅰ群土器は、斜面から平坦面にかわるところから多く出土し、なかでもⅠ群b－2類土器がまとまって出土する例が多い。この地点からはⅠ群a－3類土器は出土していない。

C地点にはⅠ群a－2類が圧倒的に多く、全体の出土量が少ないことにもかかわらず復元された個体が多い。西側の地点からは、土器はほとんど出土していない。

D地点はⅠ群b－1類が主体を占める。

図177　A～D地点の土器分布

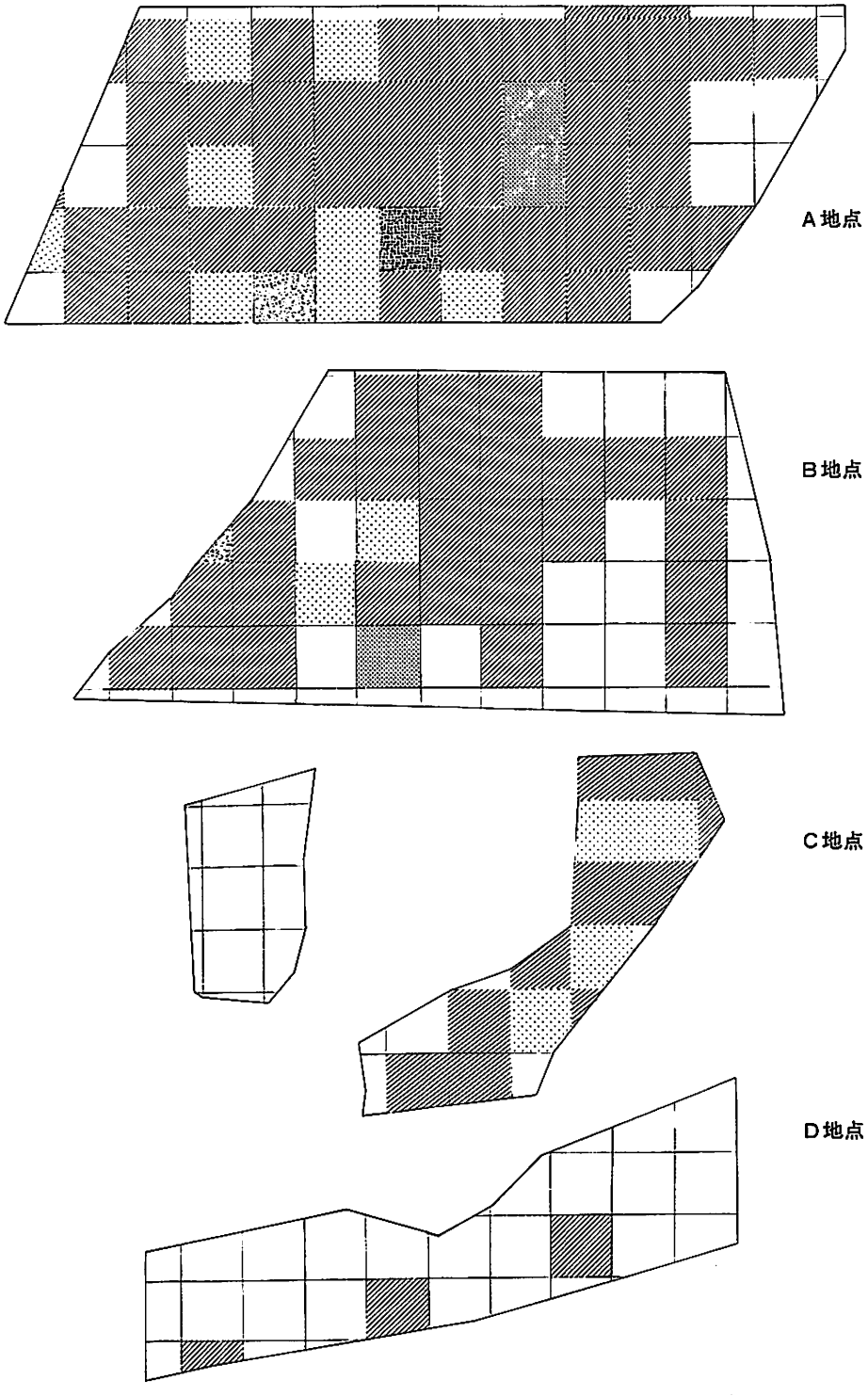


図178　Ⅰ群a類土器分布

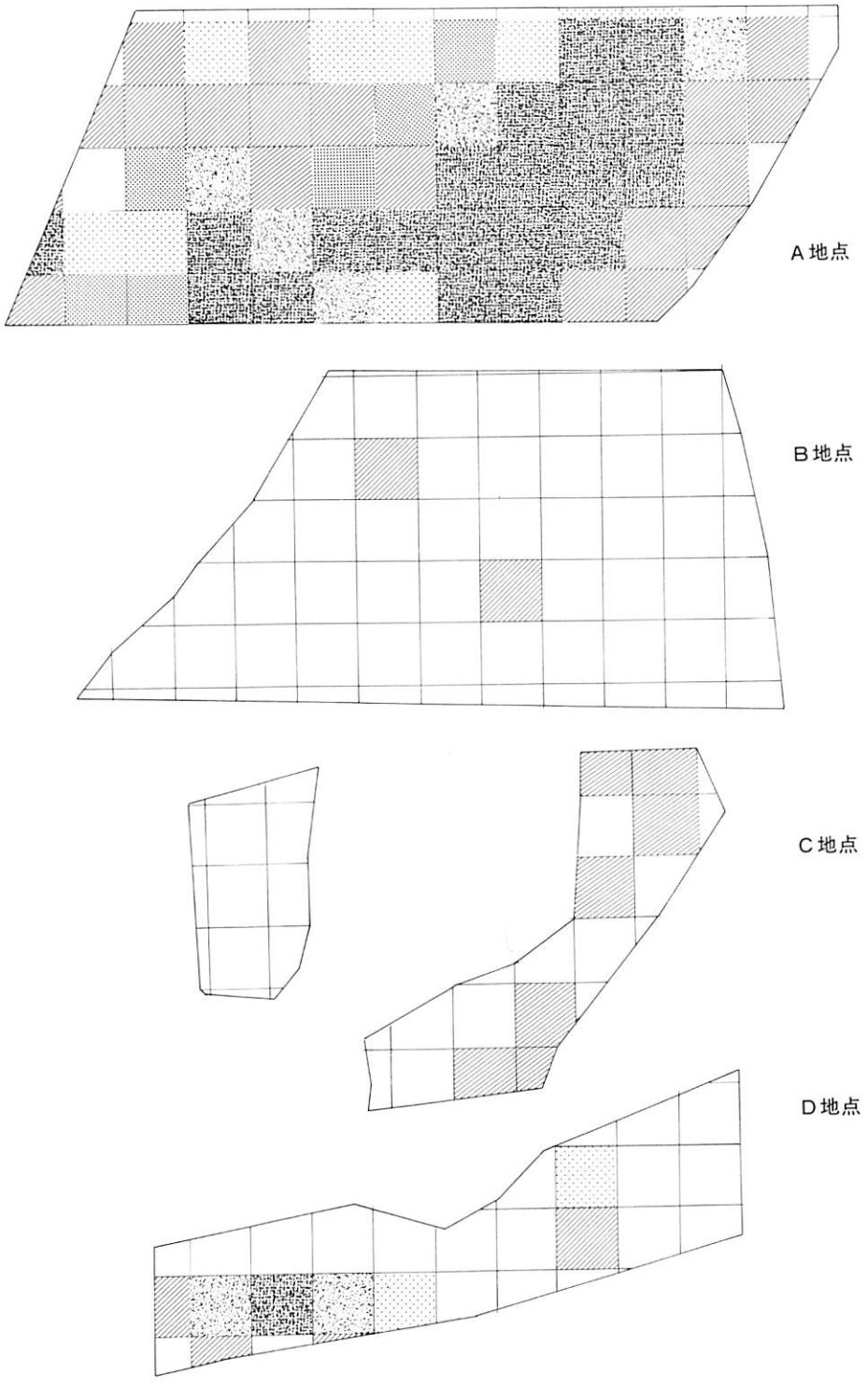


図179　Ⅰ群b－1類土器の分布

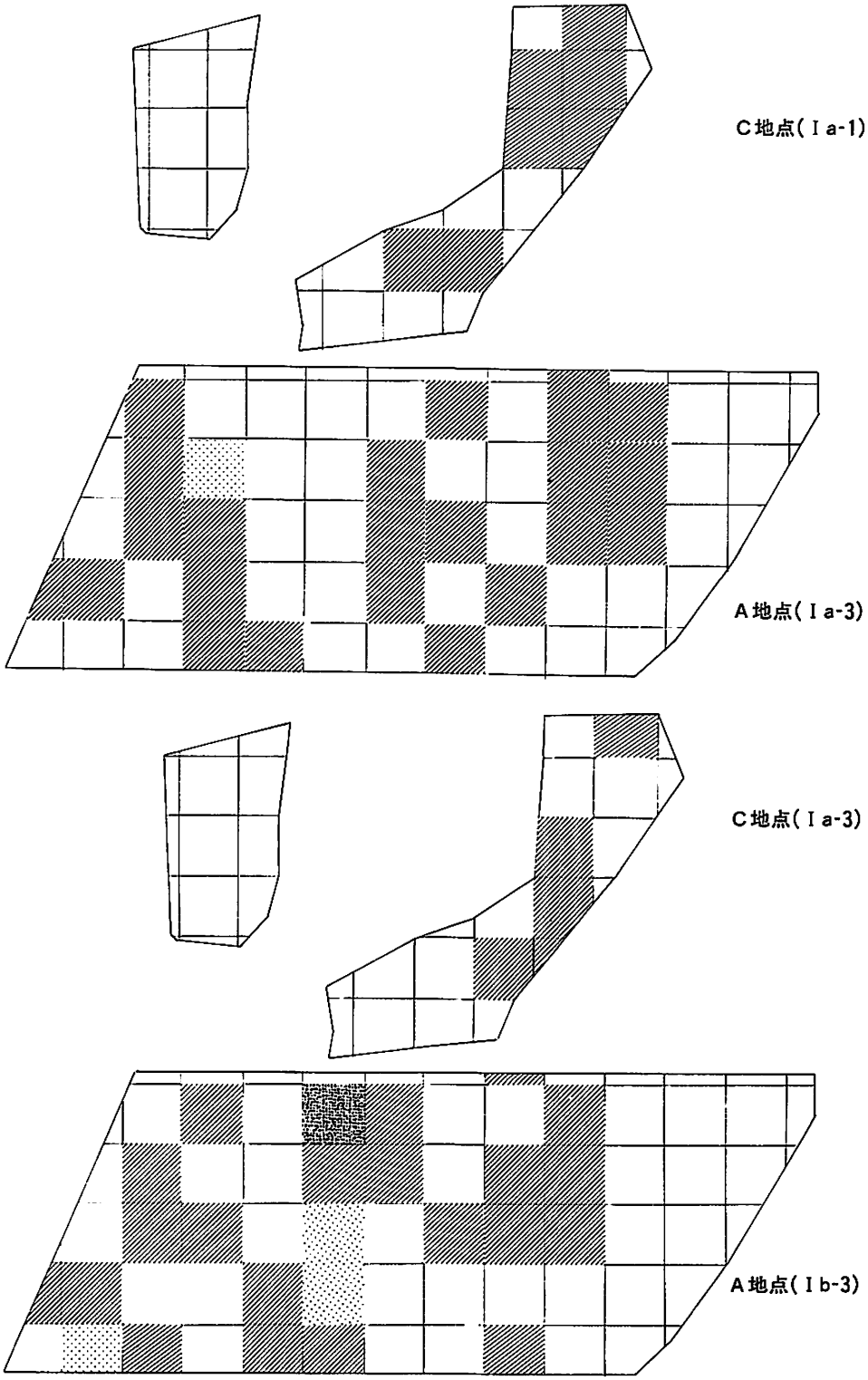


図180　Ⅰ群a—1・3類，Ⅰ群b—3類土器の分布

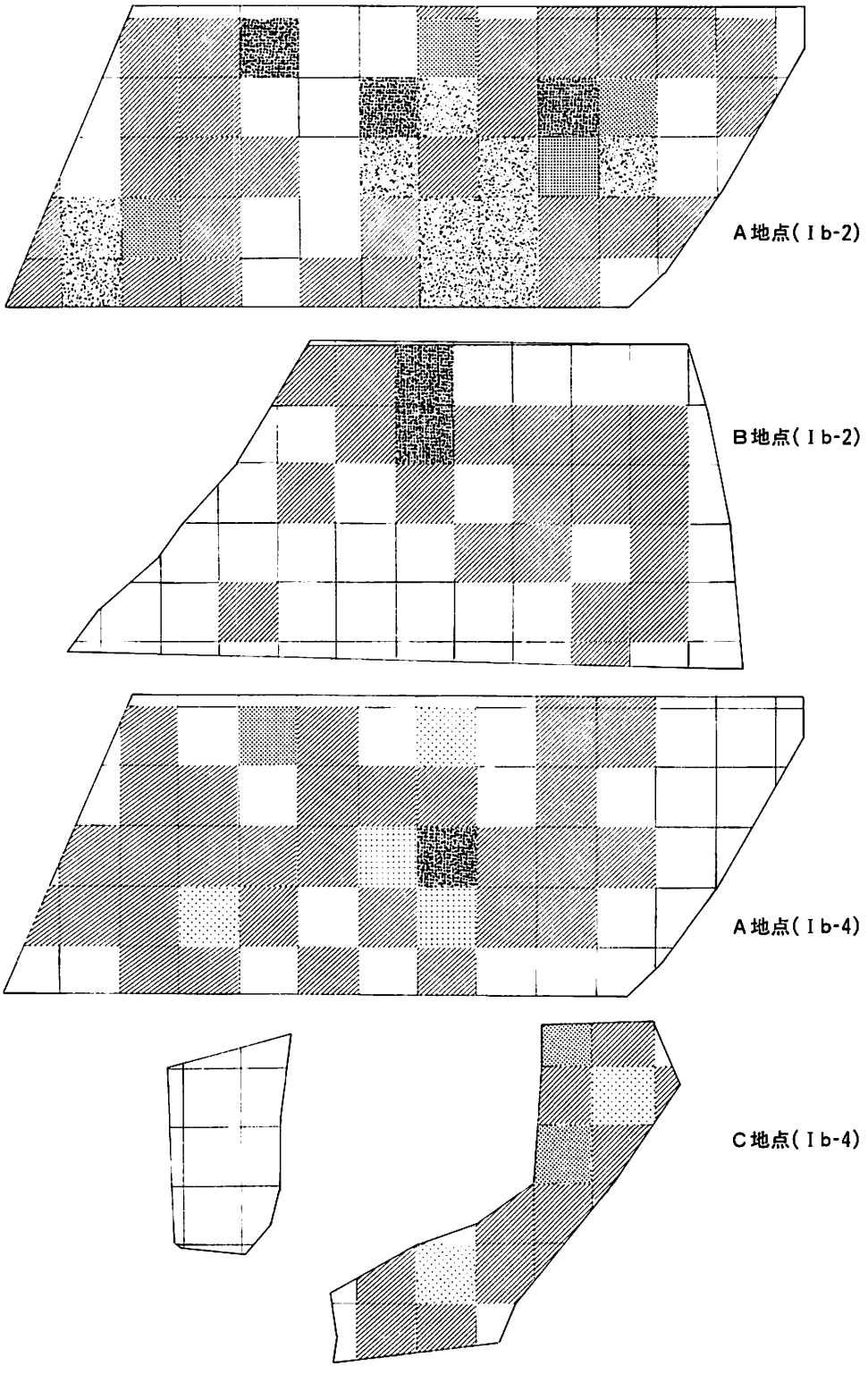


図181　Ⅰ群b－2・4類土器の分布

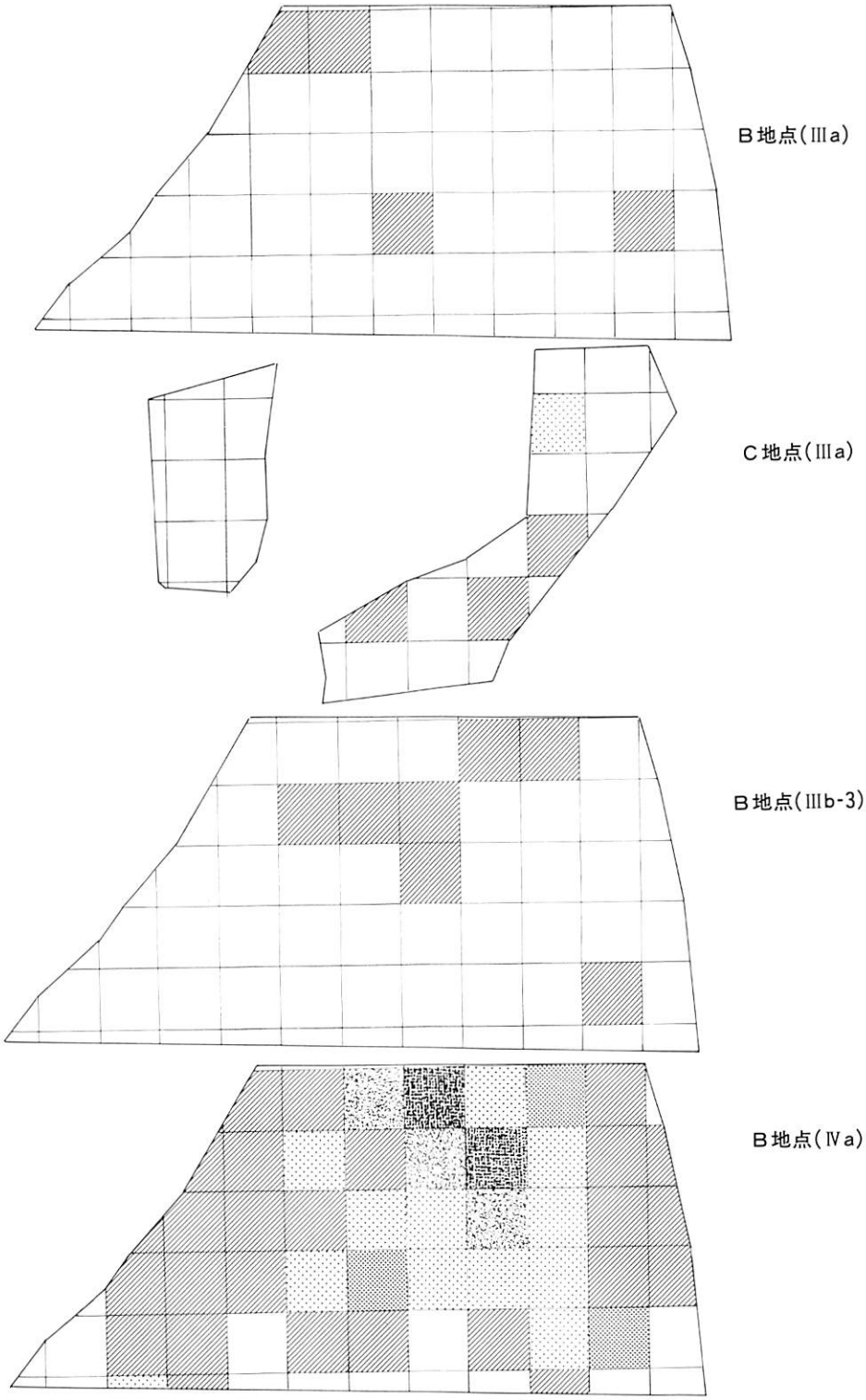


図182　Ⅲ群a・b－3類，Ⅳ群a類土器の分布

(3) 土器群の型式対比

これまで記載してきた土器の分類記号は、当センターの分類規準によるものである。出土した土器群は、縄文時代早期のⅠ群a類、Ⅰ群b－1～4類、前期のⅡ群a類、中期のⅢ群a類、Ⅲ群b－3類、後期のⅣ群a～c類、続縄文時代のⅥ群である。今回は、新たに本遺跡の土器を基に、Ⅰ群a類を細分し、a－1～3類とした。

Ⅰ群a－1類　C地点から出土した無文または沈線文をもつ土器群で稀に繊維を含むものもある。いわゆる暁式土器群(佐藤、1981)に類似するが、僅少量であるため詳細は不明である。今後、道央部において留意しなければならない土器群であろう。

Ⅰ群a－2類　A～C地点において出土した土器群で文様は貝殻条痕文・貝殻腹縁文・沈線文・円形刺突文などバリエーションに富む。こうした文様構成をもつ土器群は、従来この地域では「虎杖浜式土器」（大場ほか、1962）と呼ばれている。しかし、本遺跡における土器群を「虎杖浜式土器」に帰属せしめるには、あまりにも多様性に富み、型式論的に多くの問題が生じよう。これまで「虎杖浜式土器」と呼ばれてきたのは貝殻腹縁文、沈線文など極めて限定された特徴についての理解であって、今後は本遺跡の土器群に基づいて「虎杖浜式土器」の概念を拡大するなり、新たに型式を設定することによって、道央部の縄文時代早期前半の編年を整理する必要があろう。

Ⅰ群a－3類　A地点から多くの土器群が出土した。これまで、この土器群は「上坂式土器」（名取・峰山、1958）「アルトリ式土器」（竹田、1959、吉崎、1965）に漠然と対比され、理解されてきた。本遺跡の土器群は、かなりまとまった資料であり、上坂・アルトリ式土器を再検討する良好な基礎資料となるであろう。

Ⅰ群b－1類　東釧路Ⅲ式土器に相当するもの

Ⅰ群b－2類　仮称コッタロ式土器に相当するもの

Ⅰ群b－3類　中茶路式土器に相当するもの。

Ⅰ群b－4類　東釧路Ⅳ式土器に相当するもの

Ⅱ群a類　縄文尖底土器群

Ⅲ群a類　円筒土器上層式土器に相当するもの

Ⅲ群b－3類　トコロ6類土器に相当するもの

Ⅳ群a類　余市式土器に相当するもの

Ⅳ群b類　手稲式・ホッケマ式土器に相当するもの

Ⅳ群c類　堂林式土器に相当するもの。

Ⅵ群　続縄文時代の土器

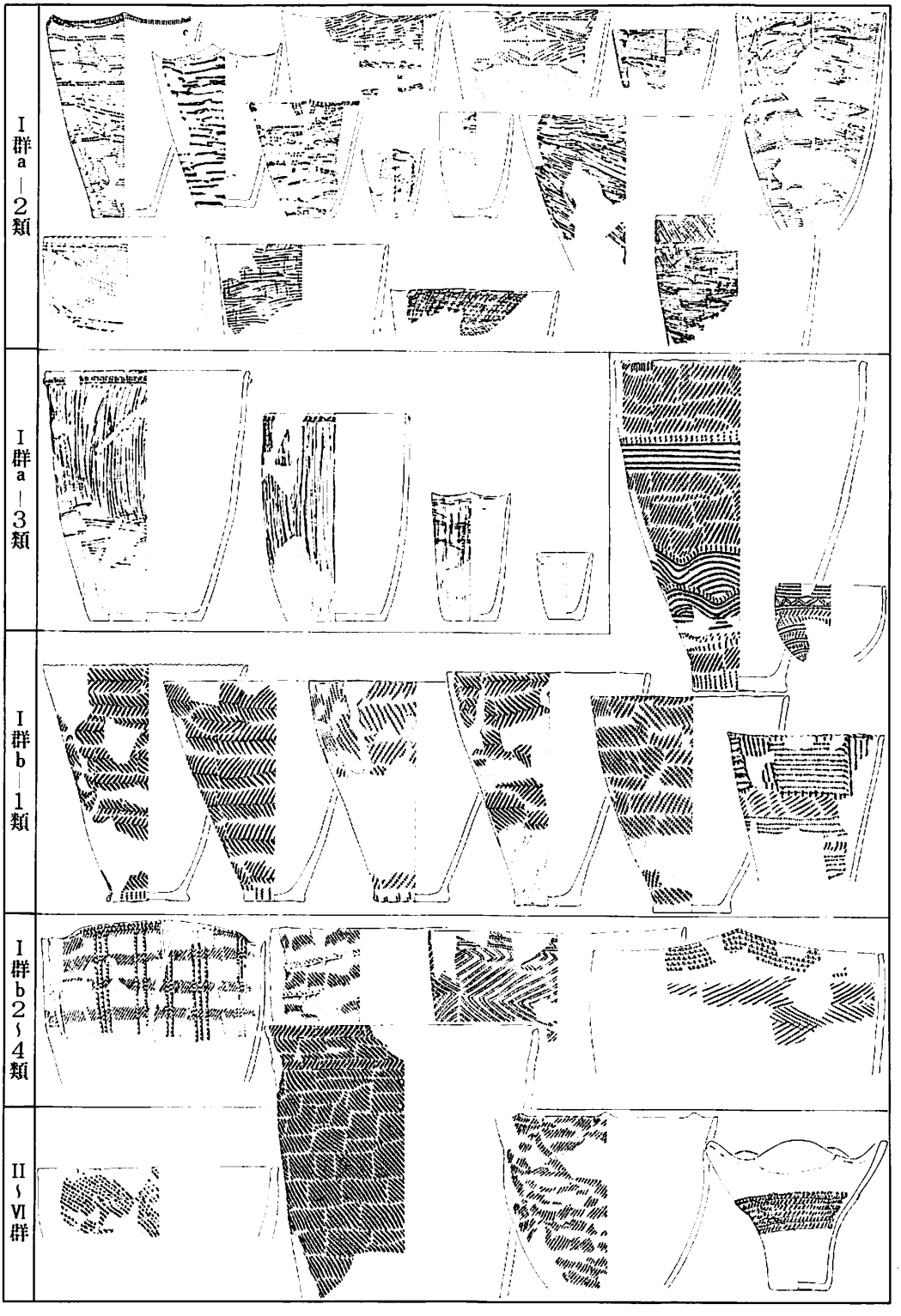


図183　土器群の分類

2 石器群

(1) 石器分類基準

虎杖浜3遺跡から出土した石器群は、石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・たたき石・すり石・石皿・砥石・石錘・石核・加工痕のあるフレイクがある。これらの石器群は、さきに触れた土器群のいずれかに伴出するものであろうが、一部の石器を除いて、その共伴関係を示す根拠に欠ける。ここでは、これまで触れてきた石器群の分類を、当センターの分類基準に基づいてまとめることにする。なお、分類の大別は従来の分類と一致するが、細別はその限りではない。

Ⅰ群　石鏃・石槍

ⅠA　石鏃　1：石刃鏃（未検出であるが石刃が出土している）　2：細身で薄いもの（Ⅰ群に多く伴う）　2a：柳葉形のもの　2b：五角形のもの　3：三角形のもの（茎部にえぐりのあるものも含む）　4：茎が明瞭でないもの　5：茎のあるもの　6：最大幅が尖頭部にあるもの　7：幅広で大形のもの（五角形のものもある。本遺跡ではⅠ群b－1類に伴う）

ⅠB　石槍　1：茎をもつもの　2：茎が明瞭でないもの　2a：幅広のもの　2b：細長いもの

Ⅱ群　穿孔具類

ⅡA　石錐　1：刺突部のみが作り出されたもの　2：棒状のもの　3：つまみ部が作り出されたもの

Ⅲ群　ナイフ・スクレイパー類

ⅢA　つまみ付きナイフ　1：二次加工が表面全体に施されるもの　2：二次加工が周辺に施されるもの　3：両面加工のもの

ⅢB　スクレイパー　とくに細分していない。エンド、サイド、ラウンドスクレイパーなどがある。

Ⅳ群　石斧類

ⅣA　石斧　とくに細分していない。本遺跡では擦り切り手法によるものが多く、その残片も多数出土している。側縁に敲打痕を残すもの、全面研磨のもの、刃部のみ研磨しているものなどがある。刃部は明瞭な片刃はなく、大半が両刃である。

Ⅴ群　たたき石類

ⅤA　たたき石　1：棒状の礫の一端もしくは両端に敲打痕のあるもの　2：扁平な礫の周縁に敲打痕のあるもの　3：扁平な礫の平坦な面に敲打痕のあるもの（一般にくぼみ石とされている）

Ⅵ群　すり石　石皿類

ⅥA　すり石　1：断面が隅丸三角形の礫の稜に擦面のあるもの（擦面は1か所にある場合が多いが、2、3か所に擦面をもつものもある）　2：扁平な礫の側縁を擦面

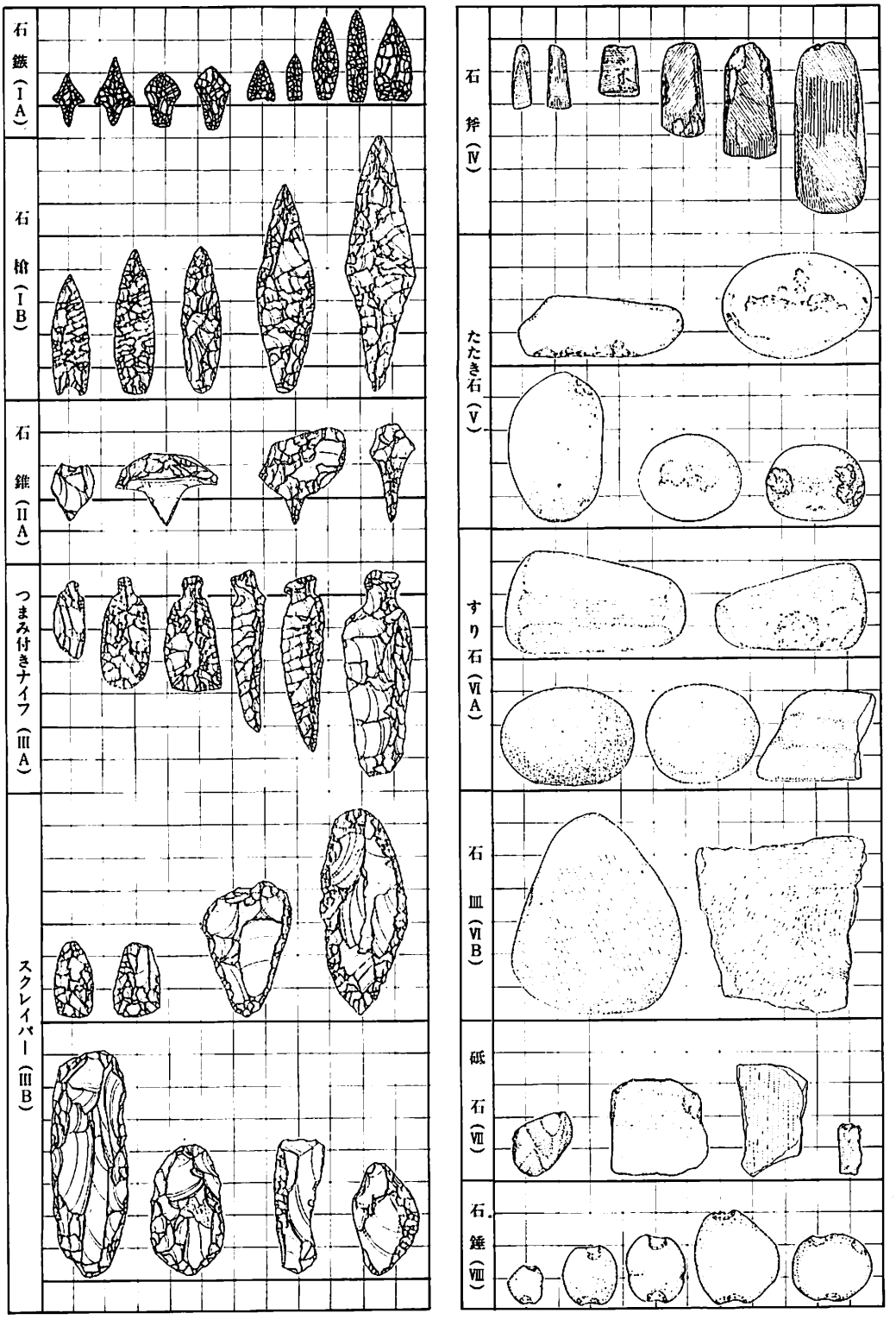

石鏃（ⅠA）
石槍（ⅠB）
石錐（ⅡA）
つまみ付きナイフ（ⅢA）
スクレイパー（ⅢB）
石斧（Ⅳ）
たたき石（Ⅴ）
すり石（ⅥA）
石皿（ⅥB）
砥石（Ⅶ）
石錘（Ⅷ）

図184　石器群の分類

図185　A～D地点の石器分布

としたもの　3：敲打により握部を作り出し、幅広の擦面をもつもの（いわゆる北海道式石冠）。

ⅤB　石皿　板状ないし扁平な礫の平坦面を使用面とするもの

Ⅶ群　石鋸・砥石類

ⅦA　石鋸　とくに細分していない。板状の礫の側縁を直線状の刃部としたものがある。

ⅦB　砥石　1：砥面に溝のあるもの　2：砥面のあるもの

Ⅷ類　石錘

ⅧA　石錘　1：4か所に打ち欠きのあるもの　2：長軸両端に打ち欠きのあるもの　3：短軸の両端に打ち欠きのあるもの

Ⅸ群　石核・剥片類

ⅨA　石核

ⅨB　剥片・削片

Ⅹ群　加工痕・使用痕のある剥片・礫片など

ⅩA　剥片に加工痕・使用痕のあるもの

ⅩB　礫片に加工痕・使用痕のあるもの

引用・参考文献

大場利夫・竹田輝雄ほか　1962「白老郡虎杖浜遺跡の発掘について」『北方文化研究報告』17

岡田宏明編　1977『カムイエカシチャシ』白老町教育委員会

岡田宏明編　1978『白老町虎杖浜2遺跡―1977年度試掘調査報告書―』白老町教育委員会

佐藤一夫・工藤肇　1980「白老町発見の石刃鏃の新例について」『北海道考古学』16

佐藤訓敏　1980「樽前火山灰Ｔａ―ｄ層と縄文早期―暁式土器群の編年的位置をめぐって―」『北海道考古学』16

高橋正勝編　1980『アヨロ』白老町教育委員会

竹田輝雄　1956「北海道虻田郡豊浦町アルトリ遺跡出土の遺物に就いて」『上代文化』26

長沼孝編　1982『史跡白老仙台溝陣屋跡Ⅰ―昭和56年度環境整備事業概報―』白老町教育委員会

名取武光・峰山巌　1954『伊達町北黄金遺跡の発掘報告』

名取武光・峰山巌　1962「アヨロ遺跡」『北方文化研究報告』17

㈶北海道埋蔵文化財センター編　1981『社台1遺跡・虎杖浜4遺跡・千歳4遺跡・富岸遺跡』㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告1

㈶北海道埋蔵文化財センター編　1982『川上B遺跡・虎杖浜3遺跡―北海道縦貫自動車登別地区埋蔵文化財調査概報―』

山内清男　1979「日本先史土器の縄紋」先史考古学会

吉崎昌一　1965「縄文文化の発展と地域性・北海道」『日本の考古学』Ⅱ

財団法人北海道埋蔵文化財センター
平成15年10月22日
40550

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告　第11集

虎　杖　浜　3　遺　跡

—北海道縦貫自動車道白老地区埋蔵文化財発掘調査報告書—

昭和58年3月31日　発行

編集・発行　財団法人北海道埋蔵文化財センター
064 札幌市中央区南15条西17丁目
TEL (011)561—0067

印　　刷　第一法規出版株式会社
107 東京都港区南青山2—11—17
TEL (03)404—2251(代表)
北海道支社
060 札幌市中央区北4西6　毎日札幌会館
TEL (011)281—6061

10016770
北海道埋蔵文化財センター